

文部科学省「大学入学者選抜改革推進委託事業」選定事業
人文社会分野（国語科）平成30年度活動報告書

個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究
～記述式問題を中心に～

北海道大学（選定機関）
東北大学・九州大学・長崎大学・大学入試センター（連携機関）

序章 事業の概要	6
事業名	7
主旨・目的	7
事業内容	7
事業期間	7
実施計画	7
実施体制	8
第1章 分析指標作成	9
1.2 目的	9
1.3 作成過程	9
1.5 分析指標の推敲・改訂	12
1.5.1. 目的	12
1.5.2. 推敲・改訂	12
第2章 分析指標による問題分類・分析	14
2.1 分類・分析対象	14
2.2 分類・分析方法	14
①（素材文読解後）設問内容の分析	15
②解答作成と資質・能力の分析	15
2.3 分類・分析結果	16
2.3.1 国立大学（20大学）全体の分類・分析結果	16
2.3.2 旧帝国大学（7大学）の分類・分析結果	19
2.3.3 旧医科大学（6大学）の分類・分析結果	21
2.3.4 旧商科大学（2大学）・旧文理科大学（2大学）・その他（3大学）の分類・分析結果	22
2.4 今後の課題	25
第3章 検証用新傾向問題の作成と点検	27
3.1 作成目的	27
3.2 作成基準と条件	27
3.3 実施時期と調査対象者	28

3.4	検証用新傾向記述式問題	29
3.4.1	新聞記事の往復書簡を用いた問題	29
	(1) 素材文のジャンルと出典	29
	(2) 素材文の内容と特徴	29
	(3) 作成した問題 (完成版)	29
	(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)	30
	(5) 正答例と採点のポイント (完成版)	31
	(6) 設問内容の検討過程(概略) (字数は任意)	32
3.4.2	小説に関する新傾向問題	32
	(1) 素材文のジャンルと出典	32
	2. 素材文の内容と特徴	32
	(3) 作成した問題 (完成版)	34
	(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)	34
	(5) 正答例と採点のポイント (完成版)	35
	(6) 設問内容の検討過程(概略) (字数は任意)	36
3.4.3	科学に関するテキストを用いた新傾向問題	37
	(1) 素材文のジャンルと出典	37
	(2) 素材文の内容と特徴	37
	(3) 作成した問題 (完成版)	37
	(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)	37
	(5) 正答例と採点のポイント (完成版)	38
	(6) 設問内容の検討過程(概略)	38
3.4.4	科学に関する複数テキスト, 報道発表資料等を用いた新傾向問題	39
	(1) 素材文のジャンルと出典	39
	(2) 素材文の内容と特徴	39
	(3) 作成した問題 (完成版)	40
	(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)	41
	(5) 正答例と採点のポイント (完成版)	41
	(6) 設問内容の検討過程(概略) (字数は任意)	42
3.4.5	小説に関する新傾向問題	42
	(1) 素材文のジャンルと出典	42
	(2) 素材文の内容と特徴	42
	(3) 作成した問題 (完成版)	43
	(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)	44

(5) 正答例と採点のポイント (完成版)	44
(6) 設問内容の検討過程(概略)	45
3.4.6 小説に関する新傾向問題	426
3.5 検証用新傾向問題の点検	45
3.5.1 点検の観点	67
3.5.2 新傾向問題の点検に関する方向性	69
3.5.3 点検の経過	70
3.5.4 点検した問題に関して	71
3.5.5 検証用問題：小説「或日の大石内蔵助」……連続テキスト，小説，単独テキスト，設問により複数テキスト	73
第4章 モニター調査	75
4.1 モニター調査の目的	75
4.2 調査計画の概要	75
4.2.1 モニター調査試験問題	75
4.2.2 試験問題に関するアンケート項目	78
4.2.3 教員調査	79
4.3 調査実施デザイン	80
4.3.1 モニター調査の実施デザイン	80
4.3.2 教員調査の実施デザイン	81
4.4 結果	81
4.4.1 平成 28，29 年度モニター調査問題分析	81
4.4.1.1 平成 28 年度モニター調査結果の基礎分析	81
4.4.1.2 平成 29 年度モニター調査結果の基礎分析	84
4.4.1.3 平成 28，29 年度調査対象者の学力水準	86
4.4.2 平成 28，29 年度アンケート分析結果概要	87
4.4.2.1 モニター調査問題のイメージ	87
4.4.2.2 モニター調査で測定された資質・能力	89
4.4.3 教員調査	91
4.4.3.1 回収状況	91
4.4.3.2 属性	91
4.4.3.3 個別学力試験に対する意識	91
4.4.3.4 印象評価の分析	91
3.4.4 新傾向オリジナル問題の分析	93

3.4.4.1 基礎分析	93
3.4.4.2 5分位図	93
3.4.4.3 新傾向問題のイメージ	94
3.4.4.4 新傾向問題で測定された資質・能力の特徴	94

第5章 新奇性のある問題の作成 139

5.1 設問内容に新奇性のある問題 139

5.1.1 作成目的 139

5.2 素材文に新奇性のある問題 139

5.2.1 作成目的 139

5.2.2 医療に関するテキストと統計データを用いた問題 139

5.2.2.1 素材文のジャンルと出典 139

5.2.2.2 素材文の内容と特徴 139

5.2.2.3 作成した問題 140

5.2.2.4 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 140

5.2.2.5 正答例と採点のポイント 142

5.2.2.6 設問内容の検討過程 142

5.2.3 数学の教科書を使った問題 143

5.2.3.1 素材文のジャンルと出典 143

5.2.3.2 素材文の内容と特徴 143

5.2.3.3 作成した問題 143

5.2.3.4 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 144

5.2.3.5 正答例と採点のポイント 145

5.2.3.6 設問内容の検討過程 145

5.3. 考察と今後の課題 146

付録

- 『個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究』セミナー講演記録
- 資質・能力分析マトリクス
- 分析・分類結果マトリクス
- モニター調査採点所感（株式会社教育測定研究所）
- H28 試験問題（国語）（数学）についてのアンケート
- H28 国語・数学モニター調査問題冊子
- H29 国語・数学モニター調査問題冊子
- H31.3.28 問題作成ワークショップ参加者アンケート結果

はじめに

平成 28 年度から平成 30 年度まで、「個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究～記述式問題を中心に～」というテーマで、文部科学省より委託研究を受けた。これは、文部科学省「大学入学者選抜改革推進委託事業」提案事業の一つであり、北海道大学が中心となり、個別学力試験の国語の問題が受験生のどのような資質や能力を測定しているのかについて分析するという申請が採択されたものである。

2017 年 3 月に公示された中学校理科学習指導要領、及び 2018 年に公示された高等学校学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントの確立を求め、「教科などの目標や内容を見渡し、特に学習の基礎となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対して求められる資質・能力の育成のためには教科等横断的な学習を充実する必要」、あるいは『知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」』といった記載が見られている。これは、2014 年 11 月に中央教育審議会に「初等中等教育における教育課程の基準のあり方について」に諮問直後から、教育課程企画特別部会が起動し、児童・生徒が学校教育を終了する 2030 年時の社会においてどのような資質や能力を具備すべきかという議論がなされたことによる。なぜなら、PISA ショック以降、DeSeCo プロジェクトを牽引した研究者は、欧州やオセアニアに戻り各地でコンピテンス基盤型の教育改革を展開したからに他ならない。委託研究の内容は、教科単位でそれを進める上での基盤となるものでもあった。

研究は、「問題の出題形式と測定する資質・能力の関係に関するテスト理論・測定学に基づく分析」と「問題の質・評価指標に関する教科教育学・教育評価に基づく分析」の 2 つの切り口から、個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法の開発に迫った。今後生徒に求められるであろう新たな資質や能力も踏まえて多角的な分析を試みた。その結果、個別学力試験がどのような資質や能力を評価し、また評価できていないものは何かを明らかにすることができ、それらの知見を元にした、新たな資質や能力を評価できる国語科の問題を複数考案した。本報告書はそれらをまとめたものである。

本文をご覧いただき入学者選抜試験のあり方や学習指導の改善、また次の学習指導要領改訂に向けた建設的な議論がなされることを心から願っている。

最後に、本研究を進めるに当たり献身的に協力いただいた大学関係者や高等学校関係者、並びに様々な資料を提供いただいた文部科学省に感謝する。

委託研究代表 北海道大学
鈴木 誠

序章 事業の概要

事業名

個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究～記述式問題を中心に～

主旨・目的

「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するような入学者選抜へと転換するため、国語科に係る新たな評価手法を開発し、多くの高等学校や大学に還元することを目的とする。

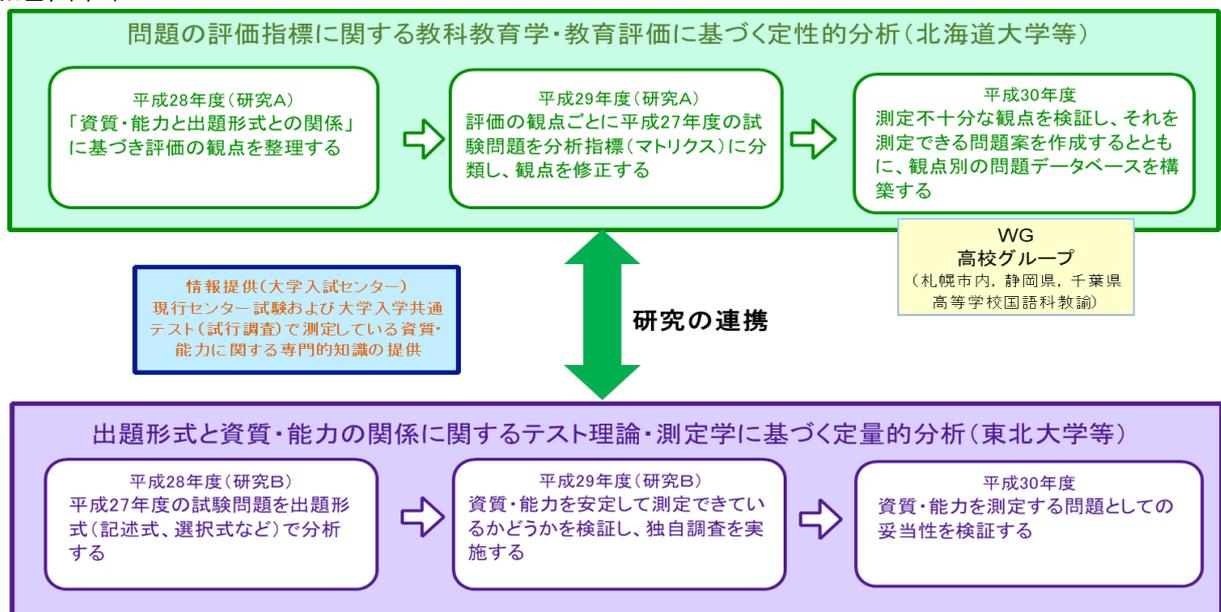
事業内容

平成28年度から3年間「個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究～記述式問題を中心に～」をテーマに、教科教育学の観点から「問題の質・評価指標に関する教科教育学・教育評価に基づく分析」、テスト理論の観点では「問題の出題形式と測定する資質・能力の関係に関するテスト理論・測定学に基づく分析」を行い、国語の試験問題において学力の3要素を網羅できる問題作成を支援するため、分析指標の開発に取り組んだ。その分析指標に基づいて平成27年度の個別学力試験問題を分析し、これまで測定されていない資質・能力の測定を狙える新傾向の記述式問題2題を作成し、平成30年度にはモニター調査を実施している。受験生の正答率や印象評価の分析からは、新傾向問題は高度の思考力等を要求しており、新奇性が高いという結果が得られている。本研究にて作成した新傾向の問題や素材文等はデータベースに集積し、高等学校の国語科教諭や大学関係者に広く公開することで、国語の学習指導や試験問題作成に資することを目的としている。

事業期間

契約締結日から平成31年3月31日まで。

実施計画



実施体制

選定機関	北海道大学	鈴木 誠（委託研究代表者），池田文人，飯田直弘，岩間徳兼，清島絵利子
連携機関	東北大学	長濱裕幸，石井光夫，倉元直樹，宮本友弘，泉 毅
	九州大学	安永和央
	長崎大学	鈴木慶子
	大学入試センター	山地弘起，椎名久美子，荒井清佳
協力機関	名古屋工業大学	林 篤裕
	東北大学	石上正敏，庄司 強，檜田豪利，秦野進一
	北海道札幌平岸高等学校	高松洋司，松山美彦
	札幌日本大学中学・高等学校	塩谷哲士
	静岡県立掛川西高等学校	駒形一路
	千葉県総合教育センター	沼田裕美子
	秋田県立秋田北高等学校	伊藤博美

他，平成 29 年度には分析指標を用いて問題を分類・分析するにあたり，千葉県，東京都，大阪府の高等学校国語科教諭や国語教育関係者にも協力いただいたことを付記する。

第1章 分析指標作成

1.2 目的

「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するような入学者選抜への転換を実現させるため、平成27年度入試国立大学の個別学力試験（平成27年度に入学する者を選抜する試験）「国語」における記述式問題によって測定される資質・能力を教科教育学・教育評価の視点から評価する必要がある。そこで、学力の3要素を踏まえた評価軸が設定された、分析指標の作成を試みることを目的とした。

1.3 作成過程

まず「資質・能力との出題形式との関係」に着目し、分析の軸となる評価の観点の整理を行った。文部科学省教育課程検討委員会で配布された「言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージ」等を参照し、外部から収集した「国語科で育成し、評価すべき資質・能力」の一覧表を踏まえ、設問内容に注目した分類用のフォーマット（設問内容・解答形式フォーマット）の仮設定を行った。研究開始当初のフォーマットが、表1.1である。カテゴリー（設問内容）は、25項目となった。

表 1.1 設問内容に着目したフォーマット

	カテゴリー	実際の設問例	
主に 評論・論 説	1 漢字や熟語の読み書きを問う		
	語句の辞書的意味を問う		
	2 書いてある／書いてないことについて事実を単純に問う		
	3 提示された主題や主張を問う		
	4 文脈に照らし指示語の内容を問う	・・・とあるが、「それとはどのようなことを指すか、述べよ」	・・・とあるが「このようなこと」とはどのようなことか、述べよ
	5 文脈に照らし挿入すべき語句を問う		
	6 文脈に照らし語句の意味を問う		
	文脈に照らし語句の示す状況を問う		
	7 文脈に照らし文の意味を問う	・・・（文）とあるが、これはどういうことか、対象Aと対象Bを対比させながら、説明せよ	
	8 文脈に照らし文の示す状況を問う		
主に 小説・随 筆	9 文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う		
	本文全体を読み筆者の主張（考え）を問う		
	10 文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う	・・・（文）とあるが、なぜそうに言えるのか説明せよ	
	11 文脈に照らし登場人物の心情を問う		
	本文全体を読み登場人物の心情を問う		
	12 文脈に照らし登場人物の心情の理由を問う		
	13 文脈に照らし登場人物の行動を問う	・・・【心情】とあるが、そのためにやっている行動をあげよ	
	14 文脈に照らし登場人物の行動の理由を問う	・・・【行動】とあるが、なぜそのような行動をとったのか、説明せよ	・・・【行動】とあるが、なぜそのような表情をしたのか、説明せよ
	15 文脈に照らし登場人物の考えを問う		
	16 文脈に照らし登場人物の考えの理由を問う		
	文脈に照らし登場人物の関係性を問う	・・・（文）とあるが、それを踏まえて、人物Aと人物Bはどのような関係と考えられるか、説明せよ	
	17 段落等の要約を問う		
	18 本文の要約を問う		
	19 データを読み出し結果を考察させる		
	20 情報を分析した上で仮説を形成させる		
21 筆者の主張を踏まえて、言えること／言えないことを問う			
22 本文を踏まえて想像できることを問う			
23 本文におけるある部分の位置付けや役割を問う			
24 文章の構造と接続詞の関係性を問う			
25 表現の特色を問う			

その後、個別学力試験の具体的な分類を進めながら評価軸の修正を重ね、縦軸に28項目の分析軸（設問内容）、横軸に設問で問われている字数（漢字の読み書きと35字以内～自由記述（約100字）の12区分）を設定した。平成27年度（2015）の個別学力試験問題を分類する前に、東北大学、筑波大学、神戸大学の3大学で出題された平成28年度（2016）の問題を試験的に分類したものが、表1.2である。

表 1.2 設問内容と解答形式に着目したフォーマット(1)

	読み書き	35字以内	30字以内	40字以内	60字以内	70字以内	75字以内	80字以内	150字以内	自由記述 簡潔	自由記述 (約50字)	自由記述 (約70字)	自由記述 (約100字)
1 漢字や熟語の読み書きを問う	東北大2016-1-1 神大2016-1-1									東北大2016-2-1			
2 語句の辞書的意味を問う													
3 書いてある／書いてないことについて事実を単純に問う													
4 提示された主題を問う													
5 文脈に照らし指示語の内容を問う													
6 文脈に照らし挿入すべき語句を問う													
7 文脈に照らし語句の意味を問う	東北大2016-1-2							神大2016-1-3 神大2016-1-4		筑波大2016-1-1			
8 文脈に照らし文章の意味を問う			東北大2016-1-3					神大2016-1-2			筑波大2016-1-2 筑波大2016-1-3		
9 文脈に照らし文章の示す状況を問う													
10 文脈に照らし筆者の主張(考え)を問う							東北大2016-1-5		神大2016-1-5				
本文全体を読み筆者の主張(考え)を問う													
11 文脈に照らし筆者の主張(考え)の根拠を問う					東北大2016-1-4								
12 文脈に照らし筆者の主張(考え)の理由を問う													
13 文脈に照らし登場人物の心情を問う				東北大2016-2-3									
本文全体を読み登場人物の心情を問う						東北大2016-2-5							
14 文脈に照らし登場人物の心情の理由を問う			東北大2016-2-2	東北大2016-2-4								筑波大2016-2-3	
15 文脈に照らし登場人物の行動を問う													
16 文脈に照らし登場人物の行動の理由を問う													
17 文脈に照らし登場人物の考えを問う											筑波大2016-2-1	筑波大2016-2-2	
18 文脈に照らし登場人物の考えの理由を問う													
19 段落等の要約を問う													
20 本文の要約を問う													
21 データを読み出し、結果を考察させる													
22 情報を分析した上で仮説を形成させる													
23 筆者の主張を踏まえて、言えること／言えないことを問う													
24 筆者の主張を踏まえて、言えること／言えないこと理由を問う													
25 本文を踏まえて想像できることを問う													
26 本文におけるある部分の位置付けや役割を問う													
27 文章の構造と接続詞の関係を問う													
28 表現の特色を問う													

表 1.2 では、設問内容に関しては、一部分の項目（「7. 文脈に照らし語句の意味を問う」から「17. 文脈に照らし登場人物の考えを問う」）に集中して出題されている。解答形式に関しては、字数指定を設けるか否かは、各大学でばらつきが見られている。試験的な分類ではあるが、個別学力試験「国語」ではある一定の設問内容（例えば、傍線部の意味・状況を問う、筆者の主張を問う、登場人物の心情・行動を問う等）に偏った出題が行われているのではないかと推測できる。

表 1.3 設問内容と解答形式に着目したフォーマット(2)

	読み書き	条件付記述 (50字以内)	条件付記述 (60字超80字以内)	条件付記述 (80字超)	簡潔な自由記述 (おおよそ15字以内)	自由記述 (おおよそ50字以内)	自由記述(おおよそ 50字超80字以内)	自由記述 (おおよそ80字超)
1 漢字や熟語の読み書きを問う								
2 語句の辞書的意味を問う								
3 書いてある／書いてないことについて事実を単純に問う								
4 提示された主題や主張を問う								
5 文脈に照らし指示語の内容を問う								
6 文脈に照らし挿入すべき語句を問う								
7 文脈に照らし語句の意味を問う								
8 文脈に照らし文章の意味を問う								
9 文脈に照らし文章の示す状況を問う								
10 文脈に照らし筆者の主張(考え)を問う								
本文全体を読み筆者の主張(考え)を問う								
11 文脈に照らし筆者の主張(考え)の根拠や理由を問う								
12 文脈に照らし登場人物の心情を問う								
本文全体を読み登場人物の心情を問う								
13 文脈に照らし登場人物の心情の理由を問う								
14 文脈に照らし登場人物の行動を問う								
15 文脈に照らし登場人物の行動の理由を問う								
16 文脈に照らし登場人物の考えを問う								
17 文脈に照らし登場人物の考えの理由を問う								
18 段落等の要約を問う								
19 本文の要約を問う								
20 データを読み出し、結果を考察させる								
21 情報を分析した上で仮説を形成させる								
22 筆者の主張を踏まえて、言えること／言えないことを問う								
23 本文を踏まえて想像できることを問う								
24 本文におけるある部分の位置付けや役割を問う								
25 文章の構造と接続詞の関係を問う								
26 表現の特色を問う								

次に、表 1.3 は、表 1.2 の設問内容の集約と一部削除を行い、25 項目となった。表 1.2 で別々の項目であった「3. 提示された主題を問う」と「4. 提示された主張を問う」、「11. 文脈に照らし筆者

の主張（考え）の根拠を問う」と「12. 文脈に照らし筆者の主張（考え）の理由を問う」は、3 と 4、11 と 12 でそれぞれ 1 つの項目に集約できると判断し、「3. 提示された主題や主張を問う」と「10. 文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う」に修正した。また、「24. 筆者の主張を踏まえて、言えること/言えないこと/理由を問う」は、表 1.3 の「10. 文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う」と同様の設問内容で、重複した項目であると判断し、削除した。

解答形式に関しては、表 1.2 で字数区分を 13 項目仮設定していたが、改めて、個別学力試験「国語」の問題で、記述式問題のパターンと解答字数の検証を行った。記述式問題は主に「条件付記述」と「自由記述」の 2 つのパターンで解答字数を設定して出題されており、表 1.3 の 8 項目に集約することができた。次の表 1.4 は、表 1.3 の項目を用いて、東北大学、神戸大学、筑波大学の平成 27 年度（2015）の個別学力試験問題を分類したものである。

表 1.4 設問内容

設問内容	東北大学			神戸大学			筑波大学		
	分類者A	分類者B	分類者C	分類者A	分類者B	分類者C	分類者A	分類者B	分類者C
本文全体を読み筆者の主張（考え）を問う				15	15	15			
// 登場人物の心情を問う		24	24						
文脈に照らし指示語の内容を問う	22 24	22					11 13	11 13	11 13
// 語句の意味を問う	13		12 13	13		13			
// 文の意味を問う		13		14	13 14	14	14	14	14
// 文の示す状況を問う	14	14	14				24		
// 筆者の主張（考え）を問う	12	12 23							
// 筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う	15	15	15	12	12	12	12	12	12
// 登場人物の心情を問う	25								
// 登場人物の心情の理由を問う									
// 登場人物の行動を問う			22				21	21	21
// 登場人物の行動の理由を問う	21	21 25	21 25				22 23	22 23	22 23
// 登場人物の考えを問う	23		23						
文脈に照らし登場人物の関係性を問う								24	
// 登場人物の考えの理由を問う									
段落等の要約を問う									
本文の要約を問う									
データを読み出し、結果を考察させる									
情報を分析した上で仮説を形成させる									
筆者の主張を踏まえて、言えること/言えないことを問う									
本文を踏まえて想像できることを問う									24
本文におけるある部分の位置付けや役割を問う									
文章の構造と接続詞の関係を問う									
表現の特色を問う									

表 1.4 は、本学の教員が各自で分類を行い、3 人分の結果でまとめたものである。現段階で得られた分析結果としては、2 点ある。1 点目は「字数制限がある設問では、分類軸への分類に、個人間の相違が少ない」ということである。東北大学や神戸大学の個別学力試験問題では字数制限の設定があったため、個人間での分類の相違は少なかった。分類に迷いが生じる場合でも、大部分が 2 つの分類軸において解釈に迷うパターンであった（例えば「文の意味」を問う問題で、個人による「文」と「語句」の定義が異なるため、分類に戸惑うなど）。特に、筑波大学の小説の問題分類では、「『だからまいもショウコの前では構えずに本音が言える』とあるが、これを踏まえて、「まい」と「ショウコ」はどのような関係だと考えられるか、説明せよ」という設問において、三者三様に分類がなされている。「文脈に照らし文の示す状況を問う」「文脈に照らし登場人物の関係性を問う」「本文を踏まえて想像できることを問う」の 3 パターンの分類となった。本文上で問いたい文章には傍線が引かれているため、「文の示す状況＝まいとショウコの状況」とも考えられる。また、「どのような関係だと考えられるか」という問いかけであるため、「本文を踏まえて、まいとショウコの間を想像させる」と考えることもできる。

2 点目は「小説における自由記述問題では、文章中には表現されていないことを自分の頭の中で想像して読解して記述する必要があるため、多種多様な解答が生じ、分類にもぶれが出る」ということ

である。これは受験生のみならず分類者が、傍線部の文章を「どのような設問内容であるのか、設問で問われている範囲どこまでなのか」をどのように解釈するかで解答や分類の方向づけがなされるだけでなく、個人の読解力や語彙力に左右される部分も大きい。

以上の分析結果および考察からは、問題作成を行う時点で、出題者側が設問意図を踏まえ、設問で求める能力を正確に文章で伝える必要があることが明らかになった。この点が明確になっている設問は受験生は解答しやすく、分類者もマトリクスへの分類に戸惑うことなく、相違も少なくなると考える。

1.5 分析指標の推敲・改訂

1.5.1. 目的

平成 29 年度は、昨年度に引き続き、平成 27 年度入試国立大学の個別学力試験（平成 27 年度に入学する者を選抜する試験）「国語」における記述式問題により、測定される資質・能力を教科教育学・教育評価の視点から評価するため、評価の観点ごとに同年の試験問題を分類し、観定の修正を目的としている。

1.5.2. 推敲・改訂

平成 28 年度末時点で、分析指標の検討と精査が進んだ結果、分類軸の縦軸は設問内容 25 項目、横軸は漢字の読み書きと字数区分（35 字以内～自由記述（約 100 字）の 12 区分）8 項目の設定となった。平成 29 年 5 月からは、個別学力試験「国語」の記述式問題において、広範な問題パターンに対応できるよう設問内容の多様性を考慮しながら、分類軸の内容の定義を明確化した新しい分析指標の作成を進めた。

分類軸の縦軸には設問内容、横軸には国語科で育成すべき資質・能力を設定することとした。これまでの個別学力試験においては、「学力の 3 要素」を網羅した問題が作成されておらず、それに付随した資質・能力の測定も狙われていなかった背景がある。新しい分析指標の分類軸の作成における最重要事項は、現在の高等学校における学習内容が確実に測定できることにある。分類軸の内容が妥当なものとなるように、現行の高等学校学習指導要領国語（平成 21 年文部科学省告示第 34 号）と高等学校学習指導要領解説国語編（平成 22 年 6 月）、平成 30 年 3 月に公示された新高等学校学習指導要領国語（平成 30 年文部科学省告示第 68 号）¹⁾に基づいて、国語科で育成すべき資質・能力を落とし込むことで、設問内容（出題形式）での資質・能力の測定が可能となるよう、推敲と改訂を進めた。評価軸に設問内容を設定したのは、高等学校の先生方の国語教育における指導の視点に立ち、設問内容という手段を用いて、どのような資質・能力が測定できるかという目標を測るためである。

そこでまず、分析指標の評価軸（横軸）に設定する資質・能力には、個別学力試験の受験生が解答に至るまでの「思考のプロセス」を組み込むことを考えた。記述式の解答を作成するには、「素材文の内容理解、問われている内容の抽出、条件に応じて解答を記述する」というプロセスで、幾つもの資質・能力が必要とされるからである。分析指標にこのプロセスを組み込むにあたり、文部科学省「高大接続改革の進捗状況について」の別紙 3「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の国語・数学の記述式問題で評価すべき能力や作問の構造について（素案）」の「I. 国語 1. 選択式・記述式と「思考のプロセス」の関係（3）記述式問題と「思考のプロセス」」を参照している。また、文部科学省「教育課程部会 言語能力の向上に関する特別チームにおける審議のとりまとめについて（報告）」の補足資料（2）「教育目標の分類学（ブルーム・タクソノミー）」を援用し、分析指標の枠組みを完成させ、具体的な項目内容の検討と設定に入った。

横軸の「国語科において育成すべき資質・能力」の項目設定では、「学力の 3 要素」の「知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）」「思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）」「学びに向かう力（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）」という 3 つの観点の下位項目で、国語科において具体的にどのような資質・能力が育成されているかを考えた。先述した高等学校学習指導要領国語と高等学校学習指導要領解説国語編を基本に、文部科学省「国語科で育成すべき資質・能力（案）」平成 28 年 5 月 31 日教育課程部会国語ワーキング資料 1（別紙 2）、文部科学省「求められる諸能力の育成のために各教科において重視すべき学習プロセスと評価すべき具体的な能力（案） 国語において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具

体的な能力（案）」平成 27 年 12 月 22 日高大接続システム改革会議資料 3（一部改変）を主に参照し、項目設定を行った。

「知識・技能」の観点では、文部科学省「これらからの時代に求められる国語力について」の「第 2 これからの時代に求められる国語力 2 国語力を構成する能力等 (3) の「国語の知識」や「教養・価値観・感性等」で説明されている「国語の知識」の「①語彙（個人が身に付けている言葉の総体）、②表記に関する知識（漢字や仮名遣い、句読点の使い方）、③文法に関する知識（言葉の決まりや働き等）、④内容構成に関する知識（文章の組み立て方）、⑤表現に関する知識（言葉遣いや文体・修辭法等）、⑥その他の国語にかかわる知識（ことわざや慣用句の意味等）」を踏まえて項目設定を考え、3 項目の設定に至った。

「思考力・判断力・判断力等（理解していること・できることをどう使うか）」の観点では、文部科学省「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成 28 年 12 月 21 日中央教育審議会の「②教育内容の改善・充実 i）科目構成の見直し」を参照し、高等学校国語科における共通必修科目（案）と選択科目（案）の改訂の方向性を踏まえて、項目設定を考え、9 項目の設定に至った。

「学びに向かう力（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）」の観点では、主に、文部科学省「国語科で育成すべき資質・能力（案）」平成 28 年 5 月 31 日教育課程部会国語ワーキンググループ資料 1（別紙 2）を参照し、6 項目の設定に至った。

以上、新しい分析指標の評価軸（縦軸：国語科において育成すべき資質・能力 18 項目、横軸：設問内容 20 項目）の作成には、主に現行の高等学校学習指導要領国語（平成 21 年文部科学省告示第 34 号）と高等学校学習指導要領解説国語編（平成 22 年 6 月）、平成 30 年 3 月に公示された新高等学校学習指導要領国語（平成 30 年文部科学省告示第 68 号）を参照していることから、別紙資料 3～5 とし、根拠である現行の高等学校学習指導要領国語と新高等学校学習指導要領国語との照合表 2 種類を添付する。また、北大WG（北海道大学の教員と北海道内の高等学校国語科教諭で構成）により 20 回以上の推敲・改訂と協議を重ねた結果、平成 29 年 11 月には分析指標の改訂版（付録：表 1.5.1）の完成に至っている。

第2章 分析指標による問題分類・分析

今回調査対象とした国立大学（20 大学分）の平成 27 年度（2015）個別学力試験問題（前期日程）の記述式問題「国語」（現代文）における大問の出題数は全 45 問，小問の出題数は全 229 問である。素材文は，全 45 問のうち，評論が 34 問（75.6%），小説が 11 問（24.4%）で，評論の出題が圧倒的に多い。

2.1 分類・分析対象

本研究では，平成 27 年度の国立大学の個別学力試験問題（前期日程）の記述式問題「国語」（現代文）を，「資質・能力と出題形式との関係」が測定できる分析指標により分類・分析を行った。そこで，国立大学全 86 大学のなかから表 1 の 20 大学を選定し，分類・分析対象にした。対象理由としては，①一定数の問題数が確保できる，②複数の学部を持ち合わせ（比較的）多くの受験生がいる，③文系理系や学部の特色が多様である，④本学（北海道大学）への入学を目指す高校生が受験する可能性がある大学，という 4 点が挙げられる。その結果，旧帝国大学（7 大学），旧医科大学（6 大学），旧商科大学（2 大学），旧文理科大学（2 大学）を分類・分析対象とした。この 17 大学に加え，問題の多様性について考慮するために弘前大学，お茶の水女子大学と信州大学の 3 大学を分類・分析対象とした。

表 2.1 分類・分析対象大学一覧

大学種別	大学名
旧帝国大学 （7 大学）	北海道大学，東北大学，東京大学，名古屋大学，京都大学，大阪大学，九州大学
旧医科大学 （6 大学）	千葉大学，新潟大学，金沢大学，岡山大学，長崎大学，熊本大学
旧商科大学 （2 大学）	一橋大学，神戸大学
旧文理科大学 （2 大学）	筑波大学，広島大学
その他 （3 大学）	弘前大学，お茶の水女子大学，信州大学

なお，表 2.1 の 20 大学における平成 27 年度の個別学力試験（前期日程）の記述式問題「国語」（現代文）の大問の出題数は全 45 問である。今回の分類・分析に使用した試験問題と模範解答は，各大学から公表されていないため，旺文社（2015）と教学社（2016）を参照した。使用した素材文（作品名）や作家名，ジャンル等は，別紙資料 7 として添付する。

2.2 分類・分析方法

新分析指標を用い，平成 27 年度の個別学力試験「国語」（現代文）の記述式問題を分類するには，複数人による分類・分析作業を行い，分類者により，問われている設問内容や国語科において育成すべき資質・能力の解釈の違いがどれだけ生じるのかも確認する必要がある。分類・分析作業は一定数の専門家集団で行うことによりデータの信頼性が得られると考え，高等学校の国語科教育に精通し，入学試験や模擬試験において作題・採点経験があるベテランの専門家 11 名に協力を仰いだ。

分類にあたっては，対象となる大問全 45 問のうち，大問 1 問につき 11 人中 5～6 人が担当することとした。1 人あたりは大問 22～23 問の分類数となった。分析者の個々の力量や個人の指導経験や基準により分析結果が変わることを避けるためである。その際，分析指標に加えて，マニュアル「平成 27 年度（2015）個別学力試験「国語」の問題分類の方法と手順」（別紙資料）も作業補助として配布し，分類結果が変わることがないように体制を整えて行っている。また，分類にぶれが生じた場合は北

大WG全員で議論を行い、対応を決定することにした。

分類作業としては、まず、各自で担当する大学の問題を解答する。次に、分析指標の1シートを各大学の大学大問1題づつに用い、小問単位で、縦軸（設問内容）と横軸（国語科において育成すべき資質・能力）の2つの観点に該当するセルにチェックを入れる。横軸と縦軸が交差する箇所の散らばりなどから、従来の国立大学の個別学力試験「国語」（現代文）の記述式問題において、「どのような内容の設問が出題され、どのような資質・能力を測定または評価をしたいのか」が検証できる仕組みとなっている。解答に至るまでに必要な資質・能力は1項目に限定できないものもあり、該当する資質・能力は全てチェックを入れて、分類を行うこととした。

分類・分析方法の一例として、平成27年度（2015）本学（北海道大学）出題の現代文大問2（外岡秀俊「3度目の情報革命と本」の一節）の問5を例に解説する。設問と解答例はいずれも、旺文社（2016）を参照している。

①（素材文読解後）設問内容の分析

問5：傍線部Eに「共に「本」への愛情に裏打ちされているとはいえ、「紙派」と「電子派」は本来、鋭く対立している」とあるが、「紙派」の「電子派」に対する批判はどのような点にあると考えられるか。本文の内容に即して80字以内で説明せよ。

この問の前半部の下線部分は筆者の主張であり、後半部の下線部分は対比している事柄を示している。したがってこの問5では、1つの小問のなかで「筆者の主張」に基づき、「対比している事柄（紙派と電子派に対する批判）」を80字以内で要約させている設問であることが明らかになり、「2つの設問内容が問われている」ことが分かる。そこで、分析指標の設問内容（縦軸）で該当する項目「5. 文章の構造や対比している事柄を問う」と「12. 本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」にチェックを入れることができる。次は、分析者自身で解答を作成し、資質・能力の分析を行う。

②解答作成と資質・能力の分析

解答例：紙の消滅により知識が情報化・断片化するとともに、分科装置を介さない個人の電子出版が大量に出回ることで、高質の出版が支えてきた伝統的な知の文化が崩壊してしまう点。（80字）

この解答例をもとに、分析指標の国語科において育成すべき資質・能力（横軸）で該当する項目にチェックを入れる。問5においては、上に記した条件を満たした解答を作成するには、これら6つの資質・能力が必要となる。「知識・技能」では、「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」の2項目にチェックが入る。次に、「思考力・判断力・表現力等」では、「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「h. 筆者の主張や心情を推測することができる」の4項目にチェックが入り、合計6項目の資質・能力を測定していることが分かる。この解答に至るまでに、受験生は各自の頭の中で図2.1に示す資質・能力を駆使している。

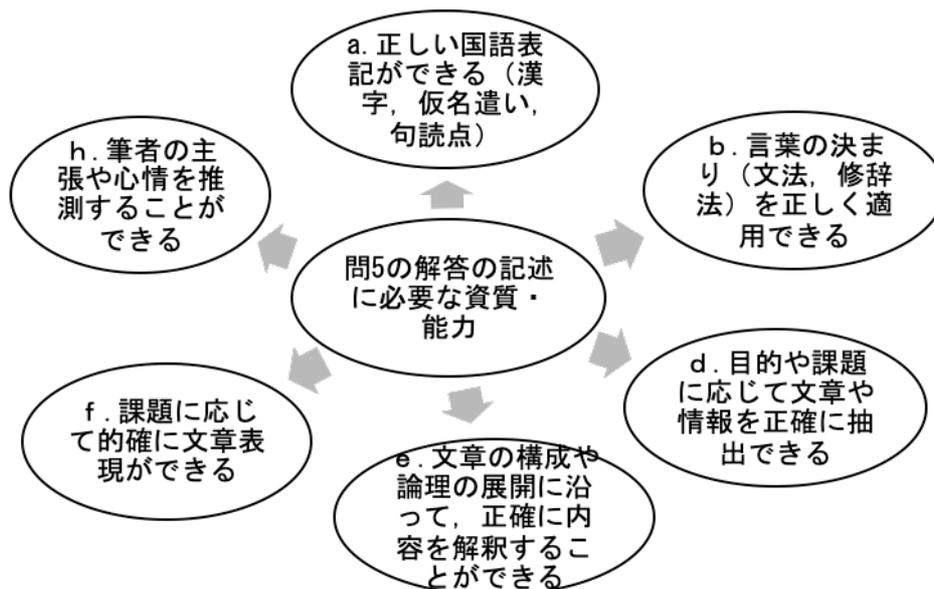


図 2.1 問 5 の解答を導き，記述する際に必要な資質・能力

2.3 分類・分析結果

11 名による分析指標への分類の後には，旧帝国大学（7 大学），旧医科大学（6 大学），旧商科大学（2 大学）・旧文理科大学（2 大学）・その他（3 大学）に集約し，分析を行った。分析方法は下記の 3 通りである。

1. 総合計数：20 大学，旧帝国大学，旧医科大学，旧商科大学・旧文理科大学・その他の 4 区分それぞれの総合計数
2. 設問内容（縦軸）の合計に対する割合：上記 1 と同様の大学区分
3. 国語科において育成すべき資質・能力（横軸）の合計に対する割合：上記 1 と同様の大学区分

2.3.1 国立大学（20 大学）全体の分類・分析結果

ここでは，20 大学全体の分類・分析結果の概要を記し，大学区分における詳細は後に述べることとする。表 2.2 は，設問内容（横軸）で，知識（言語事項），読解，表現の 3 区分における出題傾向の割合である。

表 2.2 国立大学（20 大学）の出題傾向の割合

設問内容		計 (%)
知識（言語事項）		314 (4.8%)
読解	評論・小説共通設問+評論での設問	5120 (78.0%)
	小説での設問	886 (13.5%)
表現		251 (3.7%)
合計		6562 (100%)

知識（言語事項）が 4.8%，読解（評論・小説共通設問＋評論での設問）が 78.0%，表現が 3.7% となり、読解中心の出題であることが明らかになった。出題が多い設問内容を上位 5 番目まで順に列挙する。

- ①「8. 文脈に照らし文や語句の意味内容を問う」
- ②「11. 文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う」
- ③「10. 文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」
- ④「9. 文脈に照らし文の示す目的・状況を問う」
- ⑤「12. 本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」

以下に提示する表 4 を含む分類表は、小問単位で（全 229 問を 1 問づつ）、設問内容（縦軸）と国語科において育成すべき資質・能力（横軸）の 2 つの観点において、交差するセルの総合計数における割合を色の濃淡で示している。色が濃いセルは分類数が多く、色が薄いセルは分類数が少ない。

例えば、設問内容（縦軸）で一番色の濃いセル（分類数 51 以上）を辿ると、「1, 5, 8～13」に出題が集中し、偏りのあることが分かる。他の設問内容は出題されていても、数が少ない。つまり、表 2.2 と先述の設問内容を合わせて検証すると、万遍なく様々な設問内容は出題されていない。いわゆる「読解」問題が中心で、知識（言語事項）の確認として「1. 漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語を含む）」を出題する傾向にある。この傾向は、平成 27 年度とは異なる年度でも同様であり、受験生である高校生がこれまで中学校や高等学校で受験してきた定期考査や模擬試験等にも共通することである。どの試験においても、問 1 や問 2 で漢字の書き取り（もしくは書き取りと読み取り両方）を数個出題し、受験生に点数確保をさせると同時に、基礎知識を確認しながら、読解問題へと解答を導くパターンである。

全く出題されていない設問内容としては、「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」が挙げられる。全 45 問中、問題文中に図の掲載があったのは 1 問のみであった。ただ、提示された図表に現在地点を記す問題で、受験生に図表の情報を読み取って、分析・考察させるまでの力を求めていると判断した。

表 2.3 は、国語科において育成すべき資質・能力（縦軸）における測定傾向の割合である。

表 2.3 育成すべき資質・能力における測定傾向の割合

国語科において育成すべき資質・能力	計 (%)
知識・技能	2402 (36.6%)
思考力・判断力・表現力等	4160 (63.4%)
学びに向かう力	0 (0%)
合計	6562 (100%)

知識・技能が 36.6%，思考力・判断力・表現力等が 63.4%，学びに向かう力が 0% となり、「思考力・判断力・表現力等」に区分される資質・能力の測定が主として行われていることが明らかになった。測定が多いと分類された項目を上位 5 番目まで順に列挙する。

- ①「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」
- ②「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」
- ③「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」
- ④「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」
- ⑤「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」

国語科において育成すべき資質・能力も、表 2.2 と合わせて検証すると、横軸の a, b, d, e, f の資質・能力の測定が主となっている。問題文が小説の場合は「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」、評論の場合は「h. 筆者の主張や心情を推測することができる」という資質・

能力の測定が加わる程度である。

特筆すべきなのは、20 大学全体で、「学びに向かう力」の資質・能力の測定が全く行われていないことである。例えば、「○. 様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする」などは、授業中の学習活動における生徒の様子からの評価は可能である。現状では個別学力試験のみならず、高等学校の国語科の定期試験でも測定はされていない。「学びに向かう力」の意欲や態度の部分を記述式問題で評価することに関しては、今後、議論の余地があるだろう。

さらに、設問内容（縦軸）と国語科において育成すべき資質・能力（横軸）の合計に対する割合を提示したものが表 2.4 と 2.5 である。設問内容（縦軸）で 10%以上の出題があった項目は、以下の 9 項目である。

- ① 「1. 漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）」
- ② 「3. 言語文化に関する知識を問う」
- ③ 「8. 文脈に照らし文や語句の意味内容を問う」
- ④ 「10. 文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」
- ⑤ 「11. 文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う」
- ⑥ 「13. 文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う」
- ⑦ 「14. 文脈に照らし登場人物の心情の理由を問う」
- ⑧ 「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」
- ⑨ 「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」

分析指標上には、現行の高等学校学習指導要領国語（平成 21 年文部科学省告示第 34 号）と高等学校学習指導要領解説国語編、平成 30 年 3 月に公示された新高等学校学習指導要領国語（平成 30 年文部科学省告示第 68 号）高等学校学習指導要領に基づいた設問内容が 20 項目設定されている。主として出題されている設問内容は 9 項目で、受験生が小学生の頃から国語の試験で毎回のように出題されてきた問題である。

国語科教育に携わる高等学校の教員にとって入学試験や定期試験等で受験生に問いたい設問内容と言え、評論では「筆者の主張（考え）」を理解しているか、小説では「登場人物の心情（心情変化）、心情の理由」を読み解いているかである。国語の授業中、教員が生徒に対し「文脈の順序を間違えず、接続詞等に注意し、正確に読み取れば確実に解答できる」と教示するパターンの問題である。問題作成者と採点者にとっても、文脈の順序を間違えず正確に読み取りさえ行えば、問題作成も採点も比較的容易な設問構成であるといえる。また、文脈に照らすという「根拠」が必要な設問であるため、採点上の揺れも少なく、テストとしての信頼性を確保しやすいことも理由として挙げられる。

次に、国語科において育成すべき資質・能力（横軸）で 10%以上の測定があった項目は、下記の 9 項目である。表 2.4 を参照いただきたい。

- ① 「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」
- ② 「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」
- ③ 「c. 日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用句、四字熟語、文学的知識）」
- ④ 「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」
- ⑤ 「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」
- ⑥ 「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」
- ⑦ 「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」
- ⑧ 「j. 自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる」
- ⑨ 「i. 新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる」

国語科において育成すべき資質・能力は 18 項目のうち、9 項目が測定されている。この結果から言えることは、受験生が 1 つの設問内容に対して正答に至るには、いくつもの思考のプロセスを経て、多くの資質・能力を必要とするということである。「○○という慣用句を漢字で書きなさい」という問題が出題された場合、受験生は評価指標上の「c. 日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用句、四字熟語、文学的知識）」と「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」の 2 つの資質・能力を問われていることになる。慣用句を漢字で書くという一見容易な問題ではあるが、問われている資質・能力は複数にわたるということである。問題文に傍線を引き、「傍線

部〇〇を漢字に直しなさい」という漢字の書き取り問題でも、単純に自分が知っている漢字を組み合わせて記述すると誤答になる場合が多い。それは、3つの資質・能力が問われているからである。まず「g. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」こと、次に「c. 日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用句、四字熟語、文学的知識）」こと、最後に「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」ことが必要となる。漢字の書き取り以外の記述式問題となると、問われている資質・能力は増えていくことになる。

記述式問題で解答に至るまでには、①「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」→②「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」→③「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」という5項目の資質・能力が最低限必要である。これら5項目の資質・能力が完全に機能した場合のみ、正答を導き出すことができる。文章の内容を正確に解釈し、課題に応じて必要箇所を抽出できたとしても、文章表現の際に主語述語のねじれや漢字表記の誤りをした場合には減点となり、部分点しか獲得できない。

つまり、記述式問題は、設問内容の表面的な問い（例えば、傍線部は何を問うているか）に対する答えだけを求められているのではなく、受験生自身が持つ基礎知識（漢字、仮名遣い、句読点の打ち方、文法、修辞法等）も否応なしに問うことになる。記述式問題はある意味、受験生の総合的な資質・能力を測定できるツールであるといえる。

2.3.2 旧帝国大学（7大学）の分類・分析結果

旧帝国大学（7大学）の平成27年度（2015）個別学力試験（前期日程）の記述式問題「国語」（現代文）の出題数は、全16題である。素材文（テキスト）は、評論が14題（87.5%）、小説が2題（12.5%）で、やはり評論の出題が圧倒的に多い。表2.6では、総合計数による分類結果を示す。

まず、設問内容（縦軸）で、出題が多い項目を上位5番目まで順に列挙する。

- ①「11. 文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う
- ②「8. 文脈に照らし文や語句の意味内容を問う」
- ③「10. 文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」
- ④「9. 文脈に照らし文の示す目的・状況を問う」
- ⑤「12. 本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」

表2.6と上記の設問内容を合わせて検証すると、2.4.1と同様、万遍なく様々な設問内容が出題されているわけではない。高校生がこれまで、中学校や高等学校の定期考査や模擬試験等で受験してきたオーソドックスな読解問題が中心である。上記の設問の提示も、「傍線部はどのようなことを言っているのか。〇〇字以内で説明せよ」「傍線部の××とはどのような気持ちなのか。〇〇字以内で説明せよ」という簡潔で明解なものが多い。

全く出題されていない設問内容としては、「3. 言語文化に関する知識を問う」「17. 本文を踏まえて、登場人物の人物像や関係性を問う」「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」が挙げられる。

特に個別学力試験では、後期日程で出題される「小論文問題」において、図表の情報を読み取り、自分の考えや経験を踏まえて長文記述をさせることが多い。しかし、管見の限り、過去の出題例を見ても、一般的な現代文の読解問題に併せて図表の情報を読み取り、分析・考察させる問題の出題が皆無である。今後は、問題文と図表の関連度合いや文章の記述量、各大学で学生に求める資質・能力を勘案し、検討をしていく必要があるだろう。

国語科において育成すべき資質・能力で、測定が多いと分類された項目を上位5番目まで順に列挙する。

- ①「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」
- ②「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」
- ③「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」
- ④「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」
- ⑤「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」

旧帝国大学においては、2.4.1 で測定が多いと分類された項目と同様で、②～④の順番が異なるだけであった。やはり横軸の a, b, d, e, f の資質・能力の測定が主となっている。

また、2.4.1 でも述べているが、「学びに向かう力」に位置付けられる資質・能力の測定が全く行われていない。

さらに、設問内容（縦軸）と国語科において育成すべき資質・能力（横軸）の合計に対する割合を提示したものが表 8 と 9 である。設問内容（縦軸）で 10%以上の出題があった項目は、以下の 7 項目である。

- ①「8. 文脈に照らし文や語句の意味内容を問う」
- ②「10. 文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う要約を含む」
- ③「11. 文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う」
- ④「12. 本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」
- ⑤「13. 文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う」
- ⑥「14. 文脈に照らし登場人物の心情の理由を問う」
- ⑦「16. 文脈に照らし登場人物の行動の理由を問う」

1.4.1 でも述べたが、分析指標上には設問内容が 20 項目設定されているにも関わらず、出題されている設問内容が 7 項目と非常に限定されている。旧帝国大学における評論の読解では、「傍線部が示す意味や目的、状況を問う」「筆者の意見（考え）を問う」問題が主流となっている。全く出題されていない設問内容としては「3. 言語文化に関する知識を問う」、「17. 文脈に照らし登場人物の人物像や関係性を問う」「18. 本文を踏まえて、自分の意見を問う」「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」という 4 項目であった。

特徴的なのは、設問内容の表記自体が簡潔なことである。大学により程度の差はあるが、例えば、京都大学の問題では、「傍線部 (1) について、筆者はなぜこのように述べているのか、説明せよ」（京都大学評論大問 1 の問 1）、「傍線部 (1) のように筆者が考えるのはなぜか、説明せよ」（京都大学評論大問 4 の問 1）のように、「わかりやすく」「具体的に」といった修飾語を入れて、

問題作成者の意図する解答への誘導がない。一見、条件設定がない分、基準は緩やかに感じるが、受験生は設問内容の表記の裏に隠された意図を自分で汲み取り、問題作成者が求めている解答を作成しなければならないということである。

次に、国語科において育成すべき資質・能力（横軸）で 10%以上の測定があった項目は、下記の 7 項目である。

- ①「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」
- ②「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」
- ③「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」
- ④「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」
- ⑤「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」
- ⑥「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」
- ⑦「h. 筆者の主張や心情を推測することができる」

1.4.1 でも述べたが、設問内容と国語科において育成すべき資質・能力のどちらも 7 項目と限定されている。

これまで、旧帝国大学の問題分類・分析について述べてきた。設問内容に関しては、「どういふことか、説明せよ」「それはなぜか、説明せよ」などに代表されるように、極めて簡潔な短文での表記が多い。測定される資質・能力も限定されている。旧帝国大学の受験生は、問題文自体の読解と理解に加え、「問題作成者（いわば、大学）の出題意図を読み解き、適切な文章表現で解答を作成する力」が求められているのだと考えられる。

つまり、この結果から考えられることは、極めてオーソドックスな設問内容で、入学時に身に付けて欲しい基本的な資質・能力を問うているということである。基本知識（漢字、文法等）を踏まえ、課題の文章内容を正確に読解し、自分の意見を的確に解答（文章表現）する力を受験生に求めているということである。ただし、難解な問題文を理解するための語彙力や読解力は必要である。また、設問上で受験生に対する指示項目や小説の出題は少ないものの、解答を作成する上で相手（問題作成者や大学側）の気持ちを慮って解答を作成する力も試されているのではないかと思われる。

2.3.3 旧医科大学（6大学）の分類・分析結果

旧医科大学（6大学）の平成27年度（2015）個別学力試験（前期日程）の記述式問題「国語」（現代文）の出題数は、全12問である。素材文（テキスト）は、評論が9問（75%）、小説が3問（25%）で、やはり評論の出題が圧倒的に多い。しかし、小説の出題は、旧帝国大学よりも12.5%多い。表2.8では、総合計数による分類結果を示す。

まず、設問内容（横軸）で、出題が多い項目を上位5番目まで順に列挙する。

- ①「10. 文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」
- ②「8. 文脈に照らし文や語句の意味内容を問う」
- ③「11. 文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う」
- ④「13. 文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う」
- ⑤「5. 文章の構造や対比している事柄を問う」

表2.8と上記の設問内容を合わせて検証すると、上位1～3番目までが旧帝国大学と同様の出題で、オーソドックスな「読解」を中心としたものである。異なるのは、旧帝国大学より「5. 文章の構造や対比している事柄を問う」の出題が多く、対比している事柄が明確に提示されていることである。例えば、5に該当する設問として、「傍線部B「『思い出す』ということは見たり聞いたり味わったりというような『知覚する』こととは根本的に別ものなのである」について、知覚することと思い出すことの相違を述べなさい」（金沢大学評論大問1の問3）や「『傍線部⑤『未開人』たちは、身近にあるものを使ってともかくも何かを作ってしまう』とあるが、こうした『未開人』の仕事のありようは、誰のどのような態度と対照的にとらえられているか。簡潔に説明しなさい」（千葉大学文学部、法政経学部評論大問1の問5）などがある。どちらの設問も二項対立が明確であり、解答は比較的容易な部類に入る。

加えて、旧帝国大学の設問内容の表記と大きな違いがある。旧医科大学の設問には、受験生の解答を問題作成者の意図する方向に誘導する修飾語（ヒント）の挿入が多いことである。先に引用した千葉大学の設問で検証してみると、仮に「傍線部⑤『未開人』たちは、～とあるが、誰のどのような態度と対照的にとらえられているか説明しなさい」という表記でもよいわけである。しかし、「こうした『未開人』の仕事のありよう」と単文を挿入することで、解答への1つの方向性を提示している。次に、「簡潔に」という単語により、解答欄の大きさに合わせ、適度な字の大きさである程度要約して記入することが求められていることが分かる。

このように、設問内容を詳細に提示するということは、「設問に」簡潔に“と書かれているから、ある程度要約して記述する必要がある”，「○○という言葉に注意し、問題文の△行目あたりを読み込めばよい」と暗に受験生に伝えて、正答へ導いていると考えられる。

次に、国語科において育成すべき資質・能力で、測定が多いと分類された項目を上位5番目まで順に列挙する。

- ①「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」
- ②「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」
- ③「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」
- ④「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」
- ⑤「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」

旧医科大学においては、2.4.1と2.4.2で測定が多いと分類された項目と同様で、上位2～5番目の順番が異なるだけであった。やはり、資質・能力の測定は、a, b, d, e, fに偏っていることが分かる。

また、2.4.1から2.4.2でも述べているが、旧医科大学においても「学びに向かう力」に位置付けられる資質・能力の測定が全く行われていない。個別学力試験の記述式問題「国語」（現代文）においてどのように設問に織り交ぜていくかは、今後の課題である。

さらに、設問内容（縦軸）と国語科において育成すべき資質・能力（横軸）の合計に対する割合を提示したものが表 2.9 と 2.10 である。設問内容（縦軸）で 10%以上の出題があった項目は、以下の 11 項目である。

- ① 「1. 漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）」
- ② 「2. 語句の辞書的意味を問う」
- ③ 「3. 言語文化に関する知識を問う」
- ④ 「5. 文章の構造や対比している事柄を問う」
- ⑤ 「8. 文脈に照らし文や語句の意味内容を問う」
- ⑥ 「10. 文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」
- ⑦ 「11. 文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う」
- ⑧ 「12. 本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」
- ⑨ 「13. 文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う」
- ⑩ 「14. 文脈に照らし登場人物の心情の理由を問う」
- ⑪ 「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」

分析指標上には 20 項目の設問内容の設定があるなか、11 項目が出題されている。知識（言語事項）、読解、表現の 3 区分を網羅した幅広い設問内容の出題である。全く出題されていない設問内容としては「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」、出題が少ないものとしては「3. 言語文化に関する知識を問う」「15. 文脈に照らし登場人物の行動を問う」が挙げられる。これは、旧帝国大学と同様の結果である。

国語科において育成すべき資質・能力（横軸）で 10%以上の出題があった項目は、以下の 9 項目である。

- ① 「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」
- ② 「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」
- ③ 「c. 日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用句、四字熟語、文学的知識）」
- ④ 「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」
- ⑤ 「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」
- ⑥ 「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」
- ⑦ 「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」
- ⑧ 「h. 筆者の主張や心情を推測することができる」
- ⑨ 「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」

旧医科大学の場合、国語科において育成すべき資質・能力は旧帝国大学よりも 2 項目多い 9 項目である。注目すべきなのは、「人物の心情や主張を理解する」「相手の状況を踏まえて自己表現する」といったコミュニケーション能力に関しても問われていることが分かる。

つまり、この結果から考えられることは、旧医科大学では、基本知識（漢字、文法等）を踏まえ、幅広いジャンルの文章内容を正確に読解し、自分の意見も的確に表現できる力を受験生に求めているのだと考えられる。小説の出題も旧帝国大学より 12.5%多いことから、「登場人物の心情を読み取る＝相手の気持ちを慮る」力もさらに必要としているのではないだろうかと思われる。しかし、解答に至るまでのプロセスにおいて、設問内容の表記で条件設定をして受験生を正答へと誘導している感は拭えない。これは中学校や高等学校における定期考査でも、生徒の解答を正答に導くためによく行われることである。条件設定をすることで、生徒も答えやすく、採点側も労力が多少軽減される事情もあると思われる。

2.3.4 旧商科大学（2 大学）・旧文理科大学（2 大学）・その他（3 大学） の分類・分析結果

旧商科大学、旧文理科大学、その他大学の平成 27 年度（2015）個別学力試験（前期日程）の記述式問題「国語」（現代文）の出題数は、全 17 問である。素材文（テキスト）は、評論が 11 問（64.7%）、小説が 6 問（35.3%）で、旧帝国大学や旧医科大学と同様、やはり評論の出題が多い。

しかし、小説の出題率が3つの大学区分のなかで最も高く、旧帝国大学の7%と比較すると、5倍もの違いがある。表 2.11 では、総合計数による分類結果を示す。

まず、設問内容（縦軸）で、出題が多い項目を上位5番目まで順に列挙する。

- ①「8. 文脈に照らし文や語句の意味内容を問う」
- ②「11. 文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う」
- ③「10. 文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」
- ④「9. 文脈に照らし文の示す目的・状況を問う」
- ⑤「12. 本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」

表 2.11 と上記の設問内容を合わせて検証すると、出題されている設問内容は限定されている。いわゆるオーソドックスな読解問題が中心である。しかし、旧帝国大学や旧医科大学と異なるのは、「12. 本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」が上位5項目に挙がっていることである。例えば、「著者は音声言語（口頭言語）と文字言語（書記言語）との関係をどうとらえているのか、問題文全体をふまえて答えなさい（100字以内）」（一橋大学評論大問1の問い4）や「傍線部（エ）『ここに水俣病は『人体』の問題にとどまらず、まさに『人間』の問題として立ち現れることになる』とあるが、これはどういうことか。本文全体の論旨を踏まえたうえで、160字以内で説明しなさい」（神戸大学評論大問1の問5）という問題が該当する。

これは 2.4.1 で述べたことではあるが、「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」設問に関し、分類がなされていたのは、信州大学教育学部の小説大問3の問1①と②である。問題は、旺文社（2015）を参照している。

問1 傍線部A「広い田の中にたった二人淋しく立った」について、

- ①作品の舞台を大まかに表した地図上に、この場面における二人のいる場所を○印で示しなさい。
- ②語り手が出発した地点から①までの道程を線で結びなさい。

上記の問題には、小説の舞台を大まかに表した「地図」が提示されている。しかし、「地図上に○を付ける」や「道程を線で結ぶ」という簡単に解答を図示する問題に対し、図表（今回の問題の場合は地図）の読み取りは行うが、分析・考察レベルには至っていないと考える。よって、管見の限り、19に分類することは困難であり、北大WG全員で議論後、対応を考えねばならない。

国語科において育成すべき資質・能力で、測定が多いと分類された項目を上位5番目まで順に列挙する。

- ①「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」
- ②「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」
- ③「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」
- ④「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」
- ⑤「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」

旧商科大学、旧文理科大学、その他大学のグループにおいても、旧帝国大学や旧医科大学で測定が多いと分類された項目と同様で、旧帝国大学とは順番も同じであった。やはり横軸の a, b, d, e, f の資質・能力の測定にとどまっている。

また、「学びに向かう力」に位置付けられる資質・能力が全く行われていない。

さらに、設問内容（縦軸）と国語科において育成すべき資質・能力の合計に対する割合を提示したものが、表 2.12 と 2.13 である。設問内容（縦軸）で10%以上の出題があった項目は、以下の10項目である。

- ①「1. 漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）」
- ②「3. 言語文化に関する知識を問う」
- ③「8. 文脈に照らし文や語句の意味内容を問う」
- ④「9. 文脈に照らし文の示す目的・状況を問う」
- ⑤「10. 文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）」
- ⑥「11. 文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う」

- ⑦「13. 文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う」
- ⑧「14. 文脈に照らし登場人物の心情の理由を問う」
- ⑨「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」
- ⑩「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」

分析指標上には設問内容が20項目設定されているが、出題が多いと分類された設問内容は10項目となっている。旧医科大学の11項目と比較をすると、1項目の違いで大差はない。小説での設問も旧医科大学と同様、2項目列挙されている。

例えば、筑波大学の第2問小説では、問1から問4までの設問で、フォーマットの小説での設問5項目のうち、3項目の出題がある。設問は、教学社（2016）から引用した。それぞれ問1から問4を引用した後に、分類結果を提示していく。

問1 傍線部分(1)「こと加納まいに関する限り、順子さんはとても気を遣う」とあるが、気を遣っているために行っていると思われる行動を3つあげよ。

問2 傍線部分(2)「ためいきをつく」、傍線部分(3)「またためいきをついた」とあるが、なぜためいきをついたのか、それぞれ説明せよ。

問3 傍線部分(4)「軽く請け合ったまいに、ショウコは眉間にしわを寄せた」とあるが、なぜそのような表情をしたのか、説明せよ。

問4 傍線部分(5)「だからまいもショウコの前では構えずに本音が言える」とあるが、これを踏まえて、「まい」と「ショウコ」はどのような関係と考えられるか、説明せよ。

問1は、「15. 文脈に照らし、登場人物の行動を問う」に分類される。相手にどのような配慮をした行動をとっているのかを問うているものである。

問2は、「16. 文脈に照らし、登場人物の行動の理由を問う」に分類される。「ためいき」という行動をとった理由を問うているものである。

問3は、問2と同様で「16. 文脈に照らし、登場人物の行動の理由を問う」に分類される。「眉間にしわを寄せた」表情（行動）の理由を問うているものである。

問4は、「17. 文脈に照らし登場人物の人物像や関係性を問う」に分類される。「まい」と「ショウコ」という2人の友人関係を詳細に問うているものである。

以上のことから、筑波大学においては、小説で複数の設問内容を設定していることが明らかである。直に登場人物の心情（心情の変化）を問う問題はないが、心情を理解したうえで上記4問の解答に至ることはできない。おそらく筑波大学では、小説の登場人物の考察を通して、受験生が他人（相手）の表情から言外の意味を読み取り、人間関係が円滑に運ぶよう配慮をしながら行動することができるか否かを見ているのではないかと考えられる。

次に、国語科において育成すべき資質・能力（横軸）で10%以上の測定があった項目は、下記の9項目である。

- ①「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」
- ②「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」
- ③「c. 言語文化に関する知識を問う」
- ④「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」
- ⑤「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」
- ⑥「f. 課題に応じた的確に文章表現ができる」
- ⑦「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」
- ⑧「j. 自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる」
- ⑨「i. 新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる」

設問内容は10項目、国語科において育成すべき資質・能力は9項目測定されている。旧帝国大学や旧医科大学とは異なり、「j. 自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる」「i. 新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる」が測定されている。

「i」については2.4.1.1で先述しているが、信州大学教育学部の小説大問3の問1①と②を「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」と合わせて「i. 新しい情報を知識・感性に照らして、

自分の考えを深化・発展させることができる」に分類した専門家がいたことに端を発する。「図表の情報＝新しい情報」と読み解いたのだと思われる。

しかし、この問題の図表の情報からは、自分の考えを深化・発展させることは難しい。そのため、図表の情報を「読み取って分析する」のか「見て分かったことを記入する」かの明確な区別ができるよう、北大WG内での検討が必要である。

この結果から考えられることは、旧商科大学、旧文理科大学、その他の大学では、基本知識（漢字、文法等）を踏まえ、幅広いジャンルの文章内容を正確に読解し、自分の意見も的確に表現できる力を受験生に求めているのだと考えられる。加えて、旧帝国大学や旧医科大学以上に、小説を出題することで「登場人物の心情を読み取る＝相手の気持ちを慮る」力や人間性を必要とするメッセージを発しているのではないだろうか。

2.4 今後の課題

今後の課題は、3点ある。1点目は「分析指標の再推敲と改訂」である。国立大学20大学において出題された平成27年度（2015）個別学力試験（前期日程）の記述式問題「国語」（現代文）を、「資質・能力と出題形式との関係」が測定できる分析指標（平成29年11月完成）により分類・分析が完了した。しかし、11名の専門家による分類結果から、設問内容（縦軸）や国語科において育成すべき資質・能力（横軸）に関して詳細な注釈が必要であることが分かった。設問内容（縦軸）の「19. 図表の情報読み取り、分析・考察させる」や「20. 複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる」については、分類者による「解釈の違い」が生じたため、現在、注釈として記載している言葉の定義を詳細に記述することで、分類結果がほぼ一致するよう改良していきたい。ただ、今回作成した分析指標の下部には注釈を記載し、マニュアルも別途作成しているが、自身のこれまでの経験に頼って分類を進めている感じが否めなかった。マニュアルや注釈にまで目を配ってもらえる配慮がさらに必要である。

2点目は「分類・分析結果に基づく新傾向問題の作成」である。2.4での分類・分析結果を踏まえ、新傾向の記述式問題を作成中である。作成過程において実感していることは、良質な素材文（テキスト）の選定は必須であるが、従来の国語（現代文）の問題作成の常識（読解問題中心の問題構成でよいという考え）はほとんど通用しないということである。これまでの評論問題では、筆者の意見で受験生に問いやすい部分を探し、傍線部を引けば問題を作成することができた。小説問題では、登場人物の気持ちが表現されている部分（感情の起伏が大きい部分）を探せば、心情を問う問題を作成することができた。しかし、新傾向の記述式問題を作成するためには、まず教員側のこれまでの問題作成における常識を変えなければ、新たな発想での問題作成ができないと実感している。筆者の意見や登場人物の心情を問う問題であっても、問い方を変え、関連する別の素材を挿入するなどの工夫を行わなければ新傾向の記述式問題にはならない。また、国立大学以外の大学（公立、私立）の大学入試問題や地域でトップ校と言われる高等学校の入試問題（国公立、私立）などの出題形式なども参照し、「問い方の工夫」がさらに必要であると考えられる。平成34年度から導入される大学入学共通テストを受験する中学生や小学生たちは、既に新学習指導要領のもとで日々学習を行っていることも念頭に置きながら、問題作成に更なる工夫を行う必要があるだろう。

今回、平成27年度個別学力試験「国語」（現代文）において、測定があまり狙われていなかった設問内容は「表現」、国語科における資質・能力では「学びに向かう力」の部分であった。今後はこの部分の測定を狙った問題作成を行わねばならないが、個別学力試験で測定すべきものなのかは慎重に議論すべき点であろう。

3点目は「新傾向問題の普及」についてである。これまで、新傾向の記述式問題を作成するなかで、教員の意識を変えること、問題作成に工夫を凝らすことが必要であることを述べてきた。そのため、各大学において新傾向の個別学力試験「国語」（現代文）の問題作成にどれだけ時間と労力を割き、設問に工夫を凝らすことができるかが当面の課題であろう。多くの大学や高等学校が、本研究の成果や蓄積したデータをもとに、良質の国語の新傾向問題や個別学力試験問題の作成に貢献できること望む。「個別学力試験に対する教員の意識の変化、素材文選定や問題作成に必要とする時間、労力」この3点が今後の重要な課題であると言えるだろう。

注

1) 分析指標作成当時の参照資料は、文部科学省「次期学習指導要領等に向けた審議のまとめについて（報告）」平成28年8月26日教育課程部会である。その後は、「学校教育法施行規則の一部を

改正する省令案及び高等学校学習指導要領案に対する意見公募手続き（パブリックコメント）の実施について」平成30年2月14日を参照している。

参考文献

- 旺文社（2015）．『2016年受験用全国大学入試問題正解 国語 国公立大編』
- 旺文社（2015）．『2016年受験用全国大学入試問題正解 国語 追加掲載編』
- 梶田叡一（2010）．『教育評価〔第2版補訂2版〕』有斐閣双書 有斐閣
- 教学社（2016）．『2017年版大学入試シリーズ』
- 日本テスト学会（2007）．『テスト・スタンダード—日本のテストの将来に向けて』金子書房
- 北海道大学他「文部科学省「大学入学者選抜改革推進委託事業」選定事業人文社会分野（国語科）平成28年度活動報告書 個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究～記述式問題を中心に～」平成29年3月31日提出
- 文部科学省「これからの時代に求められる国語力について」平成16年2月3日 文化審議会答申
- 文部科学省「高等学校学習指導要領 国語」平成21年3月
- 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 国語編」平成22年6月
- 文部科学省「国語科で育成すべき資質・能力（案）」平成28年5月31日教育課程部会国語ワーキンググループ資料1（別紙2）
- 文部科学省「言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージ（案）」平成28年6月23日教育課程部会 言語能力の向上に関する特別チーム資料1
- 文部科学省「国語科で育成し、評価すべき資質・能力（イメージ）」非公開資料
- 文部科学省「教育課程部会 言語能力の向上に関する特別チームにおける審議のとりまとめについて（報告）」2016年8月26日 言語能力の向上に関する特別チーム
- <http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/056/sonota/1377098.htm>（2018年5月28日アクセス）
- 文部科学省「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（報告）」平成28年8月26日教育課程部会
- 文部科学省「【国語】解答させる内容（問題の例）と資質・能力、出題形式との関係について（たつき台）」平成28年8月31日「高大接続改革の進捗状況について」別添資料2
- 文部科学省「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）」平成28年12月21日 中央教育審議会
- 文部科学省「学校教育法施行規則の一部を改正する省令案及び高等学校学習指導要領案に対する意見公募手続き（パブリックコメント）の実施について」平成30年2月14日公表
- <http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/02/1401394.htm>（2018年5月28日アクセス）
- 文部科学省「新高等学校学習指導要領」平成30年文部科学省告示第68号
- <http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/03/29/1384661_6_1.pdf>（2018年5月28日アクセス）
- 大学入試センター「大学入学共通テスト—平成29年度試行調査_問題，正解表，解答用紙等」
- <http://www.dnc.ac.jp/daigakunyugakukibousyagakuryokuhyoka_test/pre-test_h29_01.html>（2018年5月28日アクセス）

執筆者

鈴木誠，池田文人，飯田直弘，岩間徳兼，清島絵利子（北海道大学）

第3章 検証用新傾向問題の作成と点検

3.1 作成目的

第2章では、本学にて作成した分析指標を用い、国立大学20大学の平成27年度(2015)個別学力試験「国語」の分類・分析を行った。その結果、これまでの個別学力試験で、出題されていない設問形式や測定されていない資質・能力が明らかになり、「学力の3要素」の測定が網羅されていないことが分かった。本文の読解を中心とした設問で、「思考力・判断力・表現力等」は測定されているが、判断力や表現力の測定は少なく、学びに向かう力の測定は全く行われていなかったという結果を得た。

そこで上記の結果を受け、これまで十分に測定されなかった資質・能力を問うことを狙った新傾向の問題(評論と小説)を作成し、測定される資質・能力およびテストとしての妥当性や信頼性について、高校生を対象としたモニター調査によって検証することを目的とする。その際、東北大学が、平成28年度と29年度の2年間におけるモニター調査から得た知見や分析結果等を踏まえて、新傾向の記述式問題を作成し、調査を実施する。今回作成する新傾向の記述式問題(国立大学の個別学力試験と同等)と従来からの伝統的な記述式問題(国立大学個別学力試験)をあわせて出題・調査することで、結果の比較から、それぞれの出題パターンによって測定される資質・能力の違いやテストとしての妥当性や信頼性もより正確に検証できる。

なお、本調査後には、東北大学が主体となり、連携機関や協力機関に所属する教員の専門分野や知見を活かし、テスト理論・測定学的に分析を進める。その結果として、より実践的で具体的な評価手法の開発につながり、各大学の個別学力試験「国語」(現代文)の記述式問題の改善と作成支援への貢献も目的としている。

そのため、平成30年7月実施のモニター調査に向けて、これまで問われていない資質・能力の測定を狙える検証用の新傾向記述式問題(評論、小説)の作成のため、次の問題作成基準と条件を設定した。

3.2 作成基準と条件

検証用の新傾向記述式問題の作成にあたり、問題作成基準と条件を以下の通り設定した。

①出題範囲

- ・高等学校学習指導要領国語(平成21年3月文部科学省告示第34号)による教育課程に従う
- ・新高等学校学習指導要領国語(平成30年文部科学省告示第68号)

※「新高校学習指導要領国語」は問題作成時点では告示されておらず、文部科学省「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(中教審第197号)」平成28年12月21日中央教育審議会を参照している。

②出題対象とする資質・能力

- ・平成27年度(2015)個別学力試験「国語」(現代文)で問われていない資質・能力

③問題文(テキスト)のジャンルと字数

- ・評論、小説、随筆、実用文、新聞、学術論文(+図表または統計資料)
- ・1作品の字数は3,000~3,500字程度、図表または統計資料が入る場合は3,000字未満

④設問数と解答文字数

<モニター調査用>

- ・新傾向の記述式問題2題(評論、小説各1題づつ)
- ・大問1題につき小問4問を設定、解答文字数は大問1題全体で400字程度に収める

⑤採点基準

・日本テスト学会(2007)、大学入試センターHP「大学入学共通テストー平成29年度試行調査_問題、正解表、解答用紙等」の「国語 正解表」を参照し、作成

⑥解答時間

<モニター調査用>

大問1題につき40分程度(大問2題で80分程度)

平成29年11月には、これらの作成基準と条件を踏まえて、素材文の収集を行なった。同年12月末には評論の素材文が決定し、北大WG(高等学校の国語科教諭3名を含む)で、検証用の新傾向記述式問題の作成を開始した。平成30年3月中旬には、評論の問題(原案)がほぼ完成すると同時に、

小説の素材文決定を受け、問題作成に取り組んだ。この2題はモニター調査の検証用として使用する目的から、テストとしての質の確保のため、国語科教育を専門とする大学教員2名の点検と北大WGによる改訂を幾度となく繰り返し、6月上旬に完成に至った。時間的な制約があるなか、これまで問われていなかった資質・能力の測定を狙う問題を作成することは、素材文の選定、設問内容の工夫、難易度の設定などに非常に困難を極めた。

3.3 実施時期と調査対象者

本学にて作成した検証用の新傾向記述式問題を用いたモニター調査は、平成30年7月に実施した。北海道内8校、山形県1校、静岡県1校の合計10校の高校3年生1,409名に調査協力をいただいている。協力校の生徒は、文系をはじめ、理系、理数コースに所属しており、個別学力試験（前期日程）の記述式問題「国語」（現代文）の受験が必要ではない生徒のデータが得られることにより、今後、科やコースの違いによる詳細なデータ分析も可能となる。

平成28年度と29年度に東北大学が実施したモニター調査では、各地域のトップ校の生徒が対象であったが、今回の調査対象者には、敢えてトップ校や中堅校に在籍する様々な学力レベルの生徒を選定した。そのため、東北大学の調査結果と同様の伝統的な記述式問題（東北大学の過去問題）の解答率や正答率は見込めず、若干下がることが予想された。新傾向の記述式問題では、伝統的な記述式問題でよく見られる「傍線部について分かりやすく説明しなさい」「なぜ筆者はこのように主張するのか分かりやすく説明しなさい」という問い方を一切行っていない。生徒は設問を見た途端、「何をどのように解答すればよいのか」と戸惑い、まずは設問内容を読み解いて解答を記述することに時間を要すると考えたことから、解答率や正答率は高くないと想定し、設問自体の難易度も若干下げて、問題作成を行った。

2.3.1.～2.3.6.では、今回作成した検証用の新傾向記述式問題を提示する。同左の問題作成には、現役の高等学校の国語科教諭5名に協力をいただいている。それぞれの問題作成において中心となった高等学校の先生方に設問意図や採点基準等の説明をいただいている。

執筆者

- 3.1, 3.2, 3.3 清島絵利子（北海道大学）
- 3.4.1 塩谷哲士（札幌日本大学中学・高等学校）
- 3.4.2 高松洋司（北海道札幌平岸高等学校）
- 3.4.3, 3.4.5 駒形一路（静岡県立掛川西高等学校）
- 3.4.4 沼田裕美子（千葉県総合教育センター）
- 3.4.6 松山美彦（北海道札幌平岸高等学校）、清島絵利子（北海道大学）
- 2.4 鈴木慶子（長崎大学）、児玉忠（宮城教育大学）、中村三春（北海道大学）
- 2.5 林篤裕（名古屋工業大学）、泉毅（東北大学）、池田文人、岩間徳兼（北海道大学）

3.4 検証用新傾向記述式問題

3.4.1 新聞記事の往復書簡を用いた問題

(1) 素材文のジャンルと出典

評論（新聞記事）：赤坂憲雄，寺尾紗穂「あなたへ 往復書簡」
出典：朝日新聞連載 2017 年 12 月 16 日 1 通目赤坂憲雄より寺尾紗穂様へ，
2017 年 12 月 23 日 2 通目寺尾紗穂より赤坂憲雄様へ

(2) 素材文の内容と特徴

平成 29 年 12 月から朝日新聞に連載された「あなたへ 往復書簡」全六通の一通目と二通目である。一通目の著者は，赤坂憲雄氏（学習院大学教授，東北学を提唱した民俗学者，福島県立博物館館長），二通目の著者は，寺尾紗穂氏（音楽家，エッセイスト，ノンフィクション作家）である。

この二通の書簡では，民俗学とノンフィクションに共通する「聞き書き」という手法について，「乱暴なわかりやすさ」から距離を取りつつ，聞き，感じ，書くことの重要性について語っている。

(3) 作成した問題（完成版）

以下の問題は，モニター調査で使用したサンプル問題（評論）の完成版である。大問 1 題につき，40 分で解答可能な問題を作成している。なお，小問単位の解答時間（想定）は，下記の表に示す。

問 1 最近、以下の使用例のように、若者を中心に、よく「話を盛る」という言葉が使われている。

この「話を盛る」姿勢と、傍線の箇所（ア）の「一字一句をも加減せず感じたるままを書きたり」という柳田の執筆に対する姿勢との違いを 80 字以内で説明せよ。その際、両者の関心の方向性の違いが分かるように記述すること。

【「話を盛る」の使用例】

- A 昨日大通りでカラスの集団に襲われて、恐怖を感じたよ。空が真っ黒になるくらい集団で襲いかかってくるんだ。
- B えーっ、本当なの。大変だったねえ。私も、気をつけなくっちゃ。でも、どうすればいいんだろう。
- C A 君、なに話を盛ってるんだい。一羽が近くを飛んだだけじゃないか。僕も一緒にいたことを忘れちゃだめだよ。
- B なんだ、本当に心配しちゃった。
- C A 君、B さんみたいに何でも信じる人には、話を盛るのもほどほどにしないとだめだよ。

問2 傍線の箇所(イ)に「歩き、感じ、書き、伝えるということを積極的に続けておられる印象」とあるが、寺尾氏は、どのようなところから、そのような印象を受けたと考えられるか。以下の選択肢から、最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ① 「聞く」と「感じる」は密接に結びついている行為だと考えている寺尾氏は、「聞きたるままを書きたり」という姿勢で書かれた柳田国男の『遠野物語』の表現方法を赤坂氏が評価していることを知り、フィールドワークを積極的にこなしていると想像したから。
- ② 寺尾氏は、新聞や週刊誌における「わかりやすさ」に距離感を感じていたが、民俗学をかぎりなく文学に近い知の作法であり、表現のジャンルだと考えている赤坂氏の考えに、「わかりやすさ」の追求のために各地を奔走している姿を想像したから。
- ③ 権威主義的な「事実」による呪縛から、いかに逃れるかに注意を払ってきた寺尾氏にとって、第一発見者として事実にもとづくゆるぎないメッセージを発信し続けてきた赤坂氏の姿勢は称賛に値し、地道でありながらも活動的な姿を感じ取ったから。
- ④ ルポルタージュを書いている寺尾氏は、ルポと民俗学は案外近いところにあると感じており、ひと月も前から、自身の著作を二冊も読みながらアルバムを聴いてくれた赤坂氏の姿勢に共感し、他人への気配りもできる行動的な姿を感じ取ったから。
- ⑤ 寺尾氏は、民俗学は権威主義的な「事実」から最も距離をとることのできる、地道で誠実な学問ではないかと考えており、民俗学をフィールドワークに根ざした知の方法と捉えている赤坂氏に対して、現場に入り、人の話に耳を傾けている姿勢を見出したから。

問3 赤坂氏と寺尾氏に共通する「聞き書き」に関する考え方を50字以内で説明せよ。
(解答時間〔想定〕:○分)

問4 「往復書簡」を読んで、赤坂氏と寺尾氏の話題をさらに深く発展させたレポートを書くことになった。(1)～(3)の問いに答えよ。(解答時間〔想定〕:○分)

- (1) 2人の話題の中から詳しく調べてみたいこと(テーマ)を30字以内でまとめよ。
- (2) (1)のテーマをより深く知るために読んでおきたい書籍名を、本文中の波線部から1冊挙げよ。
- (3) そのことを調べると、どのようなことが分かるか(見通し)を予想して、120字以内でまとめよ。

(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係(完成版)

素材文の読解から、どのような発展的思考が生まれるかを考えて作問した。

問1は素材文中の語彙と、日常生活の中で使われている語彙を比較検討することで、「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」の測定を意識している。

問2では、二通目の筆者の言葉が一通目のどういう記述から生まれたものかを考えさせることで、「p. 言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」の測定を考えている。

問3では、一通目と二通目に共通する考え方の理解を求め、「20. 複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる」ことを求めている。

問4は、本問の中心となる問であり、素材文を読んで、どのような問題意識を持ち、さらに深く調べ、考えていこうとするかを問うことで、「学びに向かう力」の「m. 言葉を通じて社会や文化を創造しようとする」、「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」力の測定を狙っている。

(5) 正答例と採点のポイント (完成版)

	正答例	採点のポイント
問 1	<p>「話を盛る」は自らに聞き手の注目を集めるために事実を誇張して語ることだが、柳田の姿勢は自分の感性に忠実に書くために感じたことも含めて表現するものである。(76 字)</p> <p>【別解 1】 話を盛るは、他人に自分の話について興味関心を持ってもらうために出来事や物事を誇張して話すことだが、柳田の姿勢は事実や自分が感じたことを正確に表現するという違い。(80 字)</p> <p>【別解 2】 「話を盛る」姿勢とは、聞き手の関心を自分に集めるために事実を誇張することだが、柳田の姿勢は、聞きたいことを聞き、感じたいことを感じるということを忠実にやること。(80 字)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「話を盛る」姿勢と柳田の姿勢を対比して述べる必要がある。 ・「話を盛る」姿勢に関して触れる際に、これを「若者」の姿勢と書いても良い。 ・「話を盛る」の語意（「事実を誇張して」「大げさに」など）を説明している。 ・「話を盛る」の状況または目的（「聞き手に対して」「場の中で」「注目を集める」など）を指摘している。 ・柳田の姿勢に関して「感じたことも含めて書く」点について触れている。 ・柳田自身の内心の欲求に忠実な点について触れている。
問 2	⑤	寺尾氏が印象を受けた点について把握できている。
問 3	<p>権威主義的な事実から距離を取り、聞きたいことを聞き、感じたままを書くという考え方。(41 字)</p> <p>【別解 1】 権威主義的な「事実」からは距離を取り、地道に感じたことを書いて見つめていきたいという考え方。(46 字)</p> <p>【別解 2】 権威主義的な事実や分かりやすさの陥穽から距離を取り、感じたままに書くことを大切にしたいという考え方。(50 字)</p>	<p>「聞き書き」について共通する考え方の把握ができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権威主義的な事実の表現方法を避けることについて触れている。 ・感じたことも含めて書くことについて触れている。 ・解答が指定字数を超えていない。
問 4 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗学における「聞き書き」の実際 ・民俗学と文学の類似点と相違点 ・聞き書きにおいて聞き手はどのような存在なのか ・柳田国男が考える民俗学のあるべき姿について ・「感じたままを書く」とはどういうことか など 	本文の記述、及び本文にある書籍の情報から、発展させたものをテーマにしている。
問 4 (2)	<p>以下の書籍のいずれかであること。</p> <p>A 『忘れられた日本人』 宮本常一 B 『あのころのパラオをさがして』 寺尾紗穂 C 『遠野物語』 柳田国男 D 『苦海浄土』 石牟礼道子 E 『原発労働者』 寺尾紗穂 F 『日本残酷物語』 宮本常一他 G 『闇に消される原発被曝者』 樋口健二</p>	問 4 (1) と関連がある書籍を選んでいる。

問4 (3)	(12点満点解答の場合) 『遠野物語』を通して、柳田国男の人物像を探り、本書が執筆された時代背景も踏まえて、当時主流であった民俗学のあるべき姿を検証する。そのことで、柳田が考える民俗学とは何かを知ることができる。と考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・何について考えるのか(～について)が書かれている。 ・具体的な考察の方法、手立て、課題発見のためのものの見方、考え方(～することで)が書かれている。 ・予想される結論(～ことがわかる)が書かれている。
-----------	--	---

(6) 設問内容の検討過程(概略)

モニター問題として出題されることが予定されており、解答時間、問題量、問題の質、さらに採点のしやすさ、解答の客観性なども検討された。

以下に小問ごとの検討過程を簡単に述べる。

問1では、「話を盛る」という国語辞典に未掲載の日常語(流行語)の説明を求めることの是非が検討された。また「話を盛る」という語が受検者の語彙に含まれるか否かで、解答に差が出るのが指摘された。使用例を添えることで、その問題は解決された。

問2は当初、「乱暴な『わかりやすさ』」を軸にした設問を設定していた。「乱暴な『わかりやすさ』」を理解し、自分の生活の中にある「乱暴な『わかりやすさ』」を発見し、説明させる設問である。しかし解答時間の問題で、多肢選択式の「二通目の寺尾氏の文中にある赤坂氏に対する印象の部分を取り上げ、その根拠を一通目のどこに見いだすか」という設問に変更した。

問3は、初稿段階では「二通に共通する論点+あなたの考え」、2校目では「それぞれの論点のまとめ+共通する部分」、完成校では「二通に共通する論点」というように変わった。求める字数は、初稿と2校でそれぞれ120字、完成稿では50字である。求める内容、記述量とも縮小したのは、試験時間の調整のためである。

問4は、以下のような検討がなされた。

初稿 字数制限は設けず、使用書籍(本文にあるなしにかかわらず自由に二冊選出)、その理由、レポートのテーマ、レポートの意義・目的、予想される結論を書くことを求めている。使用書籍を自由選出にしたところから、解答のさまざまな広がりが見込まれた。採点基準の設定と、解答に必要な時間の保証が問題となった。

2校 「レポートの意義・目的」を記述項目から外し、字数もそれぞれ100字以内とした。また、使用書籍を本文中のもの二冊と限り、それぞれに300～500字の資料をつけた。テーマも5つ提示し、そこからの選択式とした。ここでは資料が膨大になることと、提示テーマが難しいという指摘があった。

完成稿 使用する書籍を一冊とし、テーマは本文の二人の話題から選ぶこととした。そのことによって書きやすくなったが、当初からの狙いにあった二冊の書籍を読むことによる比較検討という姿勢が問題から外れ、読書感想文的なものに流れる恐れが生まれた。しかし実施時間を考えるとこの程度が適当となった。

3.4.2 小説に関する新傾向問題

(1) 素材文のジャンルと出典

小説・「或日の大石内蔵助」・芥川龍之介

(2) 素材文の内容と特徴

近代小説の代表的作家の一人である芥川龍之介が、歴史的な題材に近代的解釈を加えた短編。一般的に知られている「忠臣蔵」を題材に、人間の内面に迫っている。なお、芥川は「鼻」や「地獄変」など古典作品を母胎とした作品を多く出しているが、この「或日の大石内蔵助」も「堀内伝右衛門覚書」(『赤穂義人纂書第一』などに所収)、「元禄快挙録」(『明治文学全集二』所収)などが材源と考えられる。

本文は、討ち入り後、宿願を果たした安堵感、達成感に包まれながら蟄居生活を送る浪士たちの中で、内蔵助は自身の内面の変化に徐々に気づき、それと共に他の浪士たちとの違和感を持ち始める部分である。内面の変化の端緒となる人物の登場シーンではあえてゆっくりとした時間の流れを作り出し、また比喩的な表現を交え不吉な予感を読者に促す。また、内蔵助自身の内省と客観的な作者の視点からうかがえる内蔵助の心情変化を読者は同時に感じながら読み進めることとなる。

第2問 次の文章は芥川龍之介『或日の大石内蔵助』の一節である。赤穂藩の家老であった大石内蔵助良雄は、他の浪士とともに主君浅野内匠頭の仇敵、吉良上野介を討った。仇討ち後、処分が決まるまで同志の吉田忠左衛門、富森助右衛門、早水藤左衛門らとともに細川家に預かりとなった。以下の文章は、そのまま翌年の正月を迎え、日々を過ごしている場面である。読んで後の問いに答えよ。

問1 傍線の箇所(ア)「今日も春恥しからぬ寝武士かな」の句意を内蔵助はどのようにとらえていると考えられるか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。なお、内蔵助は亡君の仇討ちを成し遂げ、泉岳寺へ引き上げる際、以下のように吟じている。この歌の内容もふまえて考えること。

「あらたのし思ひははるる身はすつるうきよの月にかかる雲なし」

- ① どのようなご沙汰が出るかわからないが、今日もまたうらかな春の景色を眺めることができている。私たちがやったことは何ら恥じ入ることも後悔することもなく、祈願成就の満足がそこにはあるばかりだ。さて心地よい春風に身を任せてみようか。
- ② 元旦から続く陽気に少し戸惑いながらも素直に春の到来を楽しもう。昼間から一献傾けられる幸せは何にも代えられない。悲願達成のためどれほどまでに辛酸を嘗めたことか。薫風を楽しむくらいは、誰からも責められることはないだろう。
- ③ 元旦から続く宴に身を委ねてきたが、さすがにこのままでは度を越えた恥しい行いと取られても仕方あるまい。ふと気づけば、隣では酔いに任せてうたた寝をしている不屈者もいる有様だ。さて、少しばかり居住まいを正して生活してみようか。
- ④ 亡君の仇討ちを果たした私たちが世間はどう非難しているだろうか。いや、どれほど非難されようとも、私たちの心には一点の曇りもなく晴れ晴れとした気が満ちているばかりだ。今少し、この満足な思いを同志と共に味わっていたいものだ。
- ⑤ 世間では私たちのことを亡君の仇討ちをした義士として誉めそやす輩もいるようだが、我々のこの満足感は悲願を成し遂げた同志にしか共感できるものではなからう。この達成感を世間の人々が理解することなどあり得ないのだ。

問2 傍線の箇所(イ)「影法師」とあるが、作者はどのような意図でこの表現を用いたと推測できるか。40字以内で説明せよ。

問3 傍線の箇所(ウ)「風馬牛」は、現代ではほとんど使われない語だが、当時の作品の中には散見される。本文と以下の使用例を読んで、(1)(2)の問いに答えよ。

(1)本文と以下の使用例に共通する「風馬牛」の意味を答えよ。

(2)なぜそのように考えたのか。80字以内で説明せよ。

【使用例】

(太宰治『花火』より一部引用・母が勝治のチベット行きを引き留めようとしている場面)

母は今更、チベットとは言ひ直しかねた。そのまま引きさがって、勝治に向ひ、チベットは諦めて、せめて満洲の医学校、くらみのところで堪忍してくれぬか、といまは必死の脱服に努めてみたが、勝治は風馬牛である。

※ 次頁に続く

(3) 作成した問題 (完成版)

問4 大石内蔵助の呼称について、次のような会話がなされた。空欄部に適切な内容を80字以内で記せ。

- A なるほど、最初の段落では「彼」となっているけど、次の段落から「内蔵助」「良雄」となっているね。この三つの違いはなんだろう？
- B 大石内蔵助の使い分けは地の文で起きているよね。地の文は作者、あるいはこの作品の語り手の言葉だよ。よく見ると、「彼」→「内蔵助」→「良雄」となって、そこから「良雄」→「内蔵助」→「彼」と漸次変化しているように見える。
- C 「良雄」は大石の主君や親が呼ぶのに使うのが一般的だと思う。そうすると非常に親密な間柄で使うイメージが湧いてくる。「内蔵助」は役職名であり浅野家での大石の通称と考えてよいと思う。そして「彼」という呼称は客観視している時に使うことが多い表現だ。
- A そうすると「彼」「内蔵助」「良雄」の呼称の変化は、語り手を通し、 効果があると考えていいかもしれないね。

(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)

資質・能力の「学びに向かう力」を評価する設問を意識した。その中でも特に「言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」資質を小説の読解を通じて測ることを目指した。

この「言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」資質のベースとして、本文を正確に読み取り、必要に応じて適切に抽出する力が必要であると考えられる。問1～3についてはこれらの資質・能力を意識した作問を考えた。

問4では、受検者に設問での問いかけを契機として、自身の考え方を広げ、更にはその考えを適切に表現することを求めた。

【問4】登場人物の一人大石内蔵助の表記について、次のような会話がなされた。以下の設問に答えよ。

(1) 会話文の流れと本文を踏まえて、空欄部に当てはまる内容として妥当性のあるものが次の中に二つある。そのいずれか一つを選び、記号で答えよ。

(2) それを選んだ場合、大石内蔵助の表記の変化は具体的にどのような効果をもたらしていると考えられるか。一五〇字以内で説明せよ。

A なるほど、最初は「彼」となっているけど、途中から「内蔵助」「良雄」となっているわね。この三つの違いはなんだろう？

B 大石内蔵助の使い分けは地の文で起きているよね。地の文は作者、あるいはこの作品の語り部の言葉だよ。よく見ると、「彼」→「内蔵助」→「良雄」となって、そこから「良雄」→「内蔵助」→「彼」と漸次変化しているように見える。

C 「良雄」は当人の主君や親が呼ぶのに使うのが一般的だと思う。そうすると非常に親密な間柄で使うイメージが湧いてくる。「内蔵助」は役職名であり浅野家での大石の通称と考えてよいと思う。そして「彼」という表記は客観視している時に使うことが多い表現だ。

A そうすると「彼」「内蔵助」「良雄」の表記変化は、 効果があると考えてもいいかもしれないわね。

- ① 読者に大石内蔵助と彼を観察している作者との精神的距離の変化に気づかせる
- ② 読者のイメージする大石内蔵助像と作者の意図する大石像との相違に気づかせる
- ③ 読者に大石内蔵助と忠左衛門ほか周囲の者たちとの精神状態の差に気づかせる
- ④ 読者に当時の大石内蔵助ほか赤穂浪士に対する大衆の熱情とその変化に気づかせる
- ⑤ 読者に大石内蔵助が他者との交流を通じて感じ始めている心情変化に気づかせる

(5) 正答例と採点のポイント (完成版)

	正答例	採点のポイント
問 1	①	1 を選択→5 点 それ以外 0 点
問 2	満足感に包まれていた内蔵助の心に不安感が訪れることを読者に予感させる。(37 字)	a. 内蔵助の心情に変化があることを指摘している。 +3 点 b. 条件 a を満たした上で、変化前の内蔵助の市場として、幸福感を指摘している。 +2 点 c. 条件 a を満たした上で、変化後の心情として、負の感情を指摘している。 d. 条件 a を満たした上で、(心情の変化の) 予兆であるという効果 +1 点 e. 解答が指定字数を越えた。 -1 点
問 3 (1)	無関係、関係のないこと	「無関係」またはその同義語のみを記している。 3 点 「無関心」またはその同義語のみを記している。 2 点 その他「頑固」「決意が固い」など 0 点
問 3 (2)	使用例では、母親の説教に勝治の行動が関わりをもたないことを意味し、本文では江戸に仇討ちが流行することと内蔵助の良心が関わりをもたないことを表しているから。(74 字)	(1) で誤答であった場合 0 点 (1) で点数があった場合、または無答であった場合は、以下の条件に基づいて採点。 a. 本文について触れている。 +2 点 b. 条件 a を満たした上で、「風馬牛」が「無関係／無関心」という意味になることについて、本文に基づく具体例を引いている。 +4 点 c. 使用例(花火)について触れている。 +2 点 d. 条件 c を満たした上で、「風馬牛」が「無関係／無関心」という意味になることについて、使用例に基づく具体例を引いている。 +1 点 e. 文末が「…ため。」・「…から。」のように理由を導く表現になっていない。 -1 点 f. 解答が指定字数を越えた。 -1 点
問 4	念願が叶った内蔵助の満足感を近くで感じる印象を与える一方、藤左エ門の登場から内蔵助が不安な感情をもつこととなる心情変化を客観的にとらえさせようとする (74 字)	正答の条件 1・2 の両方に当てはまり得る場合は、総得点が高くなる方を採用する。 (条件 1) a. 内蔵助の呼称が、内蔵助と読者との距離感を反映していることを指摘している。 +6 点 b. 条件 a を満たした上で、本文において(藤左衛門の登場の時点までは)距離が近づいていることを指摘している。 +3 点 c. 条件 a を満たした上で、本文において(藤左衛門の登場の時点からは)距離が遠ざかっていることを指摘している。 +3 点 d. 文末が「効果」につながる表現になっていない。 -1 点 e. 解答が指定字数を越えた。 -1 点 (条件 2) a. 内蔵助の呼称が、内蔵助と読者との距離感を反映していることを指摘している。 +6 点 b. 条件 a を満たした上で、変化前の心情を具体的に指摘している。 +3 点 c. 条件 a を満たした上で、変化後の心情を具体的に指摘している。 +3 点 d. 文末が「効果」につながる表現になっていない。 -1 点 e. 解答が指定字数を越えた。 -1 点

(6) 設問内容の検討過程(概略)

問1

リード文・本文・設問で提示した歌，以上複数の情報を適確に読み取り，総合的に判断し，適切に表現する力を求めた。

初稿では，情報をもとに自由に記述させることで，「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」だけでなく，「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」，「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」の力も求めた。検討過程において，モニター問題となることを踏まえ，時間的制約と全体的な難易度調整の観点から200字自由記述は受検者の負担が大きいのではないかと指摘を受けた。

完成稿では指摘を踏まえ，選択問題に変更し受検者の負担軽減を図った。しかしながら，そのため「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」力を求めることができなくなった。

問2

表現の特色に着目させ，受検者が知識や言語活動をもとに自身の考えを深めたり，その考えを適切に表現したりすることを求めた。

初稿では，「…」は読書体験などをもとに，情景を受検者各自が適切に表現していくことを想定した。「影法師」は，辞書に不安感や否定的なイメージにつながる意味を見つけることはできない。しかしながら，本文の内容，展開からこの「影法師」が不吉なものを予感させることは読み取れると判断した。「影法師」が用いられている文章を含め前後の表現にも着目して考察する力を想定し，「j. 自分の知識や経験を踏まえて，考えをまとめることができる」「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」といった「学びに向かう力」の資質・能力を求めた。検討過程では，モニター問題となることを踏まえ，時間的制約と全体的な難易度調整の観点から配慮することを求められた。

2校・完成稿では指摘を受けて「影法師」のみの出題とした。また，求める字数を減らし難易度を調整した。

問3

問2同様，表現の特色に着目させ，受検者が知識や言語活動をもとに自身の考えを深めたり，その考えを適切に表現したりすることを求めた。

初稿では，「道理」「風馬牛」という抽象的な表現が文中でどのように働いているかを前後の文脈から考え，適切な表現で表すことを求めた。特に「風馬牛」は見かけない表現ではあるが，これまでの学習歴で「馬耳東風」などの表現を思い起こすことで解答がしやすくなることを想定した。そういった点で，「j. 自分の知識や経験を踏まえて，考えをまとめることができる」「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」を評価すると共に，「q. 日本の言語文化を享受し，活用・継承・発展させようとする」の「活用」の部分の評価になることを意識した。検討過程では，モニター問題となることを踏まえ，時間的制約と全体的な難易度調整の観点から配慮することを求められた。

2校・完成稿では，「道理」についてよく出題される語でもあり，受検者の負担軽減も考え問題から削除した。また，「風馬牛」の説明には50字で解答させることが却って受検者の負担となると考え，80字に変更した。50字では抽象語彙への変換などが解答をする際に求められるが，その部分の軽減ができると判断した。

問4

ここでは，内蔵助の表記に着目させ，人称変化が内蔵助の心情変化につながる可能性を示唆した上で受験生各自が自らの考えを深めながら，適切な表現をしていくことを求めた。

初稿では，設問に会話文を置き，或る程度考えの方向性を絞る方向で作問した。更に，空欄補充で適切な表現を選択させる問題を作成したが，その際「妥当性のあるもの」を複数設定し，その内容に差異を付け，選択したものによって配点を変えることで，選択肢問題でも能力を測ることを意識した。更に，その選択肢を選んだ理由を記述させることで，「自身の考えを相手の立場を考え適切に表現する」「論理的に自分の考えをまとめる」といった日常の学習活動が想起されることを意識した。

しかしながら，モニター問題となることを考えた際，「妥当性のあるもの」を複数設定した場合，選択肢の内容の差異を客観的に設定できるか，また時間的制約のある中で難易度が高くなり過ぎ

ないかといった指摘を受け、通常の「最も適当なもの一つ」を選ぶ設問へと変更した。なお、選択した理由を記述させる設問は上記のとおりの内容から変更なしとなった。

更に検討を重ねていくと、選択肢を設定することで解答の自由度が狭くなりすぎているのではないかと考えた。モニター問題として時間的制約も考えながらできる限り自由な記述をさせていくよう修正していく内に、会話文の空欄部分については記述式に変更した。

3.4.3 科学に関するテキストを用いた新傾向問題

(1) 素材文のジャンルと出典

A 評論：中谷宇吉郎『科学以前の心』河出文庫

B 新聞：朝日新聞連載「(福岡伸一の『動的平衡』)人間が描く“絵空事”」2018年9月6日

(2) 素材文の内容と特徴

A 文：日本を代表する雪氷研究者にして名随筆家でもあった中谷宇吉郎の随筆。フランス南部ラスコウ洞窟に旧石器時代の原始人類が描いた彩色壁画は、いくつもの奇跡が重なって当時に近い色彩を保った状態で現代に伝わっている。そこには、肉眼では見ることができない四足動物の瞬間的な足の運びが精密に記録されている。1万5千年前の原始人類が「科学の眼」とも言うべき眼力を備えていたことへの驚きが記される。

B 文：A文が所収されている河出文庫『科学以前の心』の編者でもある生物学者福岡伸一が、毎週木曜日に朝日新聞に連載しているコラム「福岡伸一の動的平衡」の一編。機械が刻む時間と人間が感じる時間との相違を述べた文章から、19世紀の画家ジェリコーが描いた競走馬の絵には、現実にはあり得ない脚の運びが描かれているが、鑑賞者には疾走する馬の躍動感が伝わる。機械が、「現在」を、一点のものとしかと捉えられないのに対し、人間の知性は未来と過去を含んだ空間として考えることができる。

(3) 作成した問題 (完成版)

第1問

問1 傍線部1について、次の(1)・(2)に答えよ。

(1) 本文のここまではヨーロッパの原始人類の描いた壁画について言及されている。その文脈において傍線部1の一文は読者にやや唐突な印象を与える。それを犯してまでこれを挟んだ理由について、筆者の意図を類推し2点にわたって答えよ。

(2) 上記と相通ずる意図のもとに記したと考えられる本文中の表現をひとつ抜き出し、それを通して伝えようとしたことを説明せよ。

問2 傍線部2について この表現には筆者の皮肉が隠されている。「ほんとうの芸術」との対比から、筆者の皮肉を説明せよ。

問3 (1) A文における四脚の獣の早駆けの描写に触れた一節と、B文における画家の競馬の脚の描写に触れた一節とを、可能・不可能という観点から比較したい。「できる、できている」、並びに「できない、できていない」という表現を用いて、その違いを説明せよ。

(2) B文に引用されたロダンの発言には、芸術を評価する観点が示されているとも考えられる。その観点とはどのようなものか、具体的に説明せよ。

(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)

問1 問題文本文を読み進めると、傍線部1は文脈上前後とのつながりを欠くことに気づくはずである。それを端的に問う問いを設け、(1)ではその理由を記させ、(2)では同じ意図を持つ一文を抜き出させる。(1)では表現の特色に気づく能力、(2)では実は反復する「いかにも不思議である」というフレーズを用いることで対比の構造にあることにも気づかせたい。

問2 対比の構造に留意させると同時に、単なる科学者の枠に収まることなく芸術にも造詣が深い筆者の主張を読み取らせる。

問3 A文後半には、ラスコウ洞窟に壁画を描いた原始人類たちが、現代になって瞬間写真や高速映画という「技術」の登場に伴って始めて撮影が可能になった四足動物の早駆けの足の運びを、瞬間的なコマ割りで描き分けることができていた、という描写がある。B文には、19世紀の画家ジェリコーの、両足を精一杯伸ばして疾走する競走馬の躍動感豊かな描写に対して、現実にはあり得ない跳躍姿勢だとして批判する動きがあったことを知ったロダンが、含蓄に満ちた発言で封じたエピソードが記されている。旧石器時代と現代という時代の変遷に加え、「技術」の発展をも視野に入れると、正誤の判断には容易に黒白が着くようにも思われるが、芸術という観点が加わったときには、正誤だけでは語れない価値判断が求められる、ということを通推させたい。(1)では、事例の正しい理解を促すために、それぞれを対比させるにあたって文末の書き分けを条件に加えた。(2)では、一読しただけでは相反すると考えがちな描写を、通底する新たな観点を通じて読み直すことで得られる知見を培う姿勢を養う。

(5) 正答例と採点のポイント (完成版)

	正答例	採点のポイント
問1 (1)	足利時代と現代との時間的隔たりは、原始人類が壁画を描いた時代との差に比べれば、ほんのわずかなものに過ぎない。そのわずかな時間であるにも関わらず、日本に保存状態のよい絵画が少ないことを例に挙げることで、ラスコウ洞窟の壁画の保存状態のよさを強調しようとしたから。また、この先には、用いられたえのぐが、日本古来のものと共通する顔料であることも記されており、このことも合わせて、さらに強調の度合いを高めていると言える。	・ラスコウ洞窟の壁画の保存状態のよさには必ず触れていること。
問1 (2)	抜き出し このままニューヨークの展覧会に出しても、大賞をとりそうな絵である。 伝えようとしたこと ラスコウ洞窟の壁画の完成度の高さが、現代美術の評価にも十分に耐えうることを伝えている。	・抜き出し：正確であること。 ・伝えようとしたこと：完成度の高さ、評価基準、双方に触れていること。
問2	近年の芸術作品が周囲からの評価ばかりを気にする傾向があり、かつ経済的な価値観を基準とする傾向にもあることを暗に批判している。	・近年の芸術に対する批判的な観点について、具体的に例示していること。
問3 (1)	A文の原始人類は、瞬間写真に匹敵する能力を持っており、肉眼では捕らえられない早駆けの足の運びを正確に写し取ることができた。B文の19世紀の画家・ジェリコーの描いた疾走する馬の絵は両脚を前後に伸ばしきっており、瞬間写真では撮影が可能な真の跳躍姿勢をとらえることができていない。	・両者の「足の運びの描写」について、比較の基準を明記することは必須。「瞬間写真・高速映画」といった「技術」の発展によってもたらされたものについて記す。そのうえで、可能・不可能を条件に従って記す。
問3 (2)	作品の優れ具合は、その描写が真実であるかどうかを超えて、表現対象に対する驚きや魅力をどのように表現しようとしたかによって評価されるべきだということ。	・芸術の価値について触れていること。それに対する作者の姿勢が書かれていること。

(6) 設問内容の検討過程(概略)

論理的な文章(評論文・論説文)を用いて複数テキストによる作問を試みる場合、問題点のひとつとして、両文にまたがって用いられている要、「術語」とも言うべきキーワードに同じ定義があてはまるかどうか、という点が挙げられる。多くの場合、それぞれのテキストの論者が異なるはずだが、たとえ異なっても、キーワードとなる「術語」は概ね同じ意味で用いられているであろうという解釈を成り立たせない限り、読解のズレは避けて通れない。複数テキストを用いて作問する際には、慎重な判断を要する。

その懸念を除くべく、今回の作問にあたっては、複数テキストをつなぐ要は、語句ではなく「現象」を用いることにした。すなわち「四足動物の足の運びの描写」である。

人文科学・社会科学系の論者の作品が出典となることが多いなかで、今回は自然科学系のエッセイを並べた。寺田寅彦の高弟でもある雪氷研究の第一人者 中谷宇吉郎の文章を軸とした。それに絡めた文章の筆者・福岡伸一も生物学者である。福岡が中谷の文章が所収された文庫を編集していたことは単なる偶然であることも申し添えておく。中谷が「四足動物の足の運び」がコマ割りで描かれていることに着目した理由のひとつには、彼が研究に尽力すると同時に、映画制作を通じて科学教育の普及に注力していたことも挙げられよう。

問1では、表現上の特徴とも言える「挿入句」的な一文の働きについて問うた。どちらも形式的にも内容的にもアクセントとなる一文で、問うに値する。作成の過程で、小問2問構成に改めた。

問2は、一見するとやや易しめで部分的な解釈問題にとどまるかのようにも見えようが、全体的な解釈にもつながってゆく設問である。当初は、傍線部のみを対象としていたが、傍線部直前にある「ほんとうの芸術」という表現を活かし、対比させることとした。科学者でありながら芸術にも造詣が深い筆者であることにも気づかせたい。

問3がメインの出題となる。近現代的な思考形態に慣れてしまっている我々は、進化論的な考えにも便乗して、原始人は劣っている、現代人こそが優れていると考えがちだが、それは単なる思い込みに過ぎないことに気づかせておく必要がある。「四足動物の足の運び」を軸に、壁画制作に携わった原始人と19世紀の画家を比較することにはなるが、「できる・できない」だけに注目して生じかねない優劣をつけようとする姿勢こそ、ロダンの糾弾の対象である。

作問の過程で、小問2問構成に改めるとともに、解答の方向性が多岐にわたる可能性もあることから、その観点について「芸術を評価する」と明記することで絞り込みを図った。

3.4.4 科学に関する複数テキスト、報道発表資料等を用いた新傾向問題

(1) 素材文のジャンルと出典

評論, その他

A: 多木浩二『戦争論』岩波書店

B: マルティン・ハイデッガー, 関口浩(訳)『技術への問い』平凡社

C: 石黒浩『人間とロボットの法則』B&Tブックス

D: 久木田水生, 神崎宣次, 佐々木拓『ロボットからの倫理学入門』名古屋大学出版会

E: NEDO 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構『身体感覚を伝送する双腕型ロボットの開発に成功 世界初の高精度力触覚技術を搭載』ニュースリリース 2017. 9. 28

F: 慶応大学『触覚をもった柔らかいロボットが未来を拓く』慶応タイムス 2016. 9. 16

(2) 素材文の内容と特徴

評論家多木浩二の著書、1999年9月刊行「戦争論」の「第3章 死と暴力の世紀」からの抜粋である。本文では、第二次世界大戦におけるすさまじい破壊と暴力を近代的生産システムの現出と論じている。筆者の示した観点に立脚して、受験者自身にリアルタイムで進行中の技術開発について評価させることをねらい、現在開発が進められているロボットについての報道発表資料も素材として取り上げた。

(3) 作成した問題 (完成版)

第1問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権の関係により、この部分に入る本文(多木浩二『戦争論』による)の掲載なし

問1 ①世界がもはやかつての世界でなくなったとあるが、アウシュヴィッツの前と後とではどのように変わったというのか、本文の表現に即して述べなさい。

問2 ②ほんとうは詩を書くことによってしか乗り越えることのできない状況だったのであるとあるが、ここで筆者はどのような考えを示しているか。「詩を書くこと」が何を象徴しているか明らかにするように述べなさい。

問3 ③アンデルスからみると、ハイデッガーの技術論は、手仕事の世界であったとあるが、次は「ハイデッガーの技術論」といわれるものの一部分である。アンデルスはそれをどのような点で「手仕事の世界」と批判していると考えられるか、説明しなさい。

著作権の関係により、この部分に入る本文(ハイデッガー『技術への問い』(関口浩訳)による)の掲載なし

※ 次頁に続く

問4 ④科学技術の進歩の結果、暴力を行使する側の身体性は消える方向をたどっているとあるが、このことについて、次の【資料1】～【資料3】を参考にしながらあとの問い(1)、(2)に答えなさい。

【資料1】

著作権の関係により、本文(石黒浩『人間とロボットの法則』による)の掲載なし

(1) 【資料1】で述べられているような「人間の能力を拡張する技術」の例を挙げ、どういう点で人間の能力を拡張しているといえるのか説明しなさい。

【資料2】

著作権の関係により、本文(久木田水生・神崎宣次・佐々木拓『ロボットからの倫理学入門』による)の掲載なし

【資料3】

著作権の関係により、本文と写真(NEDO 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構『身体感覚を伝送する双腕型ロボットの開発に成功 世界初の高精度力触覚技術を搭載』ニュースリリース 2017.9.28、慶応大学『触覚をもった柔らかいロボットが未来を拓く』慶応タイムス 2016.9.16)の掲載なし

(2) 【資料2】の「自律型兵器」、【資料3】のロボットの開発がめざす方向性はどのようなものであるといえるか。本文中の「身体性」という語を用いて、アウシュヴィッツのシステムとの共通点、あるいは相違点に触れながら述べなさい。

(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)

今回、特に測定を狙った設問内容は、本文を読んで筆者の主張を適切に読み取ることにとどまらず、筆者が示した考え方をひとつの観点として、別に提示した新たな事象に照応させ、どのように評価するかを記述させるというものである。未知の事柄に関心を持ち、読み取りの結果や既習の知識、自己の経験等とを結びつけて理解しようとする思考のはたらきを引き出すことができるのではないかと考えた。

テキストを読み合わせる形式自体は既に先行事例が多くあるが、本設問では、個人の主観を含む論説文や文学的文章ではなく、科学技術分野に関する報道発表資料を素材のひとつに採用し、受験者にとってリアルタイムに進行する現実社会の中での事象について自己の言葉で記述させることとした。

【問4(2)の出題意図】

本文から筆者が主張する近代技術の特性を読み解き、他のテキスト【資料1】【資料2】に説明されている現代の技術と照応して本文のキーワード「身体性」という視点から評価させることをねらいとした。(従来型との違い：テキストの読解を通して得た新たな観点から他の事象を評価させる点。)

(5) 正答例と採点のポイント (完成版)

	正答例	採点のポイント
問1	かつての世界では啓蒙が知識を授けられた人間を自由にする信じられていたが、アウシュヴィッツ以降の世界においては、近代の科学技術から生まれた破壊が言語を絶する異常な規模になり、啓蒙的理性ではなだめようもない暴力になったために、啓蒙が人間を野蛮に追い込む世界に変わったということ。	「啓蒙」の辞書的な意味を踏まえ、それと相反する状況を対比して記述できている。
問2	詩を書く行為は文化的な営みであって、啓蒙による理性の知の発露である。アドルノはアウシュヴィッツの野蛮の根源を啓蒙の結果である近代技術に見出し、もはや詩や芸術は生き残れないという絶望を述べたが、筆者はそれでもなお人類は理性によってこの事態を克服することを目指すべきだという考えを示している。	「詩を書くこと」が象徴していることとして文中の「理性」の語を用いて説明し、かつそれに対する筆者の立場を説明できている。
問3	ハイデガーによると、技術は本来それ自体が「目的」を内包しているのであり、それを人間の理性が手段として適切に取り扱うことを想定している。つまり、人間がどのように利用するかによって技術が戦争のような野蛮につながるということになるが、アンデルスらの考え方では技術それ自体の中に野蛮につながる要素があり、人間には制御できないものという捉え方をしているため、ハイデガーの技術論は技術が人間の制御下に収まらない恐ろしさをはらんでいることを見逃している点を批判したと考えられる。	引用されたハイデッガーとアンデルスの技術に対する考え方の相違が把握できている。
問4 (1)	アウシュヴィッツのシステムには、工場生産体制と同様に、機械を導入して生産規模が拡大したために一人の存在の	資料テキストの定義に合致する事例を挙げ、理由を説明すること

	中で完結する仕事ではなく、分業化したものとなって、自分が携わる生産業務の全体像が見えない構造となっている点で、近代技術の特性が見られる。	ができています。
問4 (2)	資料2の「自律型兵器」は、人間の能力を空間的に拡張し、敵からの距離を大きく取ることを目指して開発されている。従って、分業化の究極の形態として敵の殺傷に直接関与しないこととなり、使用する側の人間の身体性は完全に消滅する。身体性が消えた結果、罪の意識も生じない点でアウシュヴィッツのシステムの延長線上にあるといえる。 一方、資料3のロボットは、触覚のフィードバックを得る点で、技術が身体性を取り戻そうとしているといえ、アウシュヴィッツにおける身体性の消失とは異なっている。ただし、身体感覚が時間的・空間的隔絶を乗り越えることを目指している点では人間の能力の拡張という近代技術の進歩の文脈と異なるところはない。	2つの資料について、それぞれアウシュヴィッツにみられる近代技術の特性との共通点あるいは相違点に言及できている。

(6) 設問内容の検討過程(概略)

本設問は、従来型の内容把握問題を追うことにより、キーワード「身体性」の理解に至り、この語を用いて解答するしくみとなっている。

新作版段階では(1)人間の能力の拡張という技術の特性の理解、(2)本文で筆者が指摘した身体性の消失アウシュヴィッツの特性の理解、を経て、(3)最先端ロボット技術についての評価、と小問3から構成されていた。これについて、読み合わせ資料1～3を示した後に(2)で本文の内容を問うことについて、(3)への足掛かりの意図があるとはいえ小問提示の順序が適切でなく受験者を混乱させる恐れがあるとの指摘を受けた。また、(2)で問わんとしたアウシュヴィッツの特性については(3)を記述する中で同時に触れることが可能であることから、(2)(3)を統合して2つの小問に整理するとともに、(1)では具体例を挙げさせるだけでなくそれを提示した理由を述べさせることで、解答の偶然性を排除し、次の問いへの手がかりとなる思考を促す形に改訂した。

試作版では表形式の解答欄を充当する形とし、採点の観点を明らかにすることを試みた。しかし、この形式では受験者の着眼点によっては必ずしも全ての欄が埋まるとは限らず、また、結局は共通点と相違点の双方を挙げさせることは視点を固定して一定の解答を求めることとなり、設問の主旨が生かされないと判断した。

最終的に表形式は解除して、設問文のとおり「身体性」の観点からアウシュヴィッツとの共通点あるいは相違点を述べればよいこととし、当初の自由記述形式に戻した。自由記述とはいえ本文や資料中の文言「身体性」「人間の能力の拡張」の観点到立脚して評価し、述べることになっており、中には本文中で筆者が指摘した、使用する側の「倫理」の問題に踏み込んだ解答も出るものと想定され、受験者の思考の広がりや深まりの度合いを測定できるのではないかと考える。

3.4.5 小説に関する新傾向問題

(1) 素材文のジャンルと出典

小説：宮下奈都『羊と鋼の森』文藝春秋社

(2) 素材文の内容と特徴

宮下奈都による小説『羊と鋼の森』は平成27(2015)年9月文藝春秋社より単行本発刊、文庫化は同30(2018)年2月(文春文庫)。第13回(2016年)本屋大賞受賞作。

ひとりの青年が、自身を調律師へと導いた師や職場の同僚、顧客、さらには成長をともにする姉妹との交流を通じて、調律師として独り立ちしてゆく過程が、いくつかのエピソードを交えて静かな筆致で綴られる作品。

将来への見通しもないまま高校生活を送っていた外村は、高校の体育館で偶然にもピアノを調律する板鳥の姿に魅せられ、調律師になることを決意する。2年間の専門学校での学びを終え、師と仰ぐ板鳥と同じ職場で働くことになるが、技術はなかなか上達しない。そんな折に出会った双子の姉妹との交流を通じ、外村は成長のきっかけをつかんでゆく。

(3) 作成した問題 (完成版)

第1問 次の文章は、宮下奈都『羊と鋼の森』の一節である。高校の体育館でピアノを調律する板鳥さんの姿に強く打たれた主人公・外村は調律師になることを決意し、ようやくひとりで仕事を任されるようになった。職場の先輩・柳さんの結婚披露パーティーで奏でられるピアノの調律を任された外村は、演奏を担当するふたごの姉妹とともに、万全の準備で臨もうと務めている。以下の文章は、パーティー当日を迎え、早めに会場入りし、最後の調整に取り組む場面である。読んで、後の問いに答えよ。

和音 ふたごの姉。ピアニストになることをめざしている高校生。

由仁 ふたごの妹。姉に劣らぬピアノの資質に恵まれていたが、あるときから急にピアノが弾けなくなった。姉・和音が弾くピアノの調律師になることをめざす。

問1 傍線の箇所 ア 「その辺に漂っていた音楽をそっとつかまえて、ピアノで取り出してみせているみたいだ」という表現と、左に示す下村湖人『次郎物語』の一節にある表現との間には、音楽と彫刻という分野の違いを超越して共通する制作観が反映していると考えられることができる。

…「ミケランゼロという伊太利の彫刻家がね、——」

と、先生は、いくぶんゆったりした調子になって、

「ある日、友人と二人で散歩をしていた時に、路ばたの草っ原に大理石がころがっているのを見つけた。彼は、しばらくその黒ずんだ膚を見つめていたが、急に友人をふりかえって、この石の中に女神が擒にされている、私はそれを救い出さなければならない、と言った。そして、その大理石を自分のアトリエに運びこませ、それから毎日丹念に鑿をふるっていたが、とうとう、それを見事な女神の像に刻みあげてしまったそうだ。…」

(1) 共通する制作観とはどのようなものと考えられるか、簡潔に説明せよ。

(2) その一方で、両者には大きな違いがあるとも言える。その違いについて説明せよ。

※ 次頁に続く

問2 傍線の箇所 イ 「この子とはんでもない見当違いをしている」について、どのような状況を指しているのか、本文全体の記述を踏まえて説明せよ。

問3 傍線の箇所 ウ 「迂闊だった」について、小説全体を読んだ経験のあるAくんとBくんが話し合っている。(1・2)内を補うべき適切な表現を記せ。

A この小説の前半部分には、こんな表現があったけど、覚えてる？

「ただ、ピアノの脚の向きを変えて、音の飛び方を調整していたのを初めて見ました」
専門学校でも知識としては習った。脚の下についている真鍮のキャスターの向きを変えるとピアノの重心が変わる。それを板鳥さんは、ひと目で僕にもわかるようにやってみせてくれた。腕を肩より開いて腕立て伏せをしたら力の入り方が変わる。胴体にかかる力が大きくなる。ピアノで言えば、響板に大きな力がかかるということだ。板鳥さんは腕立て伏せになぞらえて簡潔に説明しながら、背中でピアノの底板を持ち上げるようにしてキャスターの向きを変えた。それだけで、ほんとうに音の響き方が変わった。

B ああ、とても印象的な場面だったからよく覚えているよ。思わず腕立て伏せして確認しちゃったからね。

A えっ、そこまでしたの？なるほど、確かに試したくなるね。僕はそこまでしなかったけど、この表現と合わせて読むと、主人公の「迂闊」さには、いくつかの意味合いが重なっていると言えると思うんだ。

B どういうこと？

- A まず、本文にあるように、ピアノが奏でられる「環境をほとんど考慮していなかった」点。ピアノの演奏は、常にピアノの曲としてだけ聞かれるとは限らないということだよね。
- B そうだね。直後で「家庭のピアノしか触ったことのない未熟さが出た」と言っているけれど、確かにここはレストランで、日頃から主人公が触っている家庭のピアノではない。ピアノは結婚披露パーティーで奏でられるのであって、招かれるお客さんは、(1)から、曲はあくまで添えもの。このあたりの事情には疎かったようだね。
- A そうそう。おまけに、このことに気づくのに時間がかかっている。音が変わったことの原因が演奏者にあると考えているしね。主人公は、まだほんとうの意味での(2)がわかっていないということさ。
- B 小説の前半部分にあるように、結局はまだまだ「知識としては習った」レベルに留まっているってことか。板鳥さんが身をもってまで示してくれたのにな。
- B 確かに。ただ、救いはあるとも言えるかな。少なくとも和音さんよりは早く気づいたし…。そして、自信がないながらも、今度は自分の力でなんとかしようとしている。そこに外村の成長を見ることができんじゃないかな。

問4 本文にはピアノの音色がさまざまに描写されているが、前半と後半とでは明らかな変化が見られる。それぞれの音色について特徴的な描写をふたつずつ挙げるとともに、なぜそのような音色となるのか説明せよ。

(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)

問1 (1) 発表年代に約70年もの隔りがあるふたつの作品に、芸術の制作過程にまつわる特徴的な類似表現があることの妙味に気づかせたい。設問文で引用されている『次郎物語』の一節を読むと、すぐに夏目漱石の『夢十夜』第六夜の運慶の件も想起することも予測される。現代小説にも同様の表現があるとの気づきは、複数テキストを扱うことではじめて得られる読解力である。また、優れた芸術家の優れている由縁は、単に手技に秀でているのみではなく、むしろ日常のなかから「美」を引き出す力にあると訴えようとしていることに気づきたい。その力は、手技に秀でようと研鑽を重ねるうちに身につくとも言えそうである。(2) 一方で、こちらの問いに答えるには小説の主題に立ち返る必要がある。(1)の共通点に埋もれがちだが、素材文小説のテーマが主人公の成長にあり、彼に寄り添う姉妹もともに成長してゆくことを考えれば、易しい問いである。

問2 傍線部の記述の根拠を本文全体から読み取る設問。主人公と姉妹との間の会話からも関係性の類推は可能。

問3 言語活動の場を想定した設問。特に(2)では問題文以前の引用部分を踏まえ、「迂闊」の具体的な内容を明示したい。

問4 まず、直喩・隠喩を問わず、音色の描写を挙げる。音色に変化をもたらした要因について、本文に即した記述を求める。

(5) 正答例と採点のポイント (完成版)

	正答例	採点のポイント
問1 (1)	優れた作品は個人に託された才能だけで創造されるだけでなく、才能に磨きをかけようと謙虚に研鑽を重ねた者には、ありふれた日常のなかにさえ優れた作品を生み出す契機が与えられるというもの。	・問題文本文「その辺に漂っていた(音楽)」と、引用文「路ばたの草っ原に(ころがっている)大理石」とに見出される共通点を記す。また、一般的に考えられる芸術家像にも触れる。
問1 (2)	ピアニストの卵に過ぎない和音が奏でるピアノと、ルネサンス期の巨匠であるミケランゼロの彫刻という違い。 (別解 和音はピアニストの卵に過ぎないが、ミケランゼロはルネサンス期の大芸術家である点。)	・それぞれの登場人物が、少女と大芸術家であることが対比できればよい。
問2	日常的につき合いがあり、会話も交わしているとはいえ、	・まず、本文前半の描写から主人公

	まだまだ調律師としては駆け出しに過ぎず失敗を重ねている外村に対して、ほんの一曲の弾きははじめの印象だけで、自身の将来を決めかねない言葉を発してしまうこと。	と姉妹の関係性を記す。後半の描写から、主人公が苦闘する状況にも触れる。
問3 (1)	和音の曲を聴きに来るわけではない	・同意の表現があればよい。
問3 (2)	繊細さが求められる調律の難しさ	・「調律の困難さ」は必須。ピアノの特性や困難さの理由にも触れる。
問4	前半 銀色に澄んだ森に、道が伸びていくような音／透きとおった、水しぶきみたいな音／ころころと明るい玉が転がるみたいな (これらからふたつ) 後半 くぐもって、キレがない／音が伸びていかない／ / 細かな音の粒がここへ届く前にぼろぼろこぼれて床に散らばっていった / 弾まない / 届かない (これらからふたつ) 説明 前半では、無人に近い会場で調律されたピアノの透明感のある音色が伸びやかに響いているから。 後半では、人やモノが頻繁に出入りし、現実に近い場が設定されてゆくにつれ、音色が閉塞していくから。	・(抜き出し) 過不足なく抜き出してあればよい。 ・(説明) それぞれ抜き出した描写の特徴に触れ、まとめてあればよい。

(6) 設問内容の検討過程(概略)

やや古い引用になるが2011年12月6日付朝日新聞に「入試に小説、なぜ出ない？」と題する記事が掲載された。それによると、国公立大学でさえ、(当時)5年連続で小説を出題した大学は18.9%にとどまる。現在はもっと少なくなっているのではないかと推測される。

今回の一連の動きのなかで注目され、すでに2回実施された大学入学共通テスト試行調査でもしきりに出題される「複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる」力を、あえて減少傾向にある小説を素材文として試みた。

小説のなかでも特に作問に困難が伴うとされる、映画化もされた話題の現代小説を採り上げたのは、ひとえに問1で扱った傍線部1の描写があったからによる。(1)は、当初は「芸術観」という語句を用いていたが、あまりに抽象的で焦点が絞りにくくろうとの助言もあり、「制作観」に改めた。「演奏」を「制作」とみることに対しては違和感を覚える向きもあるが、作品の受容者に対して、作品の鑑賞を可能にするという観点で捉えれば合点もゆくか。(2)は、当初は「決定的な違い」として問いかけたがやや過剰でもあるので「大きな違い」とした。解答にもやや主観的な記述があったので事実を述べればよいこととし、最終的には対比できればよしとした。

問2は、主人公をめぐる人間関係と登場人物の人物像に触れた出題とした。解答を仕上げるには、根拠を広い範囲から求めることになる。

問3は近年大学入試センター試験でも出題される言語活動の場面を設定し、大学入学共通テスト試行調査でも見られる発言の空欄補充を試みた。また、同一作品の前半部分の引用も、「複数の文章の情報を読み取る」ことにつながろう。短文とは言え解答を記述させることは、多肢選択式とは異なり表現の幅を許容することになる。その幅が多少なりとも絞り込まれてゆくよう検討を重ねる過程で、各人の発言のなかになんか条件が織り込まれていった。

問4では、表現の特徴を読み取ることを中心に作問した。ピアノの調律師を主人公とする小説だけに、作品中にはそれぞれの音色がさまざまな表現で記されている。その豊かさを味わいつつグルーピングすることを通じて表現力と思考力を問うた。また、当初の設問に見られた「変化が生じた様子について説明せよ」という問いかけでは、あまりに漠然としており答えにくさも予想されることから、理由を問うこととした。

3.4.6 小説に関する新傾向問題

(1) 素材文のジャンルと出典

原田マハ「魔法使いの涙」『インディペンズデイ』所収 株式会社 PHP 研究所 平成 22 年 (2010) 3月8日発行

(2) 素材文の内容と特徴

夫の転勤に伴って環境の変化に戸惑いながら同世代の住民に気を配る母とその娘で近所の子どもたちとトラブルを起こす幼い女の子が老人の語る物語によって救われていく様子を描いた作品。「独立」をテーマとし、現在の境地から新たな出発を決意する女性たちを描いた連作短編集『インディペンズデイ』の一作である。幼い娘を持つ母親の視点で平易な言葉が用いられている。

(3) 作成した問題 (完成版)

第1問 傍線部①「あの女の子と母親たち」について、次の設問に答えよ。

(1) 「あの女の子と母親たち」は、本文全体を通して、「私」にとってどのような存在として描かれているといえるか。以下の選択肢から、最も適当なものを1つ選び記号で答えよ。

- ① 移住者であり母親である「私」にとって精神的脅威となっている存在であり、いかに移住先の人々が保守的で因習にとらわれているかを暗示している。
- ② 保守的な存在として移住者を排除する存在であり、「私」たち母娘の関係や心情に影響を与えている存在であり、今後の不吉な展開を示唆している。
- ③ 乱暴なふるまいをする娘の行動に端を発しているが、「私」たち母娘を遠ざけている存在であり、理不尽な周囲の反応を想起させるものとなっている。
- ④ 公園でのおじいさんとの出会いを幸せに感じている「私」たち母娘に対して、その言動が理解できない存在であり、一般的な人々の反応を示している。
- ⑤ 母親である「私」が精神的抑圧を感じる存在からその言動が気にならなくなる存在へと変化することで、「私」の心情変化を印象付ける働きがある。

※ 次頁に続く

(2) (1) で選ばなかった選択肢について、なぜ選ばなかったのか4つの選択肢それぞれの理由を40字以内で述べよ。なお、文末を「～から。」とすること。

問 2 傍線部②「泣けてきた」について、なぜ「私」は泣いたのか。その理由について話し合いがされた。

(1) 以下の話し合いの空欄部に当てはまる適語を指示に従って補い、完成させよ。

(2) また、この会話に関する後の問について答えよ。

A：「私」が泣いたのは感情的になって子供を傷つけてしまったことへの罪悪感じゃないかな。

B：それだと公園で会う母子との関係が反映していないように思えるけど。

C：公園で会う母子のことを考慮しなくてはいけない理由はなんだろう？本文でいうと根拠となる部分はどこかな？

D：「ほっと胸をなで下す」とか、そうじゃないかな。

C：その表現のどんなところが根拠となるのかな？

D：(ア・40字以内で根拠を述べよ。) ことになると思うよ。

B：リード文からも根拠を見つけることができると思うよ。

C：どこの部分が根拠となるのかな？

B：「(イ・25字以内で抜き出せ。)」の部分かな。

C：公園で会う母子に対して「私」はどんなことを考慮して、どんなことを期待していたと考えられるかな？

B：(ウ・50字以内で述べよ。) と考えられるよ。

C：その根拠となる部分はどこかな？

B：「バスの中で、麻美ちゃんママと晴香ちゃんママが、光岡さんおかしいじゃないの、とひそひそ話をするの聞こえても、ちっとも気にならなかった」がそうじゃないかな。

D：どうしてこの部分が根拠になるの？「ちっとも気にならなかった」って書いてあるよね。

B：そうだね。「ちっとも気にならなかった」ということは(エ・40字以内で述べよ。) じゃないかな。

(2)

①話し合いをコントロールしている人は誰だと推定できるか。また、その理由を30字以内で述べよ。

②この話し合いの問題点を1点挙げ70字以内で述べよ。

③②で指摘した問題点について、どのような改善策が考えられるか50字以内で述べよ。”

問 3 傍線部③「お話を聞き始めてから乱暴をしなくなった」とあるが、そこには「お話(物語)のもつ力」があると考えられる。「お話(物語)のもつ力」とは、どのようなものか、根拠となる本文の記述と自分の経験を踏まえて200字程度で答えよ。

問 4 以下は本編文庫版の解説の一部だが、解説の筆者による「自由になる(独立する)」は、たとえば本文のX【「光岡さんって、～気にならなかった。】の部分に、「私」に関して具体的に描かれていると考えられる。では、X【 】の部分がなぜ「私」にとって「自由になる(独立する)」ことになると言えるのか、150字程度で説明せよ。

※ 著作権の関係により、本文の引用の掲載不可(「解説」瀧井朝世)

問 5 本文の以下の人物の人間関係を、指示に従って図示せよ。

○人物は左のように表すこと

「私」……○私 聡美……○聡 あの女の子……○女

あの女の子の母親たち……○母 おじいさん……○爺 木ノ内たまき……○木

○人物関係は矢印で表す。1つの矢印に関する記述は15字以内とする。

問 6 本作の続編を発表する際、この作品を読んでいない人にもわかるように人物紹介を書くことになった。「私」「聡美」「おじいさん」「木ノ内たまき」について 60 字以内で説明をまとめよ。

問 7 50 年後の学生が、この「魔法使いの涙」を資料として、時代状況、社会のあり方を考察した。彼らが、この作品からどのような社会的問題、時代の特徴を読み取ったかを想像して 100 字以内でまとめよ。また、学生には、当時のキーワードとして以下の語が紹介され、参考とするように言われた。

【参考語句】

核家族、男女雇用均等法、ママ友、公園デビュー、一億総活躍社会、家事分担、など(【参考語句】は、解答に使っても使わなくても可)

問 8 以下の文は「魔法使いの涙」の冒頭部である。本文も参照しながら、聡美が「乱暴」な子どもになった理由を 90 字以内で答えよ。

〔冒頭部〕

※ 著作権の関係により、本文の引用不可

問 9 傍線部 A「手紙」は、直接的には娘（聡美）が書いた形になっているが、おじいさんが語った孫娘の思い、それを語ったおじいさんの思い、そして、それを受けとめた「私」の思い、物語の続きを待ち望む娘（聡美）の思いのすべてが重ね合わされて書かれたものと理解することができる。空欄 X～Z にもっともふさわしい内容を、次の条件に従って書け。

条件 1 本文全体の内容をふまえた上で、推測して書くこと。

条件 2 3 文構成になるように留意し、空欄 X～Z に、それぞれ 8 字以上、12 字以内の内容を考え、全てひらがなで書くこと。(句読点は含まない)

4. 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係

【問 1 (1) の出題意図】

従来型の選択式問題ではあるが、続く (2) の設問で、選択しなかった理由を記述で問うこと点が従来型と異なる。「最も正しいものを一つ選びませう」などの択一的な選択肢問題ではなくて、思考力・判断力・表現力を問う問題につながるよう工夫した。

分析指標の「17. 文脈に照らし登場人物の人物像や関係性を問う」という設問内容から、「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」の 3 項目の資質・能力の測定を狙った。

【問 1 (2) の出題意図】

日常の学習活動での発問における生徒の解答は多様である。そのような学習活動を設問に取り入れることはできないかと作問し、正解答の他に準解答を用意した。準解答は正解と比較したときに不十分な点が見いだせるものを用意し、思考力・判断力・表現力を問う問題とした。(1) の選択問題と合わせ、選択しなかった理由を記述で問う設問を合わせた点が従来型と異なる。

分析指標の「17. 文脈に照らし登場人物の人物像や関係性を問う」「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」という 2 項目の設問内容から、「a. 正しい国語表記ができる(漢字、仮名遣い、句読点)」「b. 言葉の決まり(文法、修辞法)を正しく適用できる」「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」「i. 根拠を

もとに仮説を立てることができる」「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」「p. 言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」の 9 項目の資質・能力の測定を狙った。

【問 2 (1) の出題意図】

複数の情報の読み取ることを会話文を添えることで問うた。また、会話文から、相手の考えの根拠を推測したり、相手を意識して自分の意見を伝える活動を念頭に置いた。さらに会話文から、話し合いの課題を見つけ出し、その解決策を問うことで、「話す・聞く」領域に関わる設問にしようとした。

分析指標の「16. 文脈に照らし登場人物の行動の理由を問う」「20. 複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる」の 2 項目の設問内容から、「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」「b. 言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる」「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」「i. 根拠をもとに仮説を立てることができる」「p. 言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」という 8 項目の資質・能力の測定を狙った。

【問 2 の出題意図】

複数の情報の読み取ることを会話文を添えることで問うた。また、会話文から、相手の考えの根拠を推測したり、相手を意識して自分の意見を伝える活動を念頭に置いた。さらに会話文から、話し合いの課題を見つけ出し、その解決策を問うことで、「話す・聞く・書く」領域に関わる設問にしようとした。

分析指標「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」「20. 複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる」という 2 項目の設問内容から、「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」「b. 言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる」「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」「h. 筆者の主張や心情を推測することができる」「i. 根拠をもとに仮説を立てることができる」「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」「p. 言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」という 11 項目の資質・能力の測定を狙った。

【問 3 の出題意図】

素材文のテーマである「お話のもつ力」について考察させる問。直接的な理由は素材文本文ではなく、様々な角度からの答が可能だと推測される。その中で、解答者の読解し分析する力や、自らの経験や知識を問に照らして深化・発展させる力を問う問題を作成しようとした。また、「読書を通して自分の人生を豊かにしようとする」資質・能力を問うことにつながるように作問を試みた。

評価指標「16. 文脈に照らし登場人物の行動の理由を問う」「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」という 2 項目の設問内容から、「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」「b. 言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる」「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」「i. 根拠をもとに仮説を立てることができる」「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」「p. 言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」「r. 読書を通して自分の人生を豊かにしようとする」という 10 項目の資質・能力の測定を狙った。

【問4の出題意図】

新傾向の問題として「新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる」また、他者からの独立ということを考える上で「言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」資質・能力を測る問題として作成した。さらに文庫本の解説の文章を加えたことで複数の情報を読み取る問題として作成した。

評価指標「14. 文脈に照らし登場人物の心情の理由を問う」「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」「20. 複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる」という3項目の設問内容から、「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」「b. 言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる」「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」「h. 筆者の主張や心情を推測することができる」「i. 根拠をもとに仮説を立てることができる」「l. 新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる」「p. 言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」という10項目の資質・能力の測定を狙った。

【問5の出題意図】

様々な学力層に対する新傾向の問題（「学びに向かう力」を測る問題）を作ることを意識した。物語全体の人間関係を可視化する力を求めた問。分析・考察したことを図式化するという「図表の情報を読み取り、分析・考察させる」問の逆とも言える資質・能力を測ろうとした。

分析指標「17. 文脈に照らし登場人物の人物像や関係性を問う」という設問内容から、「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」「b. 言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる」「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」「p. 言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」という9項目の資質・能力の測定を狙った。

【問6の出題意図】

「学びに向かう力」を測るために、日常の授業における言語活動の中で実際に行われている活動が想起できる問題を作成しようとした。本文全体の読解力をもとに「言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」「自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」資質・能力を測る設問であるが、これは日常のグループ学習や意見発表により培うことのできる能力である。また、「読書を通して自分の人生を豊かにしようとする」資質・能力を測る設問ともなっているが、日常の読書活動が豊かな生徒が解答できる問題を目指した。

分析指標「17. 文脈に照らし登場人物の人物像や関係性を問う」という設問内容から、「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」「b. 言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる」「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」「p. 言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」「r. 読書を通して自分の人生を豊かにしようとする」という9項目の資質・能力の測定を狙った。

【問7の出題意図】

ここで問いたかったのは、① 今後の社会変化の予想を立てさせること、② その仮想的な立ち位置から、現状を振り返ってみる、という2点。現代の社会に対する知識や理解をもとに、この物語に含まれる社会的な問題点を焦点化し、問題解決のための方策を探るものとした。ふだんから「言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」という経験を積み重ねているかを問うことにつながる問題である。

分析指標「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」という設問内容から、「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」「h. 筆者の主張や心情を推測することができる」「i. 根拠をもとに仮説を立てることができる」「j. 自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる」「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」という11項目の資質・能力の測定を狙った。

【問8の出題意図】

問題文本文は、小説の途中の箇所であるが、小説の冒頭部分を提示することで、「根拠をもとに仮説を立てることができる」「新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる」資質・能力を測ろうとした。また、登場人物の行動の理由を問うことで「言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」資質・能力も測ることができると考えた。

分析指標「16. 文脈に照らし登場人物の行動の理由を問う」「17. 文脈に照らし登場人物の人物像や関係性を問う」「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」「20. 複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる」という4項目の設問内容から、「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」「h. 筆者の主張や心情を推測することができる」「i. 根拠をもとに仮説を立てることができる」「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」「l. 新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる」「p. 言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」という11項目の資質・能力の測定を狙った。

【問9の出題意図】

作品の全体が収斂する最後の手紙の文面を推測させる問。手紙を書いたことがあったり、他人の気持ちを推測することのできる資質・能力を問うことを試みた。ふだんからコミュニケーション能力を高めることを意識していれば解答できる問題としたかった。「言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」資質・能力を問う試みである。また、設問を読むことで、「新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる」という資質・能力も試せるのではないかと考えた。

分析指標「7. 文脈に照らし挿入すべき語句や文を問う」「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」という2項目の設問内容から、「a. 正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）」「b. 言葉の決まり（文法、修辞法）を正しく適用できる」「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」「h. 筆者の主張や心情を推測することができる」「i. 根拠をもとに仮説を立てることができる」「j. 自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる」「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」「l. 新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる」「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」「p. 言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする」という13項目の資質・能力の測定を狙った。

5. 正答例と採点のポイント

	正答例	採点のポイント
問1 (1)	⑤	⑤のみ
問1 (2)	<p>①文章からは因習に囚われているということまでは読み取ることができないから。(37字)</p> <p>②不吉な展開と指摘しているが、後半は希望に満ちた展開となっているから。(34字)</p> <p>③他の母子から敬遠されている理由は子供の暴力であり理不尽な対応とはいえないから。(40字)</p> <p>④指摘が後半部分だけに限られており、文全体の効果とはなっていないから。(35字)</p>	<p>・解答形式の字数は、設問の合計字数である。40字の解答を4種記述する。</p> <p>・(1)と(2)の採点は連動させず、(1)が不正解であっても(2)の解答の要素が整っていれば加点とする。また(2)の配点には、(1)が不正解であっても、根拠のある説明であれば、部分点を与えることも考えられる。(難易度を考慮して配点に傾斜をつけることも考えられる。)</p> <p>例えば、①～③まで適切に表現されている場合は、各5点、④が適切に表現できていれば10点。①～③は単に選択肢の表現の誤りを指摘するだけだが、④については⑤との比較において、後半部分だけの指摘となっていること。また、設問にある「(登場人物の)「私」にとってどのような存在として描かれているといえるか」という指示にそって解答する必要があるので、他の解答よりも配点を高くした。</p>
問2 (1)	<p>ア いなかったことに安心するということはそれだけ気になる存在だったことを表している</p> <p>イ 公園で会う母子との付き合いにも気を配ってきた</p> <p>ウ 公園で会う母子の考えや価値観に従うことで、町の一員として受け入れられるようになることを期待していた</p> <p>エ それまではとても気になる存在だったことの裏返しだと考えられる</p>	<p>・解答形式の字数は、設問の合計字数である。</p>

<p>問 2 (2)</p>	<p>① C (根拠) Cが全体に対して質問をしたり確認をする発言をしているから。 ② Aの発言に対して反対意見が出た後、誰もAに関する発言をしておらず、Aもその後全く発言していないことから、この話し合いではAが孤立している点。 ③ Aがなぜそのように考えたのかその根拠を確認したり、Aに他の意見を促すなどの関わりをする。</p>	<p>・解答形式の字数は枝間の合計字数である。</p>
<p>問 3</p>	<p>聡美は「おじいさんの話に夢中」になり、物語の登場人物と一緒にいるように感じることで、これまで感じていた生活の中のストレスを解消できたと考えられる。(73 字)</p>	<p>・解答形式の字数は枝間の合計字数である。 ・小論文に準じた採点基準を設定する。読解力・思考力・表現力などの項目を設定し、それぞれについて採点し合計する。ルーブリックの評価法を取り入れた方式で採点することも可能である。</p>
<p>問 4</p>	<p>新しい土地に溶け込みたい「私」にとって、「公園で会う母子」の言動は行動の基準だったが、この場面で「私」は、「麻美ちゃんママ」たちの中傷めいた言葉にも「胸を張っ」て応え、ひそひそ話も「気にならな」くなっている。そのような点から「私」は「公園で会う母子」たちの目から自由になり、独立したと言える。</p>	<p>・「私」は新しい土地に溶け込みたいと願っていたこと。 ・そのため「公園で会う母子」たちとうまく付き合いたいと考え、それが行動の基準になっていたこと。 ・中傷めいた言葉にも「胸を張り、「おかしいんじゃないの」の陰口も「ちっとも気にならなかった」こと。 ・「公園の母子」たちの目から自由になり、独立したと言えること。</p> <p>上記の4点の記述に関して、それぞれ加点する。</p>
<p>問 5</p>	<p>最もシンプルな形としては以下のような解答になるが、解答者に「わかりやすく図示させる」ことも考えられる。 ○私→○聡 娘。乱暴なふるまいを心配。 ○聡→○私 母。 ○私→○爺 公園で話をしてくれるすごい人。 ○爺→○私 話を聞いてくれる、孫の恩人。 ○聡→○爺 公園の魔法使いのおじいさん。 ○爺→○聡 話を聞いてくれる、孫の恩人。 ○爺→○木 孫。公園で毎日、彼女の物語を読む。 ○木→○爺 祖父。書いた物語を毎日送信。 ○木→○私○聡 読者。入院生活の精神的な支え。 ○私→○木 娘と自分を救ってくれた物語の作者。 ○聡→○木 毎日楽しみにしている物語の作者 ”</p>	<p>未検討</p>

<p>問 6</p>	<p>・私（光岡） 夫の転勤で移り住んだ町に溶け込もうとしたが、娘の行動に手を焼いていた。そんな時、公園で会ったおじいさんのお話に救われる。(60字)</p> <p>・光岡聡美 私の三歳になる娘。乱暴な行動が多く、母親を困らせてきた。公園で会ったおじいさんのお話に夢中になり、乱暴もしなくなった。(60字)</p> <p>・おじいさん 公園の清掃員。公園で泣いていた私と聡美に声をかけ、孫娘の書いたお話を聞かせた。二人は「魔法使いのおじいさん」と呼ぶ。(58字)</p> <p>・木ノ内たまき 18歳で国際児童文学賞を取るも病気になり30歳まで書けずにいたが、今は毎日、物語を病院からおじいさんにFAXしている。(59字)</p>	<p>・解答形式の字数は、81字以上となっているが、4名の人物についてそれぞれ60字で書くという設問である。</p>
<p>問 7</p>	<p>社会、行政の姿が、この作品にはない。子育ては母親に背負わされ、その過重な負担が母子を圧迫している。またそれを救うのが個人であることも、この時代の「子育ては個人の責任」という常識を表わしている。(96字)</p> <p>”</p>	<p>現代を生きている受験者個人の知識や経験によって、この物語からどのような社会の姿を読み取れるかを問うている。本文にある閉鎖的な母子関係や、狭いママ友の関係の難しさの背景にある問題を、社会的な構造や歴史的な流れを大きく見て位置づけることのできた解答に高い得点を与える。</p> <p>あるいは、現代からは予想もつかない未来を仮定して（例えば「外で子どもが遊ぶことは考えられない」、「知らない人が声をかけることなどありえない」のようなもの）解答するものもいるだろう。SF的な創作、あるいはおふざけに走る解答も考えられる。受験者の層によって、その基準は可変的なものであってよいだろう。</p>
<p>問 8</p>	<p>聡美は、普段の私の表情や発言、行動から、母親が何かに不満を感じていることを察しているが、何をどうすればよいのか分からず、周囲の物や友達に八つ当たりをしてしまっているから。(85字)</p>	<p>未検討</p>
<p>問 9</p>	<p>太字は実際の本文の内容。()は字数。</p> <p>空欄 X いっぱいかいてください (㉒), これからもかいてください (㉓), たくさんかいてください (㉔), まだまだかいてください (㉕), これからもよみたいですよ (㉖)</p> <p>空欄 Y たのしみにしています (㉗), よむのがたのしいですよ (㉘)</p> <p>空欄 Z ずっとおわりません (㉙), これからもおわりません (㉚), ずっとつづきます (㉛)</p>	<p>・解答形式の字数は枝間の合計字数である。</p> <p>・この手紙により、おじいさんの孫娘が物語を書き続けていることをふまえた上で、それぞれ、次の内容が書かれていること。</p> <p>空欄 X ・作者（おじいさんの孫娘）にお話の続きを書いてほしいと願う内容が書かれている。</p> <p>空欄 Y ・お話の感想が書かれている。</p> <p>空欄 Z</p>

		<p>・お話が終わらないでほしいという願いが書かれている。</p>
--	--	-----------------------------------

6. 設問内容の検討過程

問 1 (1) : 「人物の心情・情景の描写を読み取ることができる」資質・能力を問う設問であることを明確にするため、「存在効果」を問う内容から、「(登場人物の)「私」にとってどのような存在として描かれているといえるか」という内容の設問にした。

問 1 (2) : 従来型の選択式問題に工夫を加えることで新傾向の問題にできないか検討した。(1) で選択した答えをもとに、選択しないの答えの理由を問う設問を設定した。採点基準の設定にも工夫が必要ではあるが、現場の授業において、小説の読解のために行っている活動に通じる設問であると考え、作問を行った。

問 2 (1) : 会話文から、相手の考えの根拠を推測したり、相手を意識して自分の意見を伝える活動につながるということ、会話文から、話し合いの課題を見つけ出し、その解決策を問うことで、「話す・聞く」領域に関わる設問にするということを検討。

問 2 (2) : 本文をふまえた会話文とは言え、「話し合いをコントロールしている人物を問う」たり、「話し合いの問題点」を問うことの是非について検討した。また、本文をふまえた会話文の読み取りに関する問は、設問内容 18. 「本文を踏まえて、自分の考えを問う」に該当するかということを検討した。

問 3 : 採点基準設定の難しさが指摘されたが、従来の小論文に準じた採点基準で対応することを検討した。また、これに代わる設問も検討した。例えば、①解答文の一部を提示(文頭、文末を提示、あるいは文章の一部分のみ穴あき)する、②選択肢問題とし、適当/不適当を選び、記号で記す、③「私」「聡美ちゃん」「おじいさん」「木ノ内たまき」と物語の関係に着目して、物語の役割を述べる、などが考えられる。そのような問題の形にすることで、解答の幅は限定され、採点はしやすくなるだろうが、同時に「自分の考え」や「学びに向かう力」を測る力も弱くなる。

問 4 : もともと X【 】を設定せずに、その箇所を解答者に指摘させた上で、さらに説明を求めているが、素材文のなかに該当する箇所が複数あるとの指摘を受け、現在の形となった。本文以外の情報の不十分さを補うために、文庫本の解説の文章を加えることを検討し、複数の情報を読み取る問題としての新傾向的要素も取り入れた。

問 5 : 解答項目が多く、採点の煩雑さが指摘された。ここでは条件は与えていないが、「客観的な」とか『『私』から見た』などの条件をつけることで、解答・採点の揺れは少なくなる方策についても検討をした。また、映画や TV ドラマの解説のように登場人物を図示させ上で関係を説明させることもできるという意見もあった。

問 6 : この問題の応用として、問 4 と関連づけ「人物関係図(マップ)」を書かせたうえで、1 人の人物を選び、人物像を書けという問題も検討したが、「関係」を捉える視点をどこに設定するかで解答に大きな揺れが出ると考えられたため作問にはいたらなかった。

問 7 小説を文学としてではなく、資料的に読み解かせる問題は「国語」の問題として適当か、ということを検討したものの、ここでは新傾向的な問題をあえて作問した。

問 8 : これまで「複数の文章(設問に共通する内容の異なる文章)」を組み合わせた設問は作成してきたが、点検の過程で本文の解説部分を用いるのはどうかという提案がなされた。本文の解説部分は「要旨」に該当する部分であり、生徒が本文全体の内容を理解しているかどうかの確認も可能となる。かつ、管見の限り、過去に解説部分を用いた設問は見受けられなかったことから、新たに作問を試みた。

問 9 : 全体が収斂する最後の手紙の文面を推測させることにより、素材文の理解度を的確に把握するという意図の上での設問ではあったが、読解ではなく表現力を測るという側面が強くなった。設問に補足説明を入れたり、解答の文字数を限定することで制約を持たせた。しかし、空欄 Y と Z については様々な受験生の解答が出ることが想像される。また、作品に手をつけることになり、若干の抵抗があるという意見もあった。この場面の問として、手紙の文面をすべて残したまま、「この手紙に含まれる『私』の思い」を簡単に説明せよ、というものも検討した。その際、解答は、本問のリード文

(孫娘の思い, おじいさんの思い, 「私」の思い, 聡美の思いに言及したもの)を膨らませたものになるが, 小説において空欄部分を考えさせるという現況の問題の方が新鮮さがあるということで, 今の間を残した。

3.4.7 小説に関する新傾向問題

(1) 素材文のジャンルと出典

(2) 素材文の内容と特徴

素材文Aは、養老孟司の『遺言。』から。筆者の文章は入試にもよく使われている。素材文Bは、福沢諭吉『学問のすゝめ』から。よく知られている部分の後まで掲載し、言葉の真意の理解を求めている。素材文Cは、若手の文化人類学研究者、針塚瑞樹の論文「インドにおける子供の労働における一考察」から。専門も時代、年代も異なる三者の文章だが、いずれも教育について言及しているものである。

(3) 作成した問題 (完成版)

以下の問題は、モニター調査で使用したサンプル問題 (評論) の完成版である。大問1題につき、40分で解答可能な問題を作成している。なお、小問単位の解答時間 (想定) は、下記の表に示す。

問1 最近、以下の使用例のように、若者を中心に、よく「話を盛る」という言葉が使われている。

この「話を盛る」姿勢と、傍線の箇所 (ア) の「一字一句をも加減せず感じたままを書きたり」という柳田の執筆に対する姿勢との違いを80字以内で説明せよ。その際、両者の関心の方向性の違いが分かるように記述すること。

【「話を盛る」の使用例】

- A 昨日大通りでカラスの集団に襲われて、恐怖を感じたよ。空が真っ黒になるくらい集団で襲いかかってくるんだ。
- B えーっ、本当なの。大変だったねえ。私も、気をつけなくっちゃ。でも、どうすればいいんだろう。
- C A君、なに話を盛ってるんだい。一羽が近くを飛んだだけじゃないか。僕も一緒にいたことを忘れちゃだめだよ。
- B なんだ、本当に心配しちゃった。
- C A君、Bさんみたいに何でも信じる人には、話を盛るのもほどほどにしないとだめだよ。

問2 傍線の箇所(イ)に「歩き、感じ、書き、伝えるということを積極的に続けておられる印象」とあるが、寺尾氏は、どのようなところから、そのような印象を受けたと考えられるか。以下の選択肢から、最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ① 「聞く」と「感じる」は密接に結びついている行為だと考えている寺尾氏は、「聞きたるままを書きたり」という姿勢で書かれた柳田国男の『遠野物語』の表現方法を赤坂氏が評価していることを知り、フィールドワークを積極的にこなしていると想像したから。
- ② 寺尾氏は、新聞や週刊誌における「わかりやすさ」に距離感を感じていたが、民俗学をかぎりなく文学に近い知の作法であり、表現のジャンルだと考えている赤坂氏の考えに、「わかりやすさ」の追求のために各地を奔走している姿を想像したから。
- ③ 権威主義的な「事実」による呪縛から、いかに逃れるかに注意を払ってきた寺尾氏にとって、第一発見者として事実にもとづくゆるぎないメッセージを発信し続けてきた赤坂氏の姿勢は称賛に値し、地道でありながらも活動的な姿を感じ取ったから。
- ④ ルポルタージュを書いている寺尾氏は、ルポと民俗学は案外近いところにあると感じており、ひと月前から、自身の著作を二冊も読みながらアルバムを聴いてくれた赤坂氏の姿勢に共感し、他人への気配りもできる行動的な姿を感じ取ったから。
- ⑤ 寺尾氏は、民俗学は権威主義的な「事実」から最も距離をとることのできる、地道で誠実な学問ではないかと考えており、民俗学をフィールドワークに根ざした知の方法と捉えている赤坂氏に対して、現場に入り、人の話に耳を傾けている姿勢を見出したから。

問3 赤坂氏と寺尾氏に共通する「聞き書き」に関する考え方を50字以内で説明せよ。
(解答時間〔想定〕：○分)

問4 「往復書簡」を読んで、赤坂氏と寺尾氏の話題をさらに深く発展させたレポートを書くことになった。(1)～(3)の問いに答えよ。(解答時間〔想定〕：○分)

- (1) 2人の話題の中から詳しく調べてみたいこと(テーマ)を30字以内でまとめよ。
- (2) (1)のテーマをより深く知るために読んでおきたい書籍名を、本文中の波線部から1冊挙げよ。
- (3) そのことを調べると、どのようなことが分かるか(見通し)を予想して、120字以内でまとめよ。

(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)

複数の文章を提示し、分析・考察、さらにそれに対する自分の論の展開を求める問が中心になっている。問題の作成にあたっては、「12. 本文全体を読み、筆者の主張(考え)を問う(要約を含む)」、「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」、「20. 複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる」「1. 新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる」、「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」等を特に意識している。

【問1の出題意図】(100字程度)

本文にある考えを日常の中に落とし込み、一見似ているものとの比較を通して、その差異についての理解を深めることができるかどうかを問う。

(5) 正答例と採点のポイント (完成版)

	正答例	採点のポイント
問1	「話を盛る」は自らに聞き手の注目を集めるために事実を誇張して語ることだが、柳田の姿勢は自分の感性に忠実に書くために感じたことも含めて表現するものである。 (76字)	・「話を盛る」姿勢と柳田の姿勢を対比して述べる必要がある。 ・「話を盛る」姿勢に関して触れる際に、これを「若者」の姿勢と書

	<p>【別解1】 話を盛るは、他人に自分の話について興味関心を持ってもらうために出来事や物事を誇張して話すことだが、柳田の姿勢は事実や自分が感じたことを正確に表現するという違い。(80字)</p> <p>【別解2】 「話を盛る」姿勢とは、聞き手の関心を自分に集めるために事実を誇張することだが、柳田の姿勢は、聞きたいことを聞き、感じたいことを感じるということを忠実にやること。(80字)</p>	<p>いても良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話を盛る」の語意（「事実を誇張して」「大げさに」など）を説明している。 ・「話を盛る」の状況または目的（「聞き手に対して」「場の中で」「注目を集める」など）を指摘している。 ・柳田の姿勢に関して「感じたことも含めて書く」点について触れている。 ・柳田自身の内心の欲求に忠実な点について触れている。
問2	⑤	寺尾氏が印象を受けた点について把握できている。
問3	<p>権威主義的な事実から距離を取り、聞きたいことを聞き、感じたままを書くという考え方。(41字)</p> <p>【別解1】 権威主義的な「事実」からは距離を取り、地道に感じたことを書いて見つめていきたいという考え方。(46字)</p> <p>【別解2】 権威主義的な事実や分かりやすさの陥穽から距離を取り、感じたままを書くことを大切にしたいという考え方。(50字)</p>	<p>「聞き書き」について共通する考え方の把握ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権威主義的な事実の表現方法を避けることについて触れている。 ・感じたことも含めて書くことについて触れている。 ・解答が指定字数を超えていない。
問4 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗学における「聞き書き」の実際 ・民俗学と文学の類似点と相違点 ・聞き書きにおいて聞き手はどのような存在なのか ・柳田国男が考える民俗学のあるべき姿について ・「感じたるままを書く」とはどういうことか など 	本文の記述、及び本文にある書籍の情報から、発展させたものをテーマにしている。
問4 (2)	<p>以下の書籍のいずれかであること。</p> <p>A 『忘れられた日本人』 宮本常一 B 『あのころのパラオをさがして』 寺尾紗穂 C 『遠野物語』 柳田国男 D 『苦海浄土』 石牟礼道子 E 『原発労働者』 寺尾紗穂 F 『日本残酷物語』 宮本常一他 G 『闇に消される原発被曝者』 樋口健二</p>	問4(1)と関連がある書籍を選んでいる。
問4 (3)	<p>(12点満点解答の場合)</p> <p>『遠野物語』を通して、柳田国男の人物像を探り、本書が執筆された時代背景も踏まえて、当時主流であった民俗学のあるべき姿を検証する。そのことで、柳田が考える民俗学とは何かを知ることができる。と考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何について考えるのか(～について)が書かれている。 ・具体的な考察の方法、手立て、課題発見のためのものの見方、考え方(～することで)が書かれている。 ・予想される結論(～ことがわかる)が書かれている。

(6) 設問内容の検討過程(概略)

本問は、モニター試験の題材候補として作問した。三つの文章を提示することで、それらの比較・分析等を考えさせることを意識した作問が多い。

以下に小問ごとの検討過程を簡単に述べる。

問1では、文中の「朝三暮四」「うがち過ぎ」の言葉の意味と筆者の考えの理解とともに、それに対する自身の反論を求めるといった形であったが、解答者の立ち位置をこちらから指定する（「反論」を求めるといった点）が、問題の形を複雑にしているのではないかという議論があり、筆者の考えをまとめるという形になった。

問2は、Aの一節についての生徒の会話を想定した問題である。本文の理解、さらに生徒の会話の流れの理解を求めており、当初は記述の問題であったが難易度の高さから多肢選択式の問とした。選択肢については、正解と準正解の選択肢を設定し、採点に傾斜をつけることを考えている。

問3は、複数の文章の読解を求めるもので、Aの立場からBを読んだ時に想定される意見の理由を記述させる問だった。想定される意見は選択肢として提示してあり、そこにも正答と準正答を準備した。しかしこれも問の複雑さが問題となり、二つの主張を準備し、その共通点と相違点を指摘する形になった。

問4は、Cの文章を題材とした問。当初は、ABそれぞれの視点におけるCに対する意見を考えよというもの、ABそれぞれの読解、さらにそこからCへの意見を類推する力を問う。モニター試験の候補問題として時間的制約、難易度の調整から、Cに対する意見を選び、その理由を類推する形に変わった。その問う形は変わらないが、ABの文章との関係がなくなってしまった。

問5は、AB全体を踏まえ、自分の意見を論述せよという小論文の形の問題である。今回は、モニター試験としての作成であったため、不採用となったが、ここでは問5として掲載した。

3.4.8 小説に関する新傾向問題

(1) 素材文のジャンルと出典

中垣俊之 粘菌 その驚くべき知性

(2) 素材文の内容と特徴

素材文は、中垣俊之の『粘菌 その驚くべき知性』から。これまでの大学入試では理系の文章、特にこの本のように実験と、その結果を重ねていくものはあまり使われていない。しかし言語の重要性は、文系・理系にかかわらず重要である。文学的な文章や、社会科学に関するものだけでなく、今後はこのような理系の文章にも注目すべきだと考え、素材とした。問に関しては、図表の読み取りが中心となるよう意識した。

(3) 作成した問題（完成版）

以下の問題は、モニター調査で使用したサンプル問題（評論）の完成版である。大問1題につき、40分で解答可能な問題を作成している。なお、小問単位の解答時間（想定）は、下記の表に示す。

問1 最近、以下の使用例のように、若者を中心に、よく「話を盛る」という言葉が使われている。

この「話を盛る」姿勢と、傍線の箇所（ア）の「一字一句をも加減せず感じたままを書きたり」という柳田の執筆に対する姿勢との違いを80字以内で説明せよ。その際、両者の関心の方向性の違いが分かるように記述すること。

【「話を盛る」の使用例】

A 昨日大通りでカラスの集団に襲われて、恐怖を感じたよ。空が真っ黒になるくらい集団で襲いかかってくるんだ。

B えーっ、本当なの。大変だったねえ。私も、気をつけなくっちゃ。でも、どうすればいいんだろう。

C A君、なに話を盛ってるんだい。一羽が近くを飛んだだけじゃないか。僕も一緒にいたことを忘れちゃだめだよ。

B なんだ、本当に心配しちゃった。

C A君、Bさんみたいに何でも信じる人には、話を盛るのもほどほどにしないとだめだよ。

問2 傍線の箇所(イ)に「歩き、感じ、書き、伝えるということを積極的に続けておられる印象」とあるが、寺尾氏は、どのようなところから、そのような印象を受けたと考えられるか。以下の選択肢から、最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ① 「聞く」と「感じる」は密接に結びついている行為だと考えている寺尾氏は、「聞きたるままを書きたり」という姿勢で書かれた柳田国男の『遠野物語』の表現方法を赤坂氏が評価していることを知り、フィールドワークを積極的にこなしていると想像したから。
- ② 寺尾氏は、新聞や週刊誌における「わかりやすさ」に距離感を感じていたが、民俗学をかぎりなく文学に近い知の作法であり、表現のジャンルだと考えている赤坂氏の考えに、「わかりやすさ」の追求のために各地を奔走している姿を想像したから。
- ③ 権威主義的な「事実」による呪縛から、いかに逃れるかに注意を払ってきた寺尾氏にとって、第一発見者として事実にもとづくゆるぎないメッセージを発信し続けてきた赤坂氏の姿勢は称賛に値し、地道でありながらも活動的な姿を感じ取ったから。
- ④ ルポルタージュを書いている寺尾氏は、ルポと民俗学は案外近いところにあると感じており、ひと月前から、自身の著作を二冊も読みながらアルバムを聴いてくれた赤坂氏の姿勢に共感し、他人への気配りもできる行動的な姿を感じ取ったから。
- ⑤ 寺尾氏は、民俗学は権威主義的な「事実」から最も距離をとることのできる、地道で誠実な学問ではないかと考えており、民俗学をフィールドワークに根ざした知の方法と捉えている赤坂氏に対して、現場に入り、人の話に耳を傾けている姿勢を見出したから。

問3 赤坂氏と寺尾氏に共通する「聞き書き」に関する考え方を50字以内で説明せよ。
(解答時間〔想定〕：○分)

問4 「往復書簡」を読んで、赤坂氏と寺尾氏の話題をさらに深く発展させたレポートを書くことになった。(1)～(3)の問いに答えよ。(解答時間〔想定〕：○分)

- (1) 2人の話題の中から詳しく調べてみたいこと(テーマ)を30字以内でまとめよ。
- (2) (1)のテーマをより深く知るために読んでおきたい書籍名を、本文中の波線部から1冊挙げよ。
- (3) そのことを調べると、どのようなことが分かるか(見通し)を予想して、120字以内でまとめよ。

(4). 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)

ここでは図の効果的な取り扱いを意識した。特に問四では、何を表した図かということとその目的を書かせている。素材文は非常に明晰で客観的な文章であり、読解はそれほど苦勞しない。特に問題素材として使用した部分は、実験や論理の説明を行っている部分であり、従来の「国語」では、あまり取り扱うことはなかった。そのような例証の部分から、研究者の真意の推測を求める設問を考えた。

分析フォーマットの項目にはないが、「研究者の行動(実験)の理由を考える」「実験からその理由や目的を考える」「行動(実験)のつながりを考える」など、この分野の文章から作成可能な「国語」の問はたくさんあると考える。

【問1の出題意図】(100字程度)

本文にある考えを日常の中に落とし込み、一見似ているものとの比較を通して、その差異についての理解を深めることができるかどうかを問う。

(5) 正答例と採点のポイント (完成版)

	正答例	採点のポイント
問 1	<p>「話を盛る」は自らに聞き手の注目を集めるために事実を誇張して語ることだが、柳田の姿勢は自分の感性に忠実に書くために感じたことも含めて表現するものである。(76字)</p> <p>【別解 1】 話を盛るは、他人に自分の話について興味関心を持ってもらうために出来事や物事を誇張して話すことだが、柳田の姿勢は事実や自分が感じたことを正確に表現するという違い。(80字)</p> <p>【別解 2】 「話を盛る」姿勢とは、聞き手の関心を自分に集めるために事実を誇張することだが、柳田の姿勢は、聞きたいことを聞き、聞きたいことを感じるということを忠実にやること。(80字)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「話を盛る」姿勢と柳田の姿勢を対比して述べる必要がある。 ・「話を盛る」姿勢に関して触れる際に、これを「若者」の姿勢と書いても良い。 ・「話を盛る」の語意（「事実を誇張して」「大げさに」など）を説明している。 ・「話を盛る」の状況または目的（「聞き手に対して」「場の中で」「注目を集める」など）を指摘している。 ・柳田の姿勢に関して「感じたことも含めて書く」点について触れている。 ・柳田自身の内心の欲求に忠実な点について触れている。
問 2	⑤	寺尾氏が印象を受けた点について把握できている。
問 3	<p>権威主義的な事実から距離を取り、聞きたいことを聞き、感じたままを書くという考え方。(41字)</p> <p>【別解 1】 権威主義的な「事実」からは距離を取り、地道に感じたことを書いて見つけていきたいという考え方。(46字)</p> <p>【別解 2】 権威主義的な事実や分かりやすさの陥穽から距離を取り、感じたままに書くことを大切にしたいという考え方。(50字)</p>	<p>「聞き書き」について共通する考え方の把握ができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権威主義的な事実の表現方法を避けることについて触れている。 ・感じたことも含めて書くことについて触れている。 ・解答が指定字数を超えていない。
問 4 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗学における「聞き書き」の実際 ・民俗学と文学の類似点と相違点 ・聞き書きにおいて聞き手はどのような存在なのか ・柳田国男が考える民俗学のあるべき姿について ・「感じたるままを書く」とはどういうことか など 	本文の記述、及び本文にある書籍の情報から、発展させたものをテーマにしている。
問 4 (2)	<p>以下の書籍のいずれかであること。</p> <p>A 『忘れられた日本人』 宮本常一 B 『あのころのパラオをさがして』 寺尾紗穂 C 『遠野物語』 柳田国男 D 『苦海浄土』 石牟礼道子 E 『原発労働者』 寺尾紗穂 F 『日本残酷物語』 宮本常一他 G 『闇に消される原発被曝者』 樋口健二</p>	問 4 (1) と関連がある書籍を選んでいる。
問 4 (3)	<p>(12点満点解答の場合)</p> <p><u>『遠野物語』を通して、柳田国男の人物像を探り、本書が執筆された時代背景も踏まえて、当時主流であった民俗学のあるべき姿を検証する。そのことで、柳田が考える民俗学とは何かを知ることができると考える。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何について考えるのか（～について）が書かれている。 ・具体的な考察の方法、手立て、課題発見のためのものの見方、考え方（～することで）が書かれている。 ・予想される結論（～ことがわかる）が書かれている。

【問1の出題意図】(100字程度)
 本文にある考えを日常の中に落とし込み、一見似ているものとの比較を通して、その差異についての理解を深めることができるかどうかを問う。

(5) 正答例と採点のポイント (完成版)

	正答例	採点のポイント
問1	<p>「話を盛る」は自らに聞き手の注目を集めるために事実を誇張して語ることだが、柳田の姿勢は自分の感性に忠実に書くために感じたことも含めて表現するものである。(76字)</p> <p>【別解1】 話を盛るは、他人に自分の話について興味関心を持ってもらうために出来事や物事を誇張して話すことだが、柳田の姿勢は事実や自分が感じたことを正確に表現するという違い。(80字)</p> <p>【別解2】 「話を盛る」姿勢とは、聞き手の関心を自分に集めるために事実を誇張することだが、柳田の姿勢は、聞きたいことを聞き、感じたいことを感じるということを忠実にやること。(80字)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「話を盛る」姿勢と柳田の姿勢を対比して述べる必要がある。 ・「話を盛る」姿勢に関して触れる際に、これを「若者」の姿勢と書いても良い。 ・「話を盛る」の語意（「事実を誇張して」「大げさに」など）を説明している。 ・「話を盛る」の状況または目的（「聞き手に対して」「場の中で」「注目を集める」など）を指摘している。 ・柳田の姿勢に関して「感じたことも含めて書く」点について触れている。 ・柳田自身の内心の欲求に忠実な点について触れている。
問2	⑤	寺尾氏が印象を受けた点について把握できている。
問3	<p>権威主義的な事実から距離を取り、聞きたいことを聞き、感じたままを書くという考え方。(41字)</p> <p>【別解1】 権威主義的な「事実」からは距離を取り、地道に感じたことを書いて見つけていきたいという考え方。(46字)</p> <p>【別解2】 権威主義的な事実や分かりやすさの陥穽から距離を取り、感じたままに書くことを大切にしたいという考え方。(50字)</p>	<p>「聞き書き」について共通する考え方の把握ができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権威主義的な事実の表現方法を避けることについて触れている。 ・感じたことも含めて書くことについて触れている。 ・解答が指定字数を超えていない。
問4 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗学における「聞き書き」の実際 ・民俗学と文学の類似点と相違点 ・聞き書きにおいて聞き手はどのような存在なのか ・柳田国男が考える民俗学のあるべき姿について ・「感じたるままを書く」とはどういうことか など 	本文の記述、及び本文にある書籍の情報から、発展させたものをテーマにしている。
問4 (2)	<p>以下の書籍のいずれかであること。</p> <p>A 『忘れられた日本人』 宮本常一 B 『あのころのパラオをさがして』 寺尾紗穂 C 『遠野物語』 柳田国男 D 『苦海浄土』 石牟礼道子 E 『原発労働者』 寺尾紗穂 F 『日本残酷物語』 宮本常一他 G 『闇に消される原発被曝者』 樋口健二</p>	問4(1)と関連がある書籍を選んでいる。
問4 (3)	<p>(12点満点解答の場合)</p> <p>『遠野物語』を通して、柳田国男の人物像を探り、本書が執筆された時代背景も踏まえて、当時主流であった民俗学のあ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何について考えるのか(～について)が書かれている。 ・具体的な考察の方法、手立て、

	<p>るべき姿を検証する。そのことで、柳田が考える民俗学とは何かを知ることができると思う。</p>	<p>課題発見のためのものの見方、考え方（～することで）が書かれている。 ・予想される結論（～ことがわかる）が書かれている。</p>
--	---	--

(6) 設問内容の検討過程(概略)

本問は新奇性を求めるものとして作られたため、多くの改訂は行われなかった。ここでは作問の過程で出されたさまざまな話題や疑問点をあげる。

問題素材文の選定、特にその切り取り方に強い抵抗があった。従来の国語の問題で使用される文章には、何らかの文学性、思想性の感じられるものが多く、そのようなものを教えるのが「国語」だというイメージが強い。今回の素材文とその切り取り方は、できるだけ従来の切り取り方とは距離を取り、実験を言葉でまとめた部分（言葉を客観的に取り扱っている部分）を中心に行った。

また、ここでは研究者の実験の理由や目的を問いとしたが、果たしてそのような問が許されるか。あるいは解答例が作れるのか。先行する類似の問が少ないため、そのような疑問も多く出された。

3.4.9 小説に関する新傾向問題

(1) 素材文のジャンルと出典

芳沢光雄 リベラルアーツの学び

(2) 素材文の内容と特徴

素材文は、芳沢光雄の『リベラルアーツの学び』から。いろいろな学力層に対応する新傾向の問題の作成、理系の素材文からの作問などを考えて選んだ。文章は平易で、多くの図表が使われている。

(3) 作成した問題（完成版）

以下の問題は、モニター調査で使用したサンプル問題（評論）の完成版である。大問1題につき、40分で解答可能な問題を作成している。なお、小問単位の解答時間（想定）は、下記の表に示す。

問1 最近、以下の使用例のように、若者を中心に、よく「話を盛る」という言葉が使われている。

この「話を盛る」姿勢と、傍線の箇所（ア）の「一字一句をも加減せず感じたままを書きたり」という柳田の執筆に対する姿勢との違いを80字以内で説明せよ。その際、両者の関心の方向性の違いが分かるように記述すること。

【「話を盛る」の使用例】

A 昨日大通りでカラスの集団に襲われて、恐怖を感じたよ。空が真っ黒になるくらい集団で襲いかかってくるんだ。

B えーっ、本当なの。大変だったねえ。私も、気をつけなくっちゃ。でも、どうすればいいんだろう。

C A君、なに話を盛ってるんだい。一羽が近くを飛んだだけじゃないか。僕も一緒にいたことを忘れちゃだめだよ。

B なんだ、本当に心配しちゃった。

C A君、Bさんみたいに何でも信じる人には、話を盛るのもほどほどにしないとだめだよ。

問2 傍線の箇所(イ)に「歩き、感じ、書き、伝えるということを積極的に続けておられる印象」とあるが、寺尾氏は、どのようなところから、そのような印象を受けたと考えられるか。以下の選択肢から、最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ① 「聞く」と「感じる」は密接に結びついている行為だと考えている寺尾氏は、「聞きたるままを書きたり」という姿勢で書かれた柳田国男の『遠野物語』の表現方法を赤坂氏が評価していることを知り、フィールドワークを積極的にこなしていると想像したから。
- ② 寺尾氏は、新聞や週刊誌における「わかりやすさ」に距離感を感じていたが、民俗学をかぎりなく文学に近い知の作法であり、表現のジャンルだと考えている赤坂氏の考えに、「わかりやすさ」の追求のために各地を奔走している姿を想像したから。
- ③ 権威主義的な「事実」による呪縛から、いかに逃れるかに注意を払ってきた寺尾氏にとって、第一発見者として事実にもとづくゆるぎないメッセージを発信し続けてきた赤坂氏の姿勢は称賛に値し、地道でありながらも活動的な姿を感じ取ったから。
- ④ ルポルタージュを書いている寺尾氏は、ルポと民俗学は案外近いところにあると感じており、ひと月も前から、自身の著作を二冊も読みながらアルバムを聴いてくれた赤坂氏の姿勢に共感し、他人への気配りもできる行動的な姿を感じ取ったから。
- ⑤ 寺尾氏は、民俗学は権威主義的な「事実」から最も距離をとることのできる、地道で誠実な学問ではないかと考えており、民俗学をフィールドワークに根ざした知の方法と捉えている赤坂氏に対して、現場に入り、人の話に耳を傾けている姿勢を見出したから。

問3 赤坂氏と寺尾氏に共通する「聞き書き」に関する考え方を50字以内で説明せよ。
(解答時間 [想定]: 〇分)

問4 「往復書簡」を読んで、赤坂氏と寺尾氏の話題をさらに深く発展させたレポートを書くことになった。(1)～(3)の問いに答えよ。(解答時間 [想定]: 〇分)

- (1) 2人の話題の中から詳しく調べてみたいこと(テーマ)を30字以内でまとめよ。
- (2) (1)のテーマをより深く知るために読んでおきたい書籍名を、本文中の波線部から1冊挙げよ。
- (3) そのことを調べると、どのようなことが分かるか(見通し)を予想して、120字以内でまとめよ。

(4) 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係 (完成版)

ここでは図表の効果的な取り扱いを意識した。問題作成に当たっては、「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」を中心として意識したが、本文では「図表の使用方法、その意図」などが中心に書かれているため、「図表の読み取り」よりも、図表の利用方法、図表の特性を生かした使い方などが中心となった。さらに本文や図表をきっかけとして、「j. 自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる」、「1. 新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる」などを使って、本文で説明されている点についての応用的な問題の作成を意識した。

【問1の出題意図】(100字程度)
 本文にある考えを日常の中に落とし込み、一見似ているものとの比較を通して、その差異についての理解を深めることができるかどうかを問う。

(5). 正答例と採点のポイント (完成版)

	正答例	採点のポイント
問1	<p>「話を盛る」は自らに聞き手の注目を集めるために事実を誇張して語ることだが、柳田の姿勢は自分の感性に忠実に書くために感じたことも含めて表現するものである。(76字)</p> <p>【別解1】 話を盛るは、他人に自分の話について興味関心を持ってもらうために出来事や物事を誇張して話すことだが、柳田の姿勢は事実や自分が感じたことを正確に表現するという違い。(80字)</p> <p>【別解2】 「話を盛る」姿勢とは、聞き手の関心を自分に集めるために事実を誇張することだが、柳田の姿勢は、聞きたいことを聞き、聞きたいことを感じるということを忠実にやること。(80字)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「話を盛る」姿勢と柳田の姿勢を対比して述べる必要がある。 ・「話を盛る」姿勢に関して触れる際に、これを「若者」の姿勢と書いても良い。 ・「話を盛る」の語意（「事実を誇張して」「大げさに」など）を説明している。 ・「話を盛る」の状況または目的（「聞き手に対して」「場の中で」「注目を集める」など）を指摘している。 ・柳田の姿勢に関して「感じたことも含めて書く」点について触れている。 ・柳田自身の内心の欲求に忠実な点について触れている。
問2	⑤	寺尾氏が印象を受けた点について把握できている。
問3	<p>権威主義的な事実から距離を取り、聞きたいことを聞き、感じたままを書くという考え方。(41字)</p> <p>【別解1】 権威主義的な「事実」からは距離を取り、地道に感じたことを書いて見つけていきたいという考え方。(46字)</p> <p>【別解2】 権威主義的な事実や分かりやすさの陥穽から距離を取り、感じたままに書くことを大切にしたいという考え方。(50字)</p>	<p>「聞き書き」について共通する考え方の把握ができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権威主義的な事実の表現方法を避けることについて触れている。 ・感じたことも含めて書くことについて触れている。 ・解答が指定字数を超えていない。
問4 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗学における「聞き書き」の実際 ・民俗学と文学の類似点と相違点 ・聞き書きにおいて聞き手はどのような存在なのか ・柳田国男が考える民俗学のあるべき姿について ・「感じたままを書く」とはどういうことか など 	本文の記述、及び本文にある書籍の情報から、発展させたものをテーマにしている。
問4 (2)	<p>以下の書籍のいずれかであること。</p> <p>A 『忘れられた日本人』 宮本常一 B 『あのころのバラオをさがして』 寺尾紗穂 C 『遠野物語』 柳田国男</p>	問4 (1) と関連がある書籍を選んでいる。

	D 『苦海浄土』 石牟礼道子 E 『原発労働者』 寺尾紗穂 F 『日本残酷物語』 宮本常一他 G 『闇に消される原発被曝者』 樋口健二	
問4 (3)	(12点満点解答の場合) 『遠野物語』を通して、柳田国男の人物像を探り、本書が執筆された時代背景も踏まえて、当時主流であった民俗学のありべき姿を検証する。そのことで、柳田が考える民俗学とは何かを知ることができると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・何について考えるのか(～について)が書かれている。 ・具体的な考察の方法、手立て、課題発見のためのものの見方、考え方(～することで)が書かれている。 ・予想される結論(～ことがわかる)が書かれている。

(6) 設問内容の検討過程(概略)

本問は新奇性を求めるものとして作られ、多くの改訂は行わなかった。ここでは作問の過程で出されたさまざまな話題や疑問点をあげる。

問1は、樹形図の活用を求めている。素材文で説明されているところを踏まえて、自分の知識経験をもとに作成する問だが、どこまで答えればいいのかその限度がわからないという意見が出た。問2は、本文で使われている例を具体的に説明することを求めている。この問は、従来問題との差異がないという意見が出された。問3は、「自分の知識経験」の方向に傾きすぎて、本文との関係がなさ過ぎる、本文を読まなくとも解ける問になっているように思われた。問4は、素材文本文から図表を巡って本文に戻ってきてしまう点が指摘された。問5は、本文の理解、自分の知識経験が問える問になっているが、本文の「セクメンテーション」に関する記述部がわかりやすく短いため、本文との関係が弱くなっている。

以上のように本問全体では、問題素材文と設問解答の関係性が問われることが多かった。本文から離れすぎると、本文を読まなくても(読めなくても)解ける問になり、近づきすぎると従来の問との差異が現れないという点である。このようにある種の新傾向の問題では、素材文と問の距離が問題になると思われる。

また、ここでは研究者の実験の理由や目的を問いとしたが、果たしてそのような問が許されるか。あるいは解答例が作れるのか。先行する類似の問が少ないため、そのような疑問も多く出された。

3.5 検証用新傾向問題の点検

3.5.1 点検の観点

委託事業最終年度(平成 30 年度)では、A チームは、北グループ(北大教員、北海道高校教員他)が問題作成を行い、南グループ(鈴木、児玉)は問題点検を担当した。

始めに、点検に至るまでの経緯を説明する。

振り返れば、A チームは、初年度(平成 28 年度)及び第 2 年度(平成 29 年度)において、北グループと南グループ(鈴木、林、安永、児玉)とに分かれていた。それぞれが別々に従来型問題の分析を行いながら、時に成果を交流しつつ、それぞれ特徴ある独自の分析フォーマットを洗練させてきた。

北グループ作成フォーマット：図 1 参照

南グループ作成フォーマット及び分類表：図 2～図 4 参照

なお、両グループの分析フォーマットの変遷、それに基づいた従来型問題の分析に関しては、各年度の活動報告書に記載している。

最終年度の目標は、上記の分析に基づき新傾向問題を作成して、その検証調査を実施することである。こういった場合、問題作成チームと問題点検チームは、共通のフォーマットに基づいて意見交換を行う方法があるが、今回はそれを取らなかった。つまり、北グループフォーマット(図 1)に基づいて作成された問題を、南グループフォーマット(図 2～図 4)の観点で点検することとなった。

本来ならば、南北 2 種のフォーマットを十分に比較検討したであろう。しかし、それを行うに

は、時間が足りなかった。また、南北 2 種のフォーマットの横軸縦軸に関する考え方が異なっておりしかもそれを特徴としていたことから、2 種を統合修正することが無意味となってしまう。

さらにまた、基準にするフォーマットに関して、そうでないフォーマット側関係者に理解が十分及ぶような機会が設けられる必要もあった。しかし、それを実施する時間すらなかった。

したがって、委託事業最終年度の本年度では、問題作成チーム(北グループ、静岡県高校；駒形、千葉県高校；沼田)と、点検チーム(南グループから鈴木、児玉)とに分かれて連携して、検証用問題を作り上げることとなった。

横軸：問題で測定する資質・能力【目標】

		国語表記	文法活用	言語活用	情報推論	内容探求	文章表現	心情理解	主張推察	価値形成	知識思考	共感説明	思考発露	文化創造	思考深化	心の育成	言語発露	共感尊重	人生育成		
縦軸：問題の設問形態【手段】	知識	語彙常識	知識・技能	思考力・判断力・表現力等					学びに向かう力												
	評語の意味																				
	言語文化																				
	表現の特色																				
	文章構造																				
	指し示す内容																				
	挿入語句																				
	意味の深さ																				
	目的・状況																				
	主観(部分)																				
	物象(部分)																				
	主観(全体)																				
	心情																				
	心情理由																				
	行動																				
行動理由																					
人物象(部分)																					
自分の考え																					
回答分析																					
複数文分析																					

図1 問題作成に活用したフォーマット

しかしながら、当初心配していたことは、杞憂に過ぎなかった。つまり、異なる枠組によって、作成及び点検が行われたことは、よい結果をもたらしたのだ。安易な納得を見過ごすことなく、率直な意見交換が出来たからだ。

甲[連続テキスト、単独]	1. 知識・技能 [漢字、慣用句、文学史など]	2a. テキストの1部分を把握・理解する [指示内容、抜き出しなど]	2b. テキストの複数部分を通貫して説明(解釈)する [言い換え、関係づけなど]	2c. テキストの全体を把握・理解して説明(解釈)する [要約など]	3a. テキストの価値を評価する[内容面]	3b. テキストの価値を評価する[形式面]	4a. 目標達成や問題解決のために、テキストを活用する[内容面]	4b. 目標達成や問題解決のために、テキストを活用する[形式面]
説 ・ 評 論	A1_1 B1_1 D1_1 Fa1_1 Fb1_1 G1_7 G2_7	A1_2, A1_3, A2_1, A2_2 B1_2, B1_3 D1_2 E1_1 E2_1, E2_2, E2_3, E2_4	A1_4, A2_3, A2_4 B1_4, B1_5 C1_1, C1_2, C1_3, C1_4 D1_3, D1_4, D1_5, D1_6 E1_2, E1_3, E1_4 E4_1, E4_2 Fa1_2, Fa1_3 Fb1_3 Fb2_1, Fb2_2, Fb2_3	A1_5, A2_5, C1_5 E1_5, E2_5, E4_3 Fa1_4 Fb1_4 G1_4, G1_5, G1_6				
	H1_1 I1_1 J1_1 K1_1 M1_1	I1_3	H1_2, H1_3, H1_4 I1_2, I1_5, I1_6, I1_7 J1_2, J1_3, J1_4 K1_3, K1_5 M1_2, M1_3	H1_5 J1_5				
テ ク ス ト の 題 材	N15a1_1 N15a2_3 N15b2_1 N15b3_2 N16c1_2 N16c2_1 O1_1, O1_2 P1_1 Q1_1	N15a2_1, N15a2_2 N15a2_4, N15b1_2 N16c1_3	N15a2_5 N15b1_1, N15b2_2, N15b2_3, N15b3_31 N16c2_2, N16c2_3	N15b1_3 N15b3_32		N15a2_6		
		R1_1, R1_2, R1_3	R1_4					
文 学		B2_2, B2_4 C4_1, C4_2 Fa2_1 N15a3_31, N15a3_33 Q4_5 L1_1, L1_2 M2_4 R2_1	B2_1, B2_3, B2_5 C4_3, C4_4 Fa2_3 Q4_1, Q4_3, Q4_4, Q4_6 L1_9 M2_5 R2_2, R2_3	Fa2_4 Q4_7 R2_4		Fa2_2 N15a3_2 N15a3_32 N15a3_4 Q4_2		
実 用								

図2 問題点検に活用した分類表①

乙[甲以外]		1. 知識・技能 [漢字、慣用句、文学史など]	2a. テキストの1部分を把握・理解する [指示内容、抜き出しなど]	2b. テキストの複数部分を通貫して説明(解釈)する [言い換え、関係づけなど]	2c. テキストの全体を把握・理解して説明(解釈)する [要約など]	3a. テキストの価値を評価する[内容面]	3b. テキストの価値を評価する[形式面]	4a. 目標達成や問題解決のために、テキストを活用する[内容面]	4b. 目標達成や問題解決のために、テキストを活用する[形式面]
テキストの題材	「論説・評論(図表写真などを含む)」						N16c3_2 N16c3_3		
	文学「//」			N15a3_1			N15a3_2		
	実用「//」	モ1_1	モ1_2, モ1_3		フ1_1, フ1_2			モ1_4, モ2_1 モ2_2, モ2_3 フ1_3	
	「上記組合せ(現代文と古典との組合せを含む)」								

図3 問題点検に活用した分類表②

丙[テキストから切り離した設問]	1. 知識・技能 [漢字、慣用句、文学史など]
	N15a1_1

図4 問題点検に活用した分類表③

なお、意見交換後、最終的に問題作成に関して責任を持つのは問題作成チームであることが当初から確認されていた。

3.5.2 新傾向問題の点検に関する方向性

点検チームは、下記の方向性をもって、点検に臨んだ。端的にいえば、作成すべき新傾向問題のイメージ及び要件である。

- ① 各大学・学部等における「個別学力検査」の改善に資するものであること。
- ② そのために下記の要件を満たすものであること。
 - a 高大接続システム会議の議論を踏まえること。
 - b 高等学校の新学習指導要領に準拠するものであること。
 - c 新設される「大学入学共通テスト(2021年度実施)」と相補的な関係になること。

さらに、cの試行調査(2017年11月実施)の視点と枠組を意識した。

1) テキスト

(1) 形式

- ア 連続テキスト(文字・音声)：評論文，小説，古文，漢文，実用文，談話
- イ 非連続テキスト(文字・音声以外)：図，表，グラフ，写真

- (2) 分量
 - ア 単独テキスト
 - イ 複数テキスト……………図 3 参照
- 2) 資質・能力(思考力・判断力・表現力)
 - (1) テキストの内容や解釈…………… 2 a, 2 b, 2 c 参照
 - ア テキストの部分についての把握, 精査, 解釈
 - イ テキストの全体についての把握, 精査, 解釈
 - (2) 自分の考え…………… 3 a, 3 b, 4a, 4 b 参照
 - ア テキストの精査, 解釈に基づく自分の考え
 - イ テキストの精査, 解釈を踏まえて発展させた自分の考え
- 3) 解答形式
 - (1) マーク式
 - (2) 記述式

3.5.3 点検の経過

実際には、下表のような経過をたどった。

表 1 検証用新傾向問題に関する協議経過

期 日	内 容	出席者
4/10(火)	検証用新傾向問題(原案)をメールで受信	
	点検程度等に関して、メール、電話で協議	
5/6(日)	北大東京オフィスで協議 「あなたへ 往復書簡」 「遺言」+複数素材	東北大；倉元，宮本 北大；鈴木誠 作成；清島，高松，松山，塩谷 点 検；鈴木慶子，児玉
	メール，電話で協議	
5/27(日)	北大東京オフィスで協議 「あなたへ 往復書簡」 「或日の大石内蔵助」	東北大；倉元，宮本，泉 北大；鈴木誠，岩間 九大；安永 名工大；林 DNC；山地，椎名，荒井 作成；清島 点 検；鈴木慶子
	メール，電話で協議	
7/1(月)	北大で協議 「あなたへ 往復書簡」 「魔法使い涙」	東北大；倉元 作成；清島，高松，松山，塩谷 点 検；鈴木慶子，児玉
	メール，電話で協議	
7月中旬	検証試験の実施	

表2 データベース掲載問題に関する協議経過

期 日	内 容	出席者
8/10(土)	データベース掲載問題(原案)をメールで受信	
8/18(土)	北大東京オフィスで協議 「何かするまえに。ちょっと考えてみること」＋ 複数素材	東北大；倉元，宮本 北大；鈴木誠 作 成；塩谷，駒形，沼田 点 検；鈴木慶子，児玉
	メール，電話で協議	
9/22(土)	北大東京オフィスで協議 「リベラルアーツの学び」 「粘菌」 「羊と鋼の森」	東北大；倉元 北大；鈴木誠 作 成；松山，駒形，沼田 点 検；鈴木慶子，児玉
	メール，電話で協議	
11/11(日)	北大東京オフィスで協議 「戦争と近代技術」＋複数素材 「自然と人間」 「言葉のだらく」	東北大；倉元 作 成；清島，塩谷，駒形，沼 田 点 検；鈴木慶子，児玉
	メール，電話で協議	

3.5.4 点検した問題に関して

ここでは、紙幅の関係で、モニター調査に使った新傾向の問題のみを対象にして、点検時の意見を報告する。

2.2.3.1 検証用問題：評論「あなたへ 往復書簡」……連続テキスト，実用文(手紙)，複数テキスト

問	点検者が読み取った 本問で測定しようとしている資質・能力	作成者が意図する 本問で測定しようとしている資質・能力
問1	テキストの精査，解釈に基づく自分の考え(図3 4a)	a. 正しい国語表記ができる。 b. 言葉の決まりを正しく適用できる。 c. 日本の伝統的な言語文化を活用できる。 d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる。 e. 文章の構成や論理の展開に沿って，正確に内容を解釈することができる。 f. 課題に応じて的確に文章表現ができる。 j. 自分の知識や経験を踏まえて，考えをまとめることができる。 8. 文脈に照らし分野語句の意味内容を問う。 10. 文脈に照らし筆者の出張(考え)を問う。 18. 本文を踏まえて，自分の考えを問う。

問 2	テキストの部分についての把握，精査，解釈 (図 3 2b)	(修正の過程で設問が変容したために，提示されなかった)
問 3	テキストの全体についての把握，精査，解釈 (図 3 2c)	a. (上欄と同様) b. (上欄と同様) d. (上欄と同様) e. (上欄と同様) f. (上欄と同様) 5. 文章の構造や対比している事柄を問う。 12. 本文全体を読み，筆者の出張(考え)を問う。 20. 複数の文章の情報を読み取り，分析・考察させる。
問 4	テキストの精査，解釈を踏まえて発展させた自分の考え(小論文に近似)	a. (上欄と同様) b. (上欄と同様) d. (上欄と同様) e. (上欄と同様) f. (上欄と同様) i. 根拠をもとに仮説を立てることができる。 j. (上欄と同様) k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる。 1. 新しい情報や経験を踏まえて，考えをまとめることができる。 n. 言葉を通じて自分の見方や考え方を広げ深めようとする。 r. 読書を通して自分の人生を豊かにしようとする。 3. 言語文化に関する知識を問う。 10. (上欄と同様) 18. (上欄と同様) 20. (上欄と同様)

問 1 では、「話を盛る」の使用例を提示することによって，自分が使用している言葉の意味に依拠するのではなく，問題文脈における意味を限定確定させることができる。それを基盤として，自分の考えを記述することが求められている。

さらに，問題文脈における意味を限定確定させることができたことで，同時に採点基準が明確になった。

問 2 は，選択式解答となっている。しかしながら，従来型の問題と異なる点は，筆者の異なる別テキストも含めて読み，解答の根拠を探る点にある。

問 3 は，観点を立てて，筆者の異なるテキストを比較させている。従来型のテキスト解釈型の設問としても難度が高い。

問 4 は，テーマ設定やテキスト選択をさせて，レポートをまとめる計画を立てさせる。レポート執筆の動機，資料集め，執筆するレポートの構成等を問うている。小論文により接近した挑戦的な作問である。これは，同時に，採点基準等を含めて，いくつもの解決すべき問題を抱えている。

個別学力検査として行うのであれば，大学学部が求める資質・能力を明確にできる設問でもある。今後は研究を重ねて，この種の設問をストックしておきたい。

3.5.5 検証用問題：小説「或日の大石内蔵助」……連続テキスト，小説，単独テキスト，設問により複数テキスト

問	点検者が読み取った 本問で測定しようとしている資質・能力	作成者が意図する 本問で測定しようとしている資質・能力
問1	テキストの部分についての精査，解釈 (図3 2b)	<ul style="list-style-type: none"> c. 日本の伝統的な言語文化を活用できる。 e. 文章の構成や論理の展開に沿って，正確に内容を解釈することができる。 g. 人物の心情・情景の描写を読み取ることができる。 13. 文脈に照らし登場人物の心情(心情変化)を問う。 20. 複数の文書の情景を読み取り，分析・考察させる。
問2	テキストの精査，解釈に基づく自分の考え (図2 3b)	<ul style="list-style-type: none"> i. 根拠をもとに仮説を立てることができる。 j. 自分の知識や経験を踏まえて，考えをまとめることができる。 k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる。 r. 読書を通して自分の人生を豊かにしようとする。 1. 漢字や熟語の読み書きを問う。 3. 言語文化に関する知識を問う。 4. 表現の特色を問う。 18. 本文を踏まえて，自分の考えを問う。
問3	テキストの部分についての精査，解釈 (図3 2b)	<ul style="list-style-type: none"> i. (上欄と同様) j. (上欄と同様) 4. (上欄と同様) 5. 文章の構造や対比している事柄を問う。 8. 文脈に照らし文や語句内容を問う 18. (上欄と同様)
問4	テキストの精査，解釈に基づく自分の考え (図2 3b)	<ul style="list-style-type: none"> i. (上欄と同様) n. 言葉を通じて自分の見方や考え方を広げ深めようとする。 7. 文脈に照らし挿入すべき語句や文を問う。 8. (上欄と同様) 13. (上欄と同様) 20. (上欄と同様)

問1は，選択式解答となっている。しかしながら，従来型の問題と異なる点は，提示されたテキスト中にはない短歌を手掛かりにして，解答の根拠を探る点にある。

問2では、「影法師」を登場人物の心情の象徴として読ませ、それを問うている。これは従来型の設問にも、よく使われる手法である。一方、本問では、テキストの表現効果を評価させるという点から問うていて、これは従来型では稀少な問い方である。

問3は、「風馬牛」の意味を文脈から解釈させる設問である。「風馬牛」を含む別のテキストを提示することによって、文脈における意味を限定確定させることを可能としている。それを基盤として、自分の考えを記述することが求められている。今後は、この種の問い—複数テキストを参照しつつ解釈を行う—が定番設問となるだろう。

問4は、登場人物の呼称の変化からうかがえる語り手の意図や工夫について問うている。そのことをA、B、Cの3人の会話の文脈の中で考え解答させる設定がなされている。親切な導き方ではあるが、空欄補充の字数が比較的多いことから、難度が高いと推測する。

モニター調査の結果を見ると、被験者(最下位群、下位群、中位群、上位群、最上位群)は、総じて、検証用問題に非常に苦戦した様子がわかる。特に、「或日の大石内蔵助」を題材とした設問は0点率が高いことから、小説を題材として新傾向問題を作成することの困難さを実感した。とりもなおさず、これが今後の課題である。

また、伝統的に国語科では小説の読解を大切にしてきたが、汎用的な言語力を育成するという視点に立つと、国語科における小説の取扱いに変化が生じていくのだろう。一方で、小説の世界を堪能する場は、どこになるのか。今後の国語科には、難題が横たわっている。

第4章 モニター調査

4.1 モニター調査の目的

研究初年度において、代表大学である北海道大学を中心として組織された「問題の質・評価指標に関する教科教育学・教育評価に基づく分析」を担当する「チームA」に対し、東北大学から成る「チームB」が編成され、「問題の出題形式と測定する資質・能力の関係に関するテスト理論・測定学に基づく分析」を担当することとなった。「チームA」が主として質的分析手法を用いて教科教育学の観点から国立大学個別学力試験「国語」の評価分析を行うのに対し、「チームB」では量的分析手法を用いて教育心理学的、教育測定論的観点から評価分析を行った点に特徴がある。そのことによって「チームA」と相補的な関係をもって課題にアプローチし、より多角的な分析が可能となった。なお、本委託事業の目的である国語の入試問題の分析を行うためには、教科の枠を超えて比較対象として他教科も視野に入れたデータ収集、分析が必要と考え、「数学」も含めたモニター調査を計画することとなった。本章では、主として「チームB」が担当したモニター調査について報告する。

4.2 調査計画の概要

研究初年度と2年度目は、「チームA」が開発する「新傾向問題」に対して教育測定論的なアプローチ方法で問題の信頼性（測定の精度、安定性）、教育心理学的なアプローチ方法で問題の妥当性（問題が測っている能力、資質の内容等）を実証的に明らかにするための測定用具（質問紙調査項目）と性能分析の開発を目的としたモニター調査を行った。その際に重要なのは、従来の試験問題や他教科の問題との比較の観点である。最終年度には「チームB」が2年の研究期間を費やして開発した測定用具を「チームA」に提供し、チームAが開発した「新傾向問題」を含むモニター調査を行った。

4.2.1 モニター調査試験問題

本委託事業の目的に鑑みて試験問題の属性として最も重要な観点は、「従来型（旧）」の問題か「新傾向（新）」の問題かという点である。本委託事業のモニター調査に使用した「従来型」の問題とは、以下に述べるように、大学入試センター試験および国立大学の一般入試個別試験で出題された、いわゆる「過去問」から選定した大問である。「新傾向」の問題としては、最終年度に実施した「チームA」開発のオリジナル問題が分析の中心となるが、それに加え、平成28年度調査では高大接続システム改革会議が「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）（当時）」の「イメージ例」として公表していた試験問題サンプル（高大接続システム改革会議，2015）、平成29年度調査では大学入試センターが「大学入学共通テスト（仮称）（当時）」の「モデル問題例」として公表していた試験問題サンプル（独立行政法人大学入試センター，2016）から選定した大問を用いた。次に重要な属性は回答形式（選択式、記述式）の観点である。従来型の「選択式」の問題としては、過去に大学入試センター試験の教科『国語』で出題された試験問題からモニター調査問題（大問）を選定した。また、従来型の「記述式」の問題としては、過去に東北大学の個別試験「国語」で出題された問題からモニター調査問題（大問）を選定した。さらに、国語特有の観点として、素材文のジャンルという属性が挙げられる。具体的には「小説」「評論」という区分になる。「イメージ例」および「モデル問題例」には当てはまらない属性概念であったが、モニター調査に利用されたオリジナル問題はジャンルを意識して作成されたものである。

冊子構成は、後述のように、平成28年度と平成29年度調査は、国語、数学ともに全体を通じて1種類である。「チームA」オリジナル問題に対する調査を行った平成30年度調査においては、数学は実施されなかった。その代わりに、「従来型」－「新傾向」という試験問題のタイプ、「評論」－「小説」というジャンルのタイプについて、2×2の要因計画的な組み合わせの4種類の冊子を作成し、調査対象者にそのうちの一つが割り当てられた。なお、全てのデータを比較するための対応付け（linking）のアンカー項目として利用することを目的として、20項目の多肢選択形式の語彙理解力テスト項目（語彙問題）（平・小野・林部・前川・米山，1995）をモニター調査対象者全員に課した。

比較として利用する教科・科目には「数学」を選んだ。「数学」に「国語」と同様に、新傾向問題のサンプルとみなすことができる「イメージ例」「モデル問題例」が公表されていたことが最大の理

由である。また、「数学Ⅰ」の範囲であれば、必修科目であるために全ての高校生が履修しており、さらに、モニター調査の主対象となる進学校の高校2年生の時点で既習の範囲となっていることも実施に適している理由として挙げられる。「数学」の調査は比較を目的としたことであり、調査対象者の数学的な学力そのものに関心があるわけではないことから、調査結果に関わる要因を可能な限り単純化するために「数学」からの出題分野は全て三角比とし、2年間の調査を通じて「従来型」の試験問題には全て同一の問題を利用することとした。

表1. モニター調査デザイン（総合）

実施 年度	協力 校数	調査 対象 者数	国語				語彙		数学					
			センター 試験 (選択式)		新共通テ ストサ ンプル (新傾向)		個別 学力試 験 (旧傾向)		オリジナル (新傾向)		セン ター	個 別	新テ スト	
			評 論	小 説	イ メ ー ジ 例	モ デ ル 問 題 例	評 論	小 説	評 論	小 説	アン カー 頁 目		イ メ ー ジ 例	モ デ ル 問 題 例
2016	5	1,129	○		○	—	○	—	—	○	○	○	○	—
	3	622	○		○	○	—	—	○	○	○		○	
2017	6	917	○		○	○	—	—	○					
	4	533					—	—	●	○	○		○	
2018	2	104	○				○		○					
	7	610	○						○	○				
	6	588	○				○		○					
	2	107	○						○	○				
合計		4,610												

注：調査対象者数には一部無効データも含む。「—」は実施時には存在しなかった問題。
「●」はアンケートとして実施。

表1に3年間のモニター調査試験問題構成の概略を示す。全項目が小問形式となっている語彙項目を除き、モニター調査に使用した問題は全て素材文と複数の設問がセットとなる大問単位の構成となっている。平成28年度調査では全ての調査協力者に対して、国語と数学の双方が課された。平成29年度調査の際には、大学入試センターによる大学入学共通テストの試行調査と重なる時期の調査であったために調査環境が著しく悪化した。一部の高校では平成28年度調査と同様に国語と数学の双方を課することが許されたが、「国語」のみないしは「数学」のみの協力という申し出も受け入れることとなった。その際、「数学」のみ実施の調査協力者にはアンカーとなる語彙問題をアンケート調査の一部として課することとした。なお、「国語」の全ての冊子の「第1問」は語彙問題となっている。

表2は試験問題の冊子に対する各大問の割付を示した表である。センター試験から選定した【評論・マーク】【小論・マーク】はいずれも1種類の冊子のみの実施である。東北大学の個別試験「国語」の過去問から選定した【小説・旧記述】【評論・旧記述】は平成28年度調査、ないしは、平成

29 年度調査で出題されたのち、平成 30 年度調査においてオリジナルで開発された「新記述」の問題との組合せで出題された。【イメージ例・新】【モデル問題例・新】はオリジナルの新傾向問題が開発中の時期の実施であったための代替問題であり、1 度ずつの実施となっている。オリジナルの【小説・新記述】および【評論・新記述】は平成 30 年度に「旧記述」のいずれかの問題との組合せで出題された。数学は【マーク】【旧記述】が 2 年間に渡って、【イメージ例・新】【モデル問題例・新】がそれぞれ 1 度ずつの出題であった。

表 3 に過去問から出題した問題の出典を示す。

表 2. モニター調査問題の割付

大問の略称	分類	冊子（大問順）	調査対象者数
語彙問題	語彙	H28 共通, H29 国語共通, H29 語彙（数学解答者のみ）, H30 共通（第 1 問）	4,669 名
「資本主義」と人間	国語【評論・マーク】	H28 国語（第 2 問）	1,199 名
楽隊のうさぎ	国語【小説・マーク】	H29 国語（第 2 問）	1,535 名
キリコさんの失敗	国語【小説・旧記述】	H28 国語（第 4 問）, H30 国語（小・小）（第 3 問）, H30 国語（評・小）（第 3 問）	1,916 名
聞くこととしての歴史	国語【評論・旧記述】	H29 国語（第 4 問）, H30 国語（小・評）（第 3 問）, H30 国語（評・評）（第 3 問）	2,227 名
交通事故死者数	国語【イメージ例・新】	H28 国語（第 3 問）	1,129 名
城見市街街並み保存地区	国語【モデル問題例・新】	H29 国語（第 3 問）	1,535 名
或日の大石内蔵助	国語【小説・新記述】	H30 国語（小・小）（第 2 問）, H30 国語（小・評）（第 2 問）	695 名
「あなたへ」往復書簡	国語【評論・新記述】	H30 国語（評・小）（第 2 問）, H30 国語（評・評）（第 2 問）	714 名
マークシート問題	数学【マーク】	H28 数学（第 1 問）, H29 数学（第 1 問）	1,725 名
最小値問題	数学【旧記述】	H28 数学（第 2 問）, H29 数学（第 2 問）	1,725 名
スーパームーン問題	数学【イメージ例・新】	H28 数学（第 3 問）	1,199 名
銅像問題	数学【モデル問題例・新】	H29 数学（第 3 問）	526 名

表 3. 過去問を利用した試験問題の出典

		マーク式 (センター試験)	伝統的な記述式 (旧記述) ** (国立大学個別学力試験)	新しい記述式* (新記述)
平成 28 年 度調査	国語	平成 22 年度本試験問題 (評論)	平成 23 年度東北大学前期日程 試験問題 (小説)	問題イメージ<例 1>
	数学	平成 21 年度追試験問題	平成 14 年度東北大学前期日程 文系問題	問題イメージ<例 4>
平成 29 年 度調査	国語	平成 22 年度本試験問題 (小説)	平成 24 年度東北大学前期日程 試験問題 (評論)	モデル問題例 1
	数学	平成 28 年度調査と同一	平成 28 年度調査と同一	モデル問題例 4

*: 平成 28 年度の問題は『大学入学希望者学力評価テスト (仮称)』で評価すべき能力と記述式問題イメージ例【たつき台】、平成 29 年度の問題は『大学入学共通テスト (仮称)』記述式問題のモデル問題例 から選定

** : 「国語」は平成 30 年度調査にも使用

4.2.2 試験問題に関するアンケート項目

国語と数学の試験ごとに 2 種類の質問紙を作成した。試験直後に実施するもので、①解答時間 (80 分) の評価、②同じ問題の解答経験、③各問題の難易度の評価と解答時間、④無解答問題の有無とその理由、⑤各問題に対する印象 (SD 法)、⑥各問題を解答するのに必要な資質・能力、⑦意見・感想の自由記述等について尋ねた。

⑤各問題に対する印象については、SD 法を採用し、それぞれの試験問題に対し個々の調査対象者がそれぞれの好みや経験に応じて感じる感情的意味を測定することにした。試験が与える調査対象者側への影響を調査対象者の立場から評定することを目的としている。SD 法では多くの形容詞対を両側に置いた評定尺度群が用いられる。それらの形容詞対は、「良い－悪い」など価値に関係したものだけでなく「温かい－冷たい」「強い－弱い」など多面的であるのが特色である (大山他, 2005)。本調査では、「つまらない－おもしろい」「嫌いな－好きな」「ふざけた－まじめな」「古い－新しい」「奇抜な－典型的な」「意地悪な－素直な」「わりそうな－できそうな」「解きたくない－解きたい」「下品な－上品な」「役に立たない－役に立つ」「実力がわからない－実力がわかる」「無意味な－有意義な」の 12 項目を設定し、5 段階尺度で構成した。

また、資質・能力の抽出については、「高大接続改革の進捗状況について」(文部科学省, 2016) に示された資質・能力 (国語に関する「資質・能力」と中央教育審議会答申 (2014 年 12 月 22 日) の「別添資料 4」(言語に関する思考力・判断力・表現力と数に関する思考力・判断力・表現力) から抽出した。具体的には、「1 数学的概念」「2 言葉の働き」「3 言葉の特徴」「4 言葉の使い方」「5 言語文化」「6 一般常識」「7 情報集約」「8 文章評価力」「9 感受性」「10 イメージ表現」「11 伝達力」「12 思考形成」「13 感情統制力」「14 歴史継承」「15 粘り強さ」「16 多様な考え」「17 読解力」「18 要約力」「19 表現力」「20 コミュニケーション」「21 統計的思考力」「22 論理的思考力」「23 図やグラフ」である。抽出した 23 項目中 1, 21, 22, 23 の 4 項目は数学と関連した資質・能力、その他 19 項目は国語と関連した資質・能力と捉えられる。質問紙では、項目 1 は数学の調査のみに付したが、その他は同じ項目を設定した。それぞれの大問ごとに、当該問題に回答するために「必要と思う資質・能力」すべてに○をつけさせるようにした。

これらのアンケート項目は、予備調査と位置付けた初年度最初の調査から平成 30 年度の「チーム A」開発オリジナル問題の分析まで、一貫して同一項目を使用した。

4.2.3 教員調査

以上のモニター調査以外に、平成 28 年度及び平成 29 年度調査問題を対象として、高校教員の印象、意見を収集するための質問紙調査を実施した。本稿では「教員調査」と呼ぶ。

教員調査においては、調査対象者となった教員が試験問題を実際に解くことはない。同封された試験問題冊子に目を通した上で、上記のアンケート項目に回答する形式である。なお、教員が生徒に試験問題を解かせる場面を想定しているため、一部の項目に状況に合わせた改変を加えた。

表 4. 平成 28, 29 年度調査協力校一覧

	調査協力校	国語 クラス数	数学 クラス数	国語 対象者数	数学 対象者数	語彙 対象者数
平成 28 年度	東北地方 A 高校（予備調査）	6	6	240	240	—
	東北地方 B 高校	7	7	272	272	—
	九州地方 C 高校	8	8	316	316	—
	四国地方 D 高校	7	7	245	245	—
	中部地方 E 高校	3	3	126	126	—
	平成 28 年度調査合計	31	31	1,199	1,199	—
平成 29 年度	九州地方 F 高校（国語のみ）	4	—	141	—	—
	九州地方 F 高校（数学のみ）	—	4	—	133	134
	関東地方 G 高校（国語のみ）	6	—	223	—	—
	中国地方 H 高校	5	5	151	151	—
	関東地方 I 高校（国語のみ）	4	—	156	—	—
	関東地方 I 高校（数学のみ）	—	4	—	153	153
	中部地方 J 高校（国語のみ）	2	—	56	—	—
	中部地方 J 高校（数学のみ）	—	7	—	220	220
	関東地方 K 高校（国語のみ）	1	—	48	—	—
	関東地方 K 高校（数学のみ）	—	1	—	27	19
	東北地方 L 高校（国語のみ）	8	—	293	—	—
	中国地方 M 高校	5	5	194	194	—
	北海道地方 N 高校	8	8	277	277	—
	平成 29 年度調査合計	43	34	1,534	1,155	526
総計	74	65	2,733	2,354	526	

4.3 調査実施デザイン

4.3.1 モニター調査の実施デザイン

モニター調査の実施は高等学校を通じて依頼し、実施した。対象学年は平成 28 年度調査および平成 29 年度調査では高校 2 年生，平成 30 年度調査では高校 3 年生である。調査に先立って，実施を担当する機関（平成 28 年度調査および平成 29 年度調査では東北大学，平成 30 年度調査では北海道大学）の倫理審査を受審し，調査実施に対する許可を得た。

モニター調査問題の解答に要する時間は「国語」「数学」ともに 80 分，付帯するアンケート調査への回答時間は 10~15 分程度を設定した。実施は調査対象校に依頼したが，平成 28 年度調査および平成 29 年度調査では東北大学，平成 30 年度調査では北海道大学から派遣された本委託事業の担当者ないしは協力者が実施時に訪問し，トラブル等に対応した。

調査協力校の構成は表 4，5 のとおりである。表 4 は平成 28 年度調査および平成 29 年度調査の調査協力校リストである。全国ほとんどの地域から偏りが少ないように調査協力校が選定された。通算 15 校のうち，12 校は公立，3 校が国立であった。いずれも地域においてトップクラスの進学校とみなされる進学実績を有した学校である。なお，平成 28 年度調査における 1 校は「予備調査」という位置づけで，アンケート調査が本委託事業とは別枠で実施されたが，結果的にアンケート項目の内容に一切変更がなかったため，区別なく本委託事業の一環としてデータを算入することとした。

表 5. 平成 30 年度調査協力校一覧

調査協力校	【小説・旧】 【小説・新】	【小説・旧】 【評論・新】	【評論・旧】 【小説・新】	【評論・旧】 【評論・新】	対象者数 合計
北海道地方 O 高校	—	—	142	—	142
北海道地方 P 高校	—	69	—	—	69
北海道地方 Q 高校	—	182	—	—	182
北海道地方 R 高校	—	—	40	—	40
北海道地方 S 高校	—	—	185	—	185
北海道地方 T 高校	—	117	—	—	117
北海道地方 U 高校	63	62	48	54	227
北海道地方 V 高校	—	—	60	—	60
東北地方 W 高校	44	39	51	50	184
中部地方 X 高校	—	119	84	—	203
平成 30 年度調査合計	107	588	610	104	1,409

表 5 は平成 30 年度調査の調査協力校リストである。北海道地方が中心だが，東北地方と中部地方から 1 校ずつ加わった。いずれも公立校であり，進学実績において当該地域ではトップクラスに近く位置付けられる学校である。実施時期は平成 28 年度調査が 12 月から 3 月，平成 29 年度調査が 11 月から 2 月，平成 30 年度調査が 7 月であった。

4.3.2 教員調査の実施デザイン

教員調査は郵送法で実施された。平成 28 年度調査または平成 29 年度調査で使用した「国語」と「数学」の冊子及びそれらに対応した質問紙をワンセットとし、2セットを作成した。ただし、「国語」の冊子から、第1問（語彙問題）は除いた。特別支援学校を除く全国の高等学校および中等教育学校のうち、2,000校をランダムに抽出して調査対象校を選定した。調査対象校には、どちらかの年度のセットを無作為に割り当て送付し、各教科1名の教員に回答するよう依頼した。その際、回答は任意とする旨の説明をアンケートの表紙に明記した。回答終了後は、同封した返送用封筒でアンケート用紙を返送してもらった。なお、調査は東北大学の研究倫理審査を受審し、承認を得た上で実施した。

4.4 結果

4.4.1 平成 28, 29 年度モニター調査問題分析

4.4.1.1 平成 28 年度モニター調査結果の基礎分析

全体の平均点は「国語」が100点満点で57.6、「数学」が20.2点であった。受験者層の学力に比して、数学の難易度が著しく高かった。

図1に「国語」、「数学」各大問の平均得点率を示す。「数学」の「第2問：個別試験」、「第3問：イメージ例」の正答率の低さが目立つ。

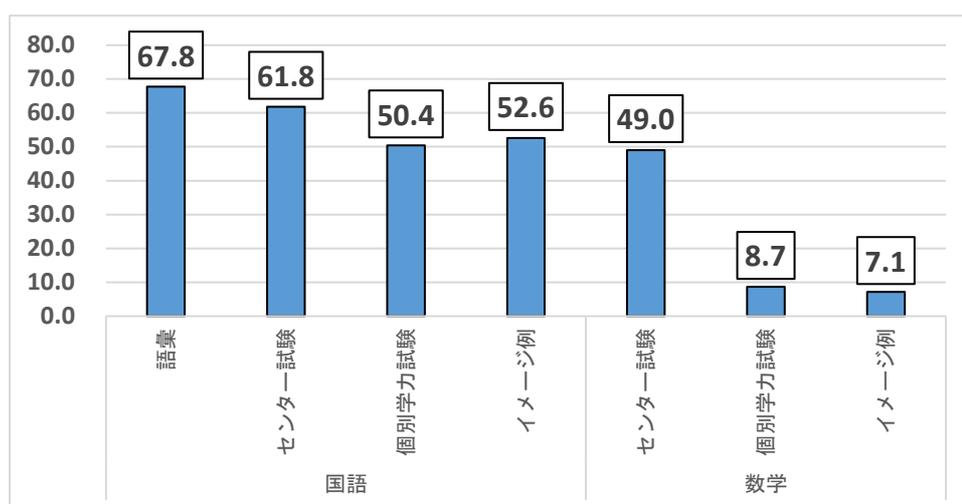


図1. 大問別平均得点率（平成 28 年度調査）

大問	項目	平均 得点率	SD	大問	項目	平均 得点率	SD
第1問	語彙1 (未曾有)	58.55	49.26	第2問	センター問1 (漢:チクセキ)	65.01	47.69
	語彙2 (一時しのぎ)	96.28	18.93		センター問1 (漢:フジョ)	87.07	33.56
	語彙3 (伏線)	76.97	42.10		センター問1 (漢:タイリュウ)	85.65	35.06
	語彙4 (確執)	71.57	45.11		センター問1 (漢:ジュウジ)	90.08	29.89
	語彙5 (二の腕)	59.88	49.01		センター問1 (漢:コカツ)	79.63	40.28
	語彙6 (造詣)	57.04	49.50		センター問2	75.55	42.98
	語彙7 (匙を投げる)	85.74	34.97		センター問3	36.40	48.12
	語彙8 (いやおうなしに)	86.18	34.51		センター問4	56.16	49.62
	語彙9 (尊大)	21.26	40.91		センター問5	70.24	45.72
	語彙10 (辛辣)	71.83	44.98		センター問6 (不適)	47.65	49.94
	語彙11 (毫も)	48.27	49.97		センター問6 (適切)	53.23	49.90
	語彙12 (懐柔する)	56.07	49.63		センター合計	61.81	21.57
	語彙13 (婉曲に)	95.04	21.71	第3問	イメージ例 (発言 [40字以内])	52.40	37.15
	語彙14 (他愛ない)	87.95	32.55		イメージ例 (内容 [80-100字])	52.69	32.11
	語彙15 (気がおけない)	57.31	49.46		イメージ例合計	52.60	25.89
	語彙16 (無常)	71.83	44.98	第4問	個別 (問題ではない [30字以内])	88.75	24.06
	語彙17 (嫡流)	52.08	49.96		個別 (法則 [40字以内])	55.52	33.41
	語彙18 (妙案)	75.02	43.29		個別 (やはりキリコ [40字以内])	70.87	35.88
	語彙19 (無償)	94.60	22.61		個別 (唇 [50字以内])	63.42	36.99
	語彙20 (虎の子)	32.15	46.71		個別 (秘密 [80字以内])	17.26	19.79
語彙合計	67.78	18.70	個別合計		50.41	15.94	
	国語合計	57.63	13.85				

表6に国語の小問単位の得点率を示す。項目によって難易度には大きな差があり、得点率では17.26%～96.28%と幅広く散らばっていた。

次に、大問、小問それぞれについて5分位図を描いた。国語の大問の5分位図のうち、大問に関する部分は図2に示すとおりである。成績の識別には第1問語彙問題と第2問センター試験のマーク式問題が特に良く機能していた。なお、記述式の大問2問も含め、いずれの大問も平均得点率の違いはあるが、各学力層の識別に満遍なく機能している様子が見て取れた。なお、小問単位の5分位図は資料に採録している。

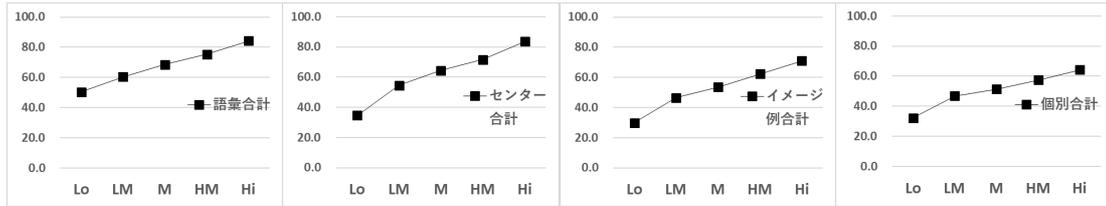


図2. 大問5分位図（国語）（平成28年度調査）

続いて表7に数学の小問単位の得点率を示す。得点率が10%に満たない超難問が4問見られた。数学についても国語と同じ観点から分析を加えた。大問の5分位図は図3に示すとおりである。第1問のセンター試験は識別に機能していたが、個別試験とイメージ例は難易度が高すぎたためにほとんど識別機能を失っていた。なお、小問単位の5分位図は資料に採録している。

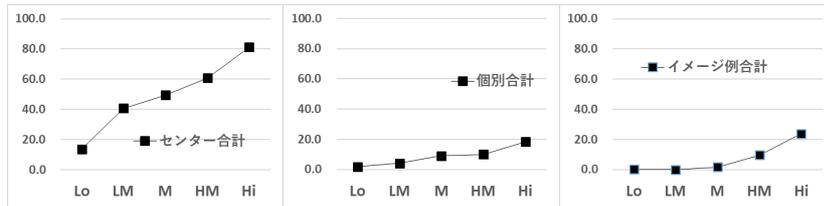


図3. 大問5分位図（数学）（平成28年度調査）

表7. 小問別平均得点率（数学）（平成28年度調査）

大問	項目	平均得点率	SD	大問	項目	平均得点率	SD
第1問	センター(1)ア	81.15	39.11	第1問	センター(2)ニヌ	8.67	28.14
	センター(1)イ	81.33	38.97		センター合計	49.02	25.91
	センター(1)ウエオ	88.50	31.91	第2問	個別(1)	18.57	19.14
	センター(1)カキ	79.91	40.07		個別(2)	1.21	9.31
	センター(1)クケ	67.43	46.86	個別合計	8.65	11.60	
	センター(2)コ	62.12	48.51	第3問	イメージ例(1)	18.83	38.52
	センター(2)サシスセ	43.89	49.63		イメージ例(2)	2.39	9.42
	センター(2)ソタチツ	18.23	38.61		イメージ例(3)	2.55	15.29
センター(2)テトナ	18.67	38.97	イメージ例合計		7.14	14.44	
数学合計		20.23	12.52				

最後に、テスト冊子全体としての信頼性係数を表すアルファ係数を算出したところ、国語は $\alpha = .67$ 、数学は $\alpha = .76$ であった。

4.4.1.2 平成29年度モニター調査結果の基礎分析

全体の平均点は「国語」が百点満点で48.4点、「数学」が35.1点であった。受験者層の学力水準に対しては慎重に検討する必要があるものの、平成28年度調査と比較すると国語の難易度が上がり、数学の難易度が多少下がった。

図4に「国語」、「数学」各大問の平均得点率を示す。平成28年度調査結果と比較した場合、「国語」の個別試験、モデル問題例の難易度が高かった。「数学」は同一問題を用いた個別試験の平均得点率が少し上がるとともに、新タイプの問題の平均得点率が著しく上がった。

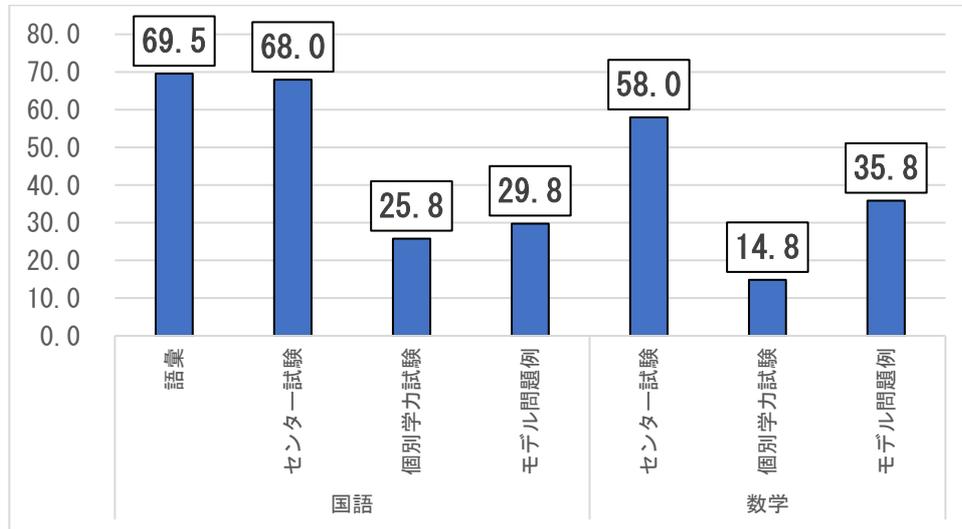


図4. 大問別平均得点率 (平成29年度調査)

表8. 小問別平均得点率 (国語) (平成29年度調査)

大問	項目	平均得点率	SD	大問	項目	平均得点率	SD
第1問	語彙1 (未曾有)	62.08	48.52	第2問	センター問1 (いわく言い難い)	68.14	46.59
	語彙2 (一時しのぎ)	96.94	17.23		センター問1 (和声理論の権化)	67.75	46.74
	語彙3 (伏線)	76.87	42.16		センター問1 (みもふたもない)	68.21	46.57
	語彙4 (確執)	78.05	41.39		センター問2	49.12	49.99
	語彙5 (二の腕)	64.56	47.83		センター問3	68.93	46.28
	語彙6 (造詣)	55.05	49.74		センター問4	66.51	47.19
	語彙7 (匙を投げる)	90.55	29.25		センター問5	78.63	40.99
	語彙8 (いやおうなしに)	91.66	27.65		センター問6 (順序問わない1)	79.74	40.19
	語彙9 (尊大)	26.19	43.97		センター問6 (順序問わない2)	56.48	49.58
	語彙10 (辛辣)	74.20	43.75		センター合計	67.98	20.16
	語彙11 (毫も)	51.79	49.97		第3問	モデル問題例 (一石二鳥 [40字以内])	64.98
	語彙12 (懐柔する)	52.64	49.93	モデル問題例 (修正要求 [35字以内])		88.76	26.20

	語彙 13 (婉曲に)	95.18	21.42		モデル問題例 (父姉議論 [20 字以内])	43.52	18.30
	語彙 14 (他愛ない)	88.01	32.48		モデル問題例 (かおる意見 [80-120 字])	31.92	30.66
	語彙 15 (気がおけない)	63.39	48.17		モデル問題例合計	25.77	14.17
	語彙 16 (無常)	71.40	45.19	第 4 問	個別 (漢字)	47.96	18.67
	語彙 17 (嫡流)	55.11	49.74		個別 (語り手 [35 字以内])	56.22	37.99
	語彙 18 (妙案)	74.59	43.53		個別 (歴史意識 [40 字以内])	20.39	29.05
	語彙 19 (無償)	94.20	23.37		個別 (聞くこととしての歴史 [80 字以内])	10.33	18.35
	語彙 20 (虎の子)	28.34	45.06		個別 (自己の見解論述方法 [60 字以内])	29.59	34.06
	語彙合計	69.54	16.91		個別合計	29.78	15.71
	国語合計	57.63	13.85				

表 8 に国語の小問単位の得点率を示す。項目によって難易度には大きな差があり、得点率では 10.33～96.94%と広く散らばっていた。

次に、大問、小問それぞれについて 5 分位図を描いた。国語の大問の 5 分位図は図 5 に示すとおりである。成績の識別には第 1 問語彙問題と第 2 問センター試験のマーク式問題が特に良く機能している。いずれの大問も平均得点率の違いはあるが、各学力層の識別に満遍なく機能している様子が見て取れる。なお、小問単位の 5 分位図は資料に採録している。

続いて、表 9 に数学の小問単位の得点率を示す。10%に満たない超難問は 1 問にとどまったものの最も平均得点率が高い設問でも 50%に届かず、全体として難易度の高いテストとなっていた。

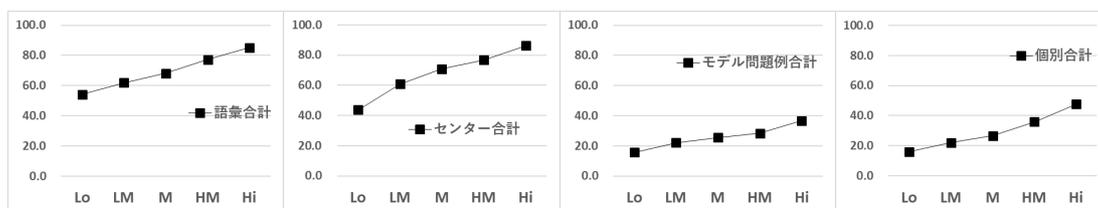


図 5. 大問 5 分位図 (国語) (平成 29 年度調査)

次に、数学についても国語と同じ観点から 5 分位図による分析を加えた。大問の 5 分位図は図 6 に示すとおりである。第 1 問のセンター試験とモデル問題例は識別に機能していたが、個別試験は難易度が高すぎてあまり高い識別機能を示さなかった。なお、小問単位の 5 分位図は資料に採録している。

表 9. 小問別得点率（数学）（平成 29 年度調査）

大問	項目	平均 得点率	SD	大問	項目	平均 得点率	SD
第 1 問	センター(1)ア	92.73	25.97	第 2 問	個別(1)	30.73	23.23
	センター(1)イ	91.52	27.87		個別(2)	2.90	14.90
	センター(1)ウエオ	94.55	22.71		個別合計	14.83	16.00
	センター(1)カキ	92.38	26.53		モデル問題例(1)	69.70	45.96
	センター(1)クケ	78.61	41.00		モデル問題例(2)(i)	33.38	45.60
	センター(2)コ	72.03	44.88	モデル問題例(2)(ii)	54.27	49.25	
	センター(2)サシス セ	56.80	49.54	モデル問題例(2)(iii)イ	16.10	36.76	
	センター(2)ソタチ ツ	25.89	43.80	モデル問題例(2)(iii)ウ	17.92	38.35	
	センター(2)テトナ	26.58	44.18	モデル問題例(2)(iii)エ	21.21	40.88	
	センター(2)ニヌ	12.38	32.94	モデル問題例合計	35.84	26.13	
センター合計	57.97	23.41					
数学合計	35.12	16.94					

最後に、テスト冊子全体としての信頼性係数を表すアルファ係数を算出したところ、国語は $\alpha=0.64$ 、数学は $\alpha=0.78$ と平成 28 年度調査の結果とほとんど変わらなかった。

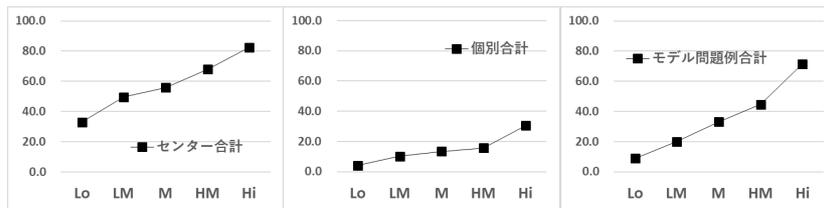


図 6. 大問 5 分位図（数学）（平成 29 年度調査）

4. 4. 1. 3 平成 28, 29 年度調査対象者の学力水準

平成 28 年度モニター調査対象者と平成 29 年度モニター調査対象者の学力水準を比較するために、共通問題の平均値を比較した。

図 7（左側）は国語分野で平成 28 年度調査と平成 29 年度調査の共通問題として利用した語彙テストの項目ごとの平均得点率の同時分布図である。ほぼ同一の得点率を示しており、両者の学力水準はほとんど変わらないと想定してよいだろう。

図 7（右側）は数学分野の共通問題として利用した第 1 問センター試験及び第 2 問個別試験の小問ごとの平均得点率（満点は 100%）の同時分布図である。全体として、平成 29 年度入試の受験者の方が平均的にやや高い学力を示しているように感じられる。

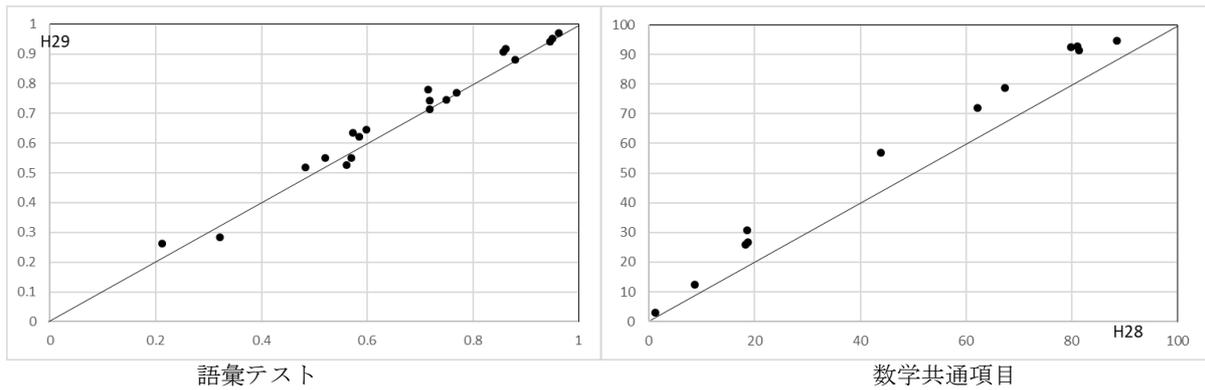


図7 平成28年度，平成29年度調査対象者の学力水準比較

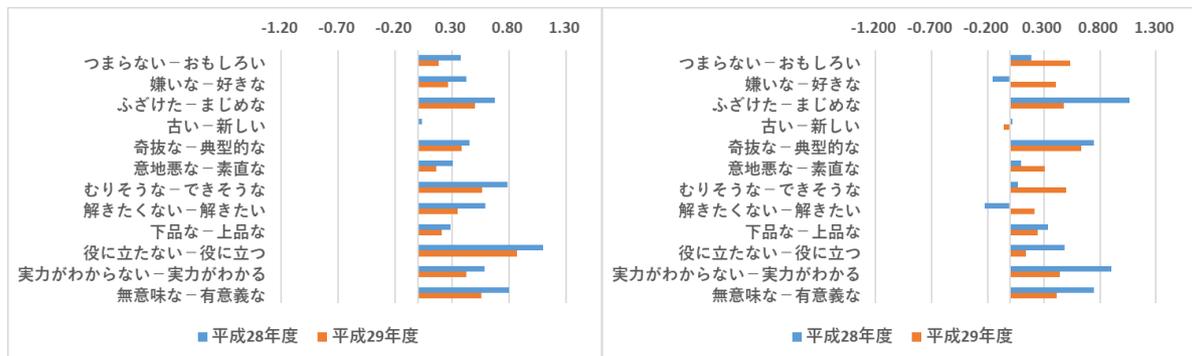
4.4.2 平成28，29年度アンケート分析結果概要

4.4.2.1 モニター調査問題のイメージ

各問題に対する印象については，SD法を用いて評価を行った。5段階評価の中でポジティブな印象を「+」，ネガティブな印象を「-」とし，各段階に対してリッカート法による得点化を行って「-2」，「-1」，「0」，「1」，「2」の得点を与えた。

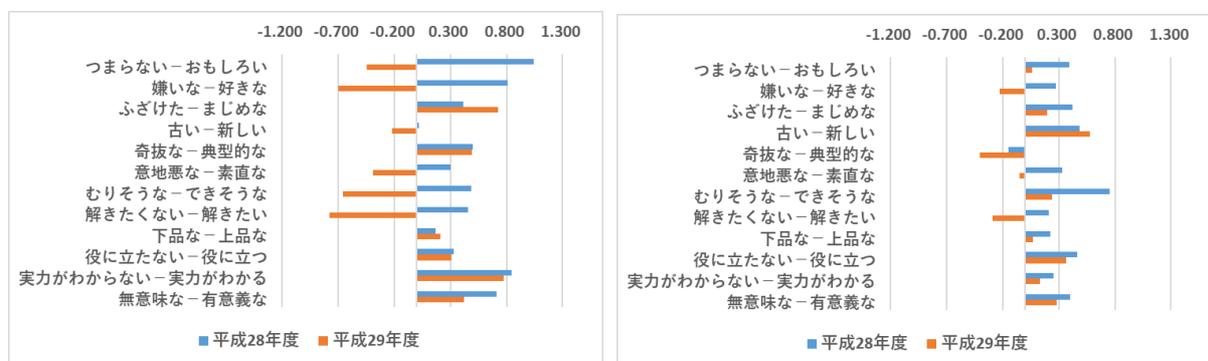
図8は国語大問のイメージ得点の平均値である。値が大きいほど，軸に書かれたラベルの中のポジティブなイメージ（右側）の傾向が強いことを意味する。

国語第1問語彙問題は平成28年度，平成29年度の共通問題であり，全体として平成28年度調査の回答者の方がややポジティブなイメージの傾向が強いが，パターンで見ると同じような傾向を示している。「役に立つ」「できそうな」「有意義な」というイメージが強い。



国語第1問（語彙テスト）のイメージ

国語第2問（センター試験）のイメージ



国語第3問（新傾向問題）のイメージ

国語第4問（個別試験）のイメージ

図8 平成28，29年度調査における国語大問のイメージ

国語第2問【センター試験・マーク式】の問題は、平成28年度が評論、平成29年度が小説である。素材文が異なるためか、平成28年度の方がメリハリの強い判断がなされたように見える。平成28年度調査では、「まじめな」「役に立つ」「有意義な」「実力が分かる」「典型的な」というイメージが強い。平成29年度は平成28年度ほどはっきりしたイメージではないが、「典型的な」「おもしろい」「できそうな」「まじめな」との印象がやや強い。

国語第3問は平成28年度が「イメージ例」、平成29年度が「モデル問題例」である。素材文が異なるためか、平成28年度の方がメリハリの効いた判断をしているように見えるが、第1問、第2問ほど強い印象はなさそうである。平成28年度調査の問題には「できそうな」イメージがある。平成29年度調査問題では「新しい」イメージが強い。

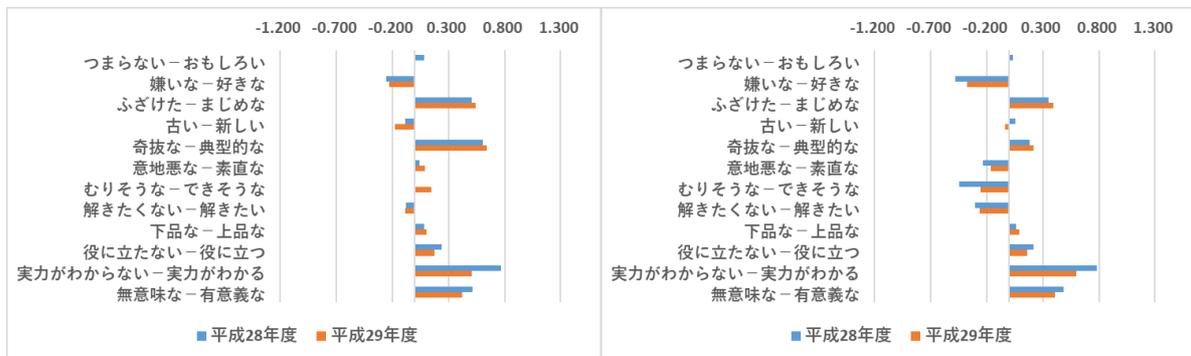
国語第4問は従来型の個別試験問題であるが、平成28年度が小説、平成29年度が評論であり、センター試験と入れ替えている。結果的に、素材文の影響が強く出たためか、平成28年度と平成29年度でかなり異なる対照的な結果が得られた。平成28年度問題は「おもしろい」「好きな」「実力が分かる」イメージがある。平成29年度調査問題にも「実力が分かる」「まじめな」印象があるが、「解きたくない」「嫌いな」「むりそうな」イメージがかなり大きくネガティブに触れている。

図9は数学大問のイメージ得点の平均値である。

数学第1問【センター試験・マーク式】の問題は平成28年度、平成29年度の共通問題であり、センター試験からの出題である。全体として同じような傾向を示している。「実力が分かる」「典型的な」「まじめな」「有意義な」というイメージが強い。

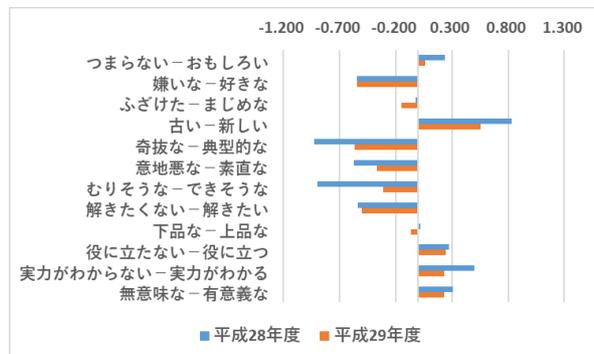
数学第2問【個別試験・記述式】も平成28年度、平成29年度の共通問題であり、個別試験からの出題である。全体として同じような傾向を示している。「実力が分かる」「有意義な」「まじめな」というイメージが強い反面、「嫌いな」「むりそうな」「解きたくない」といったネガティブな反応も見られた。

数学第3問（新傾向問題）は平成28年度がイメージ例、平成29年度がモデル問題例からの出題であり、新タイプの問題である。平成28年度の方がやや極端であるが、全体として同じような傾向を示している。「新しい」半面、特に平成28年度の問題では「奇抜な」「むりそうな」「嫌いな」「意地悪な」「解きたくない」問題とみなされた。



数学第1問（センター試験）のイメージ

数学第2問（個別試験）のイメージ



数学第3問（新傾向問題）のイメージ

図9 平成28年度、平成29年度調査における数学大問のイメージ

4.4.2.2 モニター調査で測定された資質・能力

モニター調査問題が測定する資質・能力は、該当する箇所に「○」印を記入する方式とした。したがって、基本的に該当箇所に○印を記入した調査対象者の比率について分析した。図 10～図 11 に結果の概要を示す。なお、「数学的概念」は数学の試験問題についてのみ判定を求めた。

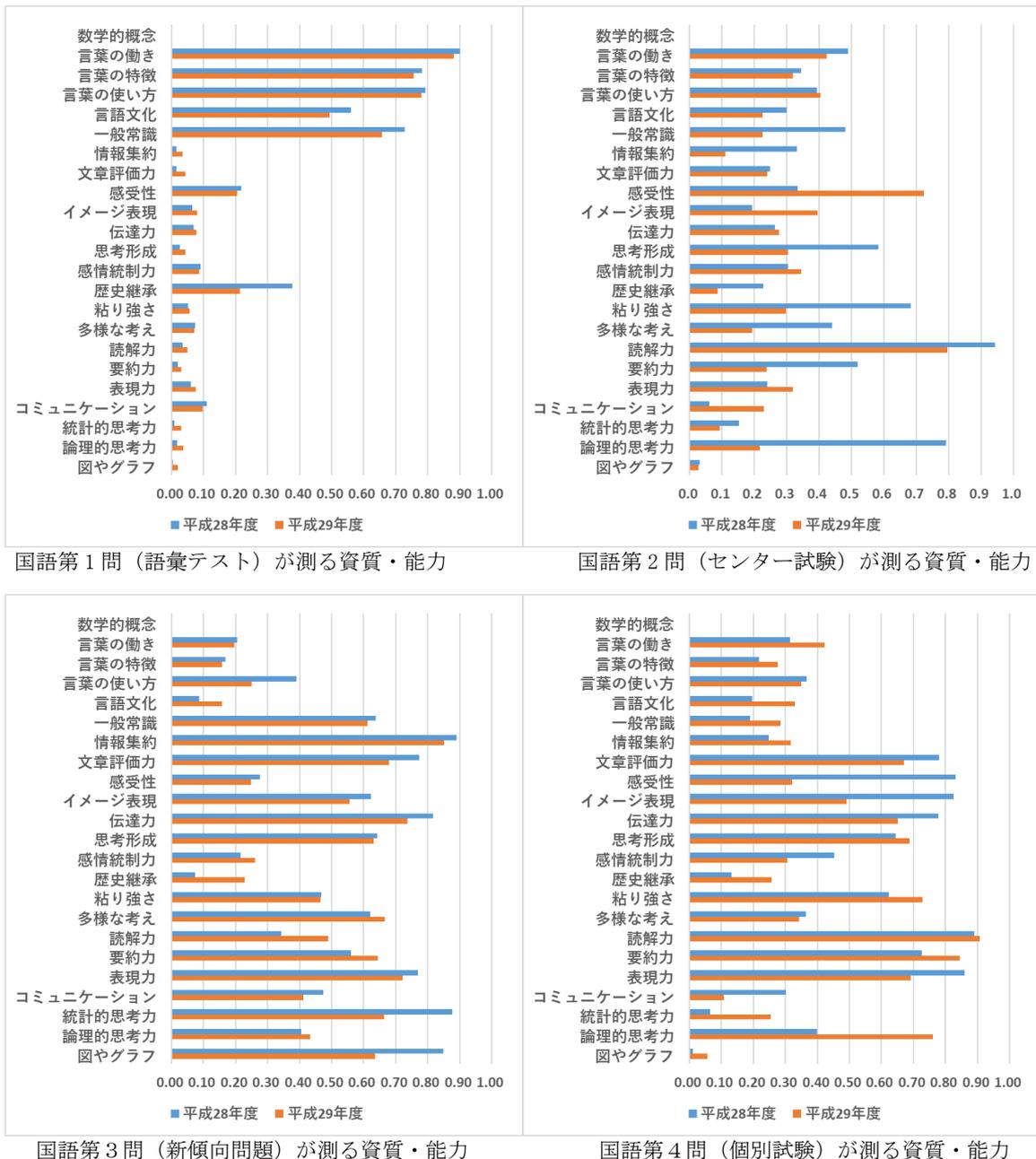


図 10. モニター調査問題「国語」が測る資質・能力

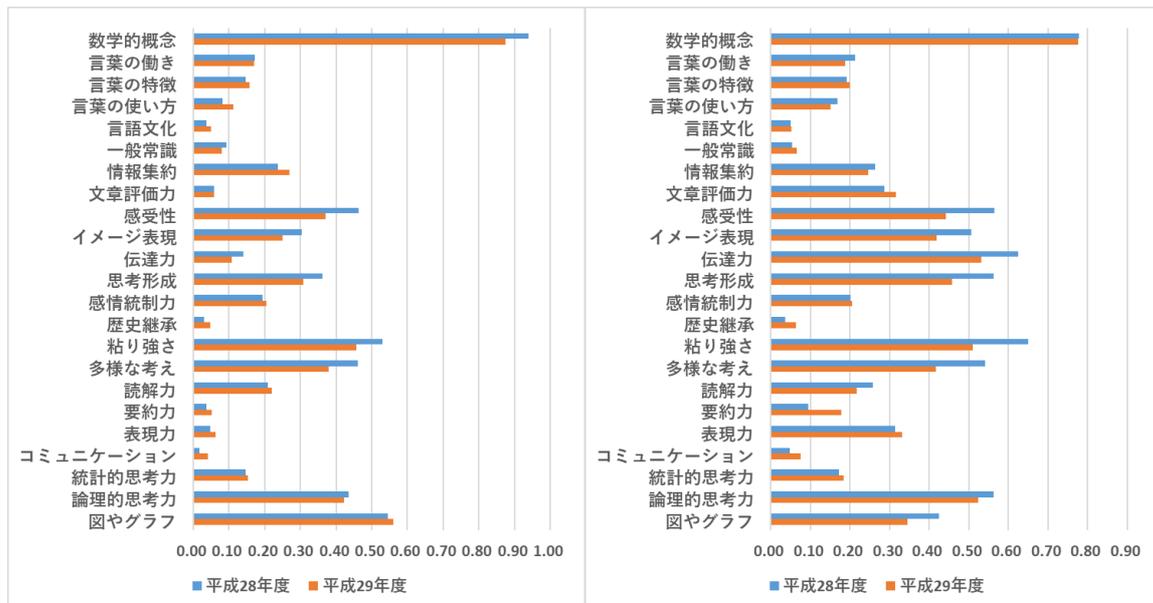
図 10 は「国語」で測られる能力・資質に対する判定結果である。

国語第 1 問は平成 28 年度、平成 29 年度の共通問題である。ほぼ同じような結果が得られている。「言葉の働き」「言葉の特徴」「言葉の使い方」「一般常識」「言語文化」を測定していると考えた調査対象者が多かった。

国語第 2 問は平成 28 年度で評論、平成 29 年度で小説が出題された。部分的に同じ傾向を示している。双方に共通なのが「読解力」である。平成 28 年度問題では「論理的思考力」「粘り強さ」「思考形成」などが測られていると考えられたのに対し、平成 29 年度問題では「感受性」が上位に来ている。マーク式か記述式かという解答形式よりも素材文のジャンルに影響を受けた回答と思われる。

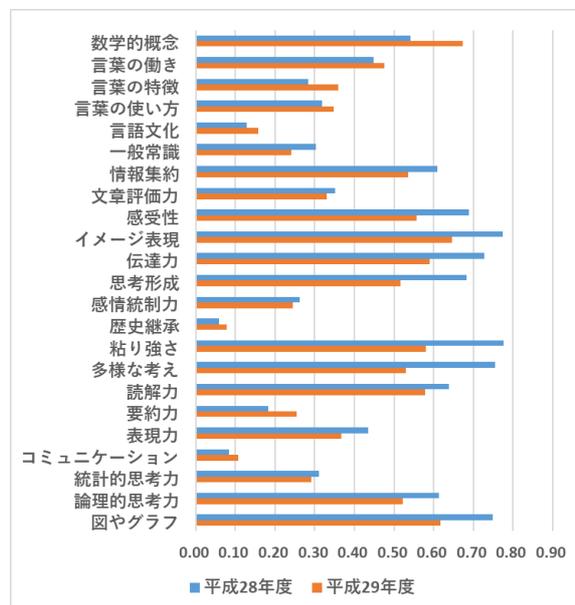
国語第3問は新タイプの問題である。平成28年度ではイメージ例，平成29年度ではモデル問題例から出題された。試験問題が異なるので一部一致しない部分も見られるが，傾向はほぼ同じと考えてよいだろう。「情報集約」「統計的思考力」「伝達力」「図やグラフ」「表現力」「文章評価力」といった資質・能力が必要だと受け止められている。

国語第4問は従来型の記述式である個別試験問題である。平成28年度では小説，平成29年度では論説のジャンルから出題された。似ている部分と異なる部分が混在している。「読解力」「表現力」「思考形成」「文章評価力」「伝達力」「要約力」は共通である。平成28年度はその他に「感受性」「イメージ表現」，平成29年度では「論理的思考力」が求められると受け止められている。



数学第1問 (センター試験) が測る資質・能力

数学第2問 (個別試験) が測る資質・能力



数学第3問 (新傾向問題) が測る資質・能力

図 11. モニター調査問題「国語」が測る資質・能力

図 11 は「数学」で測られる能力・資質に対する判定結果である。

数学第1問は平成28年度，平成29年度の共通問題である。ほぼ同じような結果が得られている。「数学的概念」が必要とされるほか，「図やグラフ」「粘り強さ」「感受性」「多様な考え」「論理的思考力」が必要と考えられている。

数学第2問は平成28年度、平成29年度の共通問題であるが、平成29年度の方がやや得点率が高かった。平成28年度の回答者の方がやや必要と回答する比率が高いように見える。「数学的概念」「粘り強さ」「伝達力」「感受性」「思考形成」「イメージ表現」「多様な考え」「論理的思考力」もある程度必要と考えられている。

数学第3問は平成28年度がイメージ例、平成29年度がモデル問題例からの出題である。「数学的概念」も必要と考えられているが、平成28年度ではそれ以上に「イメージ表現」「粘り強さ」「多様な考え」「伝達力」「図やグラフ」「感受性」「思考形成」「読解力」「情報集約」「論理的思考力」に○を付したと回答者が多かった。

4.4.3 教員調査

4.4.3.1 回収状況

平成28年度調査の国語は561名（回収率56.1%）、数学は577名（回収率57.7%）、平成29年度調査の国語は573名（回収率57.3%）、数学は598名（回収率59.8%）、総計2,309名（回収率57.5%）から回答が得られた。なお、同じ年度でも教科で人数が異なるのは、学校によってはどちらか一方の教科しか返送されなかったためであった。

4.4.3.2 属性

①勤務校の状況 設置者については、全体では、国立1.2%、公立71.5%、私立26.9%、その他・無回答0.4%であった。この比率は、年度・教科別でも同様であった。なお、大学入試センター試験の受験状況の回答には多くの不備が見られたので分析から除外した。

②回答者の教員歴 平均18.4年(SD=10.8)であり、年度・教科別に見ても著しい差は認められなかった。

③進路指導部担当歴 全体では78.9%が進路指導部を経験し、のべ年数は平均6.9年(SD=5.9)であった。年度・教科別に見ても同様であった。

以上から年度・教科によって教員としての基本的な属性の分布に著しい違いはないとみなせた。

3.4.3.3 個別学力試験に対する意識

表10は、年度別に、個別学力試験の検討への取り組みを集計した結果である。検討の取り組みについては年度によって有意な偏りは認められなかった。年度・教科にかかわらず「必要に応じて解いている」が約6割を占めた。個別学力試験の改善の必要性についての意見には有意な偏りが見られ($\chi^2(6)=63.57, p<.001$)、残差分析によれば、年度に関わらず、国語では「ある程度改善が必要である」が有意に多く、一方、数学では「現状のままで良い」が有意に多かった。

表10. 個別学力試験の検討への取り組みと個別学力試験の改善の必要性(%)

	検討への取り組み			改善の必要性		
	毎年自分で解いている	必要に応じて解いている	あまり分析していない	現状のままでよい	ある程度改善が必要である	大いに改善が必要である
H28_国語	28.9	59.0	12.1	41.5	55.0	3.5
H28_数学	25.8	63.8	10.5	54.6	42.1	3.3
H29_国語	30.3	58.8	10.9	38.4	55.5	6.2
H29_数学	25.6	59.2	15.2	57.2	39.4	3.5

3.4.3.4 印象評価の分析

3.4.3.4.1 因子構造

試験問題を全て込みにして2相データに置き換え、因子分析（主因子法）を行った。固有値の減衰

3.4.4 新傾向オリジナル問題の分析

3.4.4.1 基礎分析

平成 30 年度調査においては、先の 2 年度と異なり、調査対象者に対して 4 種類の冊子が用意された。すなわち、出題パターンとして、第 1 問の語彙問題の後、【評論・新記述】【評論・旧記述】（評・評）、【評論・新記述】【小説・旧記述】（評・小）、【小説・新記述】【評論・旧記述】（小・評）、【小説・新記述】【小説・旧記述】（小・小）の 4 種類がある。これらの 4 種類の冊子と過去の 2 年間の調査において、調査対象者の学力水準はどのような関係にあったのか。必ずしも完全な答えにはならないが、全調査対象者に共通に課されていた「語彙問題」を基準にすべく、得点率を比較した。図 13 に分析結果を示す。

平成 28 年度調査、平成 29 年度調査の調査対象者はおおむね 60% 台後半の結果であり、差は約 1.7 ポイントに過ぎない。一方、平成 30 年度調査対象者は、4 種類の冊子の間では最大の差が約 2.7 ポイントと相互にさほど大きな違いではないと考えられる。しかし、おおむね 60% 前後の正答率であり、最も平均正答率が高かった平成 29 年度の値と最も低かった（小・評）とでは、約 10.7 ポイントの差があった。したがって、以下、この状況を踏まえた分析や解釈が必要となる。

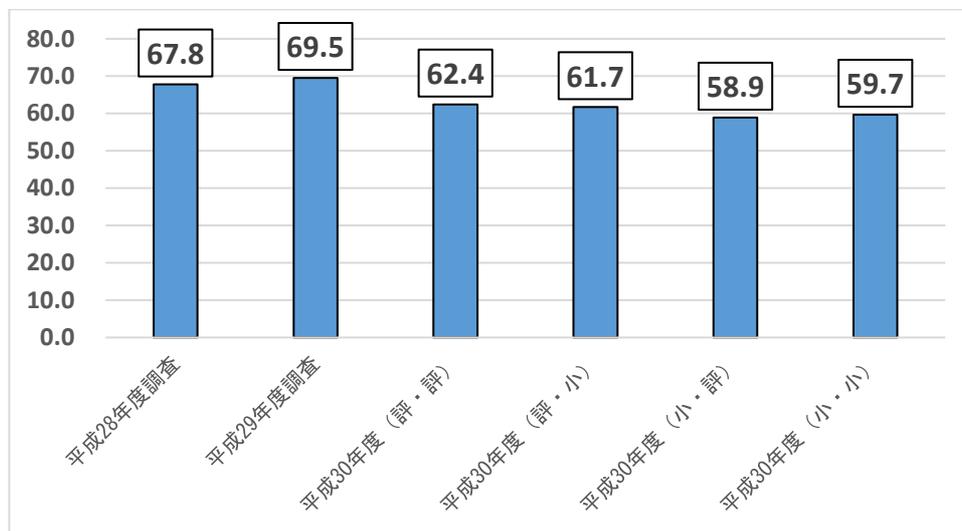


図 13. 調査冊子ごとの語彙問題平均得点率

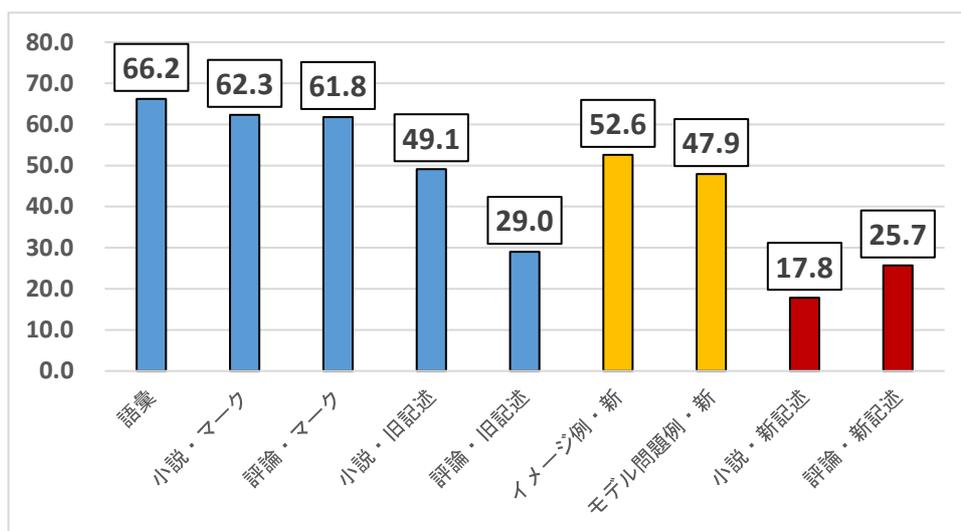


図 14. 大問別平均得点率（国語）

次に、表 2 の割付けに基づいて平均得点率の分析を行った。結果は図 14 に示すとおりである。語彙問題の平均得点率が最も高く、次いでセンター試験の過去問を使用した多肢選択式の【小説・

マーク】【評論・マーク】が 60%台の平均得点率に達していた。平成 28 年度調査、平成 29 年度調査において新傾向問題の代替として用いた【イメージ例・新】が 50%台に達していた。ついで、個別試験を利用した【小説・旧記述】と【モデル問題例・新】が 40%代後半で、ここまでが難易度としては適切な水準の範囲だったと思われる。一方、新傾向オリジナル問題である【小説・新記述】【評論・新記述】は前者が 17.8%、後者が 25.7%の平均正答率と、難易度の面では適切な範囲を超えて難しすぎた。もちろん、調査対象者層の学力者はある程度考慮する必要があるだろう。また、高度な思考力を測定しようと試みたので当然という見方もできるが、入試問題という想定で考えると、課題を残したと言えよう。ただし、【評論・旧記述】も 30%に満たない平均得点率であったことから、実際に調査実施大学側が求める受験生層を考えれば、それほど大きな問題ではないかもしれない。要するに、大学の求める学生像とそれに応じて志願する志願者の学力層によって、機能する範囲が自ずから限定されることを念頭に置く必要があるということだろう。

3.4.4.2 5 分位図

「国語」を受験した調査対象者全てが同一の問題を回答した平成 28 年度調査、平成 29 年度調査とは異なり、平成 30 年度調査では 4 種類の冊子が使われている。また、平成 28、29 年度調査と平成 30 年度調査の調査対象者の間には無視することができない学力差が存在すると考えられる。したがって、通常の方法で冊子ごとに 5 分位図を用いた分析では、それぞれの下位集団の定義が変わることになり、解釈が難しくなると考えられる。

そこで、本稿では全ての受験者が共通に解答した語彙問題の成績を基準として集団を分け、5 分位図を作成することとした。したがって、基準は一律だが、冊子を単位にした場合には各下位集団では均等に五分のずつが割り当てられるわけではない。また、通常の 5 分位図と比べて、総合得点に当該問題の成績が含まれないため、識別性能を表す折れ線の勾配が緩やかになることに留意する必要がある。その上で、大問単位の結果は図 15 に示すとおりである。

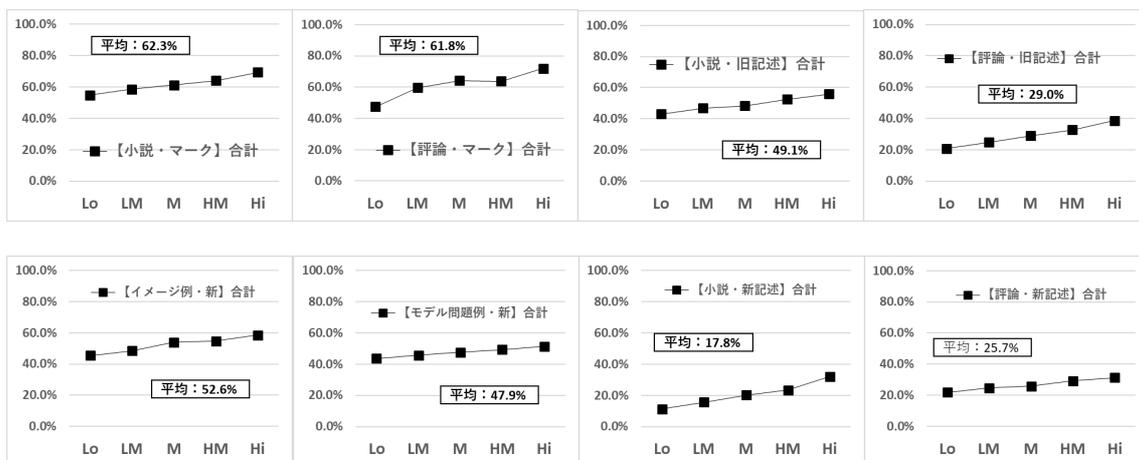


図 15. 大問別 5 分位図（国語）（集団分類は語彙問題による）

全体として識別性能は低い。とりわけ、【モデル問題例・新】は上位群から下位群までの得点率の差が 10%程度しかない。それと比べると、【小説・新記述】は全体の得点率が低いわりには識別性能が保たれていると言える。下位集団への分類基準が語彙問題の成績であることから、語彙と関連が深い能力が測定されていたためだということは言えるが、識別性能が出ないことが他の能力を測定していることの証明にはならないことを考えると、結果的には選抜試験として必要な機能を備えていたことになる。なお、識別性能の面で最も優れていたのはセンター試験の過去問から選んだ【評論・マーク】の問題であった。

なお、小問単位の 5 分位図は資料に採録されている。

3.4.4.3 新傾向問題のイメージ

SD 法を用いて収集した大問のイメージに関するデータについて、教員調査と同様の方法で因子分析を行った。その結果を表 12 に示す。教員調査の結果と類似しているが、部分的に異なるところも

あった。そこで、因子名は第1因子を「意欲・関心」、第2因子を「知識・能力」、第3因子を「新奇性」と命名することとした。なお、分析対象としたデータには平成 28、29 年度調査で実施した「数学」の各大問も含まれている。

さらに、それぞれの因子に含まれる項目で尺度を構成し、大問ごとにその尺度得点の平均値を算出して各大問のイメージを比較することとした。結果を図 16 に示す。

まず、目につくのは「新傾向問題」に対する「新奇性」の高さである。新傾向オリジナル問題の【小説・新記述】を例外として、国語、数学の【イメージ例・新】【モデル問題例・新】も含めて「新傾向問題」のみがプラスの値を得た。すなわち、調査対象者にとっての「新傾向問題」の最大の特徴は「目新しさ」だったと言える。唯一の例外となった【小説・新記述】は素材文「或日の大石内蔵助」がオーソドックスな近代文学の歴史物であり、調査対象者には国語で出題されがちでありふれた文章と映った可能性がある。調査対象者は設問の目新しさではなく素材文に注目した回答をしたものと思われる。一方、「意欲・関心」は【小説・旧記述】【小説・マーク】と語彙、【イメージ例・新】がプラスの評価を受けていた。二つの小説の素材文「楽隊のうさぎ」と「キリコさんの失敗」が調査対象者にとって、特になじみ深いものだったことが考えられる。【イメージ例・新】も題材が「交通事故死者数」の統計情報を読み解くもので、調査対象者の関心を喚起したものと考えられる。一方、語彙問題および【小説・マーク】の値も高かったことから、マークか記述かという解答形式の問題は調査対象者の意欲の面では大きな影響はなかったようである。「知識・能力」については全ての大問がプラスの印象であったが、特に語彙、【小説・マーク】の値が高かった。いずれも、巷間、形式面から知識問題、暗記問題と批判されがちだが、項目の内容とも照らし合わせると、受験する側の受け止め方にはかなり違ったものがあるように感じられる。

表 12. イメージ項目に関する因子分析の結果（回転後のパターン行列）

因子名	項目	I	II	III
意欲・関心	S2_嫌いな-好きな	.918	-.100	.055
	S8_解きたくない-解きたい	.844	-.017	-.018
	S7_むりそう-できそう	.765	-.064	-.191
	S1_つまらない-おもしろい	.738	.075	.202
	S6_意地悪な-素直な	.483	.047	-.330
知識・能力	S12_無意味な-有意義な	.076	.811	.057
	S11_実力がわからない-実力がわかる	-.082	.732	.000
	S3_ふざけた-まじめな	-.183	.651	-.151
	S10_役に立たない-役に立つ	.186	.597	.044
	S9_下品な-上品な	-.017	.463	-.064
新奇性	S5_典型的な-奇抜な	-.087	-.167	.679
	S4_古い-新しい	.103	.291	.354
因子間相関		I	—	.484
		II	—	-.046

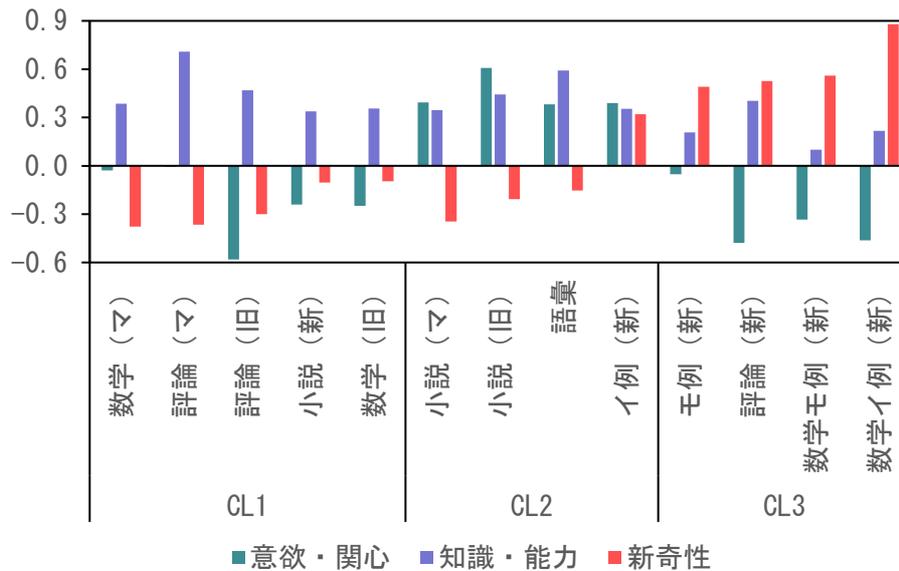


図 16. 各大問の尺度得点平均値

3.4.4.4 新傾向問題で測定された資質・能力の特徴

「数学」のみを対象とした1項目を除いた22項目について、国語の各大問の解答に必要な「資質・能力」として「○」を付した調査対象者の比率を表13に示す。オリジナルの新傾向問題2問について、70%以上が「○」を付した項目についてはアンダーラインとボールドで強調している。

【小説・新記述】と【評論・新記述】の双方で最も高かったのが「16. 読解力」で、いずれも90%近くが「○」を付した。その他、双方に70%以上が「○」を付した項目は「10. 伝達力」「18. 表現力」であった。「16. 読解力」は「小説」あるいは「評論」という素材文を持つ、通常の国語における大問形式の出題を行ったすべての大問で70%が「○」を付していた。また、「18. 表現力」「10. 伝達力」はそれに回答形式が「記述式」の場合と【イメージ例・新】【モデル問題例・新】が「○」70%を超えていた。これらの資質・能力は「従来型」であっても「新傾向」であっても変わらず必要とされる能力と言える。ただし、【イメージ例・新】【モデル問題例・新】は「16. 読解力」を強くは要求しないという意味では新しかったのかもしれない。

【小説・新記述】のみ70%を超えていたのが「8. 感受性」「9. イメージ表現」である。「8. 感受性」はマーク、記述ともに従来型の小説の素材文で70%を超えており、小説のジャンルの特徴と言えるかもしれない。「9. イメージ表現」はマーク式では39.6%と低く、やはり、従来考えられていた通り、「表現」に関わる能力をマーク式で測定するのは難しいようである。一方、【評論・新記述】のみで70%を超えていたのは「6. 情報要約」「7. 文章評価力」「11. 思考形成」「14. 粘り強さ」「17. 要約力」である。そのうち、「11. 思考形成」と「14. 粘り強さ」は【評論・旧記述】でも70%を超えているので「評論」の特徴とも考えられるが、要は論理的な文章を読みこなして自らの表現で解答を書くというプロセスに多くの調査対象者が困難を感じているのかもしれない。「17. 要約力」は従来型の記述式問題で高く、【小説・新記述】も70%に近い値となっていることを考えると、記述式の回答形式の特徴と言えるだろう。「7. 文章評価力」も同様の傾向である。それに対して、「6. 情報集約」は【イメージ例・新】【モデル問題例・新】が90%近くに達しており、新傾向問題の特徴と言えるかもしれない。

表 13. 大問の解答に必要な資質・能力 (%)

	語彙・ N=4,142	評論・ マーク N=1,199	小説・ マーク N=1,534	小説・ 旧 N=1,916	評論・ 旧 N=2,226	イメー ジ・新 N=1,199	モデ ル・新 N=1,534	小説・ 新 N=695	評論・ 新 N=714
1 言葉の働き	87.9%	49.1%	42.4%	29.4%	41.2%	20.4%	19.7%	41.0%	38.1%
2 言葉の特徴	75.7%	34.5%	31.9%	20.8%	28.3%	16.8%	15.6%	37.0%	28.4%
3 言葉の使い方	79.5%	39.3%	40.5%	34.2%	35.7%	39.0%	24.9%	46.8%	38.5%
4 言語文化	50.0%	29.9%	22.6%	18.2%	33.5%	8.6%	15.7%	37.6%	50.8%

5	一般常識	70.7%	48.1%	22.5%	20.1%	32.0%	63.8%	61.2%	22.3%	44.7%
6	情報集約	3.3%	33.3%	11.0%	28.9%	45.1%	88.9%	85.2%	49.1%	80.7%
7	文章評価力	3.3%	25.0%	24.1%	71.6%	69.3%	77.4%	67.8%	69.6%	78.7%
8	感受性	23.6%	33.4%	72.4%	79.3%	35.7%	27.5%	24.7%	77.0%	51.4%
9	イメージ表現	9.3%	19.5%	39.6%	79.4%	51.4%	62.4%	55.6%	79.7%	60.6%
10	伝達力	8.7%	26.4%	27.6%	74.5%	68.8%	81.8%	73.7%	74.1%	79.1%
11	思考形成	4.1%	58.3%	30.5%	61.8%	72.2%	64.1%	63.2%	65.6%	80.1%
12	感情統制力	8.4%	30.6%	34.6%	43.0%	32.3%	21.5%	26.1%	38.4%	31.7%
13	歴史継承	25.2%	22.8%	8.7%	12.0%	28.5%	7.4%	22.8%	25.6%	32.9%
14	粘り強さ	6.4%	68.4%	29.9%	60.2%	73.9%	46.9%	46.5%	65.9%	77.6%
15	多様な考え	8.7%	44.0%	19.3%	39.9%	43.8%	62.1%	66.6%	52.5%	69.3%
16	読解力	4.4%	94.3%	79.7%	87.7%	91.3%	34.2%	48.8%	89.9%	87.4%
17	要約力	2.4%	52.0%	23.9%	70.7%	86.0%	56.0%	64.4%	68.1%	81.8%
18	表現力	7.0%	24.0%	32.0%	84.2%	71.3%	76.9%	72.2%	82.9%	72.7%
19	コミュニケーション	11.0%	6.2%	23.1%	30.2%	12.8%	47.4%	41.1%	22.6%	23.2%
20	統計的思考力	2.7%	15.4%	9.4%	13.4%	33.3%	87.7%	66.4%	28.3%	49.4%
21	論理的思考力	3.2%	79.2%	21.8%	38.5%	75.8%	40.5%	43.4%	41.4%	67.1%
22	図やグラフ	1.4%	3.3%	2.7%	2.6%	8.6%	84.9%	63.6%	5.3%	20.3%

次に表 13 に基づき、対応分析を行った。なお、語彙問題と「22. 図やグラフ」を加えると極端な値に引きずられて図の付置が崩れることから、これらの変数を取り除いて分析を行っている。

第1軸（イナーシャ=.051, 寄与率 41.4%）を横軸, 第2軸（イナーシャ=.030, 寄与率 24.5%）を縦軸にして、資質・能力と試験問題を布置した。全体的な傾向としては、楕円形の囲みで示したように、「数学」は右上, 国語の「マーク式」は右下, イメージ例とモデル問題例の新傾向問題サンプルは左側とそれぞれの特徴を示したのに対し、従来型と新傾向の「記述式」4問は中央に付置されて、相互によく似た特徴を示したことが分かる。

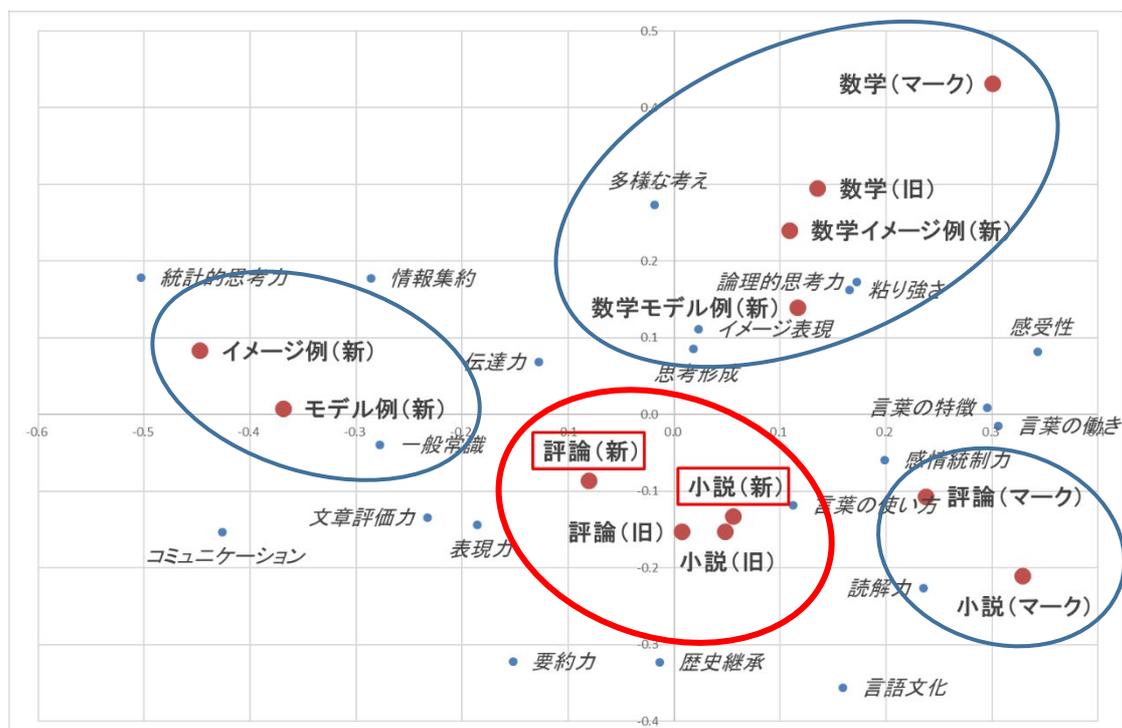


図 17. 各大問が測定している資質・能力

参考文献

- 独立行政法人大学入試センター (2016). 『「大学入学共通テスト (仮称)」記述式問題のモデル問題例』
<<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00009385.pdf&n=%E8%A8%98%E8%BF%B0%E5%BC%8F%E5%95%8F%E9%A1%8C%E3%81%AE%E3%83%A2%E3%83%87%E3%83%AB%E5%95%8F%E9%A1%8C%E4%BE%8B.pdf>>
- 高大接続システム改革会議 (2015). 『「大学入学希望者学力評価テスト (仮称)」で評価すべき能力と記述式問題イメージ例【たたき台】』高大接続改革システム会議 (第9回) 配付資料
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2015/12/22/1365554_06_1.pdf> (2019年5月16日)
- 宮本友弘・倉元直樹・田中光晴 (2017). 「問題の出題形式と測定する資質・能力の関係に関するテスト理論・測定学に基づく分析」『日本テスト学会第15回大会発表論文抄録集』, 130 - 133.
- 田中光晴・宮本友弘・倉元直樹 (2018). 「新共通テスト(イメージ例)が測定する資質・能力の分析—高校生対象のモニター調査から—」『大学入試研究ジャーナル』28, 1 - 6 .
- 平直樹・前川眞一・小野博・林部英雄・内田照久 (1998). 「日本語基礎能力テストの項目プールの作成」『大学入試センター研究紀要』.28, 1-12.

執筆者・分析者・協力者リスト

執筆責任者：倉元直樹 (東北大学)

分析者：宮本友弘, 倉元直樹, 泉毅 (東北大学)

作題採点協力者：庄司強 (東北大学), 伊藤博美 (秋田県立秋田北高等学校)

研究協力者：鈴木道男 (平成28年担当者), 長濱裕幸 (平成29~30年担当者), 石上正敏, 樫田豪利, 秦野進一

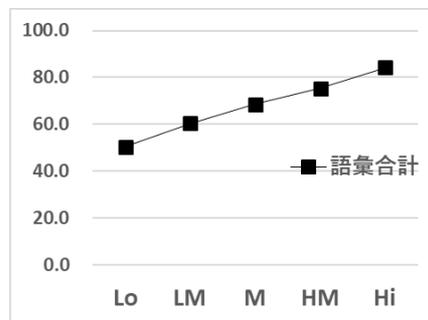
(東北大学)

1. 平成 28 年度「国語」

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
国語合計	Lo	36.2	8.6	8.0	46.0	224
国語合計	LM	51.8	2.5	47.0	55.0	215
国語合計	M	59.1	2.0	56.0	62.0	247
国語合計	HM	66.0	2.0	63.0	69.0	224
国語合計	Hi	75.1	4.3	70.0	88.0	219

1.1. 第 1 問 【語彙】

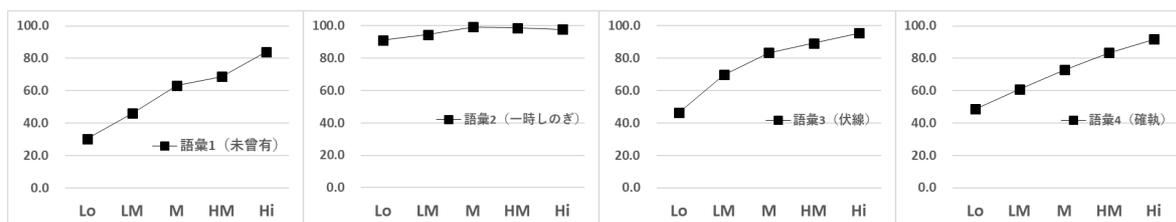
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙合計	Lo	50.4	17.6	5.0	100.0	224
語彙合計	LM	60.3	16.4	15.0	100.0	215
語彙合計	M	68.6	14.2	15.0	95.0	247
語彙合計	HM	75.3	13.0	30.0	100.0	224
語彙合計	Hi	84.2	11.3	50.0	100.0	219



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙 1 (未曾有)	Lo	30.4	46.0	0.0	100.0	224
語彙 1 (未曾有)	LM	46.0	49.8	0.0	100.0	215
語彙 1 (未曾有)	M	63.2	48.2	0.0	100.0	247
語彙 1 (未曾有)	HM	68.8	46.4	0.0	100.0	224
語彙 1 (未曾有)	Hi	84.0	36.6	0.0	100.0	219
語彙 2 (一時しのぎ)	Lo	91.1	28.5	0.0	100.0	224
語彙 2 (一時しのぎ)	LM	94.4	23.0	0.0	100.0	215
語彙 2 (一時しのぎ)	M	99.2	9.0	0.0	100.0	247

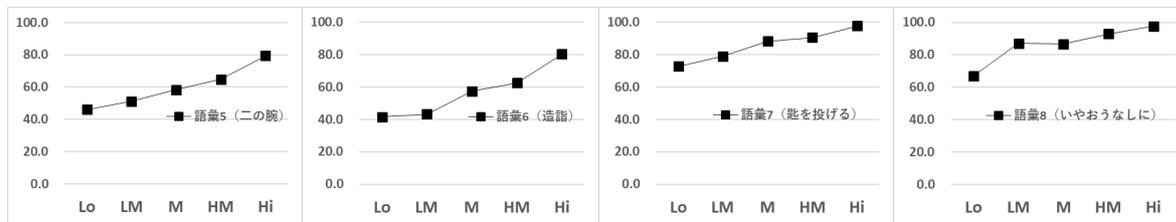
語彙2 (一時しのぎ)	HM	98.7	11.5	0.0	100.0	224
語彙2 (一時しのぎ)	Hi	97.7	14.9	0.0	100.0	219
語彙3 (伏線)	Lo	46.4	49.9	0.0	100.0	224
語彙3 (伏線)	LM	69.8	45.9	0.0	100.0	215
語彙3 (伏線)	M	83.4	37.2	0.0	100.0	247
語彙3 (伏線)	HM	89.3	30.9	0.0	100.0	224
語彙3 (伏線)	Hi	95.4	20.9	0.0	100.0	219

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙4 (確執)	Lo	48.7	50.0	0.0	100.0	224
語彙4 (確執)	LM	60.9	48.8	0.0	100.0	215
語彙4 (確執)	M	72.9	44.5	0.0	100.0	247
語彙4 (確執)	HM	83.5	37.1	0.0	100.0	224
語彙4 (確執)	Hi	91.8	27.5	0.0	100.0	219



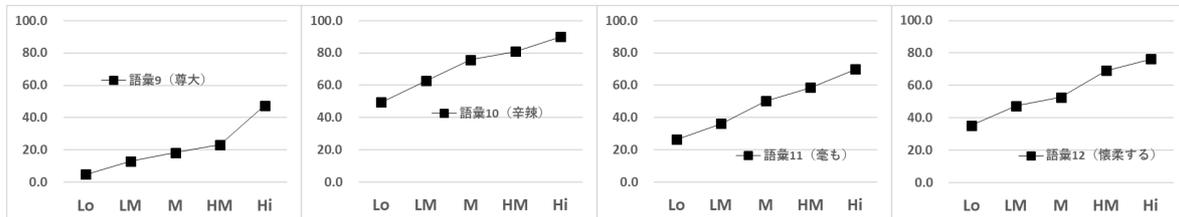
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙5 (二の腕)	Lo	46.0	49.8	0.0	100.0	224
語彙5 (二の腕)	LM	51.2	50.0	0.0	100.0	215
語彙5 (二の腕)	M	58.3	49.3	0.0	100.0	247
語彙5 (二の腕)	HM	64.7	47.8	0.0	100.0	224
語彙5 (二の腕)	Hi	79.5	40.4	0.0	100.0	219
語彙6 (造詣)	Lo	41.5	49.3	0.0	100.0	224
語彙6 (造詣)	LM	43.3	49.5	0.0	100.0	215
語彙6 (造詣)	M	57.5	49.4	0.0	100.0	247
語彙6 (造詣)	HM	62.5	48.4	0.0	100.0	224
語彙6 (造詣)	Hi	80.4	39.7	0.0	100.0	219
語彙7 (匙を投げる)	Lo	72.8	44.5	0.0	100.0	224
語彙7 (匙を投げる)	LM	79.1	40.7	0.0	100.0	215

語彙7 (匙を投げる)	M	88.3	32.2	0.0	100.0	247
語彙7 (匙を投げる)	HM	90.6	29.1	0.0	100.0	224
語彙7 (匙を投げる)	Hi	97.7	14.9	0.0	100.0	219
語彙8 (いやおうなしに)	Lo	67.0	47.0	0.0	100.0	224
語彙8 (いやおうなしに)	LM	87.0	33.7	0.0	100.0	215
語彙8 (いやおうなしに)	M	86.6	34.0	0.0	100.0	247
語彙8 (いやおうなしに)	HM	92.9	25.8	0.0	100.0	224
語彙8 (いやおうなしに)	Hi	97.7	14.9	0.0	100.0	219



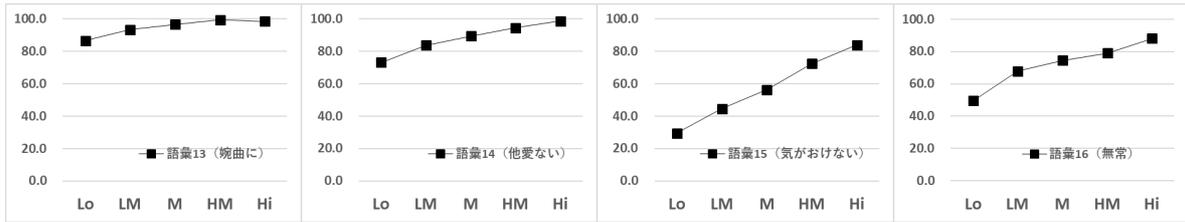
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙9 (尊大)	Lo	4.9	21.6	0.0	100.0	224
語彙9 (尊大)	LM	13.0	33.7	0.0	100.0	215
語彙9 (尊大)	M	18.2	38.6	0.0	100.0	247
語彙9 (尊大)	HM	23.2	42.2	0.0	100.0	224
語彙9 (尊大)	Hi	47.5	49.9	0.0	100.0	219
語彙10 (辛辣)	Lo	49.6	50.0	0.0	100.0	224
語彙10 (辛辣)	LM	62.8	48.3	0.0	100.0	215
語彙10 (辛辣)	M	75.7	42.9	0.0	100.0	247
語彙10 (辛辣)	HM	80.8	39.4	0.0	100.0	224
語彙10 (辛辣)	Hi	90.0	30.1	0.0	100.0	219
語彙11 (毫も)	Lo	26.3	44.0	0.0	100.0	224
語彙11 (毫も)	LM	36.3	48.1	0.0	100.0	215
語彙11 (毫も)	M	50.2	50.0	0.0	100.0	247
語彙11 (毫も)	HM	58.5	49.3	0.0	100.0	224
語彙11 (毫も)	Hi	69.9	45.9	0.0	100.0	219
語彙12 (懐柔する)	Lo	35.3	47.8	0.0	100.0	224
語彙12 (懐柔する)	LM	47.4	49.9	0.0	100.0	215

語彙 12 (懐柔する)	M	52.6	49.9	0.0	100.0	247
語彙 12 (懐柔する)	HM	69.2	46.2	0.0	100.0	224
語彙 12 (懐柔する)	Hi	76.3	42.6	0.0	100.0	219

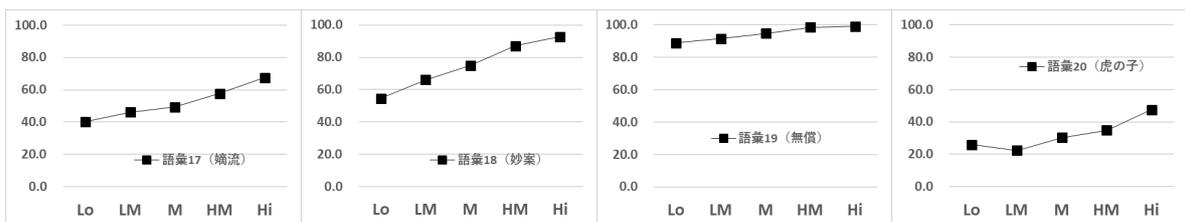


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙 13 (婉曲に)	Lo	86.6	34.1	0.0	100.0	224
語彙 13 (婉曲に)	LM	93.5	24.7	0.0	100.0	215
語彙 13 (婉曲に)	M	96.8	17.7	0.0	100.0	247
語彙 13 (婉曲に)	HM	99.6	6.7	0.0	100.0	224
語彙 13 (婉曲に)	Hi	98.6	11.6	0.0	100.0	219
語彙 14 (他愛ない)	Lo	73.2	44.3	0.0	100.0	224
語彙 14 (他愛ない)	LM	83.7	36.9	0.0	100.0	215
語彙 14 (他愛ない)	M	89.5	30.7	0.0	100.0	247
語彙 14 (他愛ない)	HM	94.6	22.5	0.0	100.0	224
語彙 14 (他愛ない)	Hi	98.6	11.6	0.0	100.0	219

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙 15 (気がおけない)	Lo	29.5	45.6	0.0	100.0	224
語彙 15 (気がおけない)	LM	44.7	49.7	0.0	100.0	215
語彙 15 (気がおけない)	M	56.3	49.6	0.0	100.0	247
語彙 15 (気がおけない)	HM	72.3	44.7	0.0	100.0	224
語彙 15 (気がおけない)	Hi	84.0	36.6	0.0	100.0	219
語彙 16 (無常)	Lo	49.6	50.0	0.0	100.0	224
語彙 16 (無常)	LM	67.9	46.7	0.0	100.0	215
語彙 16 (無常)	M	74.5	43.6	0.0	100.0	247
語彙 16 (無常)	HM	79.0	40.7	0.0	100.0	224
語彙 16 (無常)	Hi	88.1	32.3	0.0	100.0	219

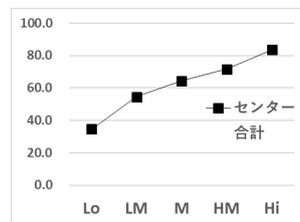


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙 17 (嫡流)	Lo	40.2	49.0	0.0	100.0	224
語彙 17 (嫡流)	LM	46.0	49.8	0.0	100.0	215
語彙 17 (嫡流)	M	49.4	50.0	0.0	100.0	247
語彙 17 (嫡流)	HM	57.6	49.4	0.0	100.0	224
語彙 17 (嫡流)	Hi	67.6	46.8	0.0	100.0	219
語彙 18 (妙案)	Lo	54.5	49.8	0.0	100.0	224
語彙 18 (妙案)	LM	66.0	47.4	0.0	100.0	215
語彙 18 (妙案)	M	74.9	43.4	0.0	100.0	247
語彙 18 (妙案)	HM	87.1	33.6	0.0	100.0	224
語彙 18 (妙案)	Hi	92.7	26.0	0.0	100.0	219
語彙 19 (無償)	Lo	88.8	31.5	0.0	100.0	224
語彙 19 (無償)	LM	91.6	27.7	0.0	100.0	215
語彙 19 (無償)	M	94.7	22.3	0.0	100.0	247
語彙 19 (無償)	HM	98.7	11.5	0.0	100.0	224
語彙 19 (無償)	Hi	99.1	9.5	0.0	100.0	219
語彙 20 (虎の子)	Lo	25.9	43.8	0.0	100.0	224
語彙 20 (虎の子)	LM	22.3	41.6	0.0	100.0	215
語彙 20 (虎の子)	M	30.4	46.0	0.0	100.0	247
語彙 20 (虎の子)	HM	34.8	47.6	0.0	100.0	224
語彙 20 (虎の子)	Hi	47.5	49.9	0.0	100.0	219



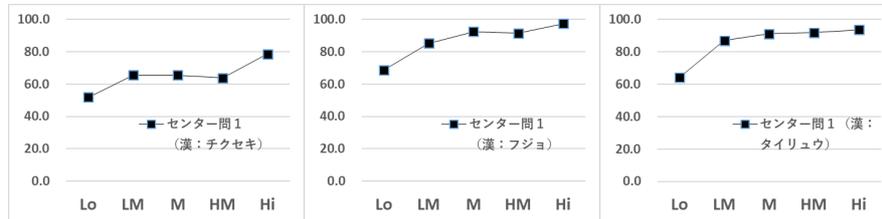
1.2. 第2問 センター試験【評論・マーク】

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター合計	Lo	34.6	15.9	0.0	76.7	224
センター合計	LM	54.6	14.9	16.7	96.7	215
センター合計	M	64.5	14.4	16.7	100.0	247
センター合計	HM	71.6	12.7	36.7	100.0	224
センター合計	Hi	83.7	11.5	50.0	100.0	219

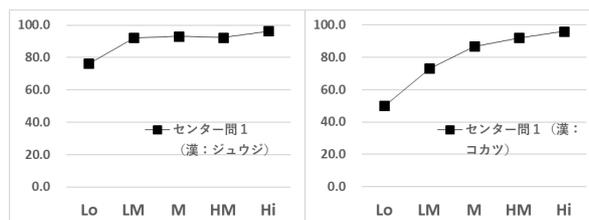


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター問1 (漢: チクセキ)	Lo	51.8	50.0	0.0	100.0	224
センター問1 (漢: チクセキ)	LM	65.6	47.5	0.0	100.0	215
センター問1 (漢: チクセキ)	M	65.6	47.5	0.0	100.0	247
センター問1 (漢: チクセキ)	HM	63.8	48.0	0.0	100.0	224
センター問1 (漢: チクセキ)	Hi	78.5	41.1	0.0	100.0	219
センター問1 (漢: フジョ)	Lo	68.8	46.4	0.0	100.0	224
センター問1 (漢: フジョ)	LM	85.1	35.6	0.0	100.0	215
センター問1 (漢: フジョ)	M	92.3	26.6	0.0	100.0	247
センター問1 (漢: フジョ)	HM	91.5	27.9	0.0	100.0	224
センター問1 (漢: フジョ)	Hi	97.3	16.3	0.0	100.0	219
センター問1 (漢: タイリュウ)	Lo	64.3	47.9	0.0	100.0	224
センター問1 (漢: タイリュウ)	LM	87.0	33.7	0.0	100.0	215
センター問1 (漢: タイリュウ)	M	91.1	28.5	0.0	100.0	247
センター問1 (漢: タイリュウ)	HM	92.0	27.2	0.0	100.0	224

センター問1 (漢：タイリュウ)	Hi	93.6	24.5	0.0	100.0	219
------------------	----	------	------	-----	-------	-----



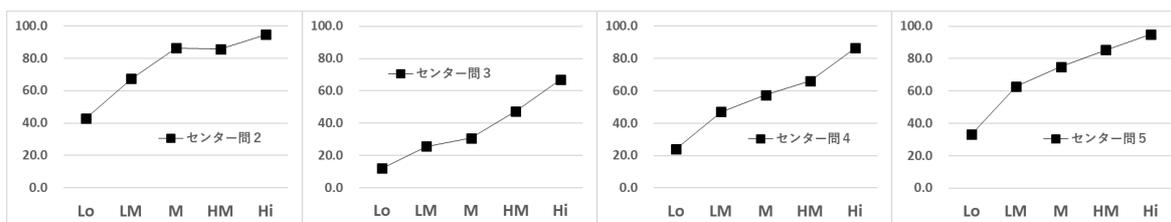
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター問1 (漢：ジュウジ)	Lo	76.3	42.5	0.0	100.0	224
センター問1 (漢：ジュウジ)	LM	92.1	27.0	0.0	100.0	215
センター問1 (漢：ジュウジ)	M	93.1	25.3	0.0	100.0	247
センター問1 (漢：ジュウジ)	HM	92.4	26.5	0.0	100.0	224
センター問1 (漢：ジュウジ)	Hi	96.3	18.8	0.0	100.0	219
センター問1 (漢：コカツ)	Lo	50.0	50.0	0.0	100.0	224
センター問1 (漢：コカツ)	LM	73.0	44.4	0.0	100.0	215
センター問1 (漢：コカツ)	M	86.6	34.0	0.0	100.0	247
センター問1 (漢：コカツ)	HM	92.0	27.2	0.0	100.0	224
センター問1 (漢：コカツ)	Hi	95.9	19.9	0.0	100.0	219



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター問2	Lo	42.9	49.5	0.0	100.0	224
センター問2	LM	67.4	46.9	0.0	100.0	215
センター問2	M	86.2	34.5	0.0	100.0	247
センター問2	HM	85.7	35.0	0.0	100.0	224
センター問2	Hi	94.5	22.8	0.0	100.0	219
センター問3	Lo	12.1	32.6	0.0	100.0	224

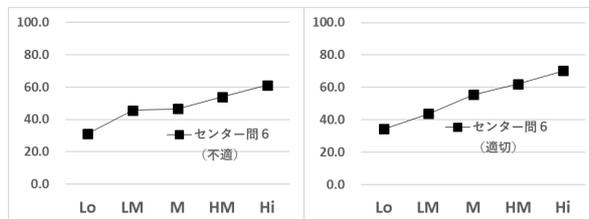
センター問 3	LM	25.6	43.6	0.0	100.0	215
センター問 3	M	30.8	46.2	0.0	100.0	247
センター問 3	HM	47.3	49.9	0.0	100.0	224
センター問 3	Hi	67.1	47.0	0.0	100.0	219
センター問 4	Lo	24.1	42.8	0.0	100.0	224
センター問 4	LM	47.0	49.9	0.0	100.0	215
センター問 4	M	57.5	49.4	0.0	100.0	247
センター問 4	HM	66.1	47.3	0.0	100.0	224
センター問 4	Hi	86.3	34.4	0.0	100.0	219

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター問 5	Lo	33.0	47.0	0.0	100.0	224
センター問 5	LM	62.8	48.3	0.0	100.0	215
センター問 5	M	74.9	43.4	0.0	100.0	247
センター問 5	HM	85.3	35.4	0.0	100.0	224
センター問 5	Hi	95.0	21.8	0.0	100.0	219



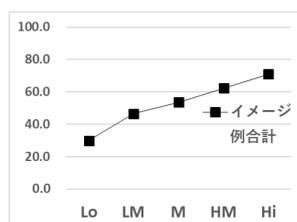
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター問 6 (不適)	Lo	31.3	46.4	0.0	100.0	224
センター問 6 (不適)	LM	45.6	49.8	0.0	100.0	215
センター問 6 (不適)	M	46.6	49.9	0.0	100.0	247
センター問 6 (不適)	HM	54.0	49.8	0.0	100.0	224
センター問 6 (不適)	Hi	61.2	48.7	0.0	100.0	219
センター問 6 (適切)	Lo	34.4	47.5	0.0	100.0	224
センター問 6 (適切)	LM	43.7	49.6	0.0	100.0	215

センター問6 (適切)	M	55.5	49.7	0.0	100.0	247
センター問6 (適切)	HM	62.1	48.5	0.0	100.0	224
センター問6 (適切)	Hi	70.3	45.7	0.0	100.0	219



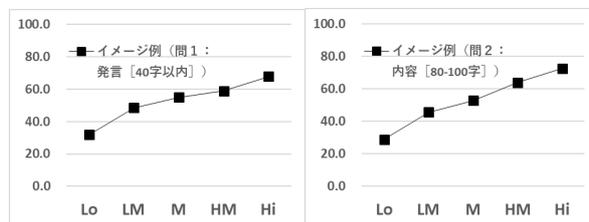
1.3. 第3問 【イメージ例・新】

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
イメージ例合計	Lo	29.8	24.4	0.0	86.7	224
イメージ例合計	LM	46.6	24.0	0.0	86.7	215
イメージ例合計	M	53.5	23.3	0.0	93.3	247
イメージ例合計	HM	62.3	20.0	0.0	93.3	224
イメージ例合計	Hi	70.9	16.2	0.0	100.0	219



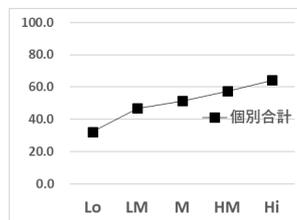
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
イメージ例 (問1: 発言 [40字以内])	Lo	31.8	37.5	0.0	100.0	224
イメージ例 (問1: 発言 [40字以内])	LM	48.5	38.6	0.0	100.0	215
イメージ例 (問1: 発言 [40字以内])	M	54.9	36.6	0.0	100.0	247
イメージ例 (問1: 発言 [40字以内])	HM	59.0	33.8	0.0	100.0	224

イメージ例 (問1: 発言 [40字以内])	Hi	67.8	28.3	0.0	100.0	219
イメージ例 (問2: 内容 [80-100字])	Lo	28.8	31.2	0.0	100.0	224
イメージ例 (問2: 内容 [80-100字])	LM	45.6	31.6	0.0	90.0	215
イメージ例 (問2: 内容 [80-100字])	M	52.8	29.8	0.0	100.0	247
イメージ例 (問2: 内容 [80-100字])	HM	63.9	27.6	0.0	100.0	224
イメージ例 (問2: 内容 [80-100字])	Hi	72.4	20.1	0.0	100.0	219



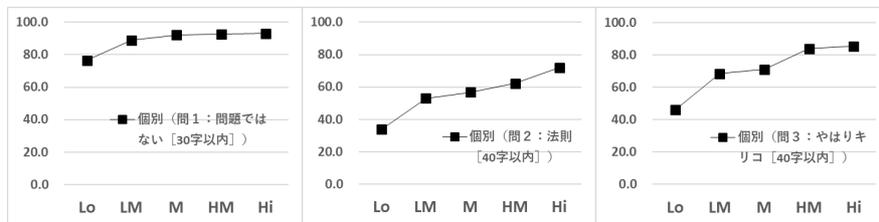
1.4. 第4問 個別試験【小説・旧記述】

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
個別合計	Lo	32.3	15.8	0.0	62.9	224
個別合計	LM	46.8	11.3	14.3	71.4	215
個別合計	M	51.3	10.6	20.0	77.1	247
個別合計	HM	57.4	9.9	34.3	82.9	224
個別合計	Hi	64.3	10.5	34.3	88.6	219



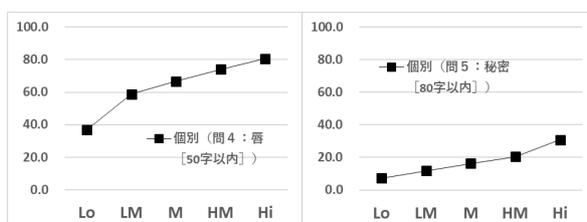
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
個別 (問1: 問題ではない [30字以内])	Lo	76.6	37.2	0.0	100.0	224
個別 (問1: 問題ではない [30字以内])	LM	89.0	22.7	0.0	100.0	215

個別（問1：問題ではない [30字以内]）	M	92.2	18.9	0.0	100.0	247
個別（問1：問題ではない [30字以内]）	HM	92.6	13.0	0.0	100.0	224
個別（問1：問題ではない [30字以内]）	Hi	93.2	17.0	0.0	100.0	219
個別（問2：法則 [40字以内]）	Lo	33.7	30.3	0.0	100.0	224
個別（問2：法則 [40字以内]）	LM	53.0	30.7	0.0	100.0	215
個別（問2：法則 [40字以内]）	M	56.7	31.9	0.0	100.0	247
個別（問2：法則 [40字以内]）	HM	62.3	32.1	0.0	100.0	224
個別（問2：法則 [40字以内]）	Hi	72.1	29.5	0.0	100.0	219
個別（問3：やはりキリコ [40字以内]）	Lo	46.0	39.0	0.0	100.0	224
個別（問3：やはりキリコ [40字以内]）	LM	68.4	36.0	0.0	100.0	215
個別（問3：やはりキリコ [40字以内]）	M	71.1	34.2	0.0	100.0	247
個別（問3：やはりキリコ [40字以内]）	HM	83.9	26.9	0.0	100.0	224
個別（問3：やはりキリコ [40字以内]）	Hi	85.3	27.0	0.0	100.0	219



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
個別（問4：唇 [50字以内]）	Lo	36.7	39.8	0.0	100.0	224
個別（問4：唇 [50字以内]）	LM	58.8	37.0	0.0	100.0	215
個別（問4：唇 [50字以内]）	M	66.7	35.0	0.0	100.0	247
個別（問4：唇 [50字以内]）	HM	74.0	29.8	0.0	100.0	224
個別（問4：唇 [50字以内]）	Hi	80.7	24.8	0.0	100.0	219
個別（問5：秘密 [80字以内]）	Lo	7.3	13.5	0.0	58.3	224
個別（問5：秘密 [80字以内]）	LM	11.7	15.9	0.0	66.7	215

個別（問5：秘密 [80字以内]）	M	16.3	18.1	0.0	75.0	247
個別（問5：秘密 [80字以内]）	HM	20.4	19.2	0.0	66.7	224
個別（問5：秘密 [80字以内]）	Hi	30.8	22.6	0.0	75.0	219

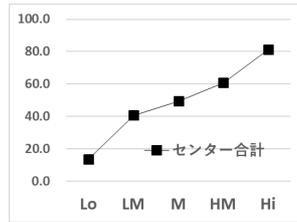


2. 平成28年度「数学」

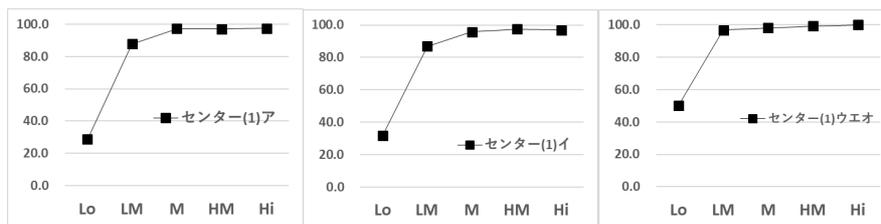
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
数学合計	Lo	4.8	3.4	0.0	10.0	234
数学合計	LM	13.6	1.5	11.0	16.0	220
数学合計	M	18.6	1.1	17.0	21.0	214
数学合計	HM	25.1	2.3	22.0	29.0	236
数学合計	Hi	39.2	9.4	30.0	73.0	226

2.1. 第1問 センター試験【マーク】

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター合計	Lo	13.7	11.1	0.0	33.3	234
センター合計	LM	40.7	8.0	0.0	53.3	220
センター合計	M	49.4	9.6	10.0	63.3	214
センター合計	HM	60.7	14.0	0.0	86.7	236
センター合計	Hi	81.2	18.3	23.3	100.0	226

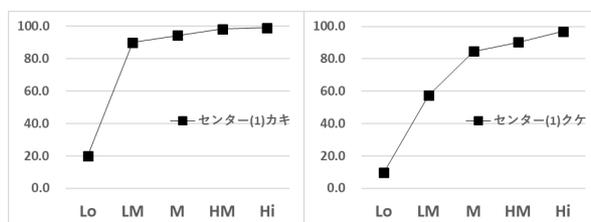


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター(1)ア	Lo	28.6	45.2	0.0	100.0	234
センター(1)ア	LM	87.7	32.8	0.0	100.0	220
センター(1)ア	M	97.2	16.5	0.0	100.0	214
センター(1)ア	HM	97.0	17.0	0.0	100.0	236
センター(1)ア	Hi	97.3	16.1	0.0	100.0	226
センター(1)イ	Lo	31.6	46.5	0.0	100.0	234
センター(1)イ	LM	86.8	33.8	0.0	100.0	220
センター(1)イ	M	95.8	20.1	0.0	100.0	214
センター(1)イ	HM	97.5	15.7	0.0	100.0	236
センター(1)イ	Hi	96.9	17.3	0.0	100.0	226
センター(1)ウエオ	Lo	50.0	50.0	0.0	100.0	234
センター(1)ウエオ	LM	96.8	17.6	0.0	100.0	220
センター(1)ウエオ	M	98.1	13.5	0.0	100.0	214
センター(1)ウエオ	HM	99.2	9.2	0.0	100.0	236
センター(1)ウエオ	Hi	100.0	0.0	100.0	100.0	226

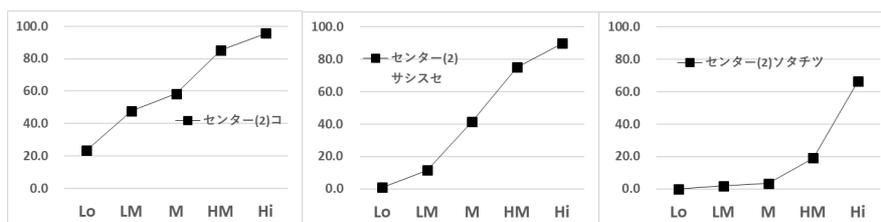


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター(1)カキ	Lo	20.1	40.1	0.0	100.0	234
センター(1)カキ	LM	90.0	30.0	0.0	100.0	220
センター(1)カキ	M	94.4	23.0	0.0	100.0	214
センター(1)カキ	HM	98.3	12.9	0.0	100.0	236
センター(1)カキ	Hi	99.1	9.4	0.0	100.0	226
センター(1)クケ	Lo	9.8	29.8	0.0	100.0	234

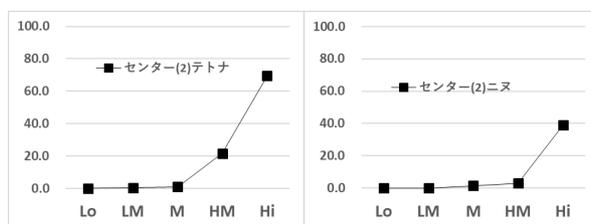
センター(1)クケ	LM	57.3	49.5	0.0	100.0	220
センター(1)クケ	M	84.6	36.1	0.0	100.0	214
センター(1)クケ	HM	90.3	29.7	0.0	100.0	236
センター(1)クケ	Hi	96.9	17.3	0.0	100.0	226



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター(2)コ	Lo	23.5	42.4	0.0	100.0	234
センター(2)コ	LM	47.7	49.9	0.0	100.0	220
センター(2)コ	M	58.4	49.3	0.0	100.0	214
センター(2)コ	HM	85.2	35.5	0.0	100.0	236
センター(2)コ	Hi	95.6	20.6	0.0	100.0	226
センター(2)サシスセ	Lo	0.9	9.2	0.0	100.0	234
センター(2)サシスセ	LM	11.4	31.7	0.0	100.0	220
センター(2)サシスセ	M	41.6	49.3	0.0	100.0	214
センター(2)サシスセ	HM	75.0	43.3	0.0	100.0	236
センター(2)サシスセ	Hi	89.8	30.2	0.0	100.0	226
センター(2)ソタチツ	Lo	0.0	0.0	0.0	0.0	234
センター(2)ソタチツ	LM	1.8	13.4	0.0	100.0	220
センター(2)ソタチツ	M	3.3	17.8	0.0	100.0	214
センター(2)ソタチツ	HM	19.1	39.3	0.0	100.0	236
センター(2)ソタチツ	Hi	66.4	47.2	0.0	100.0	226

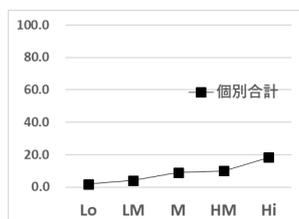


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター(2)テトナ	Lo	0.0	0.0	0.0	0.0	234
センター(2)テトナ	LM	0.5	6.7	0.0	100.0	220
センター(2)テトナ	M	0.9	9.6	0.0	100.0	214
センター(2)テトナ	HM	21.6	41.2	0.0	100.0	236
センター(2)テトナ	Hi	69.5	46.1	0.0	100.0	226
センター(2)ニヌ	Lo	0.0	0.0	0.0	0.0	234
センター(2)ニヌ	LM	0.0	0.0	0.0	0.0	220
センター(2)ニヌ	M	1.4	11.8	0.0	100.0	214
センター(2)ニヌ	HM	3.0	17.0	0.0	100.0	236
センター(2)ニヌ	Hi	38.9	48.8	0.0	100.0	226



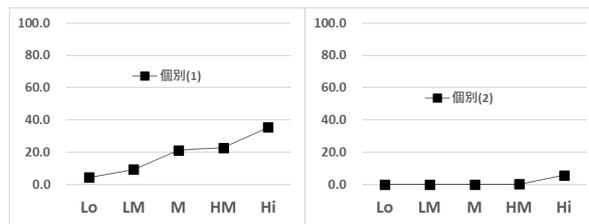
2.2. 第3問 個別試験【旧記述】

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
個別合計	Lo	1.9	4.2	0.0	17.1	234
個別合計	LM	4.0	6.1	0.0	40.0	220
個別合計	M	9.1	6.5	0.0	28.6	214
個別合計	HM	9.9	6.9	0.0	42.9	236
個別合計	Hi	18.4	19.0	0.0	100.0	226



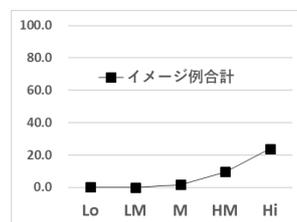
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
個別(1)	Lo	4.3	9.8	0.0	40.0	234
個別(1)	LM	9.4	14.1	0.0	93.3	220
個別(1)	M	21.2	15.3	0.0	66.7	214

個別(1)	HM	22.8	15.0	0.0	60.0	236
個別(1)	Hi	35.4	22.0	0.0	100.0	226
個別(2)	Lo	0.0	0.0	0.0	0.0	234
個別(2)	LM	0.0	0.0	0.0	0.0	220
個別(2)	M	0.0	0.0	0.0	0.0	214
個別(2)	HM	0.3	3.1	0.0	40.0	236
個別(2)	Hi	5.7	19.9	0.0	100.0	226



2.3. 第4問 【イメージ例・新】

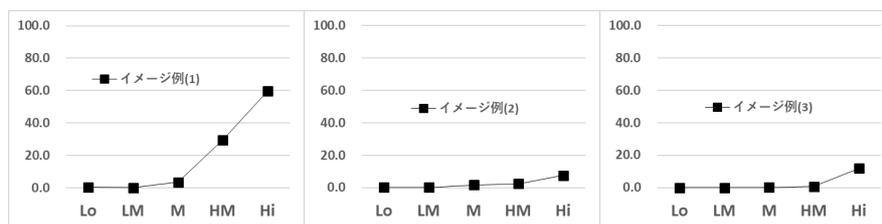
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
イメージ例合計	Lo	0.2	2.0	0.0	28.6	234
イメージ例合計	LM	0.1	0.8	0.0	11.4	220
イメージ例合計	M	1.7	5.8	0.0	40.0	214
イメージ例合計	HM	9.6	13.1	0.0	42.9	236
イメージ例合計	Hi	23.9	20.3	0.0	88.6	226



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
イメージ例(1)	Lo	0.4	6.5	0.0	100.0	234
イメージ例(1)	LM	0.0	0.0	0.0	0.0	220

イメージ例(1)	M	3.4	17.4	0.0	100.0	214
イメージ例(1)	HM	29.6	44.6	0.0	100.0	236
イメージ例(1)	Hi	59.6	48.0	0.0	100.0	226

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
イメージ例(2)	Lo	0.1	2.0	0.0	30.8	234
イメージ例(2)	LM	0.1	2.1	0.0	30.8	220
イメージ例(2)	M	1.7	7.1	0.0	30.8	214
イメージ例(2)	HM	2.4	9.7	0.0	69.2	236
イメージ例(2)	Hi	7.6	15.9	0.0	100.0	226
イメージ例(3)	Lo	0.0	0.0	0.0	0.0	234
イメージ例(3)	LM	0.0	0.0	0.0	0.0	220
イメージ例(3)	M	0.2	2.3	0.0	33.3	214
イメージ例(3)	HM	0.8	7.5	0.0	100.0	236
イメージ例(3)	Hi	11.8	31.6	0.0	100.0	226



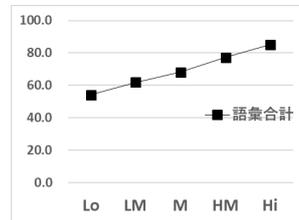
3. 平成 29 年度「国語」

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
国語合計	Lo	31.9	6.2	1.0	38.0	31.9
国語合計	LM	41.6	1.7	39.0	44.0	41.6
国語合計	M	48.0	2.0	45.0	51.0	48.0
国語合計	HM	54.9	2.0	52.0	58.0	54.9
国語合計	Hi	64.5	4.7	59.0	78.0	64.5

3.1. 第1問 【語彙】

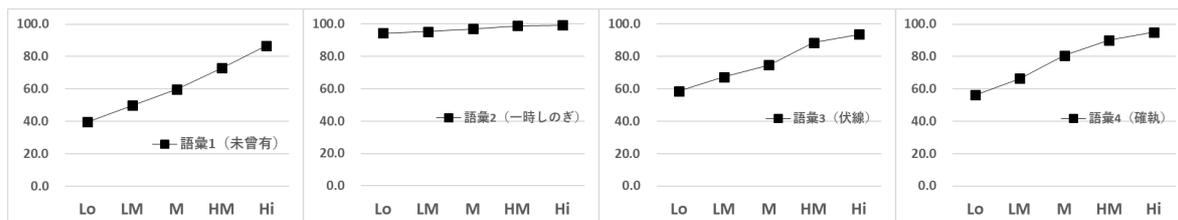
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙合計	Lo	54.2	15.4	5.0	95.0	295
語彙合計	LM	62.0	13.3	25.0	95.0	291

語彙合計	M	68.1	13.8	30.0	100.0	324
語彙合計	HM	77.3	11.5	40.0	100.0	325
語彙合計	Hi	85.1	10.8	50.0	100.0	300



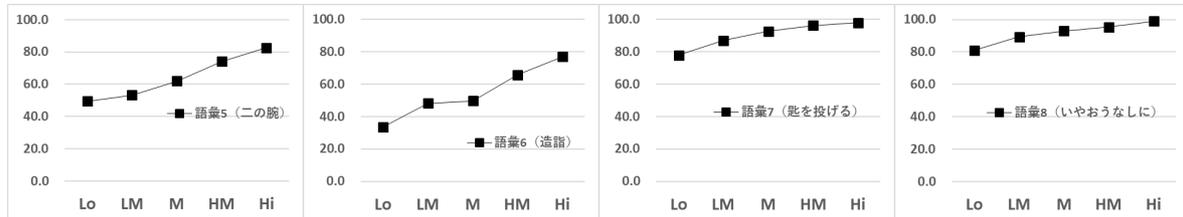
設問 (Question)	群 (Group)	平均得点率 (Average Score Rate)	標準偏差 (Standard Deviation)	最低得点率 (Minimum Score Rate)	最高得点率 (Maximum Score Rate)	人数 (Number of People)
語彙1 (未曾有) (Vocabulary 1 (Unfamiliar))	Lo	39.7	48.9	0.0	100.0	295
語彙1 (未曾有)	LM	49.8	50.0	0.0	100.0	291
語彙1 (未曾有)	M	59.9	49.0	0.0	100.0	324
語彙1 (未曾有)	HM	72.9	44.4	0.0	100.0	325
語彙1 (未曾有)	Hi	86.7	34.0	0.0	100.0	300
語彙2 (一時しのぎ) (Vocabulary 2 (Temporary))	Lo	94.2	23.3	0.0	100.0	295
語彙2 (一時しのぎ)	LM	95.2	21.4	0.0	100.0	291
語彙2 (一時しのぎ)	M	96.9	17.3	0.0	100.0	324
語彙2 (一時しのぎ)	HM	98.8	11.0	0.0	100.0	325
語彙2 (一時しのぎ)	Hi	99.3	8.1	0.0	100.0	300
語彙3 (伏線) (Vocabulary 3 (Clue))	Lo	58.6	49.2	0.0	100.0	295
語彙3 (伏線)	LM	67.4	46.9	0.0	100.0	291
語彙3 (伏線)	M	74.7	43.5	0.0	100.0	324
語彙3 (伏線)	HM	88.6	31.8	0.0	100.0	325
語彙3 (伏線)	Hi	93.7	24.4	0.0	100.0	300

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙4 (確執)	Lo	56.3	49.6	0.0	100.0	295
語彙4 (確執)	LM	66.3	47.3	0.0	100.0	291
語彙4 (確執)	M	80.6	39.6	0.0	100.0	324
語彙4 (確執)	HM	90.2	29.8	0.0	100.0	325
語彙4 (確執)	Hi	95.0	21.8	0.0	100.0	300

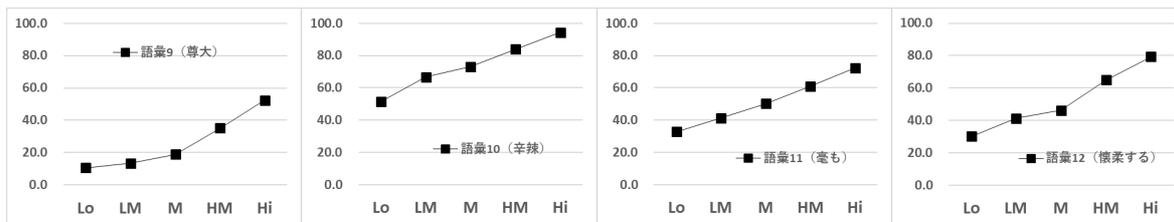


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙5 (二の腕)	Lo	49.5	50.0	0.0	100.0	295
語彙5 (二の腕)	LM	53.3	49.9	0.0	100.0	291
語彙5 (二の腕)	M	62.0	48.5	0.0	100.0	324
語彙5 (二の腕)	HM	74.2	43.8	0.0	100.0	325
語彙5 (二の腕)	Hi	82.7	37.9	0.0	100.0	300
語彙6 (造詣)	Lo	33.6	47.2	0.0	100.0	295
語彙6 (造詣)	LM	48.1	50.0	0.0	100.0	291
語彙6 (造詣)	M	49.7	50.0	0.0	100.0	324
語彙6 (造詣)	HM	65.8	47.4	0.0	100.0	325
語彙6 (造詣)	Hi	77.0	42.1	0.0	100.0	300
語彙7 (匙を投げる)	Lo	78.0	41.4	0.0	100.0	295
語彙7 (匙を投げる)	LM	86.9	33.7	0.0	100.0	291
語彙7 (匙を投げる)	M	92.6	26.2	0.0	100.0	324
語彙7 (匙を投げる)	HM	96.3	18.9	0.0	100.0	325
語彙7 (匙を投げる)	Hi	98.0	14.0	0.0	100.0	300
語彙8 (いやおうなしに)	Lo	81.0	39.2	0.0	100.0	295
語彙8 (いやおうなしに)	LM	89.3	30.9	0.0	100.0	291
語彙8 (いやおうなしに)	M	92.9	25.7	0.0	100.0	324

語彙8 (いやおうなしに)	HM	95.4	21.0	0.0	100.0	325
語彙8 (いやおうなしに)	Hi	99.0	9.9	0.0	100.0	300

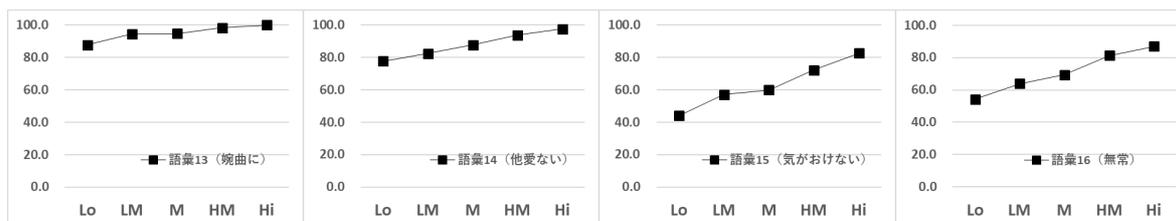


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙9 (尊大)	Lo	10.5	30.7	0.0	100.0	295
語彙9 (尊大)	LM	13.4	34.1	0.0	100.0	291
語彙9 (尊大)	M	18.8	39.1	0.0	100.0	324
語彙9 (尊大)	HM	35.1	47.7	0.0	100.0	325
語彙9 (尊大)	Hi	52.3	49.9	0.0	100.0	300
語彙10 (辛辣)	Lo	51.5	50.0	0.0	100.0	295
語彙10 (辛辣)	LM	66.7	47.1	0.0	100.0	291
語彙10 (辛辣)	M	73.1	44.3	0.0	100.0	324
語彙10 (辛辣)	HM	84.0	36.7	0.0	100.0	325
語彙10 (辛辣)	Hi	94.3	23.1	0.0	100.0	300
語彙11 (毫も)	Lo	32.9	47.0	0.0	100.0	295
語彙11 (毫も)	LM	41.2	49.2	0.0	100.0	291
語彙11 (毫も)	M	50.3	50.0	0.0	100.0	324
語彙11 (毫も)	HM	60.9	48.8	0.0	100.0	325
語彙11 (毫も)	Hi	72.3	44.7	0.0	100.0	300
語彙12 (懐柔する)	Lo	30.2	45.9	0.0	100.0	295
語彙12 (懐柔する)	LM	41.2	49.2	0.0	100.0	291
語彙12 (懐柔する)	M	46.3	49.9	0.0	100.0	324
語彙12 (懐柔する)	HM	64.9	47.7	0.0	100.0	325
語彙12 (懐柔する)	Hi	79.3	40.5	0.0	100.0	300

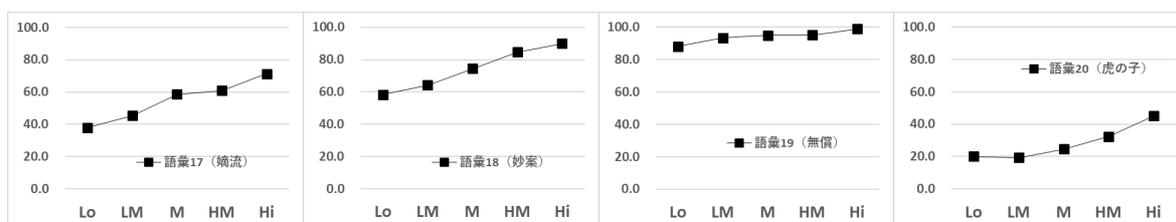


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙 13 (婉曲に)	Lo	87.8	32.7	0.0	100.0	295
語彙 13 (婉曲に)	LM	94.5	22.8	0.0	100.0	291
語彙 13 (婉曲に)	M	94.8	22.3	0.0	100.0	324
語彙 13 (婉曲に)	HM	98.5	12.3	0.0	100.0	325
語彙 13 (婉曲に)	Hi	100.0	0 1	0.0	100.0	300
語彙 14 (他愛ない)	Lo	77.6	41.7	0.0	100.0	295
語彙 14 (他愛ない)	LM	82.5	38.0	0.0	100.0	291
語彙 14 (他愛ない)	M	87.7	32.9	0.0	100.0	324
語彙 14 (他愛ない)	HM	93.8	24.0	0.0	100.0	325
語彙 14 (他愛ない)	Hi	97.7	15.1	0.0	100.0	300

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙 15 (気がおけない)	Lo	44.1	49.6	0.0	100.0	295
語彙 15 (気がおけない)	LM	57.0	49.5	0.0	100.0	291
語彙 15 (気がおけない)	M	59.9	49.0	0.0	100.0	324
語彙 15 (気がおけない)	HM	72.3	44.7	0.0	100.0	325
語彙 15 (気がおけない)	Hi	82.7	37.9	0.0	100.0	300
語彙 16 (無常)	Lo	54.2	49.8	0.0	100.0	295
語彙 16 (無常)	LM	63.9	48.0	0.0	100.0	291
語彙 16 (無常)	M	69.4	46.1	0.0	100.0	324
語彙 16 (無常)	HM	81.2	39.0	0.0	100.0	325
語彙 16 (無常)	Hi	87.0	33.6	0.0	100.0	300

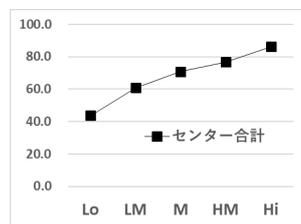


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙 17 (嫡流)	Lo	38.0	48.5	0.0	100.0	295
語彙 17 (嫡流)	LM	45.4	49.8	0.0	100.0	291
語彙 17 (嫡流)	M	58.6	49.2	0.0	100.0	324
語彙 17 (嫡流)	HM	60.9	48.8	0.0	100.0	325
語彙 17 (嫡流)	Hi	71.3	45.2	0.0	100.0	300
語彙 18 (妙案)	Lo	58.3	49.3	0.0	100.0	295
語彙 18 (妙案)	LM	64.3	47.9	0.0	100.0	291
語彙 18 (妙案)	M	74.4	43.7	0.0	100.0	324
語彙 18 (妙案)	HM	84.6	36.1	0.0	100.0	325
語彙 18 (妙案)	Hi	90.0	30.0	0.0	100.0	300
語彙 19 (無償)	Lo	88.1	32.3	0.0	100.0	295
語彙 19 (無償)	LM	93.5	24.7	0.0	100.0	291
語彙 19 (無償)	M	95.1	21.7	0.0	100.0	324
語彙 19 (無償)	HM	95.1	21.6	0.0	100.0	325
語彙 19 (無償)	Hi	99.0	9.9	0.0	100.0	300
語彙 20 (虎の子)	Lo	20.0	40.0	0.0	100.0	295
語彙 20 (虎の子)	LM	19.2	39.4	0.0	100.0	291
語彙 20 (虎の子)	M	24.7	43.1	0.0	100.0	324
語彙 20 (虎の子)	HM	32.3	46.8	0.0	100.0	325
語彙 20 (虎の子)	Hi	45.0	49.7	0.0	100.0	300



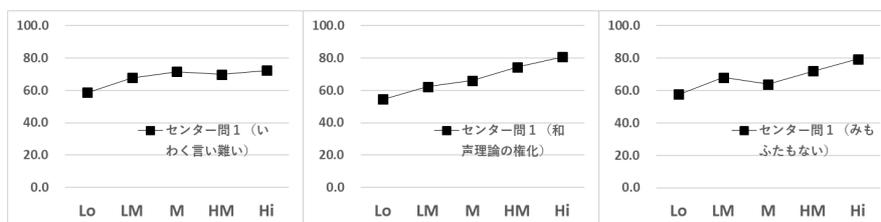
3.2. 第2問 センター試験【小説・マーク】

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター合計	Lo	43.8	17.1	0.0	93.3	295
センター合計	LM	60.8	14.8	16.7	100.0	291
センター合計	M	70.8	13.6	33.3	100.0	324
センター合計	HM	76.7	13.4	30.0	100.0	325
センター合計	Hi	86.2	11.6	33.3	100.0	300



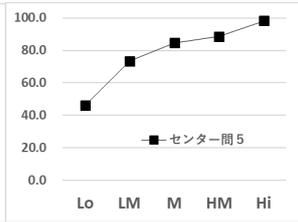
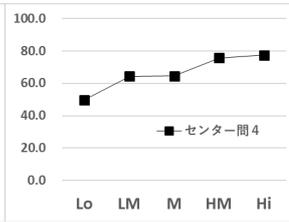
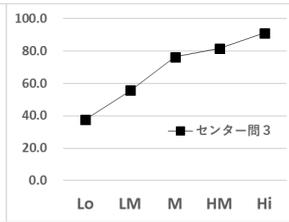
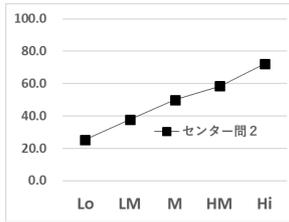
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター問1 (いわく言い難い)	Lo	58.6	49.2	0.0	100.0	295
センター問1 (いわく言い難い)	LM	67.7	46.8	0.0	100.0	291
センター問1 (いわく言い難い)	M	71.6	45.1	0.0	100.0	324
センター問1 (いわく言い難い)	HM	69.8	45.9	0.0	100.0	325
センター問1 (いわく言い難い)	Hi	72.3	44.7	0.0	100.0	300
センター問1 (和声理論の権化)	Lo	54.6	49.8	0.0	100.0	295
センター問1 (和声理論の権化)	LM	62.2	48.5	0.0	100.0	291
センター問1 (和声理論の権化)	M	66.0	47.4	0.0	100.0	324
センター問1 (和声理論の権化)	HM	74.5	43.6	0.0	100.0	325
センター問1 (和声理論の権化)	Hi	80.7	39.5	0.0	100.0	300
センター問1 (みもふたもない)	Lo	57.6	49.4	0.0	100.0	295

センター問1 (みもふたもない)	LM	68.0	46.6	0.0	100.0	291
センター問1 (みもふたもない)	M	63.9	48.0	0.0	100.0	324
センター問1 (みもふたもない)	HM	72.0	44.9	0.0	100.0	325
センター問1 (みもふたもない)	Hi	79.3	40.5	0.0	100.0	300

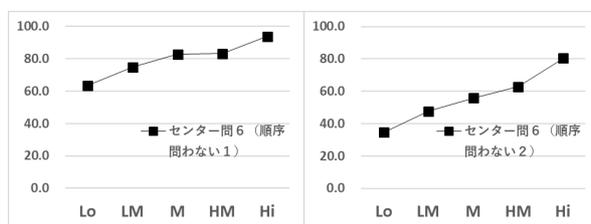


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター問2	Lo	25.4	43.5	0.0	100.0	295
センター問2	LM	37.8	48.5	0.0	100.0	291
センター問2	M	50.0	50.0	0.0	100.0	324
センター問2	HM	58.5	49.3	0.0	100.0	325
センター問2	Hi	72.3	44.7	0.0	100.0	300
センター問3	Lo	37.6	48.4	0.0	100.0	295
センター問3	LM	55.7	49.7	0.0	100.0	291
センター問3	M	76.2	42.6	0.0	100.0	324
センター問3	HM	81.5	38.8	0.0	100.0	325
センター問3	Hi	91.0	28.6	0.0	100.0	300
センター問4	Lo	49.8	50.0	0.0	100.0	295
センター問4	LM	64.3	47.9	0.0	100.0	291
センター問4	M	64.5	47.8	0.0	100.0	324
センター問4	HM	75.7	42.9	0.0	100.0	325
センター問4	Hi	77.3	41.9	0.0	100.0	300
センター問5	Lo	46.1	49.8	0.0	100.0	295
センター問5	LM	73.5	44.1	0.0	100.0	291
センター問5	M	84.6	36.1	0.0	100.0	324
センター問5	HM	88.6	31.8	0.0	100.0	325

センター問5	Hi	98.3	12.8	0.0	100.0	300
--------	----	------	------	-----	-------	-----

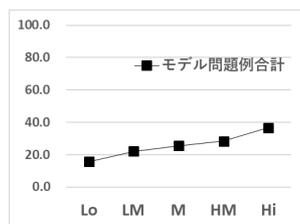


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター問6（順序問わない1）	Lo	63.4	48.2	0.0	100.0	295
センター問6（順序問わない1）	LM	74.9	43.4	0.0	100.0	291
センター問6（順序問わない1）	M	82.7	37.8	0.0	100.0	324
センター問6（順序問わない1）	HM	83.1	37.5	0.0	100.0	325
センター問6（順序問わない1）	Hi	93.7	24.4	0.0	100.0	300
センター問6（順序問わない2）	Lo	34.6	47.6	0.0	100.0	295
センター問6（順序問わない2）	LM	47.8	50.0	0.0	100.0	291
センター問6（順序問わない2）	M	55.9	49.7	0.0	100.0	324
センター問6（順序問わない2）	HM	62.8	48.3	0.0	100.0	325
センター問6（順序問わない2）	Hi	80.3	39.7	0.0	100.0	300



3.3. 第3問 【モデル問題例・新】

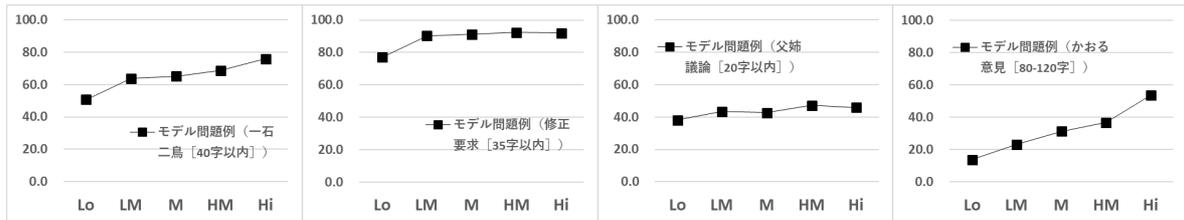
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
モデル問題例合計	Lo	15.6	10.2	0.0	50.0	295
モデル問題例合計	LM	22.0	11.8	0.0	55.0	291
モデル問題例合計	M	25.5	13.0	0.0	60.0	324
モデル問題例合計	HM	28.4	13.7	0.0	60.0	325
モデル問題例合計	Hi	36.7	12.7	0.0	60.0	300



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
モデル問題例 (一石二鳥 [40字以内])	Lo	50.7	31.5	0.0	100.0	295
モデル問題例 (一石二鳥 [40字以内])	LM	63.8	30.7	0.0	100.0	291
モデル問題例 (一石二鳥 [40字以内])	M	65.0	31.2	0.0	100.0	324
モデル問題例 (一石二鳥 [40字以内])	HM	68.8	29.4	0.0	100.0	325
モデル問題例 (一石二鳥 [40字以内])	Hi	76.0	28.0	0.0	100.0	300

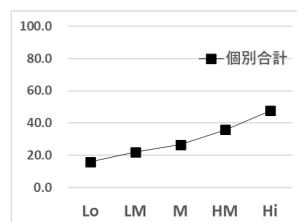
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
モデル問題例 (修正要求 [35字以内])	Lo	77.0	36.9	0.0	100.0	295
モデル問題例 (修正要求 [35字以内])	LM	90.3	23.8	0.0	100.0	291
モデル問題例 (修正要求 [35字以内])	M	91.3	22.8	0.0	100.0	324
モデル問題例 (修正要求 [35字以内])	HM	92.5	20.7	0.0	100.0	325
モデル問題例 (修正要求 [35字以内])	Hi	92.1	20.8	0.0	100.0	300
モデル問題例 (父姉議論 [20字以内])	Lo	38.1	21.1	0.0	100.0	295
モデル問題例 (父姉議論 [20字以内])	LM	43.4	18.5	0.0	100.0	291
モデル問題例 (父姉議論 [20字以内])	M	42.7	20.2	0.0	100.0	324
モデル問題例 (父姉議論 [20字以内])	HM	47.2	14.3	0.0	100.0	325
モデル問題例 (父姉議論 [20字以内])	Hi	45.8	15.4	0.0	100.0	300
モデル問題例 (かおる意見 [80-120字])	Lo	13.8	21.5	0.0	100.0	295

モデル問題例 (かおる意見 [80-120字])	LM	23.2	26.2	0.0	100.0	291
モデル問題例 (かおる意見 [80-120字])	M	31.3	29.2	0.0	100.0	324
モデル問題例 (かおる意見 [80-120字])	HM	36.7	30.8	0.0	100.0	325
モデル問題例 (かおる意見 [80-120字])	Hi	53.8	28.9	0.0	100.0	300

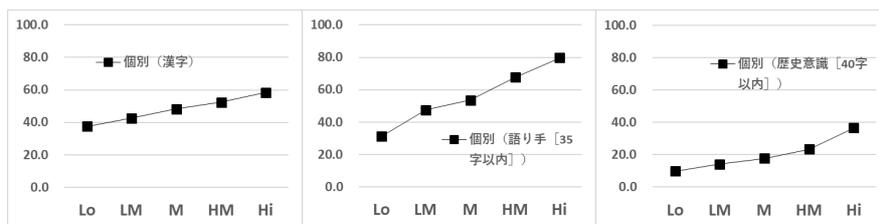


3.4. 第4問 個別試験【評論・旧記述】

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
個別合計	Lo	16.0	10.3	0.0	50.0	295
個別合計	LM	22.0	10.3	0.0	53.3	291
個別合計	M	26.6	10.7	3.3	53.3	324
個別合計	HM	36.0	11.5	10.0	66.7	325
個別合計	Hi	47.6	13.2	13.3	80.0	300

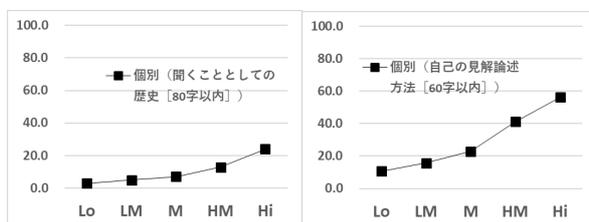


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
個別（漢字）	Lo	37.4	17.1	0.0	80.0	295
個別（漢字）	LM	42.7	17.3	0.0	80.0	291
個別（漢字）	M	48.3	17.9	0.0	80.0	324
個別（漢字）	HM	52.4	16.4	20.0	100.0	325
個別（漢字）	Hi	58.3	17.5	20.0	100.0	300
個別（語り手 [35字以内]）	Lo	31.2	35.1	0.0	100.0	295
個別（語り手 [35字以内]）	LM	47.5	37.3	0.0	100.0	291
個別（語り手 [35字以内]）	M	53.6	37.3	0.0	100.0	324
個別（語り手 [35字以内]）	HM	67.6	32.7	0.0	100.0	325
個別（語り手 [35字以内]）	Hi	79.8	27.7	0.0	100.0	300
個別（歴史意識 [40字以内]）	Lo	9.8	22.1	0.0	100.0	295
個別（歴史意識 [40字以内]）	LM	14.2	25.4	0.0	100.0	291
個別（歴史意識 [40字以内]）	M	17.8	27.2	0.0	100.0	324
個別（歴史意識 [40字以内]）	HM	23.3	29.5	0.0	100.0	325
個別（歴史意識 [40字以内]）	Hi	36.5	32.2	0.0	100.0	300



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
個別（聞くこととしての歴史 [80字以内]）	Lo	2.8	9.6	0.0	44.4	295
個別（聞くこととしての歴史 [80字以内]）	LM	4.8	12.5	0.0	77.8	291
個別（聞くこととしての歴史 [80字以内]）	M	7.0	15.0	0.0	77.8	324
個別（聞くこととしての歴史 [80字以内]）	HM	12.8	18.4	0.0	77.8	325

個別（聞くこととしての歴史 [80字以内]）	Hi	24.0	24.1	0.0	100.0	300
個別（自己の見解論述方法 [60字以内]）	Lo	10.6	21.7	0.0	100.0	295
個別（自己の見解論述方法 [60字以内]）	LM	15.8	24.9	0.0	100.0	291
個別（自己の見解論述方法 [60字以内]）	M	22.9	30.8	0.0	100.0	324
個別（自己の見解論述方法 [60字以内]）	HM	41.2	35.3	0.0	100.0	325
個別（自己の見解論述方法 [60字以内]）	Hi	56.2	32.4	0.0	100.0	300



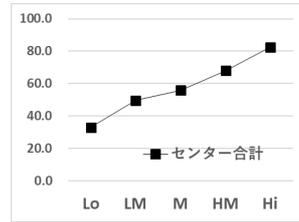
4. 平成 29 年度「数学」

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
数学合計	Lo	14.5	5.5	0.0	21.0	230
数学合計	LM	25.4	2.3	22.0	29.0	239
数学合計	M	33.0	2.2	30.0	36.0	213
数学合計	HM	41.5	3.1	37.0	47.0	236
数学合計	Hi	60.5	12.6	48.0	100.0	237

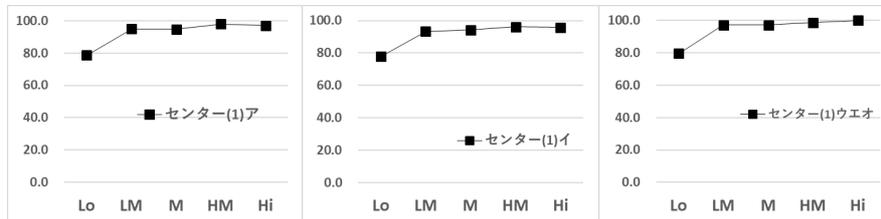
4.1. 第1問 センター試験【マーク】

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター合計	Lo	33.0	15.5	0.0	60.0	230
センター合計	LM	49.7	13.1	10.0	93.3	239
センター合計	M	55.8	14.9	0.0	100.0	213
センター合計	HM	67.9	18.3	23.3	100.0	236

センター合計	Hi	82.5	18.8	20.0	100.0	237
--------	----	------	------	------	-------	-----

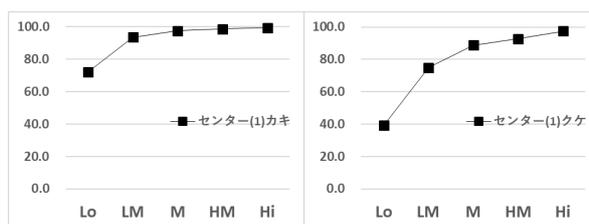


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター(1)ア	Lo	78.7	40.9	0.0	100.0	230
センター(1)ア	LM	95.0	21.8	0.0	100.0	239
センター(1)ア	M	94.8	22.1	0.0	100.0	213
センター(1)ア	HM	97.9	14.4	0.0	100.0	236
センター(1)ア	Hi	97.0	16.9	0.0	100.0	237
センター(1)イ	Lo	77.8	41.5	0.0	100.0	230
センター(1)イ	LM	93.3	25.0	0.0	100.0	239
センター(1)イ	M	94.4	23.1	0.0	100.0	213
センター(1)イ	HM	96.2	19.2	0.0	100.0	236
センター(1)イ	Hi	95.8	20.1	0.0	100.0	237
センター(1)ウエオ	Lo	79.6	40.3	0.0	100.0	230
センター(1)ウエオ	LM	97.1	16.9	0.0	100.0	239
センター(1)ウエオ	M	97.2	16.5	0.0	100.0	213
センター(1)ウエオ	HM	98.7	11.2	0.0	100.0	236
センター(1)ウエオ	Hi	100.0	0.0	100.0	100.0	237

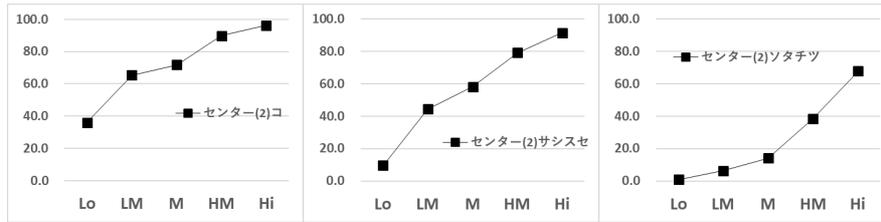


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター(1)カキ	Lo	72.2	44.8	0.0	100.0	230
センター(1)カキ	LM	93.7	24.3	0.0	100.0	239
センター(1)カキ	M	97.7	15.1	0.0	100.0	213

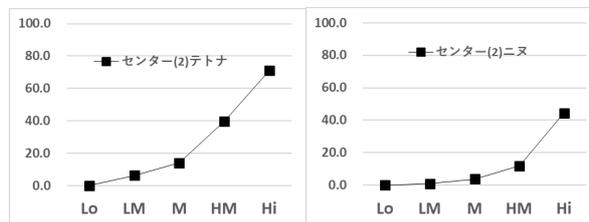
センター(1)カキ	HM	98.7	11.2	0.0	100.0	236
センター(1)カキ	Hi	99.6	6.5	0.0	100.0	237
センター(1)クケ	Lo	39.1	48.8	0.0	100.0	230
センター(1)クケ	LM	74.9	43.4	0.0	100.0	239
センター(1)クケ	M	88.7	31.6	0.0	100.0	213
センター(1)クケ	HM	92.8	25.9	0.0	100.0	236
センター(1)クケ	Hi	97.5	15.7	0.0	100.0	237



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター(2)コ	Lo	36.1	48.0	0.0	100.0	230
センター(2)コ	LM	65.3	47.6	0.0	100.0	239
センター(2)コ	M	71.8	45.0	0.0	100.0	213
センター(2)コ	HM	89.8	30.2	0.0	100.0	236
センター(2)コ	Hi	96.2	19.1	0.0	100.0	237
センター(2)サシスセ	Lo	9.6	29.4	0.0	100.0	230
センター(2)サシスセ	LM	44.4	49.7	0.0	100.0	239
センター(2)サシスセ	M	58.2	49.3	0.0	100.0	213
センター(2)サシスセ	HM	79.2	40.6	0.0	100.0	236
センター(2)サシスセ	Hi	91.6	27.8	0.0	100.0	237
センター(2)ソタチツ	Lo	0.9	9.3	0.0	100.0	230
センター(2)ソタチツ	LM	6.3	24.3	0.0	100.0	239
センター(2)ソタチツ	M	14.1	34.8	0.0	100.0	213
センター(2)ソタチツ	HM	38.6	48.7	0.0	100.0	236
センター(2)ソタチツ	Hi	67.9	46.7	0.0	100.0	237

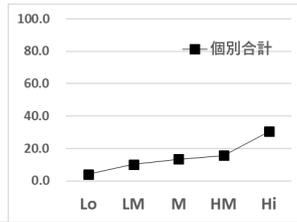


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
センター(2)テトナ	Lo	0.0	0.0	0.0	0.0	230
センター(2)テトナ	LM	6.3	24.3	0.0	100.0	239
センター(2)テトナ	M	14.1	34.8	0.0	100.0	213
センター(2)テトナ	HM	39.8	49.0	0.0	100.0	236
センター(2)テトナ	Hi	70.9	45.4	0.0	100.0	237
センター(2)ニヌ	Lo	0.0	0.0	0.0	0.0	230
センター(2)ニヌ	LM	0.8	9.1	0.0	100.0	239
センター(2)ニヌ	M	3.8	19.0	0.0	100.0	213
センター(2)ニヌ	HM	11.9	32.3	0.0	100.0	236
センター(2)ニヌ	Hi	44.3	49.7	0.0	100.0	237

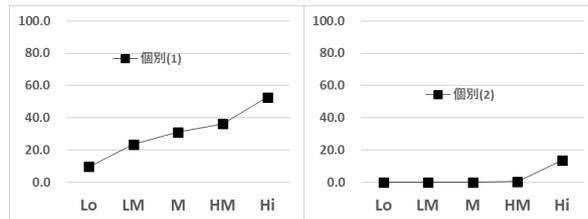


4.2. 第3問 個別試験【旧記述】

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
個別合計	Lo	4.2	6.6	0.0	22.9	230
個別合計	LM	10.1	7.8	0.0	28.6	239
個別合計	M	13.3	6.8	0.0	37.1	213
個別合計	HM	15.7	7.4	0.0	57.1	236
個別合計	Hi	30.4	25.9	0.0	100.0	237

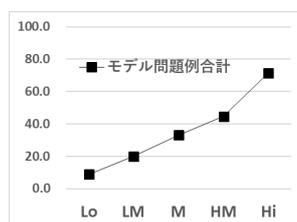


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
個別(1)	Lo	9.7	15.3	0.0	53.3	230
個別(1)	LM	23.5	18.3	0.0	66.7	239
個別(1)	M	31.0	16.0	0.0	86.7	213
個別(1)	HM	36.2	15.4	0.0	86.7	236
個別(1)	Hi	52.7	24.7	0.0	100.0	237
個別(2)	Lo	0.0	0.0	0.0	0.0	230
個別(2)	LM	0.0	0.0	0.0	0.0	239
個別(2)	M	0.0	0.7	0.0	10.0	213
個別(2)	HM	0.4	4.1	0.0	50.0	236
個別(2)	Hi	13.7	30.3	0.0	100.0	237



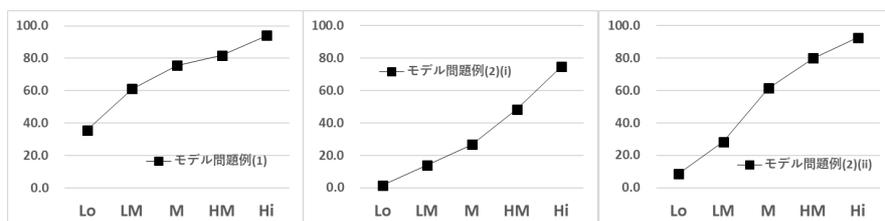
4.3. 第4問 【モデル問題例・新】

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
モデル問題例合計	Lo	8.9	9.7	0.0	34.3	230
モデル問題例合計	LM	20.0	11.4	0.0	54.3	239
モデル問題例合計	M	33.2	12.7	0.0	80.0	213
モデル問題例合計	HM	44.6	15.3	14.3	85.7	236
モデル問題例合計	Hi	71.6	20.3	14.3	100.0	237

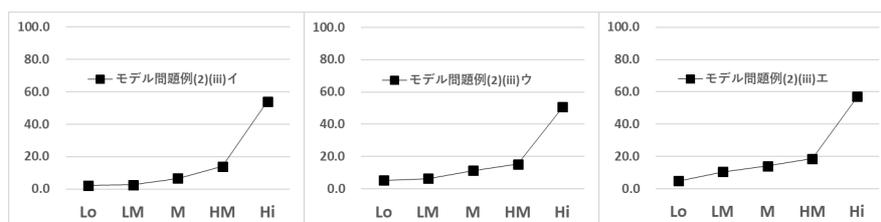


設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
モデル問題例 (1)	Lo	35.7	47.9	0.0	100.0	230
モデル問題例 (1)	LM	61.1	48.8	0.0	100.0	239
モデル問題例 (1)	M	75.6	43.0	0.0	100.0	213
モデル問題例 (1)	HM	81.8	38.6	0.0	100.0	236
モデル問題例 (1)	Hi	94.1	23.6	0.0	100.0	237

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
モデル問題例 (2) (i)	Lo	1.5	11.4	0.0	100.0	230
モデル問題例 (2) (i)	LM	14.0	33.6	0.0	100.0	239
モデル問題例 (2) (i)	M	26.7	43.0	0.0	100.0	213
モデル問題例 (2) (i)	HM	48.5	47.3	0.0	100.0	236
モデル問題例 (2) (i)	Hi	74.9	40.3	0.0	100.0	237
モデル問題例 (2) (ii)	Lo	8.6	27.4	0.0	100.0	230
モデル問題例 (2) (ii)	LM	28.4	44.7	0.0	100.0	239
モデル問題例 (2) (ii)	M	61.4	47.6	0.0	100.0	213
モデル問題例 (2) (ii)	HM	80.0	39.2	0.0	100.0	236
モデル問題例 (2) (ii)	Hi	92.6	25.3	0.0	100.0	237



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
モデル問題例 (2)(iii)イ	Lo	2.2	14.6	0.0	100.0	230
モデル問題例 (2)(iii)イ	LM	2.5	15.6	0.0	100.0	239
モデル問題例 (2)(iii)イ	M	6.6	24.8	0.0	100.0	213
モデル問題例 (2)(iii)イ	HM	14.0	34.7	0.0	100.0	236
モデル問題例 (2)(iii)イ	Hi	54.0	49.8	0.0	100.0	237
モデル問題例 (2)(iii)ウ	Lo	5.2	22.2	0.0	100.0	230
モデル問題例 (2)(iii)ウ	LM	6.3	24.3	0.0	100.0	239
モデル問題例 (2)(iii)ウ	M	11.3	31.6	0.0	100.0	213
モデル問題例 (2)(iii)ウ	HM	15.3	36.0	0.0	100.0	236
モデル問題例 (2)(iii)ウ	Hi	50.6	50.0	0.0	100.0	237
モデル問題例 (2)(iii)エ	Lo	4.8	21.3	0.0	100.0	230
モデル問題例 (2)(iii)エ	LM	10.5	30.6	0.0	100.0	239
モデル問題例 (2)(iii)エ	M	14.1	34.8	0.0	100.0	213
モデル問題例 (2)(iii)エ	HM	18.6	38.9	0.0	100.0	236
モデル問題例 (2)(iii)エ	Hi	57.0	49.5	0.0	100.0	237



5. 平成30年度「国語」【新記述】

平成28年度調査、平成29年度調査と比較して、また、異なる問題を組み合わせた4種類の冊子セットを受けた受験者間の国語の学力に差があることが懸念されるため、5分位図を描くための下位集団区分の基準は共通問題である【語彙】の成績による。

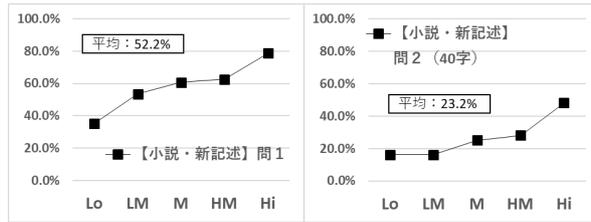
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
語彙合計	Lo	41.1%	8.9%	0.0%	50.0%	1057
語彙合計	LM	57.7%	2.5%	55.0%	60.0%	795
語彙合計	M	67.5%	2.5%	65.0%	70.0%	928
語彙合計	HM	77.3%	2.5%	75.0%	80.0%	877
語彙合計	Hi	90.0%	4.9%	85.0%	100.0%	942

5.1. 国語【小説・新記述】

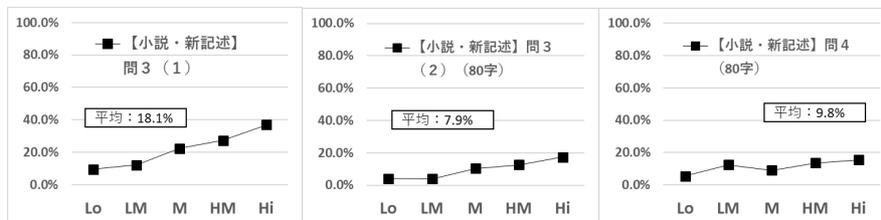
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
【小説・新記述】合計	Lo	11.3%	12.8%	0.0%	62.5%	260
【小説・新記述】合計	LM	15.7%	14.4%	0.0%	55.0%	131
【小説・新記述】合計	M	20.1%	16.6%	0.0%	65.0%	125
【小説・新記述】合計	HM	23.4%	15.7%	0.0%	65.0%	99
【小説・新記述】合計	Hi	32.1%	16.6%	0.0%	70.0%	80



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
【小説・新記述】問1	Lo	35.4%	47.9%	0.0%	100.0%	260
【小説・新記述】問1	LM	53.4%	50.1%	0.0%	100.0%	131
【小説・新記述】問1	M	60.8%	49.0%	0.0%	100.0%	125
【小説・新記述】問1	HM	62.6%	48.6%	0.0%	100.0%	99
【小説・新記述】問1	Hi	78.8%	41.2%	0.0%	100.0%	80
【小説・新記述】問2 (40字)	Lo	16.3%	31.4%	0.0%	100.0%	260
【小説・新記述】問2 (40字)	LM	16.1%	31.7%	0.0%	100.0%	131
【小説・新記述】問2 (40字)	M	25.2%	36.0%	0.0%	100.0%	125
【小説・新記述】問2 (40字)	HM	28.2%	37.6%	0.0%	100.0%	99
【小説・新記述】問2 (40字)	Hi	48.1%	40.9%	0.0%	100.0%	80



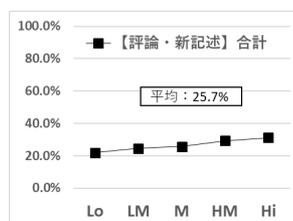
設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
【小説・新記述】問3 (1)	Lo	9.6%	28.7%	0.0%	100.0%	260
【小説・新記述】問3 (1)	LM	12.2%	29.9%	0.0%	100.0%	131
【小説・新記述】問3 (1)	M	22.4%	39.2%	0.0%	100.0%	125
【小説・新記述】問3 (1)	HM	27.3%	40.8%	0.0%	100.0%	99
【小説・新記述】問3 (1)	Hi	37.1%	45.6%	0.0%	100.0%	80
【小説・新記述】問3 (2) (80字)	Lo	4.1%	15.0%	0.0%	100.0%	260
【小説・新記述】問3 (2) (80字)	LM	3.8%	13.3%	0.0%	66.7%	131
【小説・新記述】問3 (2) (80字)	M	10.3%	23.0%	0.0%	100.0%	125
【小説・新記述】問3 (2) (80字)	HM	12.6%	24.3%	0.0%	100.0%	99
【小説・新記述】問3 (2) (80字)	Hi	17.4%	28.1%	0.0%	100.0%	80
【小説・新記述】問4 (80字)	Lo	5.5%	16.9%	0.0%	75.0%	260
【小説・新記述】問4 (80字)	LM	12.5%	28.9%	0.0%	100.0%	131
【小説・新記述】問4 (80字)	M	9.1%	23.5%	0.0%	100.0%	125
【小説・新記述】問4 (80字)	HM	13.6%	26.4%	0.0%	100.0%	99
【小説・新記述】問4 (80字)	Hi	15.4%	28.6%	0.0%	100.0%	80



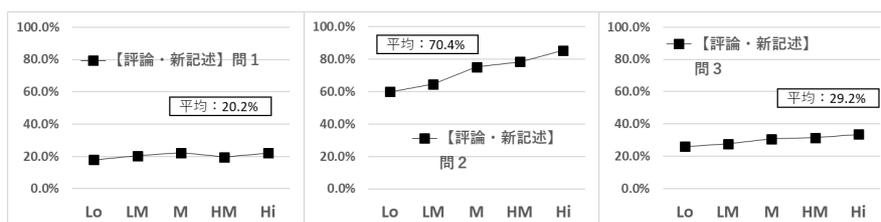
5.2. 国語【評論・新記述】

設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
----	---	-------	------	-------	-------	----

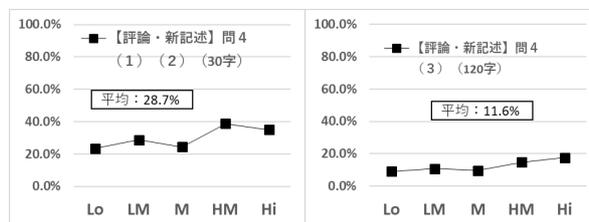
【評論・新記述】合計	Lo	21.9%	13.8%	0.0%	67.5%	207
【評論・新記述】合計	LM	24.6%	13.2%	0.0%	57.5%	150
【評論・新記述】合計	M	25.8%	14.1%	0.0%	67.5%	149
【評論・新記述】合計	HM	29.3%	15.7%	0.0%	62.5%	112
【評論・新記述】合計	Hi	31.3%	12.7%	0.0%	62.5%	96



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
【評論・新記述】問1	Lo	17.9%	16.2%	0.0%	50.0%	207
【評論・新記述】問1	LM	20.4%	19.2%	0.0%	80.0%	150
【評論・新記述】問1	M	22.3%	17.1%	0.0%	80.0%	149
【評論・新記述】問1	HM	19.6%	16.9%	0.0%	50.0%	112
【評論・新記述】問1	Hi	22.1%	17.0%	0.0%	70.0%	96
【評論・新記述】問2	Lo	59.9%	49.1%	0.0%	100.0%	207
【評論・新記述】問2	LM	64.7%	48.0%	0.0%	100.0%	150
【評論・新記述】問2	M	75.2%	43.3%	0.0%	100.0%	149
【評論・新記述】問2	HM	78.6%	41.2%	0.0%	100.0%	112
【評論・新記述】問2	Hi	85.4%	35.5%	0.0%	100.0%	96
【評論・新記述】問3	Lo	26.0%	25.0%	0.0%	100.0%	207
【評論・新記述】問3	LM	27.7%	25.5%	0.0%	100.0%	150
【評論・新記述】問3	M	30.7%	28.3%	0.0%	100.0%	149
【評論・新記述】問3	HM	31.6%	27.7%	0.0%	100.0%	112
【評論・新記述】問3	Hi	33.6%	25.9%	0.0%	100.0%	96



設問	群	平均得点率	標準偏差	最低得点率	最高得点率	人数
【評論・新記述】問4 (1) (2) (30字)	Lo	23.3%	33.6%	0.0%	100.0%	207
【評論・新記述】問4 (1) (2) (30字)	LM	28.8%	36.2%	0.0%	100.0%	150
【評論・新記述】問4 (1) (2) (30字)	M	24.3%	34.4%	0.0%	100.0%	149
【評論・新記述】問4 (1) (2) (30字)	HM	38.8%	41.3%	0.0%	100.0%	112
【評論・新記述】問4 (1) (2) (30字)	Hi	34.9%	39.9%	0.0%	100.0%	96
【評論・新記述】問4 (3) (120字)	Lo	9.1%	15.1%	0.0%	66.7%	207
【評論・新記述】問4 (3) (120字)	LM	10.7%	16.2%	0.0%	66.7%	150
【評論・新記述】問4 (3) (120字)	M	9.6%	16.3%	0.0%	66.7%	149
【評論・新記述】問4 (3) (120字)	HM	14.7%	19.8%	0.0%	83.3%	112
【評論・新記述】問4 (3) (120字)	Hi	17.5%	21.0%	0.0%	83.3%	96



第5章 新奇性のある問題の作成

5.1 設問内容に新奇性のある問題

5.1.1 作成目的

平成30年6月には、評論と小説で、これまで問われていなかった資質・能力の測定を狙った検証用の新傾向記述式問題を作成することができた。同年7月には、これらの問題を用いてモニター調査の実施に至った。しかし、検証用の新傾向記述式問題の設問だけでは、測定を狙えなかった資質・能力と設問内容もあり、課題が残された現状がある。同年8月からは、問題作成を再開させるとともに、新たに高等学校の教員2名がワーキングに加わった。その新体制のもと、モニター調査にて測定を狙えなかった資質・能力と設問内容に焦点を絞り、新たな問題作成を行うことが目的となった。

本節では、「設問内容に新奇性のある問題」の事例を紹介する。これまで個別学力試験や高等学校の定期考査等で素材文として使用されている評論文や小説を用い、設問内容や問い方に工夫を凝らした問題である。素材文の形式は見慣れたものであるが、設問内容を読み始めると、従来の問題とは異なり「傍線部周辺の読解だけでは解答できない」「素材文の内容読解だけでは、解答できない」ことに気づく問題である。本節で提示する問題は、大学入学共通テスト（プレテスト）にも取り入れられている「複数の素材の読解」を基本に作成している。設問には「会話文形式」を用いて、会話の中に解答に導くためのあらゆるヒント（しかけ）を提示しているものもある。生徒はそのヒント（しかけ）を抽出できるか否かが、解答の鍵になっている。

以下、4.1.2～ まで、検討した問題の一部を紹介していく。

5.2 素材文に新奇性のある問題

5.2.1 作成目的

平成30年8月から、新体制で設問内容に新奇性のある問題を作成してきた。次の段階として、同年11月からは、高等学校学習指導要領にも記載されている「実用的な文章」を用いた新奇性のある問題の作成に着手し始めた。その際、国語科教育に携わっていない方々にも理解していただけるように「素材文に特徴があるもの」を題材として、問題作成を行うことが目的となった。特に、実用文や自然科学系の文章や論文、統計資料等を組み合わせて問題を作成し、いかに国語の試験問題として成立させるか否かが大きな課題となった。

本研究で作成している問題は、個別学力試験レベルの問題であり、まずは理系の素材文を選定することに試行錯誤した。ある生物の生態を生かした実験過程が記されている書籍では、問題作成は可能であった。しかし、何度問題を作成・検討しても、本文中にある事実を問う問題しか作成できず、非常に困難を極めた。次の段階では、素材文を大胆に切り取って並び替えて、実験の過程を正確に把握できているかどうかを問う問題の作成も試みた。他にも特徴のある素材文を使用した新奇性のある問題を同年12月まで作成し、検討を重ねた。第4章で取り上げている新奇性のある問題は、検証用ではないことから、本学の教員と高等学校の教員6名の自由な発想で、国語の試験問題として大きく逸脱しないレベルの問題を作成した。

以下、5.2.2～ まで、検討した問題の一部を紹介していく。

5.2.2 医療に関するテキストと統計データを用いた問題

5.2.2.1 素材文のジャンルと出典

- ①評論：大竹文雄・平井啓 編著『医療現場の行動経済学 すれ違う医者と患者』東洋経済新報社
- ②統計資料：内閣府「平成28年度がん対策に関する世論調査」

5.2.2.2 素材文の内容と特徴

評論：当該問題で使用した素材文は、第5章「どうすればがん検診の受診率を上げられるのか」で、がん検診の受診率を上げるための方策や送付するハガキの効果的な文章表現について行動経済学的観点から分析・提案している。

統計資料：内閣府が、がん対策に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とするために実施した世論調査の結果。調査は平成 28 年 11 月 17 日～27 日に調査員による個別面接聴取法にて実施された。

5.2.2.3 作成した問題

以下の問題は、モニター調査後に、素材文に新奇性のある問題として作成した問題である。設問中に引用している図やグラフ、ハガキ等は著作権の関係により割愛していることをご了承いただきたい。

- 問 1 住民 A は、がん検診を受けない理由の 1 つとして、傍線部②「どこでやっているかわからないし」と言っている。しかし、内閣府が行った「平成 28 年度がん対策に関する世論調査」の図 5 からは、受診場所を自分で探して受診している住民もいる。住民 A と受診した住民とで、何に対するどのような意識の違いがあるのかを述べなさい。住民 A と受診した住民は同年代で、同じ市町村に住んでいることを前提として考えなさい。
- 問 2 住民 A が「がん検診を受診する」という意識変容を起こすためには、自治体から個人への働きかけ（介入）を行う必要がある。そこで、自治体から個人に案内状を送付する際、どのような働きかけが効果的だと考えるか。あなたの考える改善案を説明しなさい。
- 問 3 大腸がん検診受診推奨ハガキに、左記の 2 種類がある。パターン A とパターン B では、どちらを受け取った人が受診する確率が高いか。図 5-1 を見て、その理由を説明しなさい。

5.2.2.4 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係

当該問題全 3 問の出題意図は、相手の立場や状況に合わせて自分の考えや物事を言葉で的確に伝えることの重要性を理解できるかどうかである。がん検診の受診を促すという同じ情報であっても、文章表現やハガキのレイアウト、色調の違いで相手の受け取り方や意思決定が異なってくる。また、がん検診の受診という個人の行動の変化を促すための効果的な文章表現について考えることで、言葉を通じて社会や文化の創造に資することができる力の測定も行うことを目的としている。

【問 1 の出題意図】

会話文と本文、統計資料（グラフ）という複数の異なる素材の読み取りを通して、住民 A と受診した住民の意識の違いを考えさせる。

分析指標の「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」「20. 複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる」という 2 つの設問内容を盛り込み、主に国語科において育成すべき資質・能力の「思考力・判断力・表現力等」の右側に該当する「判断力、表現力」の部分と「学びに向かう力」の測定を狙っている。

本問題では、会話文と本文、統計資料（グラフ）をもとに住民 A とがん検診を受診した住民との意識の違いを推測し（「i. 根拠をもとに仮説を立てることができる」）、自分の知識や経験を踏まえて考えをまとめながら（「j. 自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる」）、がん検診に関する自分の考えを見つめなおす（「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」）ことを目的としている。

【問 2 の出題意図】

問 1 で解答した住民 A の考えを踏まえたうえで、住民 A が意識変容を起こすきっかけになる適切な文章表現を考えさせる。

分析指標の「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」「20. 複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる」という 3 つの設問内容を盛り込

んでいる。問 1 と同様、主に国語科において育成すべき資質・能力の「思考力・判断力・表現力等」の右側に該当する「判断力、表現力」の部分と「学びに向かう力」の測定を狙っている。

本問題では、会話文と統計資料（グラフ）の詳細な読み解きから、住民Aの考えの背景にある事情を推測し（「i. 根拠をもとに仮説を立てることができる」）、かつ、住民Aの状況を踏まえて意識変容を起こすきっかけとなる自分の考え（改善案）を的確に説明できる（「j. 自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる」「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」）ことを目的としている。

【問3の出題意図】

設問に添付しているがん検診受診推奨ハガキ（実用文）2種類を比較し、受診を促す効果のあるハガキを選び、その理由を説明させることで、相手の立場や状況に応じた実用文の効果的な表現を考える。加えて、行動変化を促す言葉の表現によって、社会や文化の創造が可能であることに気付かせる。

分析指標の「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」設問内容である。現行と新高等学校学習指導要領において「実用的文章」を用いた教育活動が求められていることから、2種類のハガキ（実用文）の読解と比較をさせることで、問1問2と同様、主に国語科において育成すべき資質・能力の「思考力・判断力・表現力等」の右側に該当する「判断力、表現力」の部分と「学びに向かう力」の測定を狙っている。

本問題では、まず、問1と問2の読解によって推測した「がん検診を受診しない人の思考パターン」を踏まえ、2種類のハガキ（実用文）の比較から、受診を促す効果のあるハガキを選定し、理由を考えて説明させ、がん検診の受診を思いとどまっている人に行動変化を促す効果的な表現を考えさせる（「i. 根拠をもとに仮説を立てることができる」「j. 自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる」「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」）。次に、相手に応じた適切な表現でメッセージを発信し、行動変化につながることで、ひいては社会や文化の創造が可能になる（今回の事例で例えるならば、日本国内全体でがん検診の受診率が向上する）ことに気付かせることを目的としている。

5.2.3 数学の教科書を使った問題

5.2.3.1 素材文のジャンルと出典

その他（文部科学省検定教科書 中学校 1 年生「数学」）：

A. 岡本和夫・森杉馨・佐々木武・根本博ほか 44 名『未来へひろがる数学 1』株式会社新興出版社啓林館 平成 27 年 2 月 27 日検定済 平成 28 年度用 24 頁

B. 岡部恒治ほか 15 名『改訂版中学校数学 1』数研出版株式会社 平成 27 年 2 月 27 日検定済 22～23 頁

C. 相馬一彦ほか 21 名『新版数学の世界 1』大日本図書株式会社 平成 27 年 2 月 27 日検定済 18～19 頁

D. 藤井斉亮，俣野博ほか 38 名『新編新しい数学 1』東京書籍株式会社 平成 27 年 2 月 27 日検定済 17～18 頁

5.2.3.2 素材文の内容と特徴

上記 A～D は全て中学校 1 年生の文部科学省検定教科書（数学）で，正の数・負の数を用いた「加法」の説明部分である。次に，その内容と特徴を示す。

- ・ A 数直線を用いて簡潔に数式の解説を行う。方角を用いた解説はない。
- ・ B AさんとBさんが数直線上の地点 0 を出発して進む際，左を西方向，右を東方向に例え，「東方向への移動を正の数を使って表す」として，数式の解説を行う。
- ・ C Bと類似。東西に通じる道路上で，ある地点 0 を出発して進む際，数直線の左を西方向，右を東方向に例え，西がマイナスの方向，東がプラスの方向と数直線上に位置付けて数式の解説を行う。
- ・ D BとCと同様，数直線の左を西方向，右を東方向に例えて数式の解説を行う。解説文には「正負の数のたし算を調べるために，東への移動を正の数で，西への移動を負の数で表すことにする」と補足説明がある。

これら 4 種類の教科書の共通点は，数直線の中心から左への移動が負，右への移動が正と設定されている点である。

5.2.3.3 作成した問題

次の問題は，モニター調査後に，素材文に新奇性のある問題として作成した問題である。上記 A～D の 4 種類の数学の教科書における正の数・負の数を用いた加法の説明部分を全て比較読みし，「相手（読み手，今回の場合は中学校 1 年生）の立場に立った分かりやすい解説（文章）」を検証させる問題となっている。素材文として用いた教科書 4 種類の引用と掲載にあたっては，著作権の関係により割愛していることをご了承いただきたい。

第1問 中学校1年生で習う「加法」について述べられた4種類の数学の教科書の該当部分を読んで、後の問いに答えよ。

問1 次のA～Dは、中学校1年生が使用する数学の教科書で、「加法」について述べた部分である。

(1) A～Dのうち、あなたが「わかりやすい説明だ」と思った順に2種類の教科書を選んで、それぞれの説明の仕方の特徴を60字以内で述べなさい。その際、わかりやすいと感じた点を読み手に伝えるようにしなさい。

(2) 教科書は全ての読み手（ここでの教科書においては、数学を学習する中学1年生）にとって、読んで内容が理解できる表現を心掛けて作成されています。次の数式の内容を言葉で説明するとどのようになるか、30字以内で書きなさい。ただし、中学校1年生が読んで理解できるような表現を用いること。なお、A～Dのどの教科書の記述を参考にしてもかまいません。

$$(+5) + (-8) + (+3) = 0$$

5.2.3.4 出題意図と測定を狙った設問内容と資質・能力の関係

当該問題全2問の出題意図は、相手の立場や状況に合わせて自分の考えや物事を言葉で的確に伝えることの重要性を理解できるかどうかである。中学校1年生の生徒に、正の数と負の数を用いた加法を正確に理解してもらうには、どのような文章表現や図示が適切なのかを考え、そう考えた理由を読み手にわかりやすい表現で伝えるために必要な資質・能力等を測定することを目的としている。

【問1(1)の出題意図】

出題意図は2点ある。

1点目は説明の仕方についての特徴を問い、説明文(実用的文章)をどのように読解したのか、2点目はわかりやすいと感じた部分を問い、中学校1年生を対象にした文章表現の工夫について考えさせることにある。

分析指標の「4. 表現の特色を問う」「18. 本文を踏まえて、自分の考えを問う」「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」「20. 複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる」という4つの設問内容を盛り込み、主に国語科において育成すべき資質・能力の「思考力・判断力・表現力等」の右側に該当する「判断力、表現力」の部分と「学びに向かう力」の測定を狙っている。

本問題では、中学校1年生の教科書4種類の正の数と負の数を用いた加法の説明(文章での解説や数直線での図示方法、イラスト等)を比べ読みしながらそれぞれの内容を理解することで、分かりやすいと考えた教科書の該当部分を抽出し(「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e. 文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」)、自分がこれまで学習した知識や経験を踏まえて、そう考えるに至った理由を指定字数内で文章表現させること(「f. 課題に応じて的確に文章表現ができる」「j. 自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる」「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」)を目的としている。4種類の教科書の比べ読みを行うことで、対象となる生徒の年齢や学習経験に応じた適切な文章表現とは何かを考える(「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」)ことにもつながる。

【問1(2)の出題意図】

数式を、中学校1年生が読んで理解できる文章(言葉)で説明させ、相手に応じた文章表現を考えさせることにある。

分析指標の「19. 図表の情報を読み取り、分析・考察させる」設問内容である。まずは、分かりやすい説明であると考えた教科書を選び(「d. 目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる」「e.

文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる」、その教科書の文章表現を参照し、中学校1年生に理解してもらえるように、数式を指定字数（30字以内）で分かりやすく文章で説明させる（「j. 自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる」「k. 自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる」）ことを目的としている。さらに、数式は言葉でも説明できるという気付きから、言葉が持つ可能性を再認識することで、自分のものの見方や考え方が広がっていく（「n. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする」）ことにもつながると考えられる。

5.2.3.5 正答例と採点のポイント

	正答例	採点のポイント
問1 (1)	1番目：A 理由：東への移動が正の数，西への移動が負の数という定義の理由を考慮することなく，数直線を用いた解説だけで理解できる点。(55字) 2番目：D 理由：東西への移動を正負で示すと定義した後，数直線を用いて加法を2回の移動で解説し視覚的にも移動部分が分かりやすい点。(56字)	<ul style="list-style-type: none"> ・指定字数で書かれている。 ・どの教科書が分かりやすいかは各自の自由(事前に正答例は4種類分作成)。 ・それぞれの教科書の特徴を捉えているか。 ・納得した点，理解した点をまとめられているかどうか。
問1 (2)	5より－8大きい数は3，その3より－3大きい数は0になる。(29字)	<ul style="list-style-type: none"> ・指定字数で書かれている。 ・30字で理解できる説明であれば，正解とする(ただし，中学校1年生が理解困難な用語が使用されている場合等は減点もしくは採点不可とする)。

5.2.3.6 設問内容の検討過程

新傾向の記述式問題の作成と検討にあたり、現行と新高等学校学習指導要領国語で「実用的文章」を用いた教育活動が求められていることを踏まえ、「素材文に新奇性のある問題」として本問題を作成した。素材文として用いているのは、文部科学省検定教科書(数学)である。今回、教科書を素材文としたのは、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』の第4節国語科の内容2〔知識及び技能〕の内容(2)情報の扱い方に関する事項に以下のような記載があったからである。

中央教育審議会答申において、「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」と指摘されているところである。

話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながり、また、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながるため、このような情報の扱い方に関する「知識及び技能」は国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つである。

また、国立情報学研究所の新井紀子氏は、2011年に中学生と高校生を対象に、教科書や新聞を素材として、基礎的読解力を調査するためのリーディングスキルテスト(RST)を実施している。新井(2018)によると、日本の中高生の多くは、中学校の歴史や理科の教科書程度の文章を正確に読み取って理解することができていないという。誰もが理解できるという前提で作成された教科書の読解ができないということは、本人が高校受験や大学受験等で明らかに不利となるため、それらを理解できる読解力こそが大切であるとも述べている。

以上、日本の中学生や高校生の多くが教科書の文章を理解することができていないという指摘を踏まえ、本学でも中学校1年生の数学の教科書を用いた問題の作成を試みるに至った。問1(1)

では、分かりやすいと感じた部分を 60 字以内で記述（要約）させ、問 1（2）では、数式の説明を 30 字以内でかみ砕いて説明させている。どちらも頭の中では簡単にイメージし、理解できることではあるが、中学校 1 年生が理解できるように文章化することは意外と難しい。この問題を通じて、教科書の「数」という抽象的な概念を具体的に正確に把握しているかどうかという思考力を測りつつ、それを受けて相手（中学校 1 年生）の立場に立った分かりやすい文章表現ができているかどうかを測ることを狙うものである。

執筆者：清島絵利子（北海道大学）

参考文献：新井紀子（2018）『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』東洋経済新報社

文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 国語編』

http://www.next.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/28/1407073_02_1_1.pdf> （2019 年 5 月 16 日アクセス）

5.3. 考察と今後の課題

平成 29 年 12 月から平成 30 年 12 月までの 1 年間にわたり、平成 27 年度（2015）個別学力試験の問題分析結果をもとに、検証用新傾向問題と新奇性のある問題の作成を行ってきた。どちらの問題作成においても、作成者自身がこれまで作成してきた問題が学力の 3 要素を網羅していたものではないため、意識や発想の転換に時間を要した。

検証用新傾向問題の作成においては、分析指標への分類と分析を行った者が携わっており、これまで測定されていなかった資質・能力や設問内容は充分把握している状況ではあるが、素材文選定に時間を要することとなった。国語の試験問題作成に慣れてはいるものの、これまでカバーされていなかった資質・能力を測定するための素材文選定には、非常に困難を極めた。分析指標で測定がされていなかった資質・能力に合わせて、学力の 3 要素を網羅できる問題の作成には、素材文単体では限界があることが分かった。そこで、大学入学共通テスト（プレテスト）でも導入されているように、複数の関連ある素材文を組み合わせて、新傾向の問題の作成を開始している。

また、新奇性のある問題の作成においても、これまで測定されていなかった資質・能力を問うことを狙うため、現行の高等学校学習指導要領国語（平成 21 年文部科学省告示第 34 号）と平成 30 年 3 月に公示された新高等学校学習指導要領国語（平成 30 年文部科学省告示第 68 号）で指導に重点が置かれている「実用的な文章」や自然科学系の書籍や論文を探し、複数の関連ある素材文を組み合わせることから開始した。

この 2 つのパターンによる問題においては、これまで測定されていなかった資質・能力の測定は可能であることが確認された。しかし、主に 3 つの課題が見えてきた。

1 つ目は、素材文単体で学力の 3 要素の測定を狙うには、自由記述という方法があるが、解答が多岐にわたるため、採点が非常に複雑化するということである。受験生にとっても、自分の意見を自由に記述できるメリットはあるが、点数に反映されるか否かが不安材料となることから、自由記述の場合には字数制限や適切な解答を導くための条件設定が必要であると考えられる。

2 つ目は、これまで測定されていない資質・能力を問うには複数の素材文の使用が望ましいということである。複数の素材を扱うことにより、測定を狙える資質・能力の数も増えるからである。

3 つ目は、採点基準と採点業務の複雑化である。先に述べた自由記述でも条件付記述であっても、学力の 3 要素を問うには 1 つの設問のなかで複数の資質・能力を測定することが明らかになっており、必然的に採点する項目も増えるからである。本研究では、検証用新傾向問題の採点のために、正答に必要なキーワードの抽出だけではなく、可能な限り多くの正答例や誤答例、ルーブリックも作成し、採点に臨んでいる。また、受験生の解答を最大限点数に反映させたいという思いから、減点法ではなく加点法で採点を行った経緯もある。記述式問題によって受験生の多様な資質・能力を測定し、公平に評価するには、解答 1 つ 1 つを吟味するための詳細な基準の作成が必要であるが、簡素化を行い、誰にでも理解しやすい様式にすることが急務であると考えられる。

執筆者

5.1 清島絵利子（北海道大学）

5.2 清島絵利子（北海道大学）

5.3 清島絵利子（北海道大学）

付録

1 大学入学者選抜改革推進委託事業『個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の
分析・評価手法に関する研究』セミナー講演記録

大学入学者選抜改革推進委託事業『個別学力試験「国語」が測定する
資質・能力の分析・評価手法に関する研究』セミナー講演記録

日 時 平成 29 年 8 月 23 日 (水) 13 : 30 ~ 16 : 30
会 場 キャンパスプラザ京都 2 階 第 3 会議室
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939
京都市営地下鉄烏丸線, 近鉄京都線, JR 各線「京都駅」下車。徒歩 5 分。
主 催 東北大学
参加費 無料
使用言語 フィンランド語 (逐次通訳あり)

1. 開会

ラッセ教授 :

皆様こんにちは。本日はこのような機会を与えてくださいます。誠にありがとうございます。一応、発表につきましては母国語のフィンランド語で行うことになっておりますので、それに従って、本日はこれからフィンランド語で、テストとその評価に関することについてお話しさせていただきます。今回は皆様にご招待いただき、この企画のために自分も関わる、加わることができたことを非常に光栄に思います。

司会 :

ラッセ先生、座ってお話しただいて結構ですよ。

ラッセ教授 :

立たないと調子が出ません。座って発表できないのです (笑)。

本日は大学入学資格試験に関わる内容について、まずご説明いたします。あとはこの中でいくつもの教育システムについてお伝えすることも含めながら、試験のシステムをお伝えします。

デジタル化された・・・フィンランドではそのように表現しますが・・・デジタル化された大学入学試験資格試験につきまして、フィンランドでは「母国語」という呼び方をされている「フィンランド語」の試験と、私の専門で、大学入学資格試験にも関わっております保健につきまして、具体例をもってご説明させていただきます。

私は先ほど最初に示しましたこの地図の真ん中にあるフィンランド、そして、また、フィンランドの中の真ん中にあるユヴァスキュラという町のユヴァスキュラ大学から参りました。そして、現在、こちらの地図にある日本に来ております。日本とフィンランドの間には長い距離がありますが、そうは言いますが、教育に関わり、また、生徒たちの学びの度合いを、試験を通してどのようにして評価すべきか、そういったことに関わって同じ関心をもって、より高めていこうという気持ちが一緒であるということには変わりないということです。

実際には日本とフィンランドでは教育制度、またそれを取り巻く様々な制度に違いがありますので、そういう意味で違ったところもありますが、同じ、近い部分もあります。この PISA の試験の結果を見ましても、日本も非常に高い水準にありますし、フィンランドも高い水準にありますので、そういった意味では、結果的にはどちらもレベルの高い教育制度のもとにある国であるということです。

このグラフは、読解力についてのものですが、フィンランドは赤い線で示されています。また、日本もそれに近い、高いところにあります。どちらの国も非常に高いレベルを保っています。そして表

にはありませんが、数学も自然科学分野でも、両国とも非常に高いレベルを保っています。

2. 大学入学資格試験

2.1. フィンランドの教育制度

ラッセ教授：

次に、フィンランドの教育制度について簡単に紹介します。最初は幼稚園ですね。次の段階はプレスクールという意味で呼ばれていますところで、小学校の直前に、学校の仕組みに慣れるような、慣らすためのところですよ。

実際に義務教育として始まりますのは、7歳になる年の時からでして、9年間続きます。

その次の道としましては、「ルキオ」と呼ばれる日本で言いますと「高等学校普通科」、もしくは、もう一つ、職業専門学校・・・職業の実践を専門とした学校・・・のこの二つの方向に分かれます。

高校を終えてから、その次に大学に入っていく道ですと、学士、修士、博士となります。隣にある職業系の専門学校からさらに上の職業系の上のレベルの学校に入り、その後、途中から大学に入っていくこともできる仕組みになっています。

2.2. 大学入学資格試験制度の概要

ラッセ教授：

このルキオは「高校」と言いましたが、3年から4年まで在学可能です。この間に全員が大学入学資格試験を受け、その資格を得ることになります。試験でどのようなことが測られるかと言いますと、ルキオ、すなわち、高校時代に学んだ内容がちゃんと習得されているかどうか、その度合いについて測ります。そして、もう一つは、これから先に大学の方のより高等な教育に入っていく場合、その生徒が本当にその大学の学びをするために成熟度が十分にあるのかどうかという面も測ります。

ここに日本との違いが出てくるかと思われます。つまり、最初は高校の方で修了する時に、大学入学資格試験を受けまして、その資格を得た後で初めてそれぞれ希望する大学の独自の試験を受けるという2段階になっています。日本の場合は、この個別の大学入試というところが一番大切な、大きな試験になるということでしょうか？

大学入学資格試験は年に2回行われます。春と秋に行われます。全国の高校で全く同じ日に、同じ時間に同時に行われることになります。

それぞれの科目の1科目についての試験の時間は6時間です。この6時間の中で、一つの科目を1日かけて解くわけですが、実際、学生が、例えば、「自分はこれについても、試験終了しても大丈夫」と思えば、最初の1時間はいなければなりません、その後は自分の進み具合次第です。解答が終わったと思えば、試験室を出ることも可能です。

なぜ、一つの科目につき6時間も時間をかけるのかと言いますと、解答形式のためです。記述式(エッセイ形式)で答える問題がほとんどですので、そのために非常に長い時間をかけて答えなければならないということになります。この大学入学資格試験では、多種選択とか、選択して選ぶだけの問題は全くございません。

この大学入学資格試験として、一まとまりで資格を取ることが可能になる機会は、1回ですべて取得する以外には、例えば、春、そしてまた秋にも続けて、そしてまた春、というふうに、三つの機会を連続して受験していれば、一つの資格になるように取ることができます。

2.3. 大学入学資格試験の作題, 採点

ラッセ教授 :

試験問題は、外部の団体になっている大学入学資格試験のための特別委員会で作題されることとなります。それぞれの科目について、5~6名で構成される専門家によるグループが立てられます。メンバーの大半は大学教授や科目の専門家、教師等も入ります。私は保健が専門でしたので、かつては保健の委員長を務めておりました。問題を決めると、あとは模範解答も作るようになります。

試験の採点, 点数の付け方は2段階になっています。最初はその試験を受けた生徒の学校の教師が評価することになります。評価のための期間は2週間与えられています。その後、直接関係をしない外の団体として特別委員会があり、そこに属する評価委員がさらに評価することになります。

2.4. 必答科目, 選択科目

ラッセ教授 :

大学入学資格試験では、最低四つの科目を受けなければいけないのですが、その中で1科目必答科目になっているものが、母国語です。母国語はフィンランド語がほとんどなのですが、スウェーデン語系の人もありますので、その場合はスウェーデン語、またラップランドの方にサーミ人という人たちがいるので、本当に少数なんですけどその方たちではサーミ語というのも母国語として受験できることとなります。

その他の選択科目ですが、例えば、別の国から来た受験者は外国語として、例えばフィンランド語やスウェーデン語を取ることもできます。また、それとは全く別で、外国語というもので英語やドイツ語等を取る人も多くいます。

語学以外の科目、一般科目も様々あります。例えば、生物とか、保健とか、物理とか心理学とか。そういった科目を取ることが可能です。

3. 大学入学資格試験のデジタル化

3.1. デジタル化のプロセス

ラッセ教授 :

現在、私たちフィンランドでは、試験のデジタル化を行っています。つまり、紙を用いた試験、設問と解答から、デジタル、電子的なものへというふうに CBT に変えていくプロセスの真最中です。これは、2016年、昨年秋から始まりまして、2019年の秋には全ての科目が網羅されることになる予定です。

デジタル化した試験が具体的にどういう流れで進むかと言いますと、まず、試験問題自体がデジタル形式で提示されるということと、試験を取り扱うシステムも電子的に取り扱われるということです。また、学校の教師たちが評価する場合も、コンピュータを前にして画面上に出てくる解答に対して採点し、結果を入力していくこととなります。第2段階の評価を担当する評価委員も、それぞれのコンピュータの画面で見る内容に対して、採点結果を入力していくこととなります。結果のデータ自体もコンピュータの中で電子的なものとして出てくることとなります。

最初に行われましたのは、その昨年秋、2016年秋でして、最初に取り扱われた科目は、外国語のドイツ語、あとは地理、そして哲学です。そして今年の春ですね。今年の春に行われましたのは外国語のフランス語、あとは社会学と言いますか、公民に近い社会学。そして心理学でした。そして本年の秋ですが、その中には私の専門でもあります保健が入っております。科目ごとに実施日が違います

ので、保健は9月29日、今から3~4週間後に実施されることとなります。そして、試験を受ける全ての者にとって必答科目となる母国語ですが、2018年、来年の秋に実施されることとなります。

実際の大学入学資格試験は、体育館や記念講堂のような広い場所で実施されます。実際の場面では、このように本当に配線でコンピュータがたくさん結ばれています。CBT化させるための試験の仕組みについて、技術的な面で色々な内容の整備をしたり、試してみたりするようなことには、大体3~4年かかりました。プレテストと言いますか、試しのテストのようなことを何度も繰り返しています。

技術面での整備、確実性を高める中で、一番やはり問題になって対応ができるように考えなければならなくなってきたのは、そのデータを扱う上での安全性ですね。安全面。そしてあとは、そもそも電気が通っている状態を確保できるかどうか、停電になった時にどうするべきかとか、というようなことです。例えば、試験中に雷が落ちて、停電になった場合。そういった時に、どのようにその問題に対応して行くかということが大きな課題になっています。

3.2. 試験問題と答案の管理

ラッセ教授：

大学入学資格試験がデジタル化された場合にどんなことが可能になるかという点では、人間の色々な感覚を使った、感覚を使ってものを認識したりできるような素材が利用されるようになります。例えば、映画や映像、インタビューの録画を見せるとか、話を聞くとか・・・。こういった様々な感覚を使って判断させるような問題が出題できるようになります。

試験を実際に受ける際には、受験者は自分のコンピュータを使うこともできますし、学校から借りて使うこともできます。ただし、その前には、もちろんそのコンピュータについてはチェックされることとなります。チェックされた後にUSBのメモリスティックを差すのですが、それを付けた段階では、もうインターネットにつなげなくなりますし、自分のコンピュータの中のその他の情報にもアクセスできないように働く特別な仕組みが使われています。フィンランドでは、「閉じられたシステム」と呼ばれているのですが、そういう形になるようにした上で、試験に臨むこととなります。

この中で使われているオペレーションシステムはLinuxです。このUSBメモリスティックを使う場合、全員が使えるようにその他の補助的なプログラムが入れられています。例えば、絵を扱ったりとか、計算ができるようにとか、そういったものが生徒たちが問題を解いていく上に使えるように組み込まれています。

生徒が解答し終えた後、解答内容は与えられたUSBメモリスティックに保存されます。その後、それが集められ、今度はこの大学入学資格試験特別委員会が持っているサーバーにデータが全て保管されることとなります。そして、そのサーバーから今度、まずは第1段階で評価するその各学校の教師が、サーバーから自分の必要なデータを得ます。次は第2段階の評価を担当する評価委員もそこから取り入れるということとなります。

もちろん、これをいきなり始めて「さあ、皆さんやりなさい」というのは、取り扱う教師に対しても生徒に対しても無理があります。そこで、その練習ができるような環境も作りました。Abitti (アビッツ) というプログラムがあるのですが、・・・Abi (アビ) というのはフィンランドで大学入学資格試験を受ける立場にある生徒たちの呼び名なんですけれども、それとBit (ビット) を合わせているのか分かりませんが、・・・Abitti (アビッツ) というプログラムがあって、これを通して教師たちもまた生徒たちも、このシステム自体がどんなものかということに、まずは慣れ親しむことができます。あとは、様々な感覚を使ったことによる問題と言いますか、それについてもどんなものがあるかということに、まずは慣れて、触れることができるようになるものとなります。

3.3. 試験問題の実例

ラッセ教授：

Abitti (アビッツ) というこのプログラムから得られる例題になっているもので、どんなものがあるかをこれから皆様にお見せしたいと思います。教師たちも皆、大学入学資格試験特別委員会が作ったウェブサイトに入っていくことによって、・・・先ほど緑の文字は色々な科目なんですけれども、・・・科目のところをクリックすれば例題が示されるので、それで試すことができます。

これは保健での救急対応に関わる問題ですが、こういったデモビデオを出すことによって、例えば、解答者がどう対処しなければいけないかといったことを説明するわけです。伝統的な紙筆テスト形式の試験の場合は、この状況自体を文字で表現して、それについての質問が来るという形になりますので、違ったものになっているということです。

ビデオを流し続けると処置まで出てくるのですが、実際の試験問題としては、最初の部分、事故が起こったところまででストップさせて、あとは生徒、解答者の方に自分でどう対処すべきか、応急処置を考えさせ答えさせるようにします。

(動画再生)

試験ではこの直前のところまでを見せます。これにどう対応するかということが求められます。解答内容としては実際に自分が本当に動いて、活動して反応できる状態でなければいけません。応急処置の能力を見るためには良い問題になると言えると思います。

3.4. 母国語科目の試験問題

ラッセ教授：

次は母国語に関わる問題で使われるものですが、キャンペーンビデオを通したメディアリテラシーを測っていることになります。つまり、キャンペーンのためにこの動画を使うか否か、そういったことを判断する能力を測ることになります。同時にそれを見せながら、解答者にはこのキャンペーンビデオはその目的のために成功しているかどうかについて評価させるということが問題内容になります。この場合大事なのは、「うまくいったと答えるにしても、また失敗した、あまりうまくいっていないと答えるにしても、その根拠をきちんと立てて説明することができるかどうか」が重要なポイントになります。

ここでお見せするビデオによるキャンペーンの目的は、「子ども病院を建てていくために資金が必要」という設定で「一般人から寄付を求めるもの」になります。その目的に、どれほど効果があるか、ということが設問内容になります。この問題では音楽が主体になりまして、そこで感情に焦点が当たり、気持ちが届くようなものかどうか。また、子どもたちの実際の写真、映像も出てきます。この中で実際に歌に加わっていますのは、フィンランドでは非常に有名なロックシンガーやポップアイドルたちです。皆さんにご覧いただいてもご存知ないかもしれませんが、日本のそういったロックやポップのアイドルスターたちが出て歌っているようなイメージで、見ていただければと思います。

フィンランドでは母国語試験は二つに分かれています。どちらの日も6時間ずつあります。母国語の一つ目の試験は「読解力」の試験です。書かれている出された文章の内容を理解することができるかどうか、という問題です。例えば、メディア関係であった場合に、そのメディアに対して批判的に読み取ることができるかというような力を見ます。そしてもう一つ、別の日の試験はそれを作り出す、言葉を作り出す力で、これはエッセイが中心になります。2分ほどご覧いただきます。

(動画再生)

最初の例を少し見ていただいて、一部だけですが、非常に多様な情報が提供されるということ、また、多様な形式で試験がなされるということをご認識いただけたと思います。受験者たちは、ヘッドホンを付けたりしてこういった試験を受けるわけですが、このように様々な感覚に訴えるような問題が多く出すことができます。他の科目では、・・・地理等であれば、・・・世界の地形を映像から見せたりとか、科目によっても様々な形が考えられます。もちろん、保健もそうです。なぜ、こういったビジュアルな素材が多いような問題で試験を行うかと言いますと、実際の現在の私たちを取り巻く、またこういった生徒たちを取り巻く世界自体が、現在、本当にビジュアルなものになっていることによります。実際の世界に近い形で問題を出すということも、目的の一つになっています。

次は、母国語の問題のうち、エッセイを書く文章力について測るもう一つの試験についてです。ここではどのようなことを測るかと言いますと、言葉自体、文章を作り上げるというその力も見ますが、もう一つには一般常識がどれだけあるか。そういったことも内容的には見ます。具体的にはどういうことかと言いますと、取り上げている文の内容等で、時代と言いますか、その時、タイムリーな話題を本当にその人は普段から追っていて理解をしているか。そういったことを取り上げるというようなことですね。偏った内容ではなく、本当に日常の周りのことにいつも目を配っているか、というようなことも見ることとなります。

3.5. 保健について

ラッセ教授：

今度は保健についての説明になります。保健というのは、フィンランドでは独立した科目になっています。何かに付随した領域ではなく、独立した科目です。保健の科目は、7年生から9年生の間、義務教育では中学の学年の間に3コース履修することになっています。一つのコースが(31時間)となると、3年間で3コース全部を合わせると200時間以上を受けることとなります。この保健の教師ですが、教職としても非常に高い能力が要求されます。教師として学んでいくためには、他の科目、例えば数学とか化学ですね、そういったものとほとんど同様な程度で教師としての教職の勉強を重ねてきた者たちが、実際に教壇に立つこととなります。

フィンランドでは2007年にこの保健が大学入学資格試験の選択科目の一つとなりました。2007年度が始まる時、・・・その前からですけれども・・・大学の方から、私はこの保健の試験を開発する、より良くしていくための開発グループのメンバーとして選ばれました。そして、これまで10年間、・・・今年で10年目になりますが・・・関わってきました、年2回の試験ということで、これまで20回、保健のテストが行われてきたわけです。その様子を振り返ってみますと、この10年の間でも、非常によく発達してきたものであると言えます。

2007年に保健が大学入学資格試験に採用されるようになってからの実際の受験者数のグラフです。ここでは一般科目、選択科目がどのように選ばれているかを示しています。保健はこの一番上の赤い線ですから、非常に人気がある、たくさんの受験生に選択されている科目となっています。フィンランドでは年間で大体16,000人ぐらいが、毎年、受験してくるものと見ています。

試験が実際に行われる時に、どういうふうに評価をしていくかと言えば、・・・最初は各学校の教師による評価の後に、そういった学校から影響されない外部の評価委員から評価されるわけですが、・・・保健の場合には、そのプロセスに携わる担当者が35名おります。私もその中の1名です。評価委員としては、大体、この1回の試験があると200~300件の試験の評価をすることとなります。私の場合は、大体250件ぐらいを見ておりました。

これは2015年、秋の試験に出題された保健の問題例です。例えば、〇〇という病気について。あとはアレルギー、小麦アレルギーについて説明しなさいというような問題がありました。こういう問題が出題された場合、解答は大体1枚のページで、半ページから長い人の場合は3ページぐらいで書

いてくるものになります。10種類の問題が出されまして、その中から6問を選択、6問まで答えることができるようになります。そのように説明すると答案の量のイメージを持っていただけたらと思います。1番と2番の問題を見ていただきますと、傾向の違いが分かると思います。先ほど1番の方では、〇〇という病気と小麦アレルギーについて比較しなさい、ということで、かなり医学的な知識が必要とされてくるような問題になります。2番は、避妊。ピルと性的な面、・・・あとは繁殖というのでしょうか、・・・そういった問題に関して、健康に影響を与えた要因について熟考、分析しなさいというような設問です。これは単に医学的な知識だけで解答が出てくるというよりも、社会的な内容を問う設問になっています。例えば、女性の社会での立場とか、健康との関わりとか、そういったかなり広い面での分野の知識が要求される種類の問題となっています。

この問題は、統計を読み取ることが要求されている問題です。調査したり、調査結果を解釈する力が求められるのですが、統計に関する表が出されています。この問題はがんに関わるものですが、その表では何を表していますか、ということが聞かれます。そしてもう一つの問題では、その内容について説明しなさい、というような形で解答が要求されます。こういった表が試験で問題に出されて、受験者は表について分析しながらポイントを言葉で短くまとめて表現しなければいけない、ということになります。

ここではがんについての出題なのですが、その他のテーマも色々取り上げることができると思います。例えば、女性の肺がんが増えているのは、女性の喫煙が増えてきているということが影響している、男性の前立腺がんが増えているのは、高齢になるまで生きる人が増えていることによってであるとか。皮膚がんが増えてきている、と言いますのは、フィンランドの北の方ですが、海外に旅行する人の割合が増えてきているために、暖かいところで太陽に当たるが増えることによってこういったものが増えているのか、であるとか、そういったような解答例が考えられるかと思います。

歴史に関わる問題例ですが、このような写真を見て、どんなことが言えるかという問題もあります。19世紀の時代にどのようなことが医学の発達に関わったと言えのるか、といったことを判断させるものです。答えの例としては、例えば右の写真でだと下水が整備されていく中で、その衛生面が変わってきた、ということがポイントになります。左の絵では、顕微鏡を使うようになって、それが医学の発達に大きく影響を及ぼした、そのようなことが出てくるかと思われまます。

3.6. 測定する能力と採点の仕組み

ラッセ教授：

日本とフィンランドで、評価システムの違いということと比較した場合の一つ出てくるのは、フィンランドの場合には本当に記述式の問題が多いということです。記述式問題の解答を、どのようにして信頼性を持って評価することができるか、ということは気になる点ではないかと思います。作題委員会では、模範解答例を作るようにしております。例えば、私が担当する場合、一般の問題ですと得点「6」になる回答例を作成します。後は「重点問題」といって、非常に難しい能力が要求される問題の場合は、得点が「9」得られる内容があります。それぞれの問題について、例えば、最大の点数が得られる解答例というもの他、満点までは与えられないけれども、良い得点が得られる解答例といった例を具体的に書いてまとめて、それを各教師に配りますので、それが参考になって、評価をする人たちには作業が進めやすくなるという事実があります。

これは、これまでの普通の紙による試験の場合の配点、点数の分布、合計点の分布の例です。1回につき7,000人から8,000人が受験する中で、試験の結果は満点が42ポイントになります。通常、こういった滑らかな曲線の分布になります。

通常の点数の分布ですが、最も上位になるところは・・・Laudatourというラテン語から来ているのですが、・・・そこには、ほぼ5%の受験者が入ります。この次の段階、Eximia cum laudeと言いますのは、15%の受験者が入ります。一番下は資格の取得が認められない区分ですが、5%が入るとい

うような形の分布になっています。この図で行きますと、例えば 29 点、29 点～31 点に当たる人たちは、最上位の 5%に含まれるようになります。この表では大体 10 点よりも下の者はこの下の 5%に入るので、不可ということになります。

今度のデジタル化、CBT 化された試験の一般科目では、今度この点数の分布が変わります。新しい形式になりますと、満点は 120 です。以前の 42 点から 120 点に変わることになります。

この問題では、3、3、3 で 9 段階、設問が 3 種類に区分されている中で、5 問まで答えることができますが、最初の問題区分の三つは、大体表面的なことを問う問題となっています。ここからは最大で 20 点得られることになります。

次の三つの部分は、応用力があるかとか、分析力があるかというようなことを問う問題です。3 問中 2 問を答える中で、事実を事実として捉えているか、そして、それについて多様な形で理解して、表現できているかどうか、また、それに対してどのような考えについて分析して解答を導き出しているかどうか、といった点を評価することになり、全体としては最大で 40 点得られることになります。

例えば、この第 3 の区分はより難しい問題になるのですが、ここでは様々なことを評価して解答を作っているか、新しいものを作り出す、色んなものと結びつけていくという能力が要求されます。こういった創造力というような点で評価する問題の具体例を言いますと、例えば、1 週間で自分の心臓の状態を良くするようなトレーニングのメニューを考えなさい、というような、そういった問題が出されます。つまり、自分なりにそれを理解して、またどういう効果的な運動プログラムを作れるかが要求される問題となります。

この真ん中の緑色のところですが、その中の右側をもう一度見ていただきますと、情報処理という内容があります。これは、実は、母国語、言葉に非常に関係が深く、どの問題も、結局、自分で表現した言葉によって解答しなければいけません。保健に関わらず、全ての一般科目について、母国語できちんとより分かりやすく正しく表現できる状態でなければ答えられないものなので、科目は違っても、全てに関して母国語の能力が関わっていることになります。

この秋ですね、4 週間後に初めて保健がデジタルで実施されますので、私も評価委員として、今回初めてコンピュータ画面を見ながら評価していくことになっています。そのためのコースというか、慣れるための講座もありました。実際に今度やっていくことになります。

説明についてはここまでです。次に質疑応答、ご質問がありましたら、お願いします。

(拍手)

司会

ラッセ先生、どうもありがとうございました。

予定よりだいぶ早く終わりましたので、少し休憩を取らせていただこうと思います。私の時計で今、3 時ちょっと前なんですけれども、3 時 10 分から質疑応答を開始したいと思います。それまで暫時休憩ということでよろしく願いいたします。

4. 質疑応答

4.1. デジタル化の狙い

司会：

ラッセ先生のお話を伺う限りでは、少なくとも今のところ、記述式問題の自動採点という方向を目指して導入されたようには見えないと思います。むしろ、試験問題がデジタル化されることによって、

紙の制約を超えて様々な素材が試験問題に使える、それから、今の子どもたちの生活と学びが、かなり「デジタルな環境」の中に置かれているという、この二つの理由が導入の目的と感じた次第です。フロアからご質問をいただく前に、そのことに関して、ラッセ先生から少しコメントをいただきたいと思います。

ラッセ教授：

フィンランドの大学入学資格試験の CBT 化の目的ですね。理由はたくさんあるのですが、最大の目的の一つは、多様な形式の問題を提供できるということです。現実の世界、身の周りにある私たちの周りの世界のシミュレーションを問題として提示することができるということです。あとは、視覚、聴覚等、様々な感覚を使って問題を解いていく形を取り入れることができるということです。あとは、「学び方の哲学」とでも言うのでしょうか。その学び方に関するフィロソフィです。2000 年代、そして 2020 年代に向かって考えてみても、今の若い人たちの学び方、ものの捉え方は、よりマルチモーダルなものになっていることが多いということです。それが関わっています。

これまでの紙による試験の場合は、実務上、例えば、試験が終わった時に答案をヘルシンキの大学入学資格試験特別委員会に全部郵送で送っていました。そして、そこに送られたものがさらに今度また次の評価委員の方に送られ、そこからまたさらに戻して特別委員に送られる、というような手続きです。郵便で小包として取り扱うものが、何トントラック何台分も全国に生じていたということです。現在の私たちの身の回りを見て、こういった形を続けていくのは今の時代には適合していないのではないか、という認識がありました。現在はデジタル化されましたので、輸送はもっと簡単です。また、実際、郵便として運ぶ場合には、また別のリスクがあります。郵便が期日まで届かなかったとか、そういうことが起こる場合もあるので、実務的な理由の一つでもあります。

これまでなされた試験の内容をデータ化して、・・・アーカイブと言いますか、・・・保存していく際に、1 年間で、大体、全体で 20 万件の答案が発生します。1 年の間に出てくる答案でこれだけなので、10 年間でも 200 万件の答案がフィンランド全国から発生するわけです。こういったものもデータ化して保存しておくことができるようになれば、取り扱いもしやすくなります。そういった、データ保存の意味も効果もあると思います。

あとは、手書きによる問題ということもあります。記述式の答案を評価していく場合、読み取りが非常に難しい文字があります。手書きで書かれた解答の場合、評価自体がなかなかできないケースもあります。デジタル化されるとそれはもう一目瞭然で、文字が分かりますから評価はしやすくなるということです。

もちろん、最初、導入に当たっては、新しく色々な費用がかかるという問題が当然発生するわけですが、これが形作られて定着していきますと、今度は経費が徐々に前よりも掛からなくなってくるということになります。最初は別としても、経費は結果的に節約に結びついているということです。

大学入学資格試験は受験する際に受験料がかかります。実際、受験料によって試験に関わる委員会、採点者たちに支払う費用も賄っています。それも大きく節約できてくることになります。教育省からの援助金もあるのですが、その割合は非常に小さいものです。大半は、受験者側・・・実際は親になるのでしょうか・・・受験者側が支払う受験料によって、実務が行われるようになっていきます。別の言い方をすれば、国のそういった仕組みに左右されないで、大学入学資格試験自体で色々なことをどんどん進めていけることになりますので、そういう意味では進めやすいという効果もあります。

4.2. 一斉実施される大学入学資格試験

司会：

ありがとうございました。導入の質問のつもりだったんですけども、ラッセ先生からかなり充実したお答えをいただきました。

どなたでも結構ですので、所属とお名前を言っていただいで、ご質問、ご意見をいただきたいと思いますが。よろしいでしょうか。

フロア：〇〇大学の〇〇と申します。非常に基本的な質問なのですが、フィンランドの人口と、それから高校生の1学年当たりの人数、この資格試験を受ける人のパーセンテージを教えてくださいませんか。

ラッセ教授：

フィンランドの人口は550万人になります。大体、一つの年代ごとに6万人ぐらいの人口になります。高校では1学年ですと、大体3万人ぐらいになります。この大学入学資格試験は100%、高校生は全て受けなければいけないことになっています。ただし、フィンランドでは「ルキオ」と呼ばれる高校だけではなくて、もう一つ別の職業専門系の学校というのがありまして、その学校の生徒も受けることができます。

フィンランドの仕組みでは、中学の後に職業系の専門学校に行った人たちでも、ルキオのコース、高校のコースを職業専門学校内で履修することができて、それによって後で試験を受けることもできます。また、逆に、ルキオに在学している生徒たちも、職業専門学校から単位を得ることができるので、かなりその辺りは広く学ぶことができる環境になっています。

フロア：

先ほど、大学入学資格試験は同じ日に、同じ時間に実施するとおっしゃったと思うんですが、それは科目ごとに日にちが違うのでしょうか。あるいは同じ日、同じ時間帯に色んな科目が並行して行われるようなものなのでしょうか。

ラッセ教授：

全国で同じ日に一つの同じ科目。1科目だけの実施になります。6時間かかりますので、その1科目だけ、何月何日というふうに決まっています。選択科目はいくつか同じ日に入っています。例えば、今年の秋ですね、今年の9月18日は一般選択科目では心理学か物理か生物、そこから選択することができます。1科目だけをそこから選択することになるわけです。それで、9月20日は英語。外国語の英語です。22日はスウェーデン語、第2外国語か母国語ですね。9月25日は数学、9月27日は母国語。9月29日はまた、一般選択科目の2回目ということで、保健、地理、化学の中からどれかを選択することができます。

一般選択科目の中で、同じ日にこの中から一つという組み合わせになる科目があって、受験生がその中から複数の科目を受験したい場合には、この3回の機会に分けて受ければ良いということになります。今年の秋にはこれを、次の春にはその時に取らなかったもの・・・ということで3期間に渡って受験すればよいことになります。必ず受験しなければいけない科目数は4科目なのですが、受験生によっては12科目を受ける人もいます。それはやはり期間を分けてということですが、平均的には、大体4科目から6科目を受験しているということです。

フロア：

ありがとうございました。

ラッセ教授：

インターネットですぐにお見せできるので、やっぱり便利です。先ほどの問題は、実は、フィンランドの国営放送のものです。フィンランドのNHKみたいなチャンネルがありまして、その番組紹介でもあったのです。国営放送では、科目の試験があったその日。同日の夕方に、解説の番組を流し

ます。その日に出題された問題を見せて、専門家とあとは受験生ぐらいの歳の人とで、国営放送で同日に解説番組を放送します。もちろん、それは誰でも見ることができます。

ご質問内容にもよりますので、全く必要ないかもしれませんが、もし、ネットをお見せする方が良いのであれば、それは可能です。

フロア：

ありがとうございました。

倉元：

あと1時間くらい時間があります。

4.3. 受験科目数と大学の要求科目

フロア：

●●大学の■■です。先ほど、受験科目が4科目から12科目というお話がありましたが、それは大学を受験する時に必要な科目だからでしょうか。4科目でよかったり、12科目必要だったりするのでしょうか。平均で4～6科目の受験ということでしたので、12科目必要とする大学というのは、どういう大学なのでしょう。

ラッセ教授：

科目をいくつ選択するとか、何を選択するというのは2、3の理由があります。

その第一の理由は、やはり、自分がこれから受けたい大学の受験に役に立つ内容の科目を受けるといことです。例えば、医学部を目指す人がいた場合は、必ず受験しなければいけない科目は物理と化学と生物です。そして、保健も入ってきます。医学部を受験するときにこれらの科目で高い得点が得られていないと、やっぱりよく評価されないということです。

例えば、エンジニア系で、理工学系で学んでいきたい人の場合は数学と物理は当然選択するようになります。例えば、語学を専門にしていきたい人の場合は、最低限の語学ではなくて、いくつもの語学科目を受験するということもあります。

どこを受験するかということ以外に個人的な面に関係しているものは、自分がどんな科目が好きか、興味があるか、ということがあります。あとは、例えば、学校によっては好きな先生というか、分かりやすく教えてくれた先生によって好きな科目になって、そういったものを理解したいと思って受けたいというようなこともあるかもしれません。保健を選択する受験生が多いのは、やはり取り扱っている話題が、非常に身の回りの身近なことで自分たちに直接関係あることなので、それで身近な科目として選択する人が多いのではないかと思います。

三つ目の選択の理由というのは、やっぱり傾向としてこの科目の問題は難しいと言われていたり、これはもう、ちょっと簡単かなと言われるものもあるので、それによって判断して取りやすいもので選択していくというのがあります。大学入学資格試験で得られた点数は、その先に大学の個別の入学試験を受ける場合、その基本ポイントと言いますか、基本の点数としても見られることが多いですから、やっぱりそれは受験行動に関わっていないわけではないのです。非常に重要な要素になっていると思います。

今、政策的に大学入学者選抜の方針をどうしていこうか、という議論が出ています。一部では、例えば、大学個別の入学試験をもうちょっと軽減させて、逆にこの大学入学資格試験の方による判断を、もっと重くしていった方がいいのではないかと、という意見も出ています。フィンランドでは、4月にも大学入学資格試験があるのですが、6月に大学の個別の入学試験があります。大学側からしても、結果的に似たような問題をこんなに近い期間に実施して、多数の大学のスタッフをこのために動員す

る必要があるのか、というような考えもあります。

教育省の指示で、この秋には大学入学資格試験の点数によって直接大学に入れるというような、そのようなケースも段々増えていった方がいい、というような指導を受けています。ただし、どんな専門分野でも大学入学資格試験だけでいいかという、そういうわけには行きません。やはり、分野によって異なります。例えば、教師になる人たちのコース、あとは医学部ですね。あとは、音楽とかそういう芸術関係。そして建築関係等、その専門の中での適性も見なければいけない分野もあるので、やはり大学側で適性チェックをする試験が必要になります。

あともう一つのご質問の件です。例えば、12科目受験するような人がなぜ出てくるのか、ということです。これは12科目の全部がどこかの大学で要求されるというのではなくて、様々な面で非常に優れた生徒ということになります。毎回行われる試験の中で、ごく限られた少人数の優秀な人たちです。そういったケースは、大体は新聞記事になります。先ほどの「L」という一番高い評価が何科目あったとか、全部を受けたとか、そういうことが新聞記事になって、インタビューもあつたりします。報道されていたケースでは、やはり全てについて非常によく優秀にできた生徒でした。大学の受験とは直接の関係はなかったです。

あとは大学側から見た際に、大学入学資格試験での点数をスタートポイントとします。どの学部、学科でも重要視するのは、やはり母国語の試験結果です。あとは、数学です。分野によっては自然科学系の中から物理、化学、生物がよく見られる場合があります。そして、あとは体育関係の大学です。そういった専門を受験する者にとっては、当然、保健が重要視されるスタートポイントになります。

4.4. 出題範囲

フロア：

○●大学の◇◇と申します。大学入学資格試験は高校生、特に大学の方に進む学術系の高校に行った人たちは100%受けるというように伺いましたが、大学に進学を希望しない生徒も受けるのでしょうか。

ラッセ教授：

フィンランドでは大学入学資格試験を受けることには二つの意味があります。一つ目の意味は、これから大学の方に進んでいくという、その通り道であるということ。もう一つはシンボリックな意味があります。フィンランドでは、伝統的にこの試験に合格すると、しっかり勉強をしたと認められるという認識があります。シンボルとして、合格者は白い帽子を貰えます。白い帽子を貰ってから、大きなパーティーを開きます。卒業後、毎年5月1日になると、以前にもらった人たちも皆その帽子を被って歩きます。それは、やはり非常に誇りになる大切なことであるという認識があります。全て、ここまで高校で学んだとしたという証です。

大学入学資格試験に合格した者が、全員が大学に行くわけではないですし、行けるわけではないので、大学に進学できない状態の人もあります。と言いますのは、高校を卒業する人数は、大学が入学許可する、募集する人数よりも多いですから。やはり全員は入れないという状態ですね。例えば、私が関わっている保健に関わる専門に入って、教育者としての学びをスタートしたい人たちは、受験生のうちの6~7%しか入学できない状態になっています。

国の大学政策としては、少し問題になるのではないかと思います。つまり、これだけの試験に合格した能力のある生徒たちが、結局、大学で募集する数よりもずっと多いため、皆が入学して学び続けることができないということになります。それは大学側で、教員や受け入れ態勢の人数が足りないということもあるのですが。そういった問題もあるかもしれません。

フロア：

出題範囲は、高校で学んだものが範囲でしょうか。それとも・・・。

ラッセ教授：

この試験の範囲は、高校のナショナルカリキュラムに定められている内容です。フィンランドでもナショナルカリキュラムは10年に1回改定されているのですが、最新のものは2016年に改訂されました。この時にはその内容が500ページで出されまして、あとは評価の仕方のポイントというか、そういったことが500ページ書かれていました。教師たちは、全員が全てこれを見ないといけません。そういうものでした。

大学入学資格試験の問題を作る時、「色々な教科書を目の前にしてそこから参考にして作るのですか」と聞かれるのですが、そうではなくて、試験問題を作る時はナショナルカリキュラムを前にして、それを基にして問題を作ります。ただ、実際には、教科書を制作する人たちは慣れています。ポイントを得ていると言いますか。ですから、実際は教科書にもナショナルカリキュラムに準じた良い内容が掲載されているので、重なる部分はあるでしょう。

私が関わっている保健で言いますと、これに関する教科書は四つの出版社が出しています。4種類あっても、結果的に取り扱われている内容は非常に近いものになっています。元からあったこの4社に加えて、もう1社、2年前から出てきたところがあります。そこは、教科書を全てデジタル化された、e-テキストという形で、それだけを制作している出版社です。今、まさに高校生ぐらいで受験に臨む人たちは、やっぱり実際の本、手に取れる本で学ぶ方が学びやすいという人が多いのですが、これから大きくなってくる今の幼児とか、小中学校はもう身の回りにタブレットがあり、デジタルのもので読んでいるような子どもたちです。彼らが大きくなってくると、その状況はまた変わり、電子媒体の方に寄って行くのかな、という予想ができます。

4.5. コンテンツテストとコンピテンシーテスト

フロア：

●○大学の△△と申します。折角ですから、少し専門的なことを確認したいのですが、日本でも、従来、コンテンツベースと言うのでしょうか、それぞれの教科で扱う内容を中心に、試験問題が作成されてきたのですね。ところが、その発想を変えて、コンピテンシーベースドと言いましょか、こういう資質や能力を付けなければいけない、と。日本では、特にその中でも、・・・日本だけではないんですけども、・・・思考力や判断力を付ける、各教科で身に着けるべきは、教科の内容と言うよりも資質能力、思考力なんかを付けていく、したがって、試験問題もそれぞれの教科における思考力をいかに測るか、ということを追究しています。このプロジェクトも、従来の知識中心型のテストではなくて、思考力を、例えば、国語教育において思考力をいかに付けるか、その思考力がどの程度ついたのかを測定していくというような形に変わってきたわけですね。フィンランドでは、テストはやはりコンピテンシーベースドで作られているのでしょうか。それとも、先ほどの話を伺っていると、保健では、何となくコンテンツベースなようなイメージだったものですから。テストを作る時の、基盤となる考え方がどんなものなのかというのを、ちょっと、お伺いしたいのですが。

ラッセ教授：

フィンランドでも、流れとしてはやっぱりコンピテンシの方になってきているということが言えると思います。特に、昨年から新しくなったナショナルカリキュラムの中では、重要になる10のコンピテンシというテーマ、内容を挙げています。ここでは、例えば、コンピュータとかICTを扱う能力ですとか。これは、全ての科目について、全ての教科についてコンピュータ、ICTを扱える能力。あ

とは、多文化を扱える能力。それから、あとはメディアとか、いろいろなそういう視聴覚。様々なものを読み取り、扱える能力。もう一つは、「企業を立ち上げる」という意味の起業ですね、その起業をする能力。そういったようなものが含まれていて、こういったことの 10 のポイントがありまして、それが全ての教科において実現されるようにというようなことが、新しく昨年から入れられた内容になっています。ただし、これによって教科ごとの内容の重要性が減るかと言いますと、そうではなくて、内容ももちろん充実させた上で、全ての教科でこういったこともしっかり考慮して入れていくということです。設問される問題にも、こういったことが関わってくるというふうになります。両方の柱を持ちながら進めていくということです。

あとはフィンランドの試験問題、一般科目の設問ですね。この中では一般科目の問題の中で、1問～2問は、一つの科目の内容を超える、そういった内容にするという方針があります。具体的には、例えば、保健の際、アルコールを題材にとったとします。健康に関わるアルコールということと、あとは税制ですね、税制を結び付けて、それについて考慮させたり述べさせる問題があります。そういった内容で出題されますと、保健の知識だけではなくて、数学だとか、分析とかそういったことも入ってきます。そういう1教科科目ではない、もっと多数の教科科目にまたがる問題を1～2問入れるということですが、こういった能力が日常的に要求されてくると思います。

司会：

よろしいでしょうか？

4.6. デジタル答案の管理

フロア：

○●大学の◆◆です。内容ではなく、CBTの方法のところでも少しお聞きしたいことがあります。要するに、USBを使って、閉じたシステムで実施するというので、受験者の方の解答も全部USBの中に保存されるということなのですが、その先のことをもしご存知だったら教えていただきたいのです。結局、個々のマシンにUSBが刺さっていて、その中に解答が入っているわけですね。そこで、その解答を全部集めて、また採点するプロセスの間の仕組みですね。あるいは、答案の管理。取り違えがあるとかないとか、そういった部分で、何かどうなっているのかということです。特に紙ベースからデジタルに変えたことによって、逆に紙ベースの時代と比べて、その辺り労力がかえって増えたのではないかと思います。あるいは減ったのでしょうか。ちょっと実用的な観点から教えていただきたいのです。

あと、もう一点、全部デジタル化するまで2019年までかかるわけですね。その間、デジタルとアナログが共存した形で実施しているわけですね。そこで何か、成績を集積するにあたって混乱が今までなかったのか。そういう部分で、もし、分かっている範囲で教えていただければと思います。

ラッセ教授：

まず、最初の方の実際面なのですが、USBスティックから云々というのは、そこは私には詳しくは分からないのです。ただ、担当者が試験をする時には認証が必要になるということを書いていましたので、認証の関係で、情報源が特定できるのではないかと、ということは思います。これは後で確認しないと、その具体的にどうなっているのかは分かりません。

2019年までに段階的に変わるということで、紙とデジタルが混在することで混乱が起こっていないかということについてです。今のところ、まだ、2回試験があっただけですけども、特に混乱は起こっていません。それは、逆に、段階的にデジタル化することで防いでいます。必修科目に適用して全員が受験する前に、今はまだ、いくつかの科目で取り入れて行っている段階です。その際の経験を次の試験に有効に生かして、何か改善点があれば、それを生かして修正していくということです。

後になる試験に向けて、よりもっと良いものを取り入れていこうとしています。試験として変えていくという意味もある、ということなのだそうです。

補足情報です。大学入学資格試験特別委員会が Facebook であるページを立ち上げています。その Facebook 上で、既に試験を受けた人とか、教師たちとか、皆の経験をシェアしています。それは非常に面白いと思います。

Facebook とは違うものですが、大学入学資格試験特別委員会のホームページがあります。その中で、この USB に関わって、何がどうなっているかというのは、フィンランド語なんですけど、かなり長く説明してあります。受験会場にもなる各高校、そこに対して 20~30 ページくらいになる、技術面で実際どういうふうにするか、ということについて解説が、かなり事細かく書かれて渡されています。その中で、実際どうするのかという指示がなされています。

私は、これまで 10 年の間、紙の方の問題を中心に問題作成などの色々なことをやってきました。これがデジタル化になってくると、もう少し若い年代の教師が責任者になるように移行されてきています。私が現在関わっているのは評価委員の方なので、第 2 段階の評価の方では、中心的にやっています。この移行期間について、保健についてですが、フィンランドに戻りましたら、また具体的に、もうちょっと詳しく内容を聞くとことになります。

4.8. 複数回受験による成績の更新、個別試験

フロア：

××大学の◆□です。よろしいですか？すみません、

日本は、3 年生の最後に 1 回だけ試験を受けます。浪人すれば別ですけども、それも含めてチャンスが 2 回ということになります。3 回あるということは、1 年生ぐらいの終わりぐらいから受けるチャンスがあるということですよ。質問は三つあります。それがひとつです。

それから、1 回目で自分の取っている科目が悪いと思ったら、次にまた同じ科目を受けてよい。3 回受けて、良い点数を自分の点数として使えると聞いたのですが、その認識で良いのかどうかということです。何年生から受ける人が一番多いのかということと、その何回もチャレンジできるということですね。

ユヴァスキュラ大学の先生の学部で、個別試験をやっているとして、何回ぐらい試験をやっているのでしょうか。以前、体育学部は 3 回ぐらい 2 次試験をやっているという話を聞いたのですが。保健学科は何回 2 次試験をやっているのでしょうか。それとも、大学入学資格試験の結果だけで入学させているのか、ということです。

ラッセ教授：

まず、最初に、点数が良くなるように何回もトライできるかということは、それは一生できます。私もまた受けて点数を上げようと思えばできますが、ちょっと間に合わないということになりますでしょうか。それは一生、何回限りとかではなくて、受けて、ずっと、例えば 3 回のセットのあとでまた受けて、点数が良かったらそれを自分の成績とすることもできます。

受験は高校 1 年生から可能なものもあるのですが、基本は必修コースを修了した上で受けます。例えば、保健であれば、最初の一つのコースが終わって、次の春であれば受けられます。ただ、実際には、高校 2 年、3 年で受験というケースが多いです。試験の目的として、科目の習得度だけではなくて、その人の成熟度を見るという目的もあります。だから、大学で学ぶために、どれだけ何ができるか、成熟度があるか、ということを見る側面もあります。したがって、高校に入りたてというよりは、コースを終えて後になってから、というのが、実際、必要とされています。

例えば、ユヴァスキュラ大学の体育のことですが、1,000 人受験生がいたとしましょう。その中で、その時点でユヴァスキュラ大学に行かなくとも、全国各地で記述式の試験を受けられるようにして始

めます。

フロア：

二次試験，個別試験が，ということでしょうか。

ラッセ教授：

試験は記述式から始めて，体育教師を目指す人たちの知的能力をチェックするということです。読んだり書いたりするのと，あとはモチベーションがその教師としてどれだけあるかをまず見ます。そこで，1,000人志願した中から250人に絞ります。その後，大学の第2次試験というのがあって，そちらの方は様々な要素があります。丸一日かかる第2次試験の中では，まず実際に運動能力でどれだけ動くことができるかとか，あとは実習的に何か教えることを。教える形でメッセージを送ることをやってもらって，その人がそういう能力があるかということを見るということがあります。実質面と動き，体力的な面と，あとは教師として教えるために，人にメッセージを送ることができるかどうかというのを，第2次試験の方でチェックをするということになります。

フロア：

試験は2回あるということですね。

ラッセ教授：

そうですね。大学の中で。

フロア：

知識の部分と実技の部分，ということですね。

ラッセ教授：

実技が先ではなくて，知的能力の試験の方が先ということです。

フロア：

はい。どうもありがとうございます。

ラッセ教授：

それは体育だけではなくて，体育と保健と両方で問うということです。両方での適応性，実際は両方の教師でいることが，教壇で立つことが多いのです。

現在，こういう形式になっているのは，改訂されてこうなってきたということです。ある調査がありまして，入試段階で受けた人，そして，実際入った人がその大学で学びを進めて，どれだけ能力を高めていくかという，そのプロセスを研究した内容があります。それに基づいて今こういう内容に，試験の方法に変えたということです。

4.9. デジタル答案のバックアップシステム

フロア：

〇〇大学の〇〇です。テクニカルな質問ですが，基本的にUSBで問題を配付して，解答もUSBに入っていますよね。バックアップがどこにも取られていないですね。そうすると，回収したUSBが読めない可能性もあると思うのですが，バックアップ体制というのはどうなっているんでしょう。

ラッセ教授：

技術面の USB メモリスティックの扱いそのものについては、私は知識がありませんので、またその内容を確認してからお答えすることになります。

フロア：

試験の途中でハングアップすることもあると思うのです。そうすると、解答の途中までが多分 USB に残っている。リスタートして、その続きができれば良いのですが、そうではないとしたら・・・新しい USB で試験を続行するとしたら、途中のデータが使えなくなるという問題が出てきます。それと、解答が全部うまく行ったとしても、回収したら USB が読めないということも出てくるので、その点が解決できないと、かなり大きな問題になると思います。

ラッセ教授：

途中で止めてしまった場合は紙の場合でも同じで、それはそれでそこまでです。

フロア：

いや、それは、その人の意志で止めればいいんですけども、トラブルっていうのはそうではなくて、起きてしまいますから。その人の責任ではないですね。

ラッセ教授：

なるほど、そういう場合ですね。装置的なトラブルというか、そういうことが起きる場合のことでですね。実際に試験として実施される前に、テストケースで何回も実施したことです。今、昨年から実際の試験が始まって、今まではそういう問題があったという報告だとか、受験生からの不満は、まだ出ていないということです。何か、そういう問題が起こった場合、・・・紙の時からあったのですが、・・・クレームを出すことができるのですが、そういったことに関しては、まだ出てきていません。今のところ、順調に進んでいるということなので、システム上の対応はなされている。内容は良く分からないのですが、ちょうど、お問い合わせいただいた件については、もちろん、自分自身もきちんと知りたいことです。

4.10. 採点の一致度

司会：

残り時間が3分くらいなので、手短にお願いします。

フロア：

○×大学の□×と申します。個別の高校の先生が採点されるという話だったのですが、再度評価する時に、どれぐらい採点結果、評価結果が変わることがあるのかということについて教えていただきたいです。

ラッセ教授：

まず、答えの前半です。分かりやすい例として保健の場合ですが、試験科目としてなかった状態から 2007 年にスタートしたわけです。初めて出題された際にはは、やはり教師間の差と、教師と評価委員の差が、まだ大きかったのです。それが、試験を 5～6 回経験した後になったら、全体として掴んできたものがあって、その後は差があまりない状態になってきました。

これはまだ最高点が、紙による試験の 42 点の時の話なのですが、1 問で普通の問題が最高 6 点のもので、評価委員が、例えば、最初の採点の先生が 2 点、教師が 5 点と採点したとします。こういう

3ポイント以上の得点差がある場合は、最初に見た評価委員とは別の評価委員に、もう一度見てもらうということで。評価委員同士の違いがなければ、それはそれで良いということになります。

あとは、実際の試験が、例えば、春に行われたとして4月です。採点が5月に終わって答案が全部学校に戻ってくるのですが、教師はそれを見ることができる。そうすると、結果が出てきた時に、高等学校の教師が、大学入学資格試験特別委員会に、この科目の評価をしたのは誰か、とチェックすることができます。そうすると、例えば、ラッセ教授が採点を担当した時にはこうであった、となると、ラッセ教授と連絡を取っても良いことになっています。例えば、特に文句がある場合は連絡を取っても良い、電話をして聞いても良いということになっています。そして、「これについてどうなんでしょう」と聞いて、その根拠について話したりすることもできます。実際、そういう権利があるということです。ただ、実際にはこれまで1回の試験であれば、1件か2件です。本当にあるかないかの状態で来ていますので、内容としては良い評価の仕方がされているのではないかと推察できます。

最初は試験が終わってその時の状態ですね。その次は試験結果が出て、教師がそれを知ったとき。そして、今度は、そのまた後の段階ですが、受験生がクレームを出す権利があります。受験生がクレームを出した場合には、それまで関わってきた以外の評価委員が、また2人でチェックすることになります。結果的には、例えば、7,000人受験した中で、あるとすれば20人くらい出てきます。その20名を再評価、2人でやると、大体、その20名のうちの20%の点数が上がる結果になる、という状況です。実際は、学校の教師と最初の評価委員の間のコンセンサスと言いますか、それはかなりいい状態になっているということです。

5. 閉会

司会：

ありがとうございました。ラッセ先生はサッカーがお好きだということだそうなんです、すでにアディショナルタイムに入っております。大変申し訳ないのですが、これにて質疑応答を終了とさせていただきます。かなり、時間的な余裕を取ったつもりでしたが、これだけ質疑が盛り上がったということは、ラッセ先生の講演が素晴らしかったということと、私どもがいかにフィンランドから学ぶべきことが多いかということを表しているかと思います。当初は参加人数が少なく、若干心配したのですが、かえって極めて濃密な議論ができたということですので、ご満足いただけたらありがたいと思います。

それでは最後に、ラッセ先生に大きな拍手を持って、感謝の意を表したいと思います。

(拍手)

司会：

これにて終了いたします。今日はどうもご参加ありがとうございました。

2 資質・能力分析マトリクス

設問内容		国語科において育成すべき 資質・能力	知識・技能(何を理解しているか・何ができるか)			思考力・判断力・表現力等(理解していること・できることをどう使うか)								学びに向かう力(どのように社会・世界と関わり, よりよい人生を送るか)								
			a.正しい国語表記 ができる(漢字, 仮 名遣い, 句読点)	b.言葉の決まり(文 法, 修辭法)を正し く適用できる	c.日本の伝統的な 言語文化を活用で きる(ことわざ, 慣 用句, 四字熟語, 文学的知識)	d.目的や課題に応じて 文章や情報を正確に 抽出できる	e.文章の構成や論理の 展開に沿って, 正確に 内容を解釈すること ができる	f.課題に応じた的確に 文章表現ができる	g.人物の心情・情景の 描写を読み取ること ができる	h.筆者の主張や心情を 推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立 てることできる	j.自分の知識や経験を 踏まえて, 考えをまと めることできる	k.自分の考えを相手の 状況を踏まえて的確に 説明することができる	l.新しい情報を知識・感 性に照らして, 自分の 考えを深化・発展さ せることできる	m.言葉を通じて社 会や文化を創造し ようとする	n.言葉を通じて自 分のものの見方や 考え方を広げ深め ようとする	o.様々な事象を体 験し, 言葉での交 流を通じて心を豊 かにしようとする	p.言葉を通じて他 者の心と共感し, 互いの存在につ いて理解・尊重しよ うとする	q.日本の言語文化 を享受し, 活用・継 承・発展させよう とする	r.読書を通して自 分の人生を豊かに しようとする		
知識 (賞讃 事項)	評論・ 小説共 通設問	1.漢字や熟語の読み書きを問う(同音異義語等含む)																				
		2.語句の辞書的意味を問う																				
		3.言語文化に関する知識を問う																				
読解	評論・ 小説共 通設問	4.表現の特色を問う																				
		5.文章の構造や対比している事柄を問う																				
		6.文脈に照らし指示語の内容を問う																				
		7. " 挿入すべき語句や文を問う																				
		8. " 文や語句の意味内容を問う																				
		9. " 文の示す目的・状況を問う																				
		10.文脈に照らし筆者の主張(考え)を問う(要約を含む)																				
		11. " 筆者の主張(考え)の根拠や理由を問う																				
		12.本文全体を読み, 筆者の主張(考え)を問う(要約を含む)																				
	小説で の設問	13.文脈に照らし登場人物の心情(心情変化)を問う																				
		14. " 登場人物の心情の理由を問う																				
		15. " 登場人物の行動を問う																				
		16. " 登場人物の行動の理由を問う																				
		17. " 登場人物の人物像や関係性を問う																				
		18.本文を踏まえて, 自分の考えを問う																				
	表現	評論・ 小説共 通設問	19.図表の情報を読み取り, 分析・考察させる																			
			20.複数の文章の情報を読み取り, 分析・考察させる																			

注 設問内容(縦軸)と国語科で育成すべき資質・能力(横軸)についての補足事項
3.文学史, ことわざ, 慣用句など
7.語句補充や接続詞, 文の挿入箇所を問う
8.本文の内容に即した語句の意味や比喩的表現の説明
9.傍線部の具体化, 抽象化を求め
10.部分要約
i.検証を踏まえての仮説, 小説の行間を読むものは含まない
j.本文以外に根拠を求めている場合(具体例)
k.文体や言葉遣いなど
l.解答を図示することも含む

3 分析・分類結果マトリクス

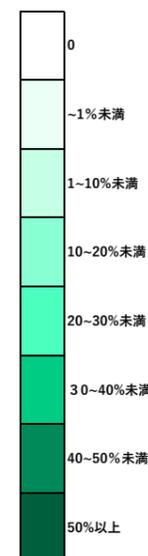
国立大学20大学分 総合計数と割合

設問内容	知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）			思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）									学びに向かう力（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）							総数
	a.正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）	b.言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる	c.日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用句、四字熟語、文学的知識）	d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる	e.文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる	f.課題に応じて的確に文章表現ができる	g.人物の心情・情景の描写を読み取ることができる	h.筆者の主張や心情を推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立てることができる	j.自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる	k.自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる	l.新しい情報を知識・感性に照らし、自分の考えを深化・発展させることができる	m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする	n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする	o.様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする	q.日本の言語文化を享受し、活用・継承・発展させようとする	r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする		
知識 （言語 共通 設問）	1.漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）	126(1.9%)	0(0.0%)	6(0.1%)	24(0.4%)	12(0.2%)	0(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	169
	2.語句の辞書的意味を問う	23(0.4%)	10(0.2%)	5(0.1%)	20(0.3%)	9(0.1%)	11(0.2%)	1(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	80
	3.言語文化に関する知識を問う	10(0.2%)	10(0.2%)	14(0.2%)	9(0.1%)	7(0.1%)	8(0.1%)	0(0.0%)	3(0.0%)	0(0.0%)	4(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	65
読解 （評議・ 小読共 通設問）	4.表現の特色を問う	48(0.7%)	46(0.7%)	8(0.1%)	52(0.8%)	45(0.7%)	51(0.8%)	21(0.3%)	4(0.1%)	3(0.0%)	3(0.0%)	6(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	287
	5.文章の構造や対比している事柄を問う	84(1.3%)	86(1.3%)	4(0.1%)	96(1.5%)	95(1.4%)	87(1.3%)	5(0.1%)	13(0.2%)	1(0.0%)	3(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	475
	6.文脈に照らし指示語の内容を問う	49(0.7%)	49(0.7%)	0(0.0%)	57(0.9%)	52(0.8%)	50(0.8%)	1(0.0%)	2(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	260
	7. // 挿入すべき語句や文を問う	16(0.2%)	22(0.3%)	6(0.1%)	39(0.6%)	51(0.8%)	5(0.1%)	7(0.1%)	3(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	149
	8. // 文や語句の意味内容を問う	186(2.8%)	188(2.9%)	9(0.1%)	224(3.4%)	212(3.2%)	204(3.1%)	22(0.3%)	13(0.2%)	3(0.0%)	7(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1068
	9. // 文の示す目的・状況を問う	102(1.6%)	101(1.5%)	5(0.1%)	112(1.7%)	114(1.7%)	101(1.5%)	7(0.1%)	18(0.3%)	2(0.0%)	2(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	564
	10.文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	133(2.0%)	134(2.0%)	5(0.1%)	150(2.3%)	150(2.3%)	144(2.2%)	7(0.1%)	31(0.5%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	755
	11. // 筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う	182(2.8%)	184(2.8%)	4(0.1%)	202(3.1%)	202(3.1%)	203(3.1%)	4(0.1%)	61(0.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1042
	12.本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	79(1.2%)	82(1.2%)	2(0.0%)	103(1.6%)	104(1.6%)	96(1.5%)	0(0.0%)	52(0.8%)	0(0.0%)	2(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	520
小読 での設問	13.文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う	79(1.2%)	78(1.2%)	1(0.0%)	84(1.3%)	53(0.8%)	80(1.2%)	77(1.2%)	6(0.1%)	4(0.1%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	463
	14. // 登場人物の心情の理由を問う	34(0.5%)	34(0.5%)	2(0.0%)	34(0.5%)	25(0.4%)	36(0.5%)	33(0.5%)	4(0.1%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	203
	15. // 登場人物の行動を問う	9(0.1%)	8(0.1%)	1(0.0%)	12(0.2%)	7(0.1%)	8(0.1%)	10(0.2%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	56
	16. // 登場人物の行動の理由を問う	18(0.3%)	18(0.3%)	2(0.0%)	18(0.3%)	11(0.2%)	18(0.3%)	16(0.2%)	1(0.0%)	3(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	105
	17. // 登場人物の人物像や関係性を問う	10(0.2%)	11(0.2%)	0(0.0%)	9(0.1%)	5(0.1%)	11(0.2%)	11(0.2%)	0(0.0%)	2(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	59
表現 （評議・ 小読共 通設問）	18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	12(0.2%)	12(0.2%)	0(0.0%)	11(0.2%)	11(0.2%)	12(0.2%)	1(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	8(0.1%)	7(0.1%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	76
	19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	3(0.0%)	4(0.1%)	4(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	13
	20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	25(0.4%)	27(0.4%)	0(0.0%)	28(0.4%)	29(0.4%)	27(0.4%)	2(0.0%)	5(0.1%)	2(0.0%)	4(0.1%)	2(0.0%)	2(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	153
合計	1225	1100	77	1288	1198	1152	226	219	22	34	16	5	0	0	0	0	0	0	6562	



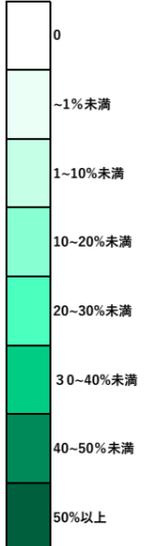
国立大学20大学分 横軸合計数に対する割合

設問内容	国語科において育成すべき資質・能力			知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）									思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）					学びに向かう力（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）						
	a.正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）	b.言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる	c.日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用語、四字熟語、文学的知識）	d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる	e.文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる	f.課題に応じた的確に文章表現ができる	g.人物の心情・情景の描写を読み取ることができる	h.筆者の主張や心情を推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立てることができる	j.自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる	k.自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる	l.新しい情報を知識・感性に照らし、自分の考えを深化・発展させることができる	m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする	n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする	o.様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする	q.日本の言語文化を享受し、活用・継承・発展させようとする	r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする						
知識 （言語事項）	1.漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）	126(10.3%)	0(0.0%)	6(7.8%)	24(1.9%)	12(1.0%)	0(0.0%)	1(0.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
	2.語句の辞書的意味を問う	23(1.9%)	10(0.9%)	5(6.5%)	20(1.6%)	9(0.8%)	11(1.0%)	1(0.4%)	1(0.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
	3.言語文化に関する知識を問う	10(0.8%)	10(0.9%)	14(18.2%)	9(0.7%)	7(0.6%)	8(0.7%)	0(0.0%)	3(1.4%)	0(0.0%)	4(11.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
読解 （評論・小説共通設問）	4.表現の特色を問う	48(3.9%)	46(4.2%)	8(10.4%)	52(4.0%)	45(3.8%)	51(4.4%)	21(9.3%)	4(1.8%)	3(13.6%)	3(8.8%)	6(37.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
	5.文章の構造や対比している事柄を問う	84(6.9%)	86(7.8%)	4(5.2%)	96(7.5%)	95(7.9%)	87(7.6%)	5(2.2%)	13(5.9%)	1(4.5%)	3(8.8%)	1(6.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
	6.文脈に照らし指示語の内容を問う	49(4.0%)	49(4.5%)	0(0.0%)	57(4.4%)	52(4.3%)	50(4.3%)	1(0.4%)	2(0.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
	7. 〃 挿入すべき語句や文を問う	16(1.3%)	22(2.0%)	6(7.8%)	39(3.0%)	51(4.3%)	5(0.4%)	7(3.1%)	3(1.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
	8. 〃 文や語句の意味内容を問う	186(15.2%)	188(17.1%)	9(11.7%)	224(17.4%)	212(17.7%)	204(17.7%)	22(9.7%)	13(5.9%)	3(13.6%)	7(20.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
	9. 〃 文の示す目的・状況を問う	102(8.3%)	101(9.2%)	5(6.5%)	112(8.7%)	114(9.5%)	101(8.8%)	7(3.1%)	18(8.2%)	2(9.1%)	2(5.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
	10.文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	133(10.9%)	134(12.2%)	5(6.5%)	150(11.6%)	150(12.5%)	144(12.5%)	7(3.1%)	31(14.2%)	1(4.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
	11. 〃 筆者の主張（考え）の根拠や理由	182(14.9%)	184(16.7%)	4(5.2%)	202(15.7%)	202(16.9%)	203(17.6%)	4(1.8%)	61(27.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
	12.本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	79(6.4%)	82(7.5%)	2(2.6%)	103(8.0%)	104(8.7%)	96(8.3%)	0(0.0%)	52(23.7%)	0(0.0%)	2(5.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
	13.文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う	79(6.4%)	78(7.1%)	1(1.3%)	84(6.5%)	53(4.4%)	80(6.9%)	77(34.1%)	6(2.7%)	4(18.2%)	1(2.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
小説での設問	14. 〃 登場人物の心情の理由を問う	34(2.8%)	34(3.1%)	2(2.6%)	34(2.6%)	25(2.1%)	36(3.1%)	33(14.6%)	4(1.8%)	1(4.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)						
	15. 〃 登場人物の行動を問う	9(0.7%)	8(0.7%)	1(1.3%)	12(0.9%)	7(0.6%)	8(0.7%)	10(4.4%)	1(0.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)						
	16. 〃 登場人物の行動の理由を問う	18(1.5%)	18(1.6%)	2(2.6%)	18(1.4%)	11(0.9%)	18(1.6%)	16(7.1%)	1(0.5%)	3(13.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)						
	17. 〃 登場人物の人物像や関係性を問う	10(0.8%)	11(1.0%)	0(0.0%)	9(0.7%)	5(0.4%)	11(1.0%)	11(4.9%)	0(0.0%)	2(9.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)						
	18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	12(1.0%)	12(1.1%)	0(0.0%)	11(0.9%)	11(0.9%)	12(1.0%)	1(0.4%)	1(0.5%)	0(0.0%)	8(23.5%)	7(43.8%)	1(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)					
表現 （評論・小説共通設問）	19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	3(3.9%)	4(0.3%)	4(0.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(40.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)						
	20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	25(2.0%)	27(2.5%)	0(0.0%)	28(2.2%)	29(2.4%)	27(2.3%)	2(0.9%)	5(2.3%)	2(9.1%)	4(11.8%)	2(12.5%)	2(40.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)						



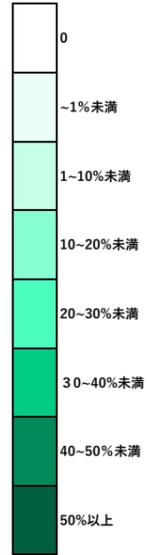
国立大学20大学分 縦軸合計数に対する割合

設問内容	国語科において育成すべき 資質・能力	知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）			思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）								学びに向かう力（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）							
		a.正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）	b.言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる	c.日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用語、四字熟語、文学的知識）	d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる	e.文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる	f.課題に応じた確に文章表現ができる	g.人物の心情・情景の描写を読み取ることができる	h.筆者の主張や心情を推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立てることができる	j.自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる	k.自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる	l.新しい情報を知識・感性に照らし、自分の考えを深化・発展させることができる	m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする	n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする	o.様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする	q.日本の言語文化を享受し、活用・継承・発展させようとする	r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする	
知識 （言語事項）	評論・小説共通設問	1.漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）	126(74.6%)	0(0.0%)	6(3.6%)	24(14.2%)	12(7.1%)	0(0.0%)	1(0.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		2.語句の辞書的意味を問う	23(28.8%)	10(12.5%)	5(6.3%)	20(25.0%)	9(11.3%)	11(13.8%)	1(1.3%)	1(1.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		3.言語文化に関する知識を問う	10(15.4%)	10(15.4%)	14(21.5%)	9(13.8%)	7(10.8%)	8(12.3%)	0(0.0%)	3(4.6%)	0(0.0%)	4(6.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
読解	評論・小説共通設問	4.表現の特色を問う	48(16.7%)	46(16.0%)	8(2.8%)	52(18.1%)	45(15.7%)	51(17.8%)	21(7.3%)	4(1.4%)	3(1.0%)	3(1.0%)	6(2.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		5.文章の構造や対比している事柄を問う	84(17.7%)	86(18.1%)	4(0.8%)	96(20.2%)	95(20.0%)	87(18.3%)	5(1.1%)	13(2.7%)	1(0.2%)	3(0.6%)	1(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		6.文脈に照らし指示語の内容を問う	49(18.8%)	49(18.8%)	0(0.0%)	57(21.9%)	52(20.0%)	50(19.2%)	1(0.4%)	2(0.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		7. 〃 挿入すべき語句や文を問う	16(10.7%)	22(14.8%)	6(4.0%)	39(26.2%)	51(34.2%)	5(3.4%)	7(4.7%)	3(2.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		8. 〃 文や語句の意味内容を問う	186(17.4%)	188(17.6%)	9(0.8%)	224(21.0%)	212(19.9%)	204(19.1%)	22(2.1%)	13(1.2%)	3(0.3%)	7(0.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		9. 〃 文の示す目的・状況を問う	102(18.1%)	101(17.9%)	5(0.9%)	112(19.9%)	114(20.2%)	101(17.9%)	7(1.2%)	18(3.2%)	2(0.4%)	2(0.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		10.文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	133(17.6%)	134(17.7%)	5(0.7%)	150(19.9%)	150(19.9%)	144(19.1%)	7(0.9%)	31(4.1%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		11. 〃 筆者の主張（考え）の根拠や理由	182(17.5%)	184(17.7%)	4(0.4%)	202(19.4%)	202(19.4%)	203(19.5%)	4(0.4%)	61(5.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		12.本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	79(15.2%)	82(15.8%)	2(0.4%)	103(19.8%)	104(20.0%)	96(18.5%)	0(0.0%)	52(10.0%)	0(0.0%)	2(0.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		13.文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う	79(17.1%)	78(16.8%)	1(0.2%)	84(18.1%)	53(11.4%)	80(17.3%)	77(16.6%)	6(1.3%)	4(0.9%)	1(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
小説での設問	小説共通設問	14. 〃 登場人物の心情の理由を問う	34(16.7%)	34(16.7%)	2(1.0%)	34(16.7%)	25(12.3%)	36(17.7%)	33(16.3%)	4(2.0%)	1(0.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		15. 〃 登場人物の行動を問う	9(16.1%)	8(14.3%)	1(1.8%)	12(21.4%)	7(12.5%)	8(14.3%)	10(17.9%)	1(1.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		16. 〃 登場人物の行動の理由を問う	18(17.1%)	18(17.1%)	2(1.9%)	18(17.1%)	11(10.5%)	18(17.1%)	16(15.2%)	1(1.0%)	3(2.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		17. 〃 登場人物の人物像や関係性を問う	10(16.9%)	11(18.6%)	0(0.0%)	9(15.3%)	5(8.5%)	11(18.6%)	11(18.6%)	0(0.0%)	2(3.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	12(15.8%)	12(15.8%)	0(0.0%)	11(14.5%)	11(14.5%)	12(15.8%)	1(1.3%)	1(1.3%)	0(0.0%)	8(10.5%)	7(9.2%)	1(1.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
表現	評論・小説共通設問	19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	3(23.1%)	4(30.8%)	4(30.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(15.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	25(16.3%)	27(17.6%)	0(0.0%)	28(18.3%)	29(19.0%)	27(17.6%)	2(1.3%)	5(3.3%)	2(1.3%)	4(2.6%)	2(1.3%)	2(1.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	



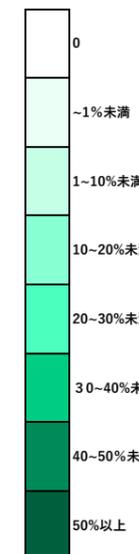
旧帝国大学分 総合計数と割合

設問内容	知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）			思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）									学びに向かう力（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）							総合計
	a.正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）	b.言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる	c.日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用語、四字熟語、文学的知識）	d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる	e.文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる	f.課題に応じて的確に文章表現ができる	g.人物の心情・情景の描写を読み取ることができる	h.筆者の主張や心情を推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立てることができる	j.自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる	k.自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる	l.新しい情報を知識・感性に照らし、自分の考えを深化・発展させることができる	m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする	n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする	o.様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする	q.日本の言語文化を享受し、活用・継承・発展させようとする	r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする		
知識 （言語 事項）	1.漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）	40(1.7%)	0(0.0%)	1(0.0%)	9(0.4%)	5(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	55
	2.語句の辞書的意味を問う	8(0.3%)	2(0.1%)	1(0.0%)	8(0.3%)	2(0.1%)	5(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	26
	3.言語文化に関する知識を問う	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
読解 （評議・ 小読共 通設問）	4.表現の特色を問う	6(0.3%)	6(0.3%)	0(0.0%)	8(0.3%)	7(0.3%)	6(0.3%)	3(0.1%)	1(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	38
	5.文章の構成や対比している事柄を問う	25(1.0%)	25(1.0%)	0(0.0%)	28(1.2%)	29(1.2%)	26(1.1%)	0(0.0%)	7(0.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	140
	6.文脈に照らし指示語の内容を問う	32(1.3%)	32(1.3%)	0(0.0%)	36(1.5%)	33(1.4%)	33(1.4%)	1(0.0%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	169
	7. // 挿入すべき語句や文を問う	5(0.2%)	5(0.2%)	1(0.0%)	13(0.5%)	15(0.6%)	2(0.1%)	1(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	43
	8. // 文や語句の意味内容を問う	76(3.2%)	78(3.3%)	1(0.0%)	91(3.8%)	85(3.6%)	84(3.5%)	6(0.3%)	8(0.3%)	0(0.0%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	431
	9. // 文の示す目的・状況を問う	39(1.6%)	40(1.7%)	0(0.0%)	41(1.7%)	41(1.7%)	39(1.6%)	2(0.1%)	10(0.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	212
	10.文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	46(1.9%)	47(2.0%)	2(0.1%)	55(2.3%)	55(2.3%)	54(2.3%)	5(0.2%)	16(0.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	280
	11. // 筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う	85(3.6%)	86(3.6%)	0(0.0%)	94(3.9%)	94(3.9%)	94(3.9%)	0(0.0%)	35(1.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	488
	12.本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	31(1.3%)	31(1.3%)	0(0.0%)	39(1.6%)	39(1.6%)	39(1.6%)	0(0.0%)	21(0.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	200
読解 （小読 での設問）	13.文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う	24(1.0%)	24(1.0%)	0(0.0%)	24(1.0%)	19(0.8%)	24(1.0%)	22(0.9%)	1(0.0%)	2(0.1%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	141
	14. // 登場人物の心情の理由を問う	12(0.5%)	12(0.5%)	0(0.0%)	12(0.5%)	10(0.4%)	12(0.5%)	11(0.5%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	70
	15. // 登場人物の行動を問う	2(0.1%)	2(0.1%)	0(0.0%)	2(0.1%)	1(0.0%)	2(0.1%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	11
	16. // 登場人物の行動の理由を問う	7(0.3%)	7(0.3%)	0(0.0%)	7(0.3%)	4(0.2%)	7(0.3%)	7(0.3%)	0(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	40
	17. // 登場人物の人物像や関係性を問う	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0
表現 （小読共 通設問）	18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0
	19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0
	20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	8(0.3%)	7(0.3%)	0(0.0%)	8(0.3%)	8(0.3%)	8(0.3%)	0(0.0%)	2(0.1%)	0(0.0%)	2(0.1%)	0(0.0%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	45
		446	404	6	475	447	435	60	105	4	5	0	2	0	0	0	0	0	0	2389



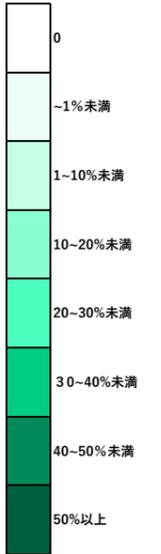
旧帝国大学分 横軸合計数に対する割合

設問内容	国語科において育成すべき 資質・能力	知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）			思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）									学びに向かう力（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）					
		a.正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）	b.言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる	c.日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用語、四字熟語、文学的知識）	d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる	e.文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる	f.課題に応じた確に文章表現ができる	g.人物の心情・情景の描写を読み取ることができる	h.筆者の主張や心情を推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立てることができる	j.自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる	k.自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる	l.新しい情報を知識・感性に照らして、自分の考えを深化・発展させることができる	m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする	n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする	o.様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする	q.日本の言語文化を享受し、活用・継承・発展させようとする	r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする
		1.漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）	2.語句の辞書的意味を問う	3.言語文化に関する知識を問う	4.表現の特色を問う	5.文章の構造や対比している事柄を問う	6.文脈に照らし指示語の内容を問う	7. 〃 挿入すべき語句や文を問う	8. 〃 文や語句の意味内容を問う	9. 〃 文の示す目的・状況を問う	10.文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	11. 〃 筆者の主張（考え）の根拠や理由	12.本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	13.文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う	14. 〃 登場人物の心情の理由を問う	15. 〃 登場人物の行動を問う	16. 〃 登場人物の行動の理由を問う	17. 〃 登場人物の人物像や関係性を問う	18.本文を踏まえて、自分の考えを問う
知識 評論・ 小説共 通設問	1.漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）	40(9.0%)	0(0.0%)	1(16.7%)	9(1.9%)	5(1.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	2.語句の辞書的意味を問う	8(1.8%)	2(0.5%)	1(16.7%)	8(1.7%)	2(0.4%)	5(1.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	3.言語文化に関する知識を問う	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
読解 評論で の設問	4.表現の特色を問う	6(1.3%)	6(1.5%)	0(0.0%)	8(1.7%)	7(1.6%)	6(1.4%)	3(5.0%)	1(1.0%)	1(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	5.文章の構造や対比している事柄を問う	25(5.6%)	25(6.2%)	0(0.0%)	28(5.9%)	29(6.5%)	26(6.0%)	0(0.0%)	7(6.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	6.文脈に照らし指示語の内容を問う	32(7.2%)	32(7.9%)	0(0.0%)	36(7.6%)	33(7.4%)	33(7.6%)	1(1.7%)	2(1.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	7. 〃 挿入すべき語句や文を問う	5(1.1%)	5(1.2%)	1(16.7%)	13(2.7%)	15(3.4%)	2(0.5%)	1(1.7%)	1(1.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	8. 〃 文や語句の意味内容を問う	76(17.0%)	78(19.3%)	1(16.7%)	91(19.2%)	85(19.0%)	84(19.3%)	6(10.0%)	8(7.6%)	0(0.0%)	2(40.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	9. 〃 文の示す目的・状況を問う	39(8.7%)	40(9.9%)	0(0.0%)	41(8.6%)	41(9.2%)	39(9.0%)	2(3.3%)	10(9.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	10.文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	46(10.3%)	47(11.6%)	2(33.3%)	55(11.6%)	55(12.3%)	54(12.4%)	5(8.3%)	16(15.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	11. 〃 筆者の主張（考え）の根拠や理由	85(19.1%)	86(21.3%)	0(0.0%)	94(19.8%)	94(21.0%)	94(21.6%)	0(0.0%)	35(33.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	12.本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	31(7.0%)	31(7.7%)	0(0.0%)	39(8.2%)	39(8.7%)	39(9.0%)	0(0.0%)	21(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	13.文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う	24(5.4%)	24(5.9%)	0(0.0%)	24(5.1%)	19(4.3%)	24(5.5%)	22(36.7%)	1(1.0%)	2(50.0%)	1(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
小説で の設問	14. 〃 登場人物の心情の理由を問う	12(2.7%)	12(3.0%)	0(0.0%)	12(2.5%)	10(2.2%)	12(2.8%)	11(18.3%)	1(1.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	15. 〃 登場人物の行動を問う	2(0.4%)	2(0.5%)	0(0.0%)	2(0.4%)	1(0.2%)	2(0.5%)	2(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	16. 〃 登場人物の行動の理由を問う	7(1.6%)	7(1.7%)	0(0.0%)	7(1.5%)	4(0.9%)	7(1.6%)	7(11.7%)	0(0.0%)	1(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	17. 〃 登場人物の人物像や関係性を問う	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
表現 評論・ 小説共 通設問	19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	8(1.8%)	7(1.7%)	0(0.0%)	8(1.7%)	8(1.8%)	8(1.8%)	0(0.0%)	2(1.9%)	0(0.0%)	2(40.0%)	0(0.0%)	2(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)



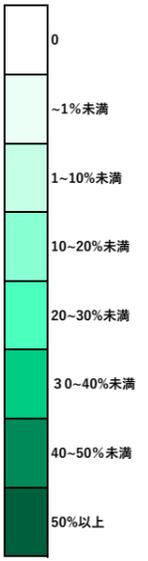
旧帝国大学分 縦軸合計数に対する割合

設問内容		知識・技能 (何を理解しているか・何ができるか)			思考力・判断力・表現力等 (理解していること・できることをどう使うか)									学びに向かう力 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)						
		a.正しい国語表記ができる (漢字、仮名遣い、句読点)	b.言葉の決まり (文法、修辭法) を正しく適用できる	c.日本の伝統的な言語文化を活用できる (ことわざ、慣用語、四字熟語、文学的知識)	d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる	e.文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる	f.課題に応じた的確に文章表現ができる	g.人物の心情・情景の描写を読み取ることができる	h.筆者の主張や心情を推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立てることができる	j.自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる	k.自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる	l.新しい情報を知識・感性に照らし、自分の考えを深化・発展させることができる	m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする	n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする	o.様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする	q.日本の言語文化を享受し、活用・継承・発展させようとする	r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする	
知識 (言語事項)	1.漢字や熟語の読み書きを問う (同音異義語等含む)	40(72.7%)	0(0.0%)	1(1.8%)	9(16.4%)	5(9.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
	2.語句の辞書的意味を問う	8(30.8%)	2(7.7%)	1(3.8%)	8(30.8%)	2(7.7%)	5(19.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
	3.言語文化に関する知識を問う	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
読解 (評論・小説共通設問)	4.表現の特色を問う	6(15.8%)	6(15.8%)	0(0.0%)	8(21.1%)	7(18.4%)	6(15.8%)	3(7.9%)	1(2.6%)	1(2.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
	5.文章の構造や対比している事柄を問う	25(17.9%)	25(17.9%)	0(0.0%)	28(20.0%)	29(20.7%)	26(18.6%)	0(0.0%)	7(5.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
	6.文脈に照らし指示語の内容を問う	32(18.9%)	32(18.9%)	0(0.0%)	36(21.3%)	33(19.5%)	33(19.5%)	1(0.6%)	2(1.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
	7. " 挿入すべき語句や文を問う	5(11.6%)	5(11.6%)	1(2.3%)	13(30.2%)	15(34.9%)	2(4.7%)	1(2.3%)	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	8. " 文や語句の意味内容を問う	76(17.6%)	78(18.1%)	1(0.2%)	91(21.1%)	85(19.7%)	84(19.5%)	6(1.4%)	8(1.9%)	0(0.0%)	2(0.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	9. " 文の示す目的・状況を問う	39(18.4%)	40(18.9%)	0(0.0%)	41(19.3%)	41(19.3%)	39(18.4%)	2(0.9%)	10(4.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	10.文脈に照らし筆者の主張 (考え) を問う (要約を含む)	46(16.4%)	47(16.8%)	2(0.7%)	55(19.6%)	55(19.6%)	54(19.3%)	5(1.8%)	16(5.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	11. " 筆者の主張 (考え) の根拠や理由	85(17.4%)	86(17.6%)	0(0.0%)	94(19.3%)	94(19.3%)	94(19.3%)	0(0.0%)	35(7.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	12.本文全体を読み、筆者の主張 (考え) を問う (要約を含む)	31(15.5%)	31(15.5%)	0(0.0%)	39(19.5%)	39(19.5%)	39(19.5%)	0(0.0%)	21(10.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
小説での設問	13.文脈に照らし登場人物の心情 (心情変化) を問う	24(17.0%)	24(17.0%)	0(0.0%)	24(17.0%)	19(13.5%)	24(17.0%)	22(15.6%)	1(0.7%)	2(1.4%)	1(0.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
	14. " 登場人物の心情の理由を問う	12(17.1%)	12(17.1%)	0(0.0%)	12(17.1%)	10(14.3%)	12(17.1%)	11(15.7%)	1(1.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
	15. " 登場人物の行動を問う	2(18.2%)	2(18.2%)	0(0.0%)	2(18.2%)	1(9.1%)	2(18.2%)	2(18.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
	16. " 登場人物の行動の理由を問う	7(17.5%)	7(17.5%)	0(0.0%)	7(17.5%)	4(10.0%)	7(17.5%)	7(17.5%)	0(0.0%)	1(2.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
	17. " 登場人物の人物像や関係性を問う	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
表現 (評論・小説共通設問)	18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
	19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
	20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	8(17.8%)	7(15.6%)	0(0.0%)	8(17.8%)	8(17.8%)	8(17.8%)	0(0.0%)	2(4.4%)	0(0.0%)	2(4.4%)	0(0.0%)	2(4.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	



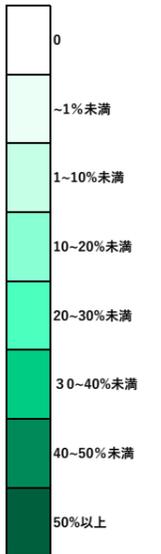
旧医科大学分 総合計数と割合

設問内容	知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）			思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）									学びに向かう力（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）						
	a.正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）	b.言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる	c.日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用句、四字熟語、文学的知識）	d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる	e.文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる	f.課題に応じて的確に文章表現ができる	g.人物の心情・情景の描写を読み取ることができる	h.筆者の主張や心情を推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立てることができる	j.自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる	k.自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる	l.新しい情報を知識・感性に照らし、自分の考えを深化・発展させることができる	m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする	n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする	o.様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする	q.日本の言語文化を享受し、活用・継承・発展させようとする	r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする	
知識 （言語 事項）	1.漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）	39(2.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	6(0.3%)	3(0.2%)	0(0.0%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	2.語句の辞書的意味を問う	4(0.2%)	2(0.1%)	2(0.1%)	4(0.2%)	2(0.1%)	1(0.1%)	0(0.0%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	3.言語文化に関する知識を問う	1(0.1%)	2(0.1%)	2(0.1%)	0(0.0%)	1(0.1%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
評論・ 小説共 通設問	4.表現の特色を問う	22(1.3%)	22(1.3%)	4(0.2%)	24(1.4%)	19(1.1%)	24(1.4%)	11(0.6%)	2(0.1%)	2(0.1%)	0(0.0%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	5.文章の構造や対比している事柄を問う	29(1.7%)	31(1.8%)	1(0.1%)	34(2.0%)	34(2.0%)	33(1.9%)	1(0.1%)	4(0.2%)	0(0.0%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	6.文脈に照らし指示語の内容を問う	2(0.1%)	2(0.1%)	0(0.0%)	3(0.2%)	2(0.1%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	7. // 挿入すべき語句や文を問う	4(0.2%)	9(0.5%)	3(0.2%)	12(0.7%)	13(0.7%)	3(0.2%)	6(0.3%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	8. // 文や語句の意味内容を問う	40(2.3%)	41(2.4%)	2(0.1%)	49(2.8%)	43(2.5%)	43(2.5%)	8(0.5%)	4(0.2%)	0(0.0%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	9. // 文の示す目的・状況を問う	24(1.4%)	24(1.4%)	1(0.1%)	25(1.4%)	25(1.4%)	24(1.4%)	0(0.0%)	6(0.3%)	0(0.0%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	10.文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	45(2.6%)	45(2.6%)	2(0.1%)	47(2.7%)	45(2.6%)	47(2.7%)	2(0.1%)	10(0.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
読解 評論で の設問	11. // 筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う	32(1.8%)	32(1.8%)	2(0.1%)	36(2.1%)	34(2.0%)	36(2.1%)	2(0.1%)	13(0.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	12.本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	18(1.0%)	19(1.1%)	0(0.0%)	21(1.2%)	21(1.2%)	21(1.2%)	0(0.0%)	13(0.7%)	0(0.0%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	13.文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う	31(1.8%)	30(1.7%)	0(0.0%)	34(2.0%)	21(1.2%)	31(1.8%)	33(1.9%)	5(0.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
小説で の設問	14. // 登場人物の心情の理由を問う	11(0.6%)	11(0.6%)	0(0.0%)	13(0.7%)	8(0.5%)	13(0.7%)	12(0.7%)	3(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	15. // 登場人物の行動を問う	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(0.1%)	1(0.1%)	0(0.0%)	2(0.1%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	16. // 登場人物の行動の理由を問う	3(0.2%)	3(0.2%)	0(0.0%)	3(0.2%)	1(0.1%)	3(0.2%)	3(0.2%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	17. // 登場人物の人物像や関係性を問う	1(0.1%)	2(0.1%)	0(0.0%)	1(0.1%)	1(0.1%)	2(0.1%)	2(0.1%)	0(0.0%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	4(0.2%)	4(0.2%)	0(0.0%)	4(0.2%)	4(0.2%)	4(0.2%)	1(0.1%)	1(0.1%)	0(0.0%)	1(0.1%)	3(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
表現 小説共 通設問	19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	15(0.9%)	15(0.9%)	0(0.0%)	15(0.9%)	15(0.9%)	15(0.9%)	2(0.1%)	3(0.2%)	1(0.1%)	2(0.1%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		326	294	19	333	293	303	86	69	4	10	6	0	0	0	0	0	0	0



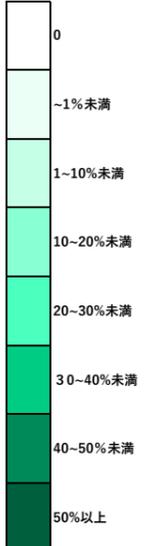
旧医科大学分 横軸合計数に対する割合

設問内容	国語科において育成すべき 資質・能力	知識・技能 (何を理解しているか・何ができるか)			思考力・判断力・表現力等 (理解していること・できることをどう使うか)								学びに向かう力 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)							
		a.正しい国語表記ができる (漢字、仮名遣い、句読点)	b.言葉の決まり (文法、修辭法) を正しく適用できる	c.日本の伝統的な言語文化を活用できる (ことわざ、慣用語、四字熟語、文学的知識)	d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる	e.文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる	f.課題に応じた確かな文章表現ができる	g.人物の心情・情景の描写を読み取ることができる	h.筆者の主張や心情を推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立てることができる	j.自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる	k.自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる	l.新しい情報を知識・感性に照らし、自分の考えを深化・発展させることができる	m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする	n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする	o.様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする	q.日本の言語文化を享受し、活用・継承・発展させようとする	r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする	
知識 (言語 事項)	評論・小説共通設問	1.漢字や熟語の読み書きを問う (同音異義語等含む)	39(12.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	6(1.8%)	3(1.0%)	0(0.0%)	1(1.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		2.語句の辞書的意味を問う	4(1.2%)	2(0.7%)	2(10.5%)	4(1.2%)	2(0.7%)	1(0.3%)	0(0.0%)	1(1.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		3.言語文化に関する知識を問う	1(0.3%)	2(0.7%)	2(10.5%)	0(0.0%)	1(0.3%)	1(0.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(10.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
読解	評論・小説共通設問	4.表現の特色を問う	22(6.7%)	22(7.5%)	4(21.1%)	24(7.2%)	19(6.5%)	24(7.9%)	11(12.8%)	2(2.9%)	2(50.0%)	0(0.0%)	1(16.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		5.文章の構造や対比している事柄を問う	29(8.9%)	31(10.5%)	1(5.3%)	34(10.2%)	34(11.6%)	33(10.9%)	1(1.2%)	4(5.8%)	0(0.0%)	2(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		6.文脈に照らし指示語の内容を問う	2(0.6%)	2(0.7%)	0(0.0%)	3(0.9%)	2(0.7%)	2(0.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		7. " 挿入すべき語句や文を問う	4(1.2%)	9(3.1%)	3(15.8%)	12(3.6%)	13(4.4%)	3(1.0%)	6(7.0%)	2(2.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		8. " 文や語句の意味内容を問う	40(12.3%)	41(13.9%)	2(10.5%)	49(14.7%)	43(14.7%)	43(14.2%)	8(9.3%)	4(5.8%)	0(0.0%)	2(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		9. " 文の示す目的・状況を問う	24(7.4%)	24(8.2%)	1(5.3%)	25(7.5%)	25(8.5%)	24(7.9%)	0(0.0%)	6(8.7%)	0(0.0%)	1(10.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		10.文脈に照らし筆者の主張 (考え) を問う (要約を含む)	45(13.8%)	45(15.3%)	2(10.5%)	47(14.1%)	45(15.4%)	47(15.5%)	2(2.3%)	10(14.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		11. " 筆者の主張 (考え) の根拠や理由	32(9.8%)	32(10.9%)	2(10.5%)	36(10.8%)	34(11.6%)	36(11.9%)	2(2.3%)	13(18.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		12.本文全体を読み、筆者の主張 (考え) を問う (要約を含む)	18(5.5%)	19(6.5%)	0(0.0%)	21(6.3%)	21(7.2%)	21(6.9%)	0(0.0%)	13(18.8%)	0(0.0%)	1(10.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		13.文脈に照らし登場人物の心情 (心情変化) を問う	31(9.5%)	30(10.2%)	0(0.0%)	34(10.2%)	21(7.2%)	31(10.2%)	33(38.4%)	5(7.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
小説での設問	小説共通設問	14. " 登場人物の心情の理由を問う	11(3.4%)	11(3.7%)	0(0.0%)	13(3.9%)	8(2.7%)	13(4.3%)	12(14.0%)	3(4.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		15. " 登場人物の行動を問う	1(0.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(0.6%)	1(0.3%)	0(0.0%)	2(2.3%)	1(1.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		16. " 登場人物の行動の理由を問う	3(0.9%)	3(1.0%)	0(0.0%)	3(0.9%)	1(0.3%)	3(1.0%)	3(3.5%)	1(1.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		17. " 登場人物の人物像や関係性を問う	1(0.3%)	2(0.7%)	0(0.0%)	1(0.3%)	1(0.3%)	2(0.7%)	2(2.3%)	0(0.0%)	1(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	4(1.2%)	4(1.4%)	0(0.0%)	4(1.2%)	4(1.4%)	4(1.3%)	1(1.2%)	1(1.4%)	0(0.0%)	1(10.0%)	3(50.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
表現	評論・小説共通設問	19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)		
		20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	15(4.6%)	15(5.1%)	0(0.0%)	15(4.5%)	15(5.1%)	15(5.0%)	2(2.3%)	3(4.3%)	1(25.0%)	2(20.0%)	2(33.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)		



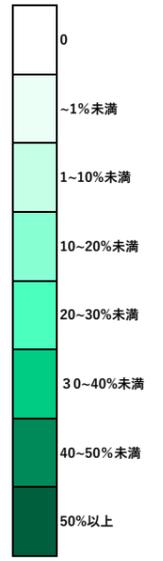
旧医科大学分 縦軸合計数に対する割合

設問内容	国語科において育成すべき 資質・能力	知識・技能 (何を理解しているか・何ができるか)			思考力・判断力・表現力等 (理解していること・できることをどう使うか)								学びに向かう力 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)								
		a.正しい国語表記ができる (漢字、仮名遣い、句読点)	b.言葉の決まり (文法、修辭法) を正しく適用できる	c.日本の伝統的な言語文化を活用できる (ことわざ、慣用語、四字熟語、文学的知識)	d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる	e.文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる	f.課題に応じた確に文章表現ができる	g.人物の心情・情景の描写を読み取ることができる	h.筆者の主張や心情を推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立てることができる	j.自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる	k.自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる	l.新しい情報を知識・感性に照らし、自分の考えを深化・発展させることができる	m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする	n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする	o.様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする	q.日本の言語文化を享受し、活用・継承・発展させようとする	r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする		
知識 (言語事項)	評論・小説共通設問	1.漢字や熟語の読み書きを問う (同音異義語等含む)	39(79.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	6(12.2%)	3(6.1%)	0(0.0%)	1(2.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		2.語句の辞書的意味を問う	4(25.0%)	2(12.5%)	2(12.5%)	4(25.0%)	2(12.5%)	1(6.3%)	0(0.0%)	1(6.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		3.言語文化に関する知識を問う	1(12.5%)	2(25.0%)	2(25.0%)	0(0.0%)	1(12.5%)	1(12.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(12.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
読解	評論・小説共通設問	4.表現の特色を問う	22(16.8%)	22(16.8%)	4(3.1%)	24(18.3%)	19(14.5%)	24(18.3%)	11(8.4%)	2(1.5%)	2(1.5%)	0(0.0%)	1(0.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		5.文章の構造や対比している事柄を問う	29(17.2%)	31(18.3%)	1(0.6%)	34(20.1%)	34(20.1%)	33(19.5%)	1(0.6%)	4(2.4%)	0(0.0%)	2(1.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		6.文脈に照らし指示語の内容を問う	2(18.2%)	2(18.2%)	0(0.0%)	3(27.3%)	2(18.2%)	2(18.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		7. 〃 挿入すべき語句や文を問う	4(7.7%)	9(17.3%)	3(5.8%)	12(23.1%)	13(25.0%)	3(5.8%)	6(11.5%)	2(3.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		8. 〃 文や語句の意味内容を問う	40(17.2%)	41(17.7%)	2(0.9%)	49(21.1%)	43(18.5%)	43(18.5%)	8(3.4%)	4(1.7%)	0(0.0%)	2(0.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		9. 〃 文の示す目的・状況を問う	24(18.5%)	24(18.5%)	1(0.8%)	25(19.2%)	25(19.2%)	24(18.5%)	0(0.0%)	6(4.6%)	0(0.0%)	1(0.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		10.文脈に照らし筆者の主張 (考え) を問う (要約を含む)	45(18.5%)	45(18.5%)	2(0.8%)	47(19.3%)	45(18.5%)	47(19.3%)	2(0.8%)	10(4.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		11. 〃 筆者の主張 (考え) の根拠や理由	32(17.1%)	32(17.1%)	2(1.1%)	36(19.3%)	34(18.2%)	36(19.3%)	2(1.1%)	13(7.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		12.本文全体を読み、筆者の主張 (考え) を問う (要約を含む)	18(15.8%)	19(16.7%)	0(0.0%)	21(18.4%)	21(18.4%)	21(18.4%)	0(0.0%)	13(11.4%)	0(0.0%)	1(0.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		13.文脈に照らし登場人物の心情 (心情変化) を問う	31(16.8%)	30(16.2%)	0(0.0%)	34(18.4%)	21(11.4%)	31(16.8%)	33(17.8%)	5(2.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
小説での設問	小説共通設問	14. 〃 登場人物の心情の理由を問う	11(15.5%)	11(15.5%)	0(0.0%)	13(18.3%)	8(11.3%)	13(18.3%)	12(16.9%)	3(4.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		15. 〃 登場人物の行動を問う	1(14.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(28.6%)	1(14.3%)	0(0.0%)	2(28.6%)	1(14.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		16. 〃 登場人物の行動の理由を問う	3(17.6%)	3(17.6%)	0(0.0%)	3(17.6%)	1(5.9%)	3(17.6%)	3(17.6%)	1(5.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		17. 〃 登場人物の人物像や関係性を問う	1(10.0%)	2(20.0%)	0(0.0%)	1(10.0%)	1(10.0%)	2(20.0%)	2(20.0%)	0(0.0%)	1(10.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
表現	評論・小説共通設問	18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	4(15.4%)	4(15.4%)	0(0.0%)	4(15.4%)	4(15.4%)	4(15.4%)	1(3.8%)	1(3.8%)	0(0.0%)	1(3.8%)	3(11.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	15(17.6%)	15(17.6%)	0(0.0%)	15(17.6%)	15(17.6%)	15(17.6%)	2(2.4%)	3(3.5%)	1(1.2%)	2(2.4%)	2(2.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	



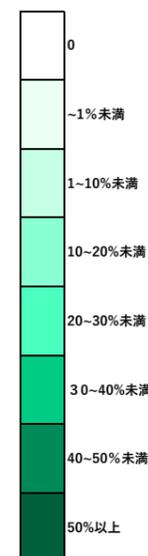
旧商科大学・旧文理科大学・その他 総合計数と割合

設問内容		知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）			思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）									学びに向かう力（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）									
		a.正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）	b.言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる	c.日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用句、四字熟語、文学的知識）	d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる	e.文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる	f.課題に応じて的確に文章表現ができる	g.人物の心情・情景の描写を読み取ることができる	h.筆者の主張や心情を推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立てることができる	j.自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる	k.自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる	l.新しい情報を知識・感性に照らし、自分の考えを深化・発展させることができる	m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする	n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする	o.様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする	q.日本の言語文化を享受し、活用・継承・発展させようとする	r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする				
知識 （言語 事項）	評論・ 小説共 通設問	1.漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）	47(1.9%)	0(0.0%)	5(0.2%)	9(0.4%)	4(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	65		
		2.語句の辞書的意味を問う	11(0.5%)	6(0.2%)	2(0.1%)	8(0.3%)	5(0.2%)	5(0.2%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	38	
		3.言語文化に関する知識を問う	9(0.4%)	8(0.3%)	12(0.5%)	9(0.4%)	6(0.2%)	7(0.3%)	0(0.0%)	3(0.1%)	0(0.0%)	3(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	57	
読解 （言語 事項）	評論・ 小説共 通設問	4.表現の特色を問う	20(0.8%)	18(0.7%)	4(0.2%)	20(0.8%)	19(0.8%)	21(0.9%)	7(0.3%)	1(0.0%)	0(0.0%)	3(0.1%)	5(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	118	
		5.文章の構造や対比している事柄を問う	30(1.2%)	30(1.2%)	3(0.1%)	34(1.4%)	32(1.3%)	28(1.2%)	4(0.2%)	2(0.1%)	1(0.0%)	1(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	166	
		6.文脈に照らし指示語の内容を問う	15(0.6%)	15(0.6%)	0(0.0%)	18(0.7%)	17(0.7%)	15(0.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	80	
		7. // 挿入すべき語句や文を問う	7(0.3%)	8(0.3%)	2(0.1%)	14(0.6%)	23(0.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	54	
		8. // 文や語句の意味内容を問う	70(2.9%)	69(2.8%)	6(0.2%)	84(3.5%)	84(3.5%)	77(3.2%)	8(0.3%)	1(0.0%)	3(0.1%)	3(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	405
		9. // 文の示す目的・状況を問う	39(1.6%)	37(1.5%)	4(0.2%)	46(1.9%)	48(2.0%)	38(1.6%)	5(0.2%)	2(0.1%)	2(0.1%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	222
		10.文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	42(1.7%)	42(1.7%)	1(0.0%)	48(2.0%)	50(2.1%)	43(1.8%)	0(0.0%)	5(0.2%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	232
		11. // 筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う	65(2.7%)	66(2.7%)	2(0.1%)	72(3.0%)	74(3.0%)	73(3.0%)	2(0.1%)	13(0.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	367
		12.本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	30(1.2%)	32(1.3%)	2(0.1%)	43(1.8%)	44(1.8%)	36(1.5%)	0(0.0%)	18(0.7%)	0(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	206
読解 （言語 事項）	小説 での設 問	13.文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う	24(1.0%)	24(1.0%)	1(0.0%)	26(1.1%)	13(0.5%)	25(1.0%)	22(0.9%)	0(0.0%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	137	
		14. // 登場人物の心情の理由を問う	11(0.5%)	11(0.5%)	2(0.1%)	9(0.4%)	7(0.3%)	11(0.5%)	10(0.4%)	0(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	62	
		15. // 登場人物の行動を問う	6(0.2%)	6(0.2%)	1(0.0%)	8(0.3%)	5(0.2%)	6(0.2%)	6(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	38	
		16. // 登場人物の行動の理由を問う	8(0.3%)	8(0.3%)	2(0.1%)	8(0.3%)	6(0.2%)	8(0.3%)	6(0.2%)	0(0.0%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	48
		17. // 登場人物の人物像や関係性を問う	9(0.4%)	9(0.4%)	0(0.0%)	8(0.3%)	4(0.2%)	9(0.4%)	9(0.4%)	0(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	49
表現 （言語 事項）	評論・ 小説共 通設問	18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	8(0.3%)	8(0.3%)	0(0.0%)	7(0.3%)	7(0.3%)	8(0.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	7(0.3%)	4(0.2%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	50	
		19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	3(0.1%)	4(0.2%)	4(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	13	
		20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	2(0.1%)	5(0.2%)	0(0.0%)	5(0.2%)	6(0.2%)	4(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	23
		453	402	52	480	458	414	80	45	14	19	10	3	0	0	0	0	0	0	0	2430		



旧商科大学・旧文理科大学・その他 横軸合計数に対する割合

設問内容	国語科において育成すべき 資質・能力	知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）			思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）								学びに向かう力（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）							
		a.正しい国語表記が できる（漢字、仮名 遣い、句読点）	b.言葉の決まり（文 法、修辭法）を正し く適用できる	c.日本の伝統的な言 語文化を活用できる （ことわざ、慣用 句、四字熟語、文学 的知識）	d.目的や課題に応じ て文章や情報を正確 に抽出できる	e.文章の構成や論理 の展開に沿って、正 確に内容を解釈する ことができる	f.課題に応じた的確 に文章表現ができる	g.人物の心情・情景 の描写を読み取るこ とができる	h.筆者の主張や心情 を推測することがで きる	i.根拠をもとに仮説 を立てることができ る	j.自分の知識や経験 を踏まえて、考えを まとめることができ る	k.自分の考えを相手 の状況を踏まえて的 確に説明することが できる	l.新しい情報を知識 ・感性に照らし て、自分の考えを深 化・発展させること ができる	m.言葉を通じて社 会や文化を創造し ようとする	n.言葉を通じて自 分のものの見方や 考え方を広げ深め ようとする	o.様々な事象を体 験し、言葉での交 流を通じて心を豊 かにしようとする	p.言葉を通じて他 者の心と共感し、 互いの存在につい て理解・尊重しよ うとする	q.日本の言語文化 を享受し、活用・ 継承・発展させよ うとする	r.読書を通して自分 の人生を豊かにし ようとする	
知識 （言語 事項）	評論・ 小説共 通設問	1.漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）	47(10.4%)	0(0.0%)	5(9.6%)	9(1.9%)	4(0.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		2.語句の辞書的意味を問う	11(2.4%)	6(1.5%)	2(3.8%)	8(1.7%)	5(1.1%)	5(1.2%)	1(1.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		3.言語文化に関する知識を問う	9(2.0%)	8(2.0%)	12(23.1%)	9(1.9%)	6(1.3%)	7(1.7%)	0(0.0%)	3(6.7%)	0(0.0%)	3(15.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
読解	評論・ 小説共 通設問	4.表現の特色を問う	20(4.4%)	18(4.5%)	4(7.7%)	20(4.2%)	19(4.1%)	21(5.1%)	7(8.8%)	1(2.2%)	0(0.0%)	3(15.8%)	5(50.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		5.文章の構造や対比している事柄を問う	30(6.6%)	30(7.5%)	3(5.8%)	34(7.1%)	32(7.0%)	28(6.8%)	4(5.0%)	2(4.4%)	1(7.1%)	1(5.3%)	1(10.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		6.文脈に照らし指示語の内容を問う	15(3.3%)	15(3.7%)	0(0.0%)	18(3.8%)	17(3.7%)	15(3.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		7. “ 挿入すべき語句や文を問う	7(1.5%)	8(2.0%)	2(3.8%)	14(2.9%)	23(5.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		8. “ 文や語句の意味内容を問う	70(15.5%)	69(17.2%)	6(11.5%)	84(17.5%)	84(18.3%)	77(18.6%)	8(10.0%)	1(2.2%)	3(21.4%)	3(15.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		9. “ 文の示す目的・状況を問う	39(8.6%)	37(9.2%)	4(7.7%)	46(9.6%)	48(10.5%)	38(9.2%)	5(6.3%)	2(4.4%)	2(14.3%)	1(5.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		10.文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	42(9.3%)	42(10.4%)	1(1.9%)	48(10.0%)	50(10.9%)	43(10.4%)	0(0.0%)	5(11.1%)	1(7.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		11. “ 筆者の主張（考え）の根拠や理由	65(14.3%)	66(16.4%)	2(3.8%)	72(15.0%)	74(16.2%)	73(17.6%)	2(2.5%)	13(28.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		12.本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	30(6.6%)	32(8.0%)	2(3.8%)	43(9.0%)	44(9.6%)	36(8.7%)	0(0.0%)	18(40.0%)	0(0.0%)	1(5.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		13.文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う	24(5.3%)	24(6.0%)	1(1.9%)	26(5.4%)	13(2.8%)	25(6.0%)	22(27.5%)	0(0.0%)	2(14.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
小説で の設問	評論・ 小説共 通設問	14. “ 登場人物の心情の理由を問う	11(2.4%)	11(2.7%)	2(3.8%)	9(1.9%)	7(1.5%)	11(2.7%)	10(12.5%)	0(0.0%)	1(7.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		15. “ 登場人物の行動を問う	6(1.3%)	6(1.5%)	1(1.9%)	8(1.7%)	5(1.1%)	6(1.4%)	6(7.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		16. “ 登場人物の行動の理由を問う	8(1.8%)	8(2.0%)	2(3.8%)	8(1.7%)	6(1.3%)	8(1.9%)	6(7.5%)	0(0.0%)	2(14.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		17. “ 登場人物の人物像や関係性を問う	9(2.0%)	9(2.2%)	0(0.0%)	8(1.7%)	4(0.9%)	9(2.2%)	9(11.3%)	0(0.0%)	1(7.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	8(1.8%)	8(2.0%)	0(0.0%)	7(1.5%)	7(1.5%)	8(1.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	7(36.8%)	4(40.0%)	1(33.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
表現 （言語 事項）	評論・ 小説共 通設問	19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	3(5.8%)	4(0.8%)	4(0.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(66.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)		
		20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	2(0.4%)	5(1.2%)	0(0.0%)	5(1.0%)	6(1.3%)	4(1.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(7.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)		



旧商科大学・旧文理科大学・その他 縦軸合計数に対する割合

設問内容	国語科において育成すべき 資質・能力	知識・技能（何を理解しているか・何ができるか）			思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）								学びに向かう力（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）							
		a.正しい国語表記ができる（漢字、仮名遣い、句読点）	b.言葉の決まり（文法、修辭法）を正しく適用できる	c.日本の伝統的な言語文化を活用できる（ことわざ、慣用語、四字熟語、文学的知識）	d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる	e.文章の構成や論理の展開に沿って、正確に内容を解釈することができる	f.課題に応じた確に文章表現ができる	g.人物の心情・情景の描写を読み取ることができる	h.筆者の主張や心情を推測することができる	i.根拠をもとに仮説を立てることができる	j.自分の知識や経験を踏まえて、考えをまとめることができる	k.自分の考えを相手の状況を踏まえて的確に説明することができる	l.新しい情報を知識・感性に照らし、自分の考えを深化・発展させることができる	m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする	n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする	o.様々な事象を体験し、言葉での交流を通じて心を豊かにしようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し、互いの存在について理解・尊重しようとする	q.日本の言語文化を享受し、活用・継承・発展させようとする	r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする	
知識 （言語事項）	評論・小説共通設問	1.漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）	47(72.3%)	0(0.0%)	5(7.7%)	9(13.8%)	4(6.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		2.語句の辞書的意味を問う	11(28.9%)	6(15.8%)	2(5.3%)	8(21.1%)	5(13.2%)	5(13.2%)	1(2.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		3.言語文化に関する知識を問う	9(15.8%)	8(14.0%)	12(21.1%)	9(15.8%)	6(10.5%)	7(12.3%)	0(0.0%)	3(5.3%)	0(0.0%)	3(5.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
読解	評論・小説共通設問	4.表現の特色を問う	20(16.9%)	18(15.3%)	4(3.4%)	20(16.9%)	19(16.1%)	21(17.8%)	7(5.9%)	1(0.8%)	0(0.0%)	3(2.5%)	5(4.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		5.文章の構造や対比している事柄を問う	30(18.1%)	30(18.1%)	3(1.8%)	34(20.5%)	32(19.3%)	28(16.9%)	4(2.4%)	2(1.2%)	1(0.6%)	1(0.6%)	1(0.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		6.文脈に照らし指示語の内容を問う	15(18.8%)	15(18.8%)	0(0.0%)	18(22.5%)	17(21.3%)	15(18.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		7. 〃 挿入すべき語句や文を問う	7(13.0%)	8(14.8%)	2(3.7%)	14(25.9%)	23(42.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		8. 〃 文や語句の意味内容を問う	70(17.3%)	69(17.0%)	6(1.5%)	84(20.7%)	84(20.7%)	77(19.0%)	8(2.0%)	1(0.2%)	3(0.7%)	3(0.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		9. 〃 文の示す目的・状況を問う	39(17.6%)	37(16.7%)	4(1.8%)	46(20.7%)	48(21.6%)	38(17.1%)	5(2.3%)	2(0.9%)	2(0.9%)	1(0.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		10.文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	42(18.1%)	42(18.1%)	1(0.4%)	48(20.7%)	50(21.6%)	43(18.5%)	0(0.0%)	5(2.2%)	1(0.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		11. 〃 筆者の主張（考え）の根拠や理由	65(17.7%)	66(18.0%)	2(0.5%)	72(19.6%)	74(20.2%)	73(19.9%)	2(0.5%)	13(3.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		12.本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う（要約を含む）	30(14.6%)	32(15.5%)	2(1.0%)	43(20.9%)	44(21.4%)	36(17.5%)	0(0.0%)	18(8.7%)	0(0.0%)	1(0.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		13.文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う	24(17.5%)	24(17.5%)	1(0.7%)	26(19.0%)	13(9.5%)	25(18.2%)	22(16.1%)	0(0.0%)	2(1.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
小説での設問	小説共通設問	14. 〃 登場人物の心情の理由を問う	11(17.7%)	11(17.7%)	2(3.2%)	9(14.5%)	7(11.3%)	11(17.7%)	10(16.1%)	0(0.0%)	1(1.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		15. 〃 登場人物の行動を問う	6(15.8%)	6(15.8%)	1(2.6%)	8(21.1%)	5(13.2%)	6(15.8%)	6(15.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		16. 〃 登場人物の行動の理由を問う	8(16.7%)	8(16.7%)	2(4.2%)	8(16.7%)	6(12.5%)	8(16.7%)	6(12.5%)	0(0.0%)	2(4.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		17. 〃 登場人物の人物像や関係性を問う	9(18.4%)	9(18.4%)	0(0.0%)	8(16.3%)	4(8.2%)	9(18.4%)	9(18.4%)	0(0.0%)	1(2.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
		18.本文を踏まえて、自分の考えを問う	8(16.0%)	8(16.0%)	0(0.0%)	7(14.0%)	7(14.0%)	8(16.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	7(14.0%)	4(8.0%)	1(2.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	
表現	評論・小説共通設問	19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる	0(0.0%)	0(0.0%)	3(23.1%)	4(30.8%)	4(30.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(15.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)		
		20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる	2(8.7%)	5(21.7%)	0(0.0%)	5(21.7%)	6(26.1%)	4(17.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(4.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)		

